

学生生活実態調査報告書
(詳細分析版)
2022 年版

北海道大学学務部

学生生活実態調査とは、本学学生の生活実態や本学に対する期待・要望などを把握し、学生の生活・修学・進路などの支援体制の充実に資するため基礎資料を得るとともに、入学前の学生への広報活動に活用することを目的として、4年に1回実施されているものです。この報告書は、令和03年11月に実施された調査結果をとりまとめたものです。

【目次】

I 調査の概要

3

- 1 調査の目的
- 2 調査の組織
- 3 調査の対象
- 4 調査基準日
- 5 調査期間
- 6 調査方法
- 7 調査の回収状況
- 8 調査内容と集計の方法
- 9 これまでの調査の実施状況
- 10 報告書の構成と特徴
- 11 注意事項

II 学部学生編

A 回答者の基本的特徴

9

回答者の性別比

B 家庭状況

10

出身地

家計支持者の職業

家庭の年間収入

C 住居・通学・食事の状況

13

住居形態

学生寮入寮希望の有無とその理由

通学方法と通学時間

食事

学食の利用頻度

D 収入と支出の状況

20

月間収入額の分布

収入の内訳

月間支出額の分布

支出の内訳

経済状態の実感

新型コロナウイルス感染症による収入の減少

新型コロナウイルス感染症による収入や生活への影響

新型コロナウイルス感染症による支出への影響

E アルバイトの状況

32

アルバイトの頻度

アルバイトの職種

アルバイトの週平均就労時間

アルバイトの理由

F 授業料免除と奨学金の利用状況

36

授業料免除の状況

奨学金の利用状況と種類

緊急授業料免除の状況

G 課外活動とボランティア活動、

海外留学について

40

課外活動団体への加入状況と週平均活動日数

ボランティア活動経験の状況と活動内容

海外留学の経験

海外留学の意向

H 北大の学生生活

44

学生生活の満足度

一日の平均自習時間

自習を行う場所

入学後の学習意欲

授業への出席率

大学で過ごす一日の平均時間

対人関係、教員との関係

I 健康状態

52

身体の調子と通院状況

悩み・不安

カウンセリングサービスの認知状況

J ハラスメント及びカルト宗教団体等

の被害状況

57

自身のハラスメント等の被害経験

他人のハラスメント等の被害を見聞きした経験

学生相談窓口の認知状況

K 進路の希望

60

卒業後の進路希望

希望職種

就職で重要視すること

就職希望地域

インターンシップへの参加経験

III 大学院学生編

A 回答者の基本的特徴	75	G 大学院学生の研究活動と 海外留学	108
回答者の性別比		語学力	
年齢		海外での調査研究経験	
B 家庭状況	77	海外留学の経験	
出身地		海外留学の意向	
主な家計支持者		研究・学業を進める上で大学に要望すること	
家計支持者の職業		H 北大の大学生活	113
家庭の年間収入		大学院入学の目的	
C 住居・通学・食事の状況	81	北大大学院の志望理由	
住居形態		出身大学等	
学生寮入寮希望の有無とその理由		大学生活の満足度	
通学方法と通学時間		一日の平均研究・学習時間	
食事		研究・学習を行う場所	
学食の利用頻度		入学後の研究意欲	
D 収入と支出の状況	88	大学で過ごす一日の平均時間	
月間収入額の分布		対人関係、教員との関係	
収入の内訳		I 健康状態	123
月間支出額の分布		身体の調子と通院状況	
支出の内訳		悩み・不安	
経済状態の実感		カウンセリングサービスの認知状況	
新型コロナウイルス感染症による収入の減少		J ハラスメント及びカルト宗教団体等 の被害状況	128
新型コロナウイルス感染症による収入や生活への影響		自身のハラスメント等の被害経験	
新型コロナウイルス感染症による支出への影響		他人のハラスメント等の被害を見聞きした経験	
E アルバイトの状況	100	学生相談窓口の認知状況	
アルバイトの頻度		K 進路の希望	131
アルバイトの職種		修了後の進路希望	
アルバイトの週平均就労時間		大学院（博士後期課程）に進学しない理由	
アルバイトの理由		希望職種	
F 授業料減免と奨学金の利用状況	104	就職で重要視すること	
授業料減免の状況		就職希望地域	
奨学金の利用状況と種類		インターンシップへの参加経験	
日本学術振興会特別研究員の給与			

付録：学生生活実態調査調査項目 144

調査対象学部学生への協力依頼メール送付文書

調査対象大学院学生への協力依頼メール送付文書

調査項目一覧（学部学生用）

調査項目一覧（大学院学生用）

本調査において、性別の選択肢として男女の他に「その他」という選択肢を加えましたが、性自認の多様性等の観点から、「その他」は適切ではない選択肢でありました。本件に関しまして、心証を害された方がいらっしゃいましたら大変申し訳ございません。
なお、次回以降の調査実施時には、より適切な選択肢を検討させていただきますので、ご理解いただけますようお願いいたします。

I 調査の概要

調査の概要

1 調査の目的

本調査は、本学学生の生活実態や本学に対する期待・要望などを把握し、学生の生活・修学・進路などの支援体制の充実を図るための基礎資料を得ることとともに、入学前の学生への広報活動に活用することを目的とする。

2 調査の組織

上記の目的のために、北海道大学学生委員会学生生活専門委員会に、以下の構成員で学生生活実態調査ワーキング・グループを設け、作業にあたった。

学生生活実態調査ワーキング・グループ委員（令和3年度）

座長	田中啓之（公共政策学教育部・准教授）	坂爪浩史（農学院・教授）
	岡田智（教育学院・准教授）	工藤岳（環境科学院・准教授）

学生生活実態調査ワーキング・グループ（令和4年度）

座長	坂爪浩史（農学院・教授）	津田智成（公共政策学教育部・准教授）
	岡田智（教育学院・准教授）	工藤岳（環境科学院・准教授）

3 調査の対象

令和3年10月1日現在、在籍している正規学生（休学者、外国人留学生、社会人学生を除く）の中から、学部学生30%、大学院学生50%の割合で無作為抽出した学生を対象とする。

4 調査基準日

令和3年11月1日現在

5 調査期間

令和3年11月1日（月）～令和3年11月30日（火）

6 調査方法

インターネットを利用したウェブ・ベース方式で、抽出した調査対象学生に対し、原則としてE-mailにより調査依頼文書を送付し、調査対象学生が学内外のパソコンもしくはスマートフォンから回答する

7 調査の回収状況

令和3年度学生生活実態調査の学部・研究科等別の回収・回答状況は次の表のとおりである。

調査回収・回答状況一覧
(学部別)

学 部	A	B	C	D	E	F
	調査対象学生数 算出基準数*1	調査対象学生数	追加抽出学生数*2	調査回答数	回収率(%) (D/(B+C)×100)	回答率(%) (D/A×100)
文 学 部	567	170	170	127	37.35	22.40
教 育 学 部	167	50	50	27	27.00	16.17
法 学 部	668	200	200	124	31.00	18.56
経 済 学 部	603	181	181	81	22.38	13.43
理 学 部	950	285	285	163	28.60	17.16
医 学 部	1099	330	330	194	29.39	17.65
歯 学 部	250	75	75	39	26.00	15.60
薬 学 部	297	89	89	61	34.27	20.54
工 学 部	2074	622	622	277	22.27	13.36
農 学 部	646	194	194	96	24.74	14.86
獣 医 学 部	208	62	62	42	33.87	20.19
水 産 学 部	622	187	187	111	29.68	17.85
総 合 教 育 部	2557	767	767	227	14.80	8.88
計	10708	3212	3212	1569	24.42	14.65

*1調査対象学生数算出基準数=在籍学生数-(休学者数+外国人留学生数+社会人学生数)

*2調査回答数を増やすため、調査対象学生を追加した。

(修士課程・研究科等別)

研究科等別	A	B	C	D	E	F
	調査対象学生数 算出基準数	調査対象学生数	追加抽出学生数	調査回答数	回収率(%) (D/(B+C)×100)	回答率(%) (D/A×100)
文学院、文学研究科	97	49	48	36	37.11	37.11
教育学院	56	28	28	16	28.57	28.57
法学研究科	7	4	3	4	57.14	57.14
経済学院、経済学研究院	12	6	6	6	50.00	50.00
理学院	216	108	108	53	24.54	24.54
医学院、医学研究科	40	20	20	13	32.50	32.50
工学院	640	320	320	159	24.84	24.84
農学院	311	156	155	68	21.86	21.86
水産科学学院	205	103	102	69	33.66	33.66
国際広報メディア・観光学院	16	8	8	4	25.00	25.00
情報科学研究科	348	174	174	110	31.61	31.61
環境科学学院	242	121	121	69	28.51	28.51
生命科学学院	209	105	104	53	25.36	25.36
保健科学学院	88	44	44	28	31.82	31.82
総合化学学院	267	134	133	59	22.10	22.10
国際食資源学院	26	13	13	9	34.62	34.62
医理工学院	23	12	11	4	17.39	17.39
計	2803	1405	1398	760	27.11	27.11

(博士(後期)課程・研究科等別)

研究科等別	A	B	C	D	E	F
	調査対象学生数 算出基準数	調査対象学生数	追加抽出学生数	調査回答数	回収率(%) (D/(B+C)×100)	回答率(%) (D/A×100)
文学院、文学研究科	57	29	28	19	33.33	33.33
教育学院	59	30	29	18	30.51	30.51
法学研究科	13	7	6	7	53.85	53.85
経済学院、経済学研究院	10	5	5	4	40.00	40.00
理学院	97	49	48	35	36.08	36.08
医学院、医学研究科	343	172	171	80	23.32	23.32
歯学院、歯学研究科	98	49	49	39	39.80	39.80
工学院	55	28	27	29	52.73	52.73
農学院	48	24	24	13	27.08	27.08
獣医学院、獣医学研究科	22	11	11	7	31.82	31.82
水産科学学院	21	11	10	10	47.62	47.62
国際広報メディア・観光学院	11	6	5	4	36.36	36.36
情報科学研究科	50	25	25	20	40.00	40.00
環境科学学院	63	32	31	22	34.92	34.92
生命科学学院	69	35	34	27	39.13	39.13
保健科学学院	33	17	16	13	39.39	39.39
総合化学学院	74	37	37	30	40.54	40.54
国際食資源学院	5	3	2	2	40.00	40.00
医理工学院	5	3	2	2	40.00	40.00
国際感染症学院	19	10	9	8	42.11	42.11
計	1152	583	569	389	33.77	33.77

(専門職学位課程・研究科等別)

研究科等別	A	B	C	D	E	F
	調査対象学生数 算出基準数	調査対象学生数	追加抽出学生数	調査回答数	回収率(%) (D/(B+C)×100)	回答率(%) (D/A×100)
法学研究科	54	27	27	14	25.93	25.93
経済学院、経済学研究科	34	17	17	13	38.24	38.24
公共政策学教育部	31	16	15	9	29.03	29.03
計	119	60	59	36	30.25	30.25

8 調査内容と集計の方法

本調査の調査項目は巻末に添付したが、学部学生 76 項目、大学院学生 81 項目の設問（自由記述含む）について各単純集計並びにクロス集計解析を行った。

9 これまでの調査の実施状況

本調査は 1949 年 7 月の第 1 回調査以来 16 回目となる。第 6 回までは不定期に行われており、第 7 回以降第 10 回までは隔年で実施、第 11 回から 4 年毎の実施となった。大学院学生を対象に含めたのは第 4 回、第 5 回、第 8 回から今回で、11 回目である。今回の回答率は、学部学生 24.42%、大学院学生 29.09%であった。

学生生活実態調査実施状況一覧

回数	調査年月	対象学生	抽出率	在籍者数	対象学生数	回収(答)数	回収(答)率	調査方法	
第1回	1949年7月	学部男女	1/3	3,352	1,352	568	50.99	配布自記	
第2回	1951年6月	学部男女	17.62	4,971	876	533	60.84	配布自記	
			養	2,282	330	210	63.64		
			専	2,689	546	323	59.16		
第3回	1954年6月	学部男女	15.59	4,990	828	565	68.12	配布自記	
			養文	470	80	56	70.00		
			養理	1,716	297	215	72.39		
			専門	2,804	451	294	65.19		
第4回	1959年12月	学部及び 大学院・ 男女	22.00	5,653	1,239	493	39.79	配布自記	
			養	2,398	385	170	44.04		
			専	2,720	417	230	55.15		
			院	535	93	93	21.28		
第5回	1968年11月	学部及び 大学院・ 男女	21.00	9,746	2,048	1,286	62.80	配布自記	
			養	4,364	870	422	48.51		
			専	4,076	806	632	78.41		
			院	1,306	371	232	62.53		
第6回	1981年11月	学部男女	25.00	9,678	2,422	1,481	62.60	配布自記	
			養	4,572	1,143	439	39.55		
第7回	1991年11月	学部男女	20.00	10,958	2,172	1,396	66.70	配布自記	
					(2,091)	()内は 配布数			
第8回	1993年11月	学部男女	20.00	11,207	11,055	1,358	71.32	配布自記	
			修士・文	100.00	192	179	118		77.63
			修士・理	20.00	1,812	1,729	260		73.86
			博士・文	100.00	116	95	52		61.90
第9回	1995年11月	学部男女	20.00	11,216	11,061	1,431	68.80	配布自記	
			修士	20.00	2,575	2,429	345		70.99
			博士	20.00	1,501	1,256	189		72.97
第10回	1997年11月	学部	20.00	11,280	10,997	1,320	58.51	配布自記	
			修士	50.00	2,780	2,611	959		68.89
			博士	100.00	1,825	1,502	932		51.07
第11回	2001年11月	学部	20.00	10,621	10,274	1,185	57.64	配布自記	
			修士	50.00	3,204	2,896	776		53.44
			博士	50.00	2,393	1,774	495		55.56
第12回	2005年11月	学部	20.00	11,111	10,701	1,033	48.25	ウェブ・ ベース方式	
			修士	50.00	3,347	3,031	914		60.38
			博士	50.00	2,359	1,828	429		46.68
			専門職	50.00	258	240	47		38.84

回数	調査年月	対象学生	抽出率	在籍者数	対象学生数	回収(答)数	回収(答)率	調査方法
第13回	2009年11月	学部	25.00	11,570	11,239	1,182	42.03	ウェブ・ベース方式
		修士	50.00	3,467	3,097	1,044	67.22	
		博士	50.00	2,331	1,637	379	46.05	
		専門職	50.00	372	360	71	39.44	
		大学院で課程等不明				(36)		
第14回	2013年11月	学部	25.00	11,340	11,051	1,008	28.43	ウェブ・ベース方式
		修士	50.00	3,481	2,893	742	50.68	
		博士	50.00	2,312	1,216	244	33.52	
		専門職	50.00	305	237	49	30.82	
第15回	2017年11月	学部	25.00	11,368	10,980	968	22.52	ウェブ・ベース方式
		修士	50.00	3,601	2,876	759	47.92	
		博士	50.00	2,255	1,154	244	36.74	
		専門職	50.00	208	146	49	31.76	
第16回	2021年11月	学部	30.00	11,123	10,708	1,569	24.42	ウェブ・ベース方式
		修士	50.00	3,645	2,803	760	27.11	
		博士	50.00	2,413	1,152	389	33.77	
		専門職	50.00	176	119	36	30.25	

- 注 1) 対象学生には、休学者及び外国人留学生は含まない。第 4・5・8 回から今回には大学院学生が含まれる。第 14 回から対象学生には、社会人学生を含まない。
- 注 2) 対象学生数の欄に記載されている数値は、第 1 回～第 7 回の調査では在籍者数に抽出率を掛けた調査対象の数、第 8 回～第 13 回は「在籍者数 - (休学者数 + 外国人留学生数)」、第 14 回以降は「在籍者数 - (休学者数 + 外国人留学生数 + 社会人学生数)」である。
- 注 3) 「配付自記」とは、調査対象者に調査票を手渡し、後に研究科・学部等の窓口で回収したもの。「ウェブ・ベース方式」とは、調査対象者に URL・ログイン ID を知らせ、学内外のネットワーク端末から、インターネットを利用して調査対象項目に回答してもらう方法。

10 報告書の構成と特徴

- 1) 本報告書では、各設問に対する回答の集計結果を「学部学生編」と「大学院学生編」に分けて掲載した。また、巻末に本調査の調査項目を掲載した。
- 2) 本報告書では、学部・研究科等別、または性別別の集計を基本とし、調査項目によっては、出身地別等それ以外の区分による集計を行った。またできる限り、過去（2017 年・2013 年）の調査結果をあわせて掲載するようにした。
- 3) 編集に際しては、項目ごとに最もふさわしい指標によるクロス集計を心がけ、できる限り図表化した。解説の記述は基本的に事実の提示にとどめ、その解釈について、多くは読者の判断にゆだねることとした。
- 4) 「北海道大学に対する今後の期待・要望等」（自由記述）については、本報告書には掲載しないこととした。

11 注意事項

- 1) 本報告書では、小数点第 2 位を四捨五入して表示しているため、必ずしも合計が 100.0% になるとは限らない。

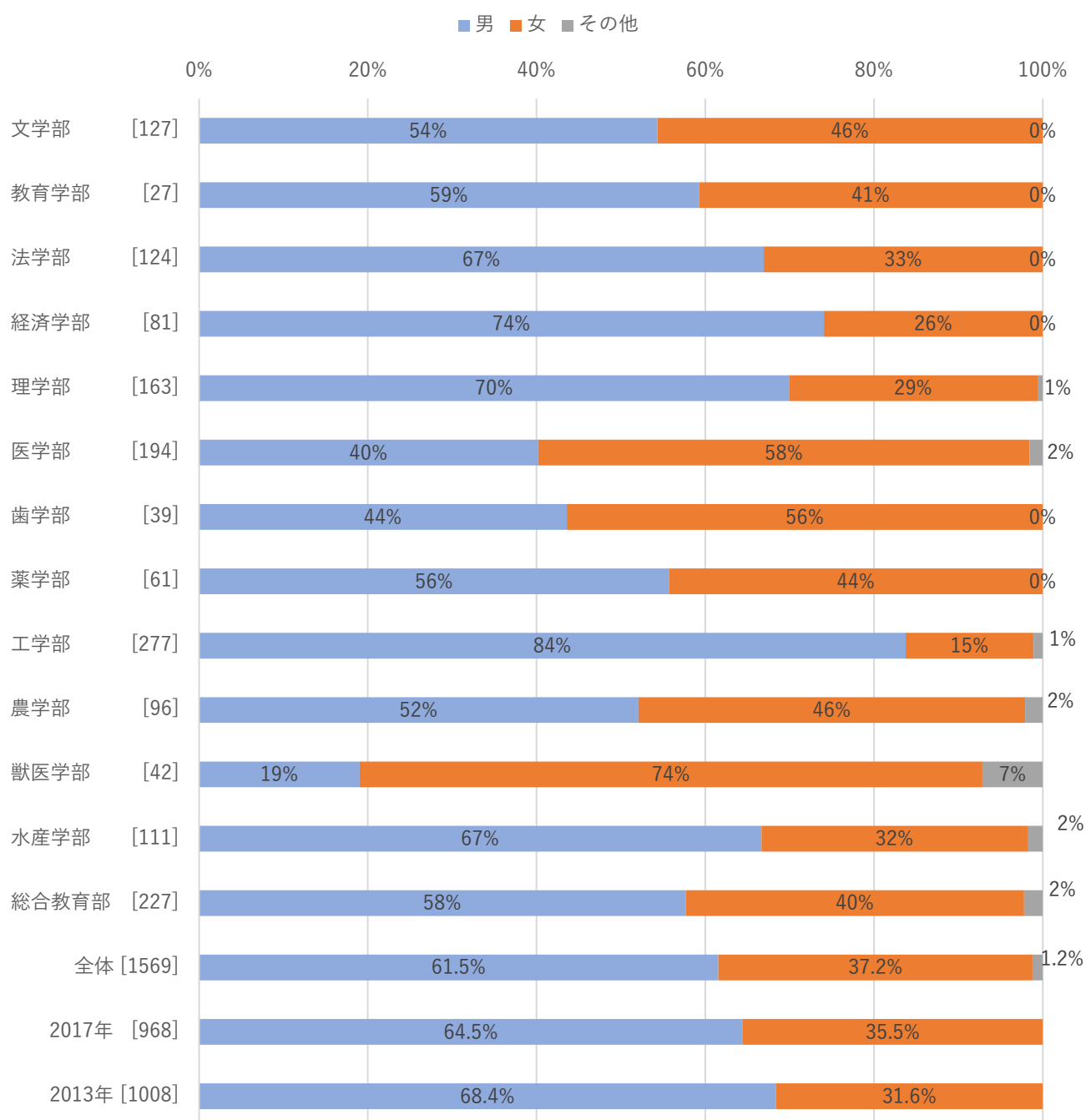
II 学部学生編

A 回答者の基本的特徴

回答者の性別比

- 回答者のうち男子学生が全体の61.5%、女子学生が37.2%、その他の学生が1.2%であった。これは、本学の在籍学生数における女子の割合28.8%（令和3年10月1日現在）とおおむね一致しており、サンプルとしては妥当である。
- 学部別の在籍学生数における性別比率では、各学部ともほぼ学部の在籍者の比率に対応している。その中で獣医学部の回答者数の比率が、在籍者比率（女子学生の比率が54.5%）より20ポイント程度高いのが目立つ程度である。

■ 回答者の性別比（学部別）



注1) 本報告書では、小数点第2位を四捨五入して表示しているため、必ずしも合計が100.0%になるとは限らない。

注2) 「その他」は、今回調査からの新選択肢である。

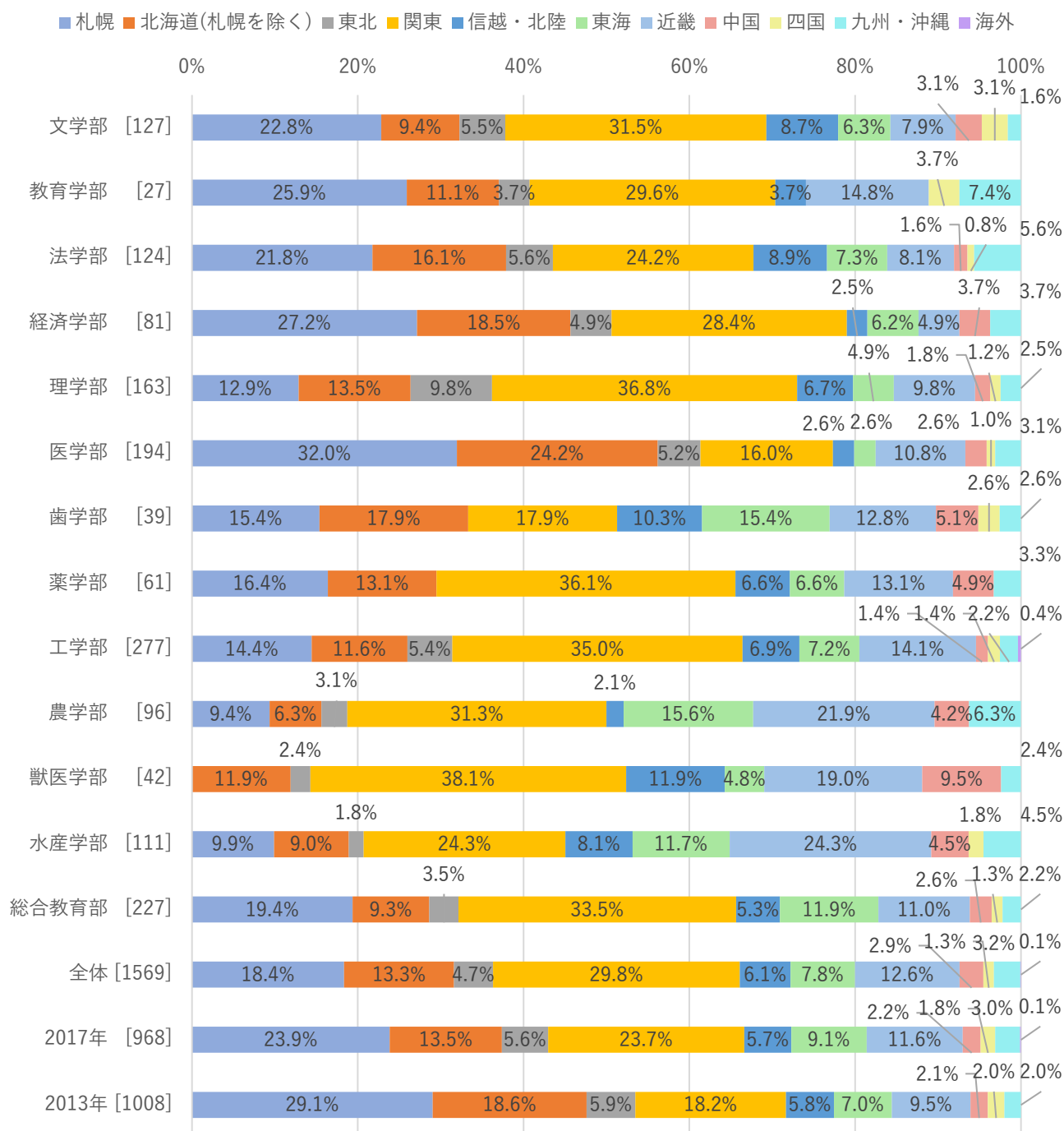
注3) [] は回答者数を示す。

B 家庭状況

出身地

- 札幌出身者の比率は、今回の調査では 18.4%であり、2013 年調査 (29.1%)、2017 年調査 (23.9%) と比べると、減少しつつある。
- 札幌を含む道内出身者は、今回の調査では 31.7%であり、2013 年調査 (47.7%)、2017 年調査 (37.4%) と比べると、ここでも減少傾向がみられる。
- 道内出身者に次いで多いのは、関東 (29.8%) で、2013 年調査 (18.2%)、2017 年調査 (23.7%) と徐々に増えている。
- 道内出身者の多い学部は、医学部、経済学部、法学部である。また、関東が多いのは、獣医学部、理学部、薬学部である。(※回答数が少ない学部等は参考程度)

■ 出身地 (学部)

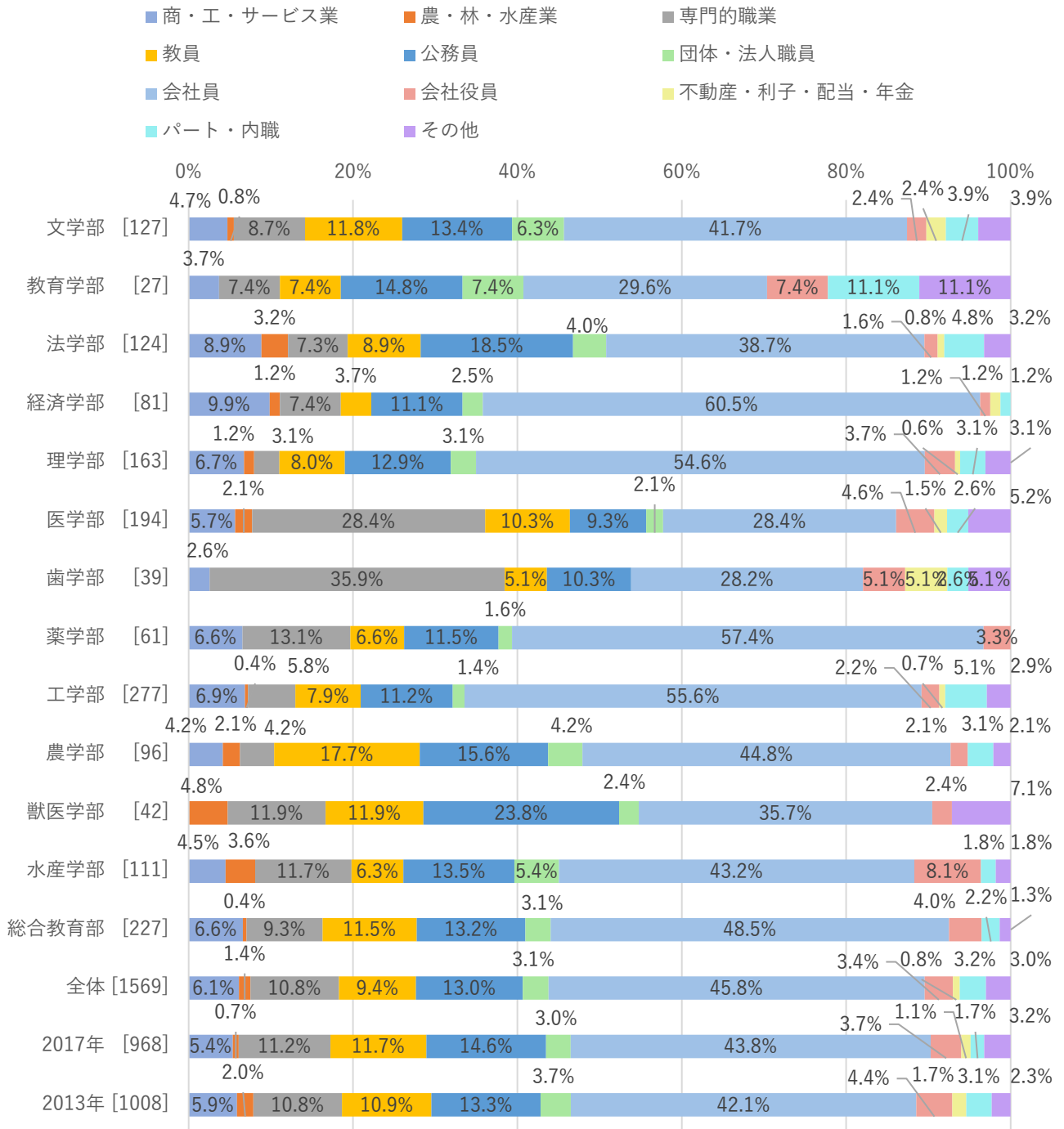


注1) [] は回答者数を示す。

家計支持者の職業

- 家計支持者の職業において、全体で最も比率が高いのは、「会社員」(45.8%)であり、2013年調査(42.1%)、2017年調査(43.8%)と比べると、ほぼ変わらない。
- 次いで高いのは「公務員」(13.0%)であるが、2013年調査(13.3%)、2017年調査(14.6%)と比べると、ほぼ横ばい傾向にある。
- 学部別では、「会社員」の比率が全体と比較して高いのは、経済学部(60.5%)と薬学部(57.4%)、工学部(55.6%)である。医学部・歯学部では「専門的職業」の比率が高く、獣医学部、法学部では「公務員」の比率が高いのが特徴的である。(※回答数が少ない学部等は参考程度)

■ 家計支持者の職業 (学部別)

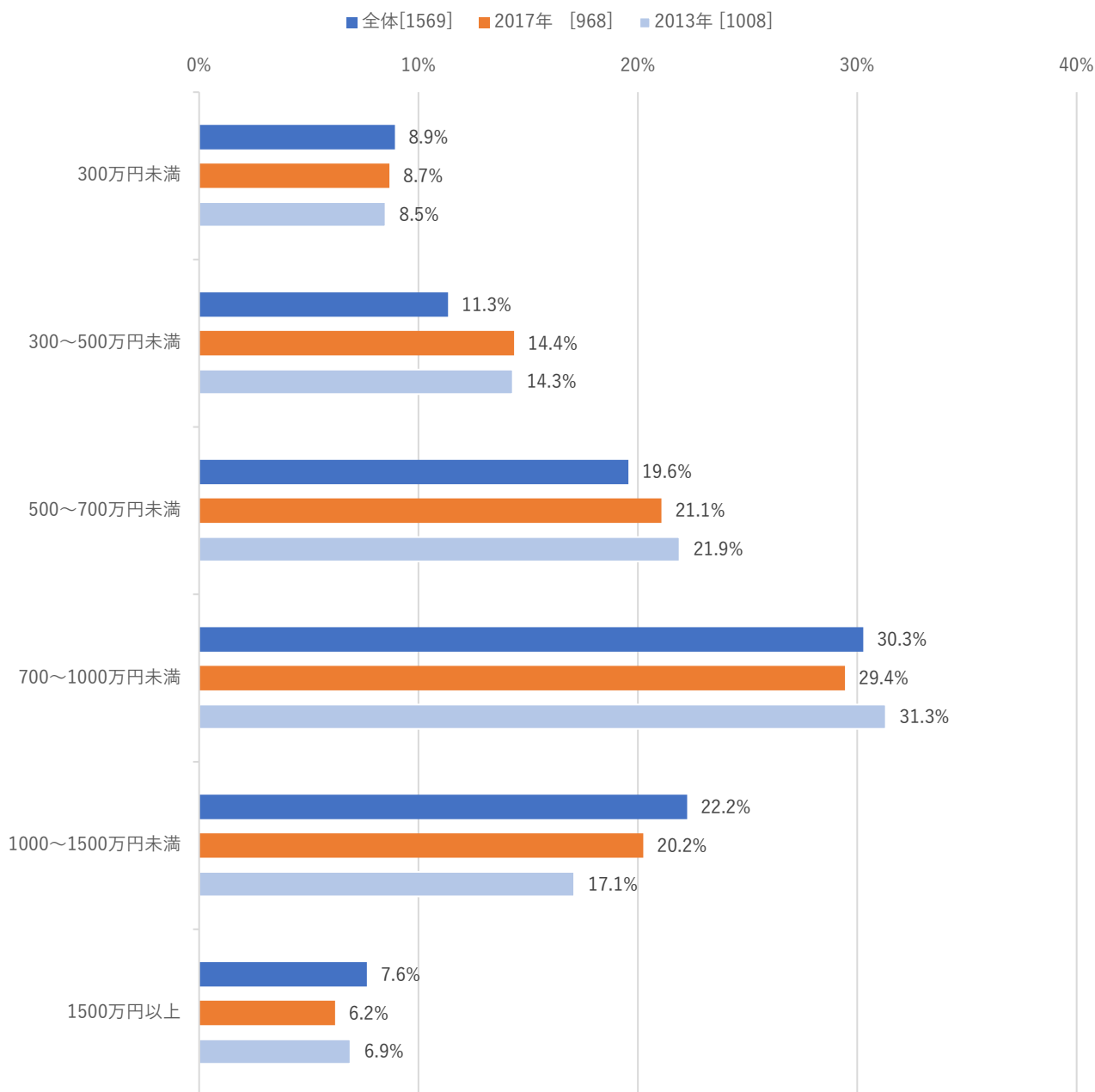


注1) [] は回答者数を示す。

家庭の年間収入

- 家庭の年間収入の階層別分布について、分布が最も多いのは「700～1000万円未満」である。この「700～1000万円未満」が30.3%であり、2013年調査（31.3%）、2017年調査（29.4%）と比べて、ほとんど変わらない。一方「1000～1500万円未満」は2017年の20.2%から今回は22.2%に増加した。

■ 家庭の年間収入（収入階層別の分布）



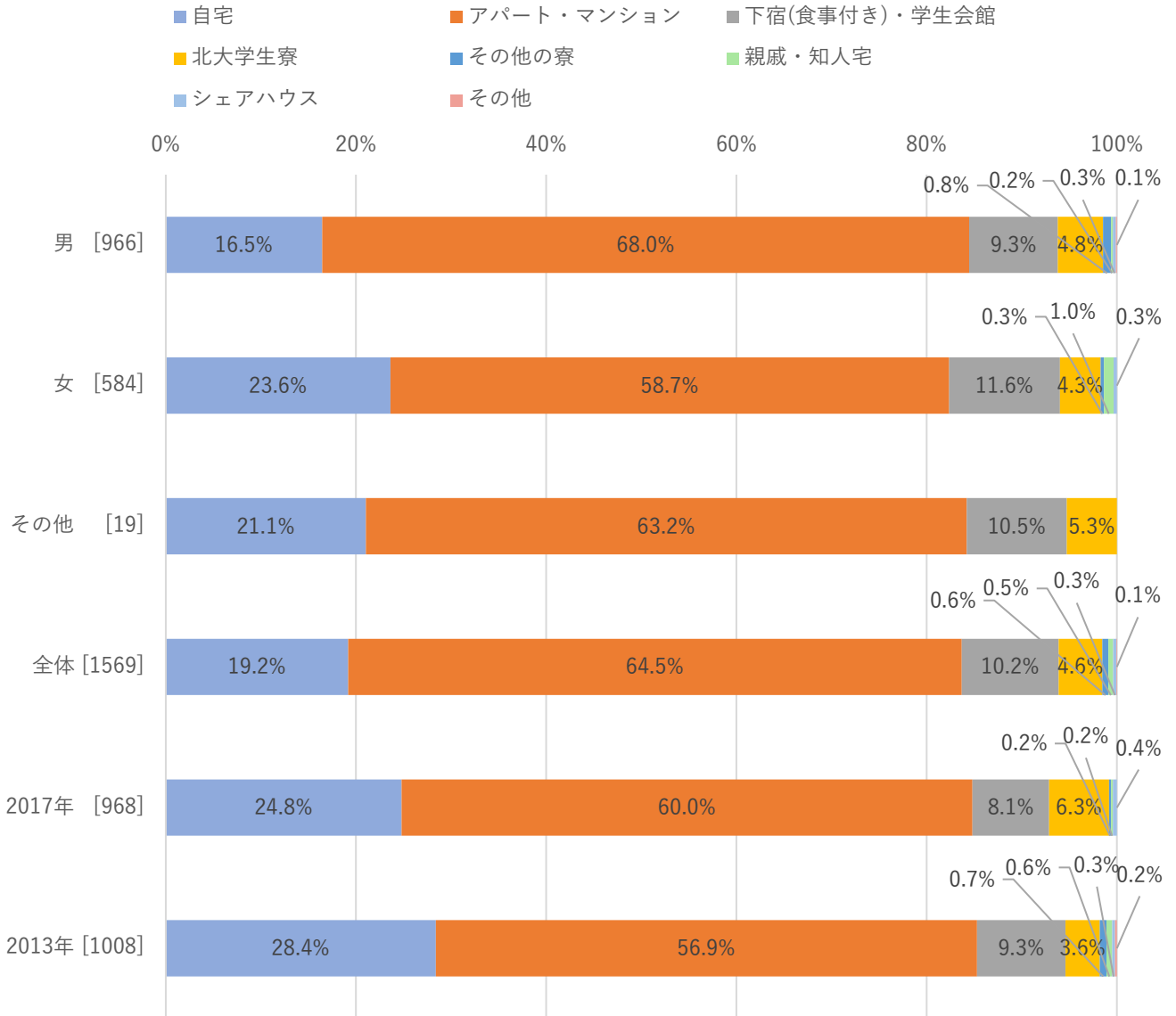
注1) [] は回答者数を示す。

C 住居・通学・食事の状況

住居形態

住居形態における「アパート・マンション」の比率が64.5%で、2013年調査（56.9%）→2017年調査（60.0%）→今回(64.5%)と増加傾向にある。性別別では、女性は「自宅」(23.6%)が若干多くなる。

■ 住居形態（性別別）



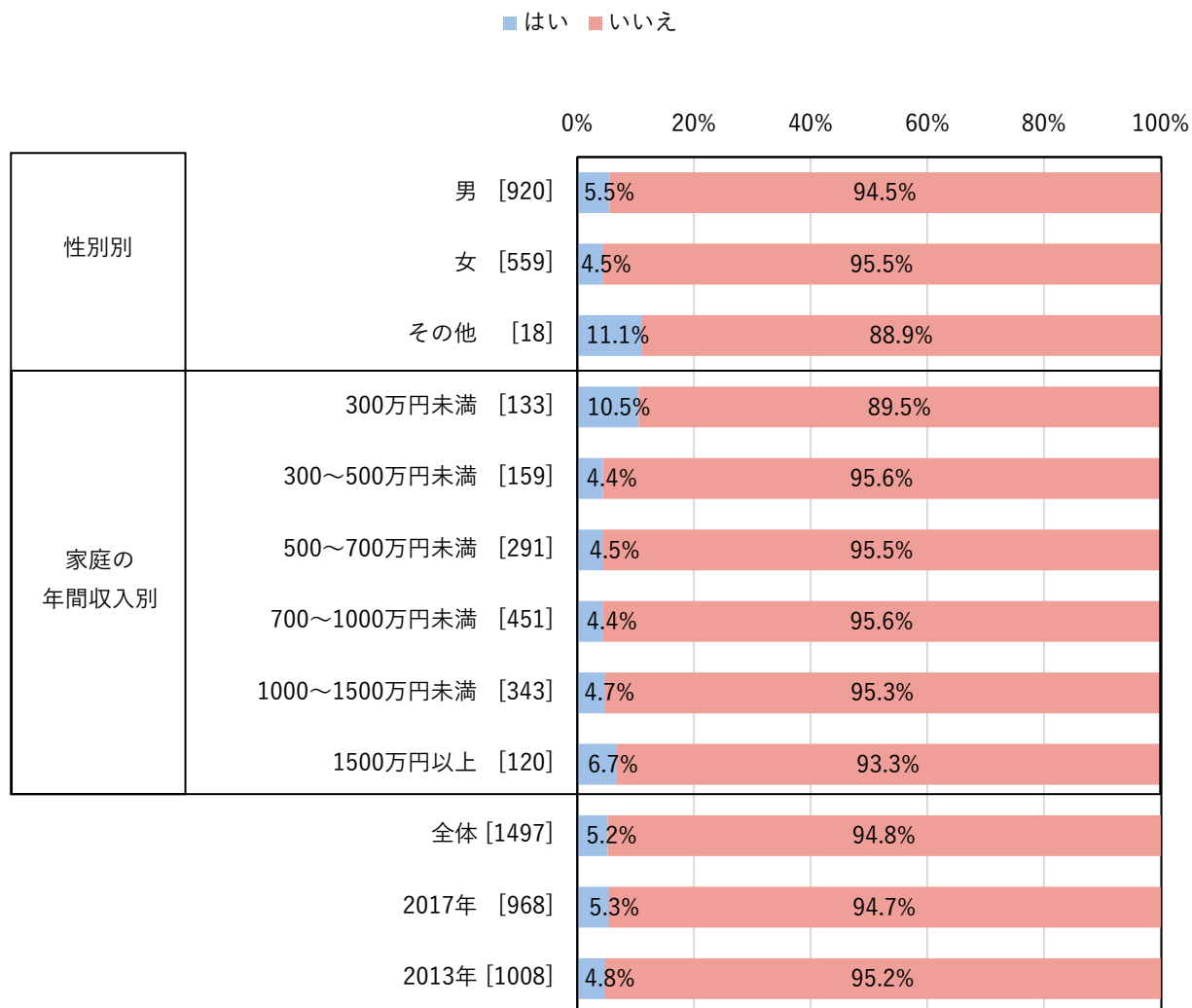
注1) [] は回答者数を示す。

学生寮入寮希望の有無とその理由

- 入寮希望の比率は5.2%であり、2013年(4.8%)、2017年調査(5.3%)と比べて、ほとんど変わらない。
- 入寮の希望理由は、性別別選択項目全てにおいて「寮の雰囲気にあこがれる」(全体:48.7%)が多く、入寮を希望しない理由は、「集団生活がわずらわしい」(同 59.9%)が最も多い。

■ 入寮希望者の割合（性別別／家庭の年間収入別）

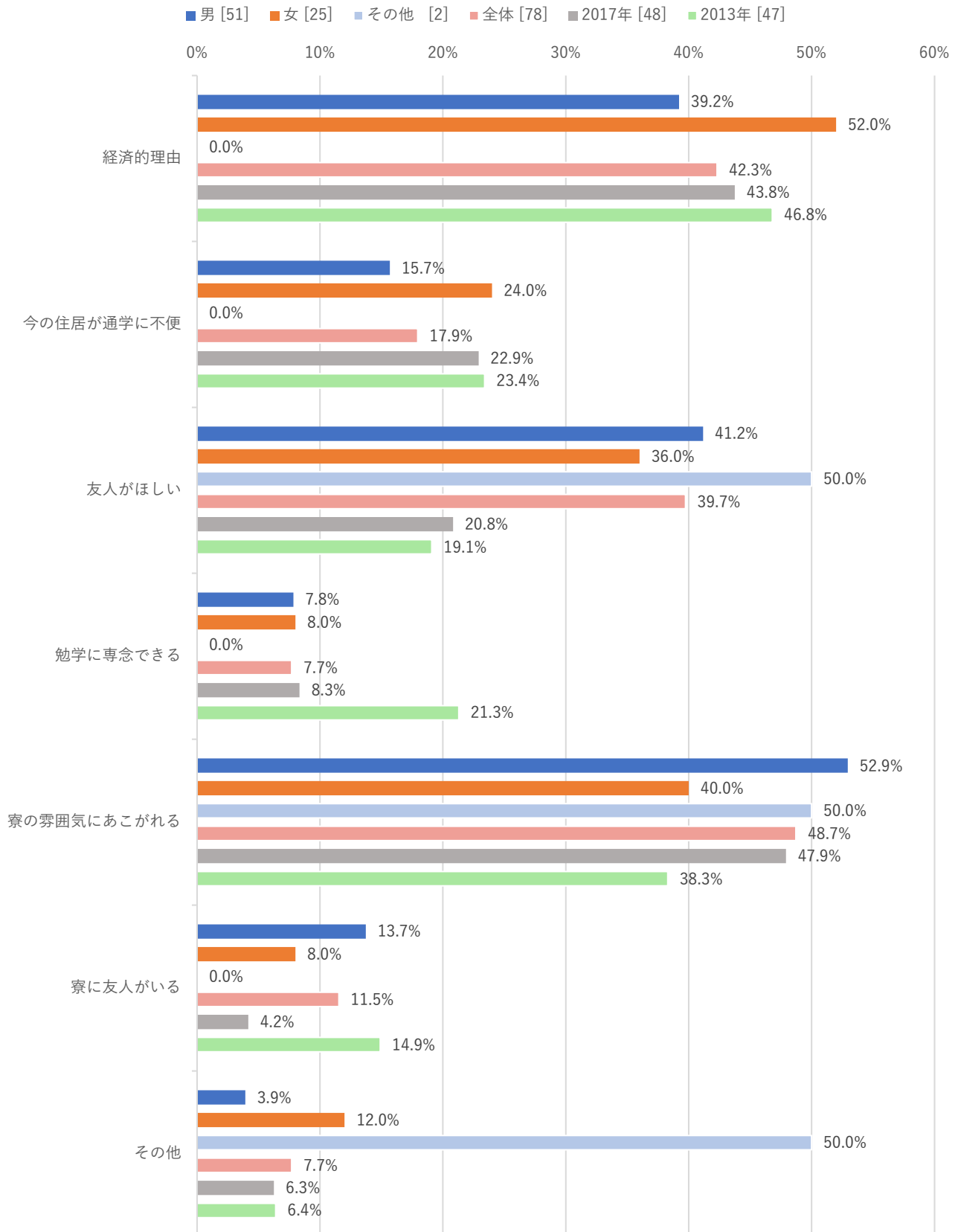
※学生寮非入寮者ベース



注1) [] は回答者数を示す。

■ 入寮希望の理由（性別別・2つまで）

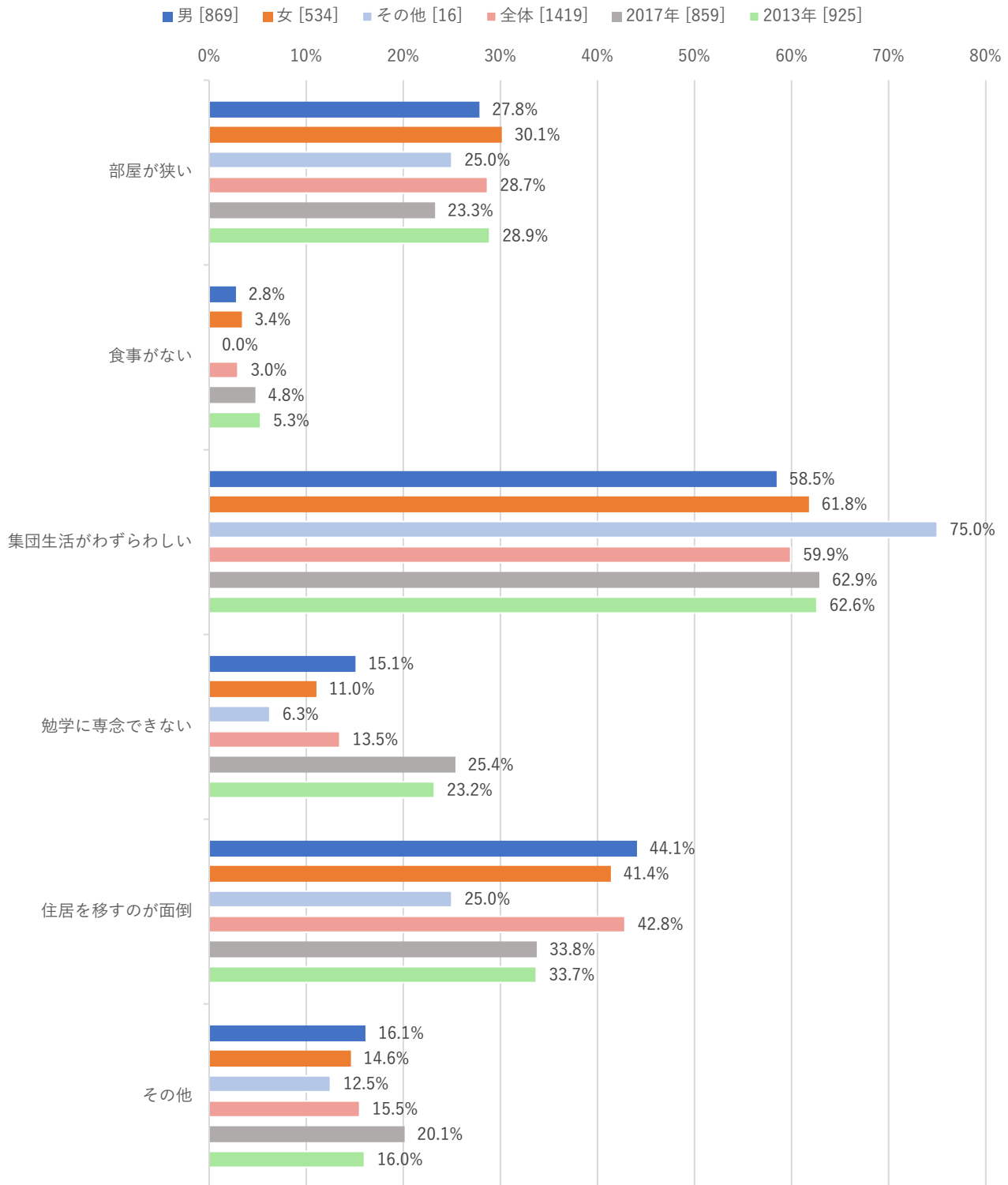
※入寮希望者ベース



注1) [] は回答者数を示す。

■ 入寮を希望しない理由（性別別・2つまで）

※入寮非希望者ベース

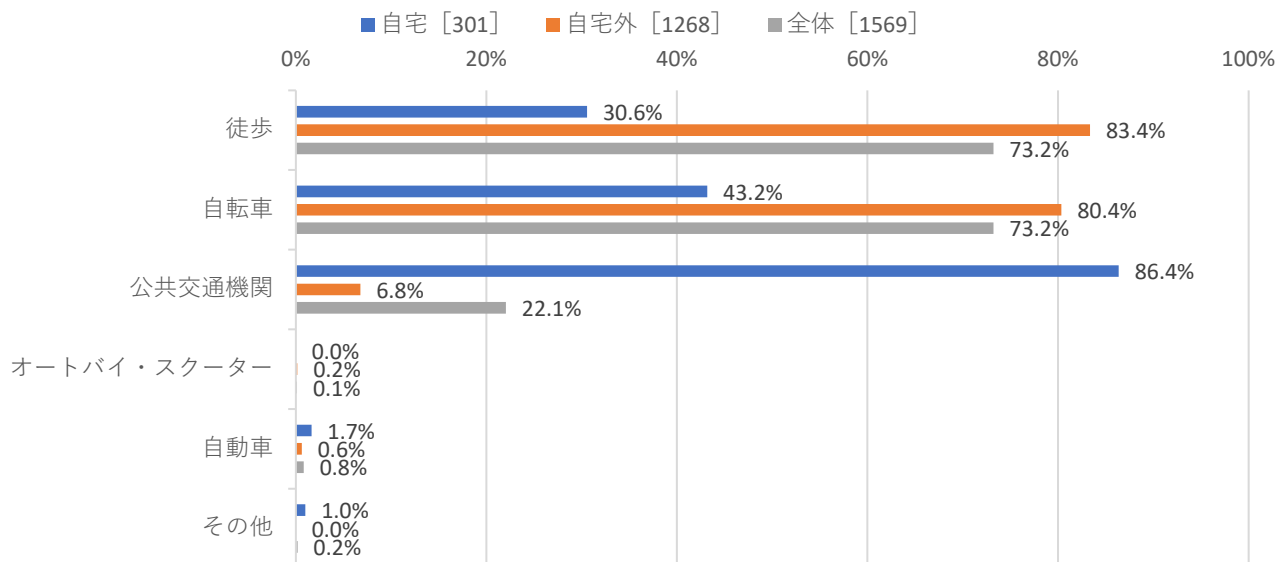


注1) [] は回答者数を示す。

通学方法と通学時間

- 通学方法は、自宅通学者の「公共交通機関」を利用している割合が86.4%と、自宅外通学者（6.8%）に比べて多くなっている。
- 自宅外通学者は、「徒歩」（83.4%）、「自転車」（68.7%）が多くなっている。

■ 通学方法（2つまで）

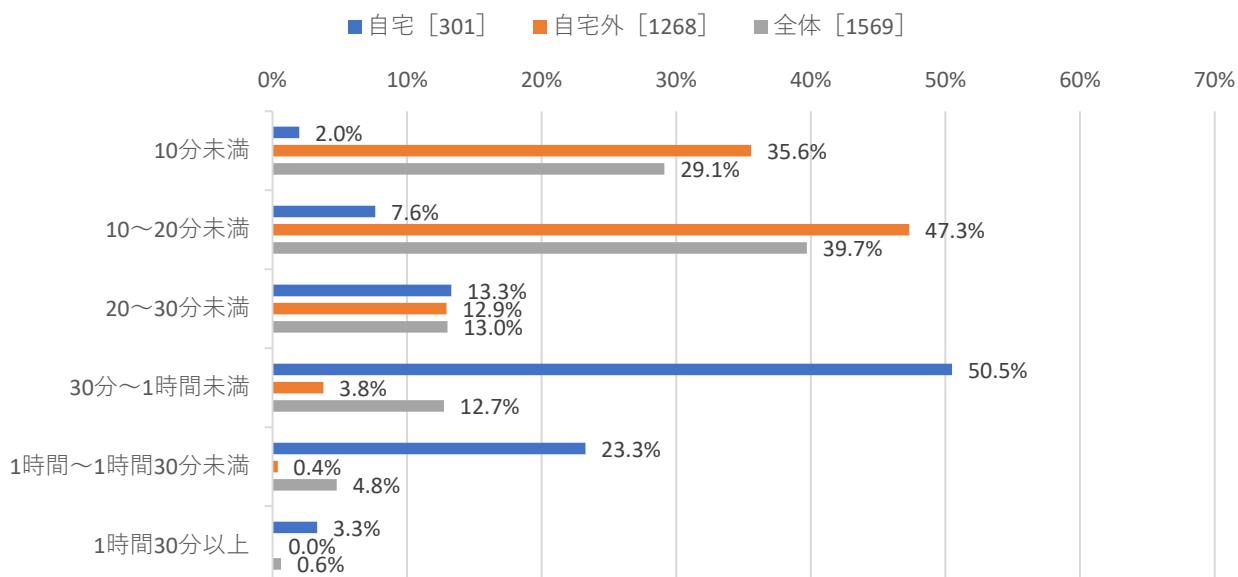


注1) 「自宅外通学」は、住居種別設問に「アパート・マンション」、「下宿（食事付き）・学生会館」、「北大学生寮」、「その他の寮」、「親戚・知人宅」、「シェアハウス」、「その他」と回答した学生を示す。

注2) [] は回答者数を示す。

- 通学時間は、自宅通学者は「30分～1時間未満」が50.5%と最も多い。
- 自宅外通学者は、「10～20分未満」が47.3%、「10分未満」が35.6%であり、8割程度の自宅外通学者が、20分圏内に住んでいる。

■ 通学時間



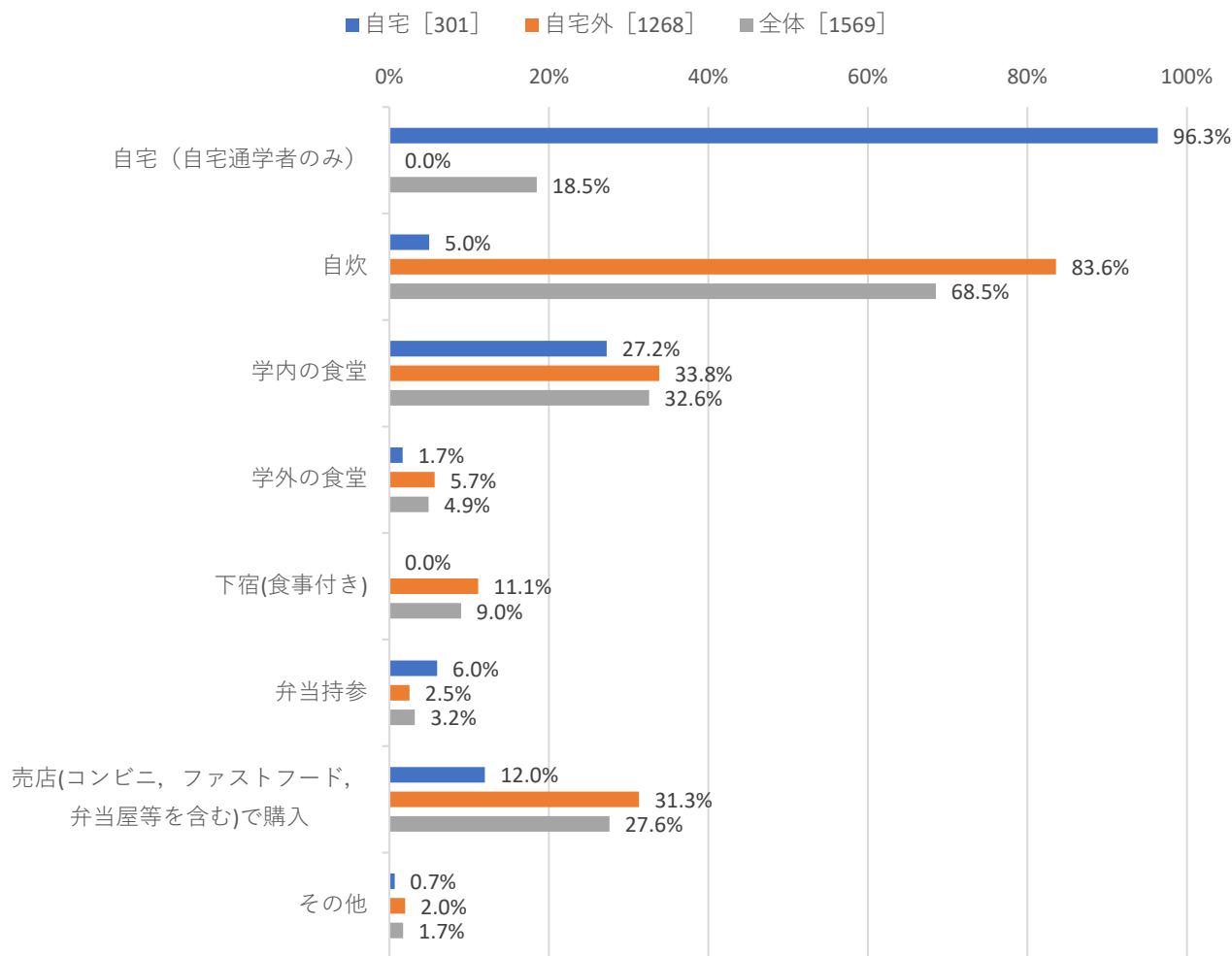
注1) 「自宅外通学」は、住居種別設問に「アパート・マンション」、「下宿（食事付き）・学生会館」、「北大学生寮」、「その他の寮」、「親戚・知人宅」、「シェアハウス」、「その他」と回答した学生を示す。

注2) [] は回答者数を示す。

食事

- 食事は、自宅通学者は「自宅（自宅通学者のみ）」が96.3%である。
- 自宅外通学者は「自炊」が83.6%と8割を超える。次いで、「学内の食堂」（33.8%）や「売店」（31.3%）で済ませる学生が多くなっている。

■ 食事（2つまで）



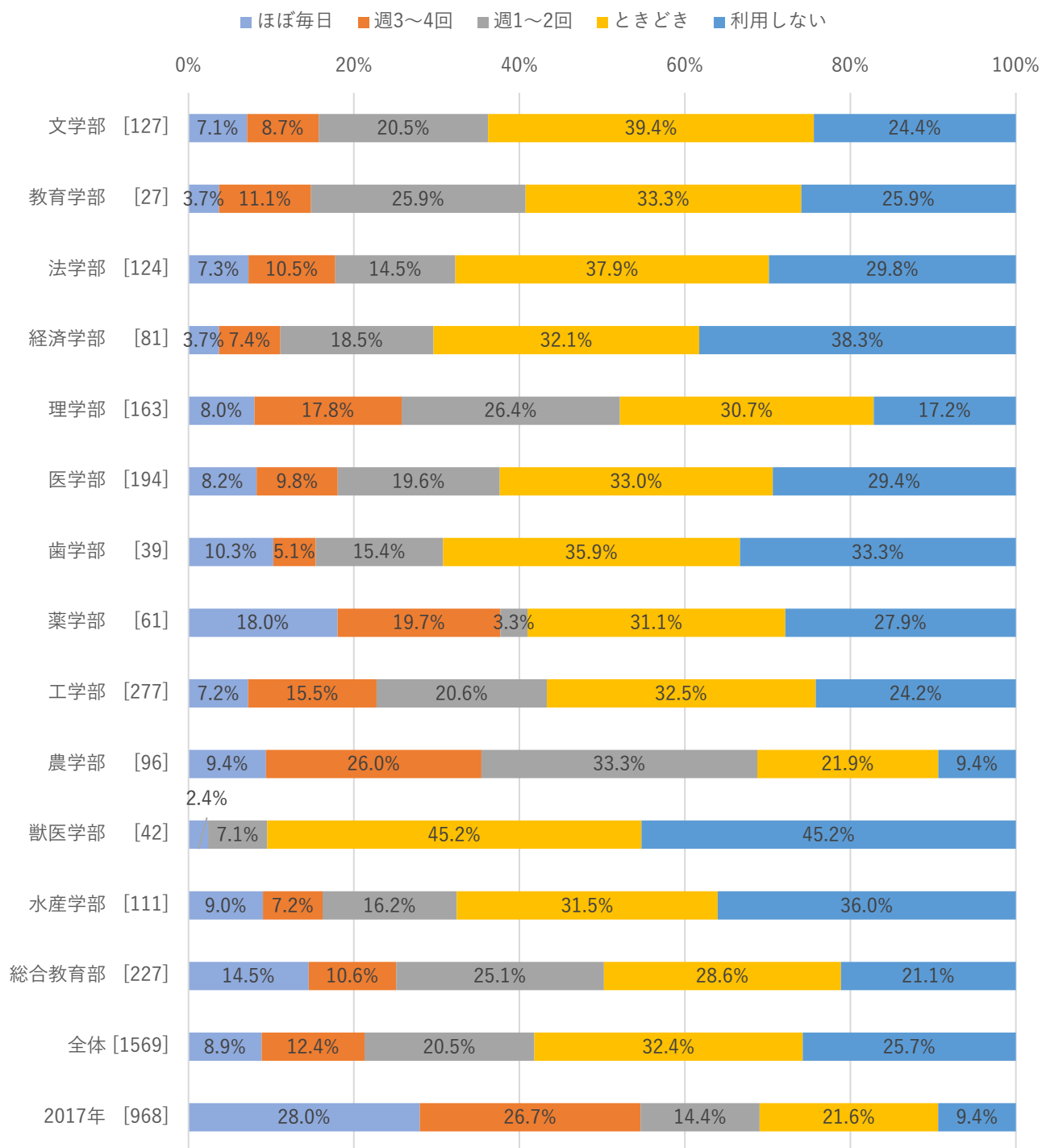
注1) 「自宅外通学」は、住居種別設問に「アパート・マンション」、「下宿（食事付き）・学生会館」、「北大学生寮」、「その他の寮」、「親戚・知人宅」、「シェアハウス」、「その他」と回答した学生を示す。

注2) [] は回答者数を示す。

学食の利用頻度

- 学食の利用頻度は、「ときどき」が32.4%と全体の3分の1近くを占めている。次いで、「利用しない」(25.7%)、「週1~2回」(20.5%)、「週3~4回」(12.4%)と続く。一方、「ほぼ毎日」利用する学生は8.9%と、1割に満たない。
- 学食の利用頻度は、2017年調査に比べて、全体的に大きく減少した。
- 学部別では、学食を「ほぼ毎日」利用している比率が高いのは、薬学部(18.0%)、総合教育部(14.5%)、歯学部(10.3%)である。一方、学食を「利用しない」比率が高いのは、獣医学部(45.2%)、経済学部(38.3%)、水産学部(36.0%)である(※回答数が少ない学部等は参考程度)。

■ 学食の利用頻度(学部別)



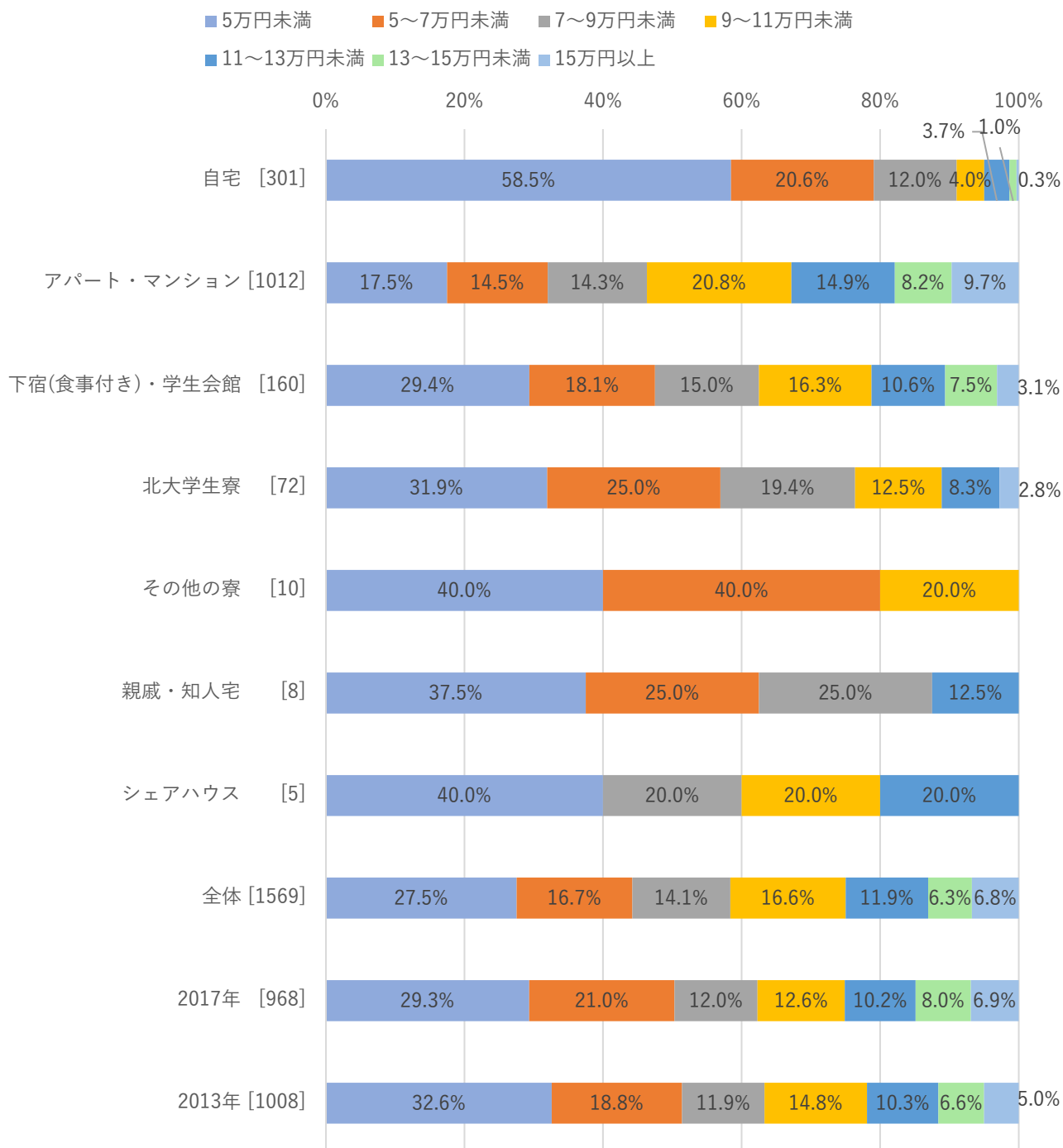
注1) [] は回答者数を示す。

D 収入と支出の状況

月間収入額の分布（住居形態別）

- 月間収入額の分布は、「5万円未満」（27.5%）が最も多く、次いで「5～7万円未満」（16.7%）である。「5万円未満」は、2013年調査（32.6%）、2017年調査（29.3%）と比べると、減少している。
- 住居形態別では、「アパート・マンション」は、「自宅」「北大学生寮」「下宿（食事付き）・学生会館」よりも収入が多い。

■ 月間収入額の分布（住居形態別）



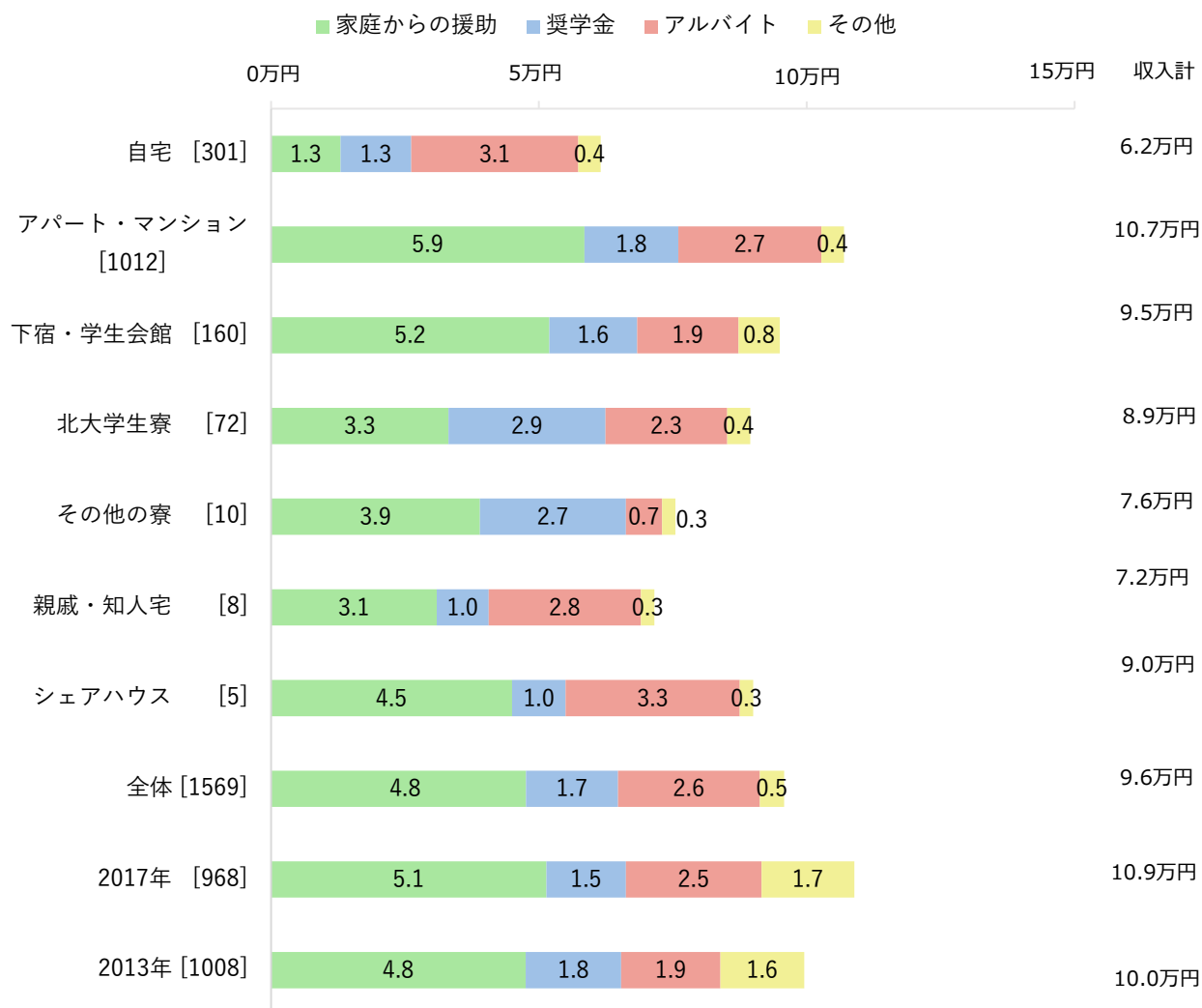
注1) その他 [1] のグラフについては省略。

注2) [] は回答者数を示す。

収入の内訳（住居形態別）

- 平均月間収入額は9.6万円です。2017年調査（10.9万円）と比べると、減少しています。
- 住居形態別では、「家庭からの援助」が多いのは、「アパート・マンション」（平均5.9万円）や「下宿・学生会館」（同5.2万円）で暮らす学生で、平均月間収入額も全体よりも高い。「北大学生寮」に入居している学生は、収入に占める「奨学金」（同2.9万円）の割合が高いのが特徴的です。一方、「自宅」の場合、アルバイトによる収入が、比率だけではなく金額的にも全体の平均よりも高いのが特徴的です。
- 今回調査から、金額の選択肢と回答項目を変更したため、解釈には注意が必要である。

■ 収入の内訳（住居形態別）

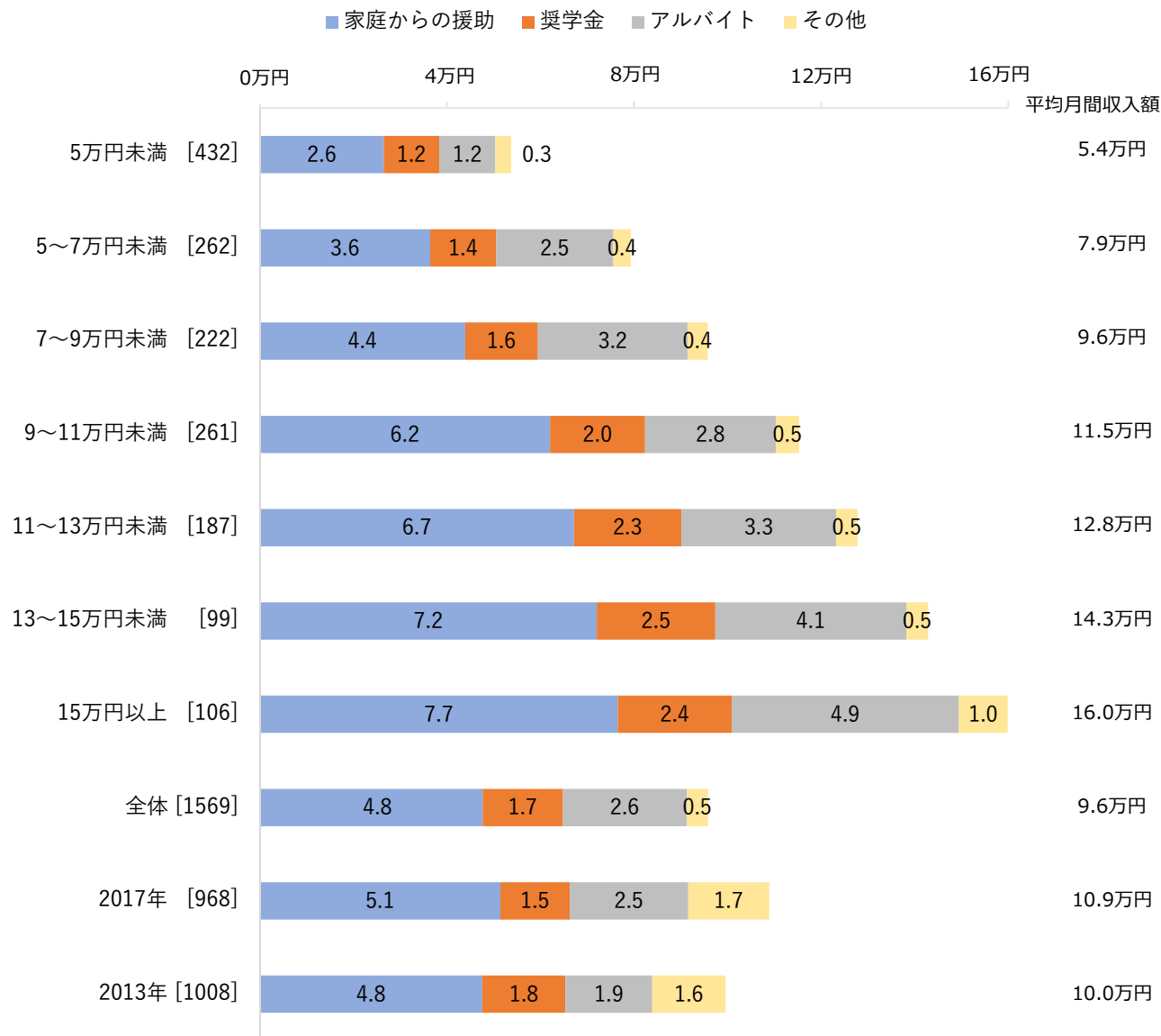


- 注1) 今回調査から、「9～11万円未満」「11～13万円未満」「13～15万円未満」「15万円以上」の選択肢を廃し、収入源ごとに「5千円未満」「5千～1万円未満」「1～3万円未満」「3～5万円未満」「5～7万円未満」「7～9万円未満」「9万円以上」で回答する選択肢とした。
- 注2) 今回調査から、「預貯金切り崩し」の設問を廃した。グラフ上、2017年と2013年調査の結果は、「預貯金切り崩し」を「その他」に合算して記している。
- 注3) 金額の回答は選択式で、平均月間収入額は選択肢の中央値を用いて計算した。
例：3～5万円未満の場合は4万円、5千円未満は2,500円、9万円以上は10万円として計算し、それらの合算値を月間収入とした。
- 注4) 千円未満を四捨五入しているため、収入内訳の合計額と「平均月間収入額」が一致しない場合がある。
- 注5) その他 [1] のグラフについては省略。
- 注6) [] は回答者数を示す。

収入の内訳（月間収入額別）

- 月間収入額の分布をみると、仕送りには月額3万円程度から7万円程度まで大きな開きがあり、これが収入差となっている。なお、仕送り不要の自宅通学者が混ざった統計のため、その解釈には注意が必要である。
- 収入額が高いほど「家庭からの援助」以外に「奨学金」や「アルバイト」の収入が多くなる。
- 今回調査から、金額の選択肢と回答項目を変更したため、解釈には注意が必要である。

■ 収入の内訳（月間収入額別）

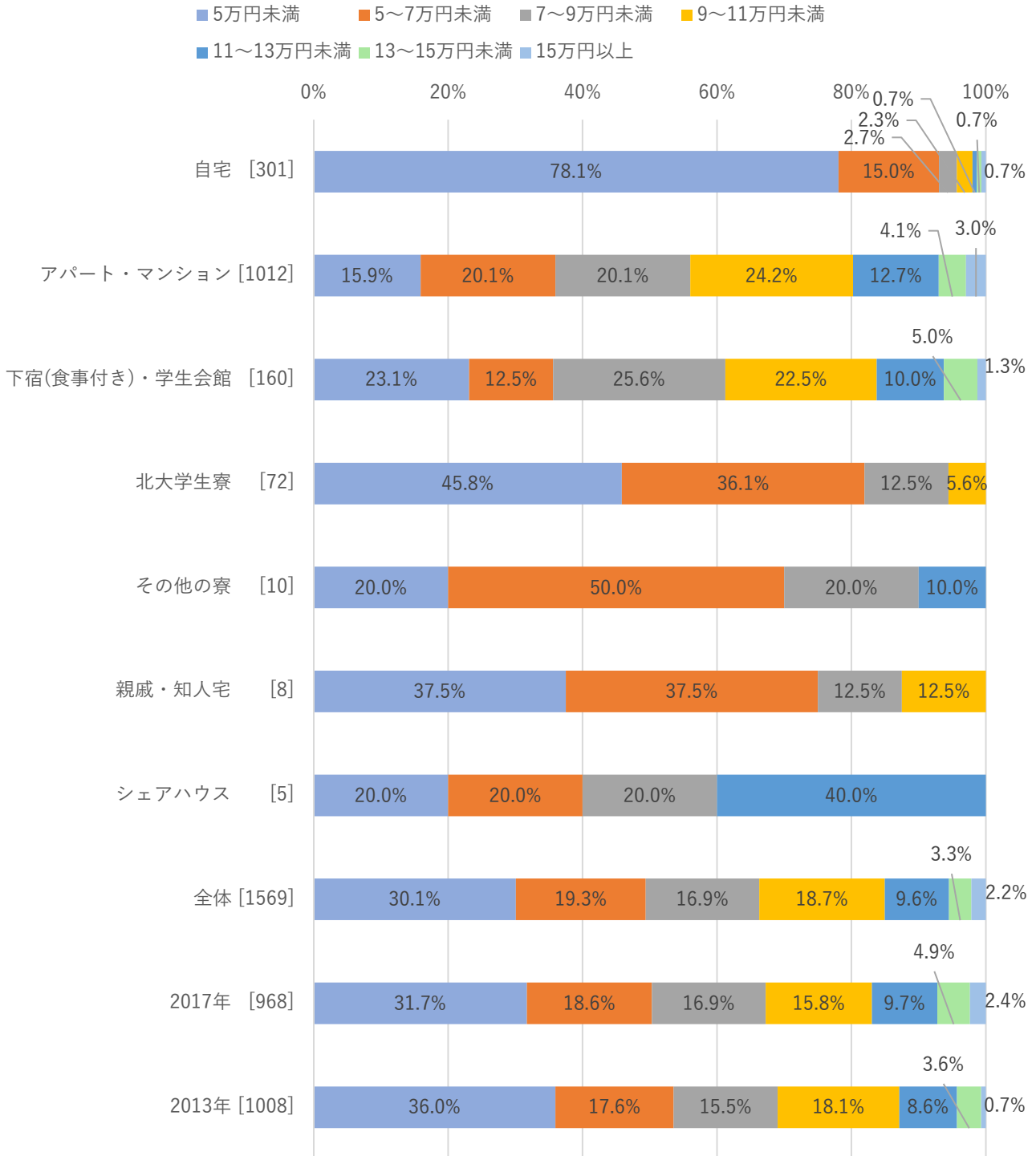


- 注1) 今回調査から、「9～11万円未満」「11～13万円未満」「13～15万円未満」「15万円以上」の選択肢を廃し、収入源ごとに「5千円未満」「5千～1万円未満」「1～3万円未満」「3～5万円未満」「5～7万円未満」「7～9万円未満」「9万円以上」で回答する選択肢とした。
- 注2) 今回調査から、「預貯金切り崩し」の設問を廃した。グラフ上、2017年と2013年調査の結果は、「預貯金切り崩し」を「その他」に合算して記している。
- 注3) 金額の回答は選択式で、平均月間収入額は選択肢の中央値を用いて計算した。
例：3～5万円未満の場合は4万円、5千円未満は2,500円、9万円以上は10万円として計算し、それらの合算値を月間収入とした。
- 注4) 千円未満を四捨五入しているため、収入内訳の合計額と「平均月間収入額」が一致しない場合がある。
- 注5) [] は回答者数を示す。

月間支出額の分布（住居形態別）

- 月間支出額の分布は、「5万円未満」が30.1%、「5～7万円未満」が19.3%、「7～9万円」が16.9%で、「9万円未満」の月間支出の比率が66.3%を占めている。2017年調査の「9万円」未満の支出（67.2%）と比べてほとんど変わっていない。
- 住居形態別では、「アパート・マンション」「下宿（食事付き）・学生会館」は、「自宅」「北大学生寮」で暮らす学生よりも支出が多い。

■ 月間支出額の分布（住居形態別）



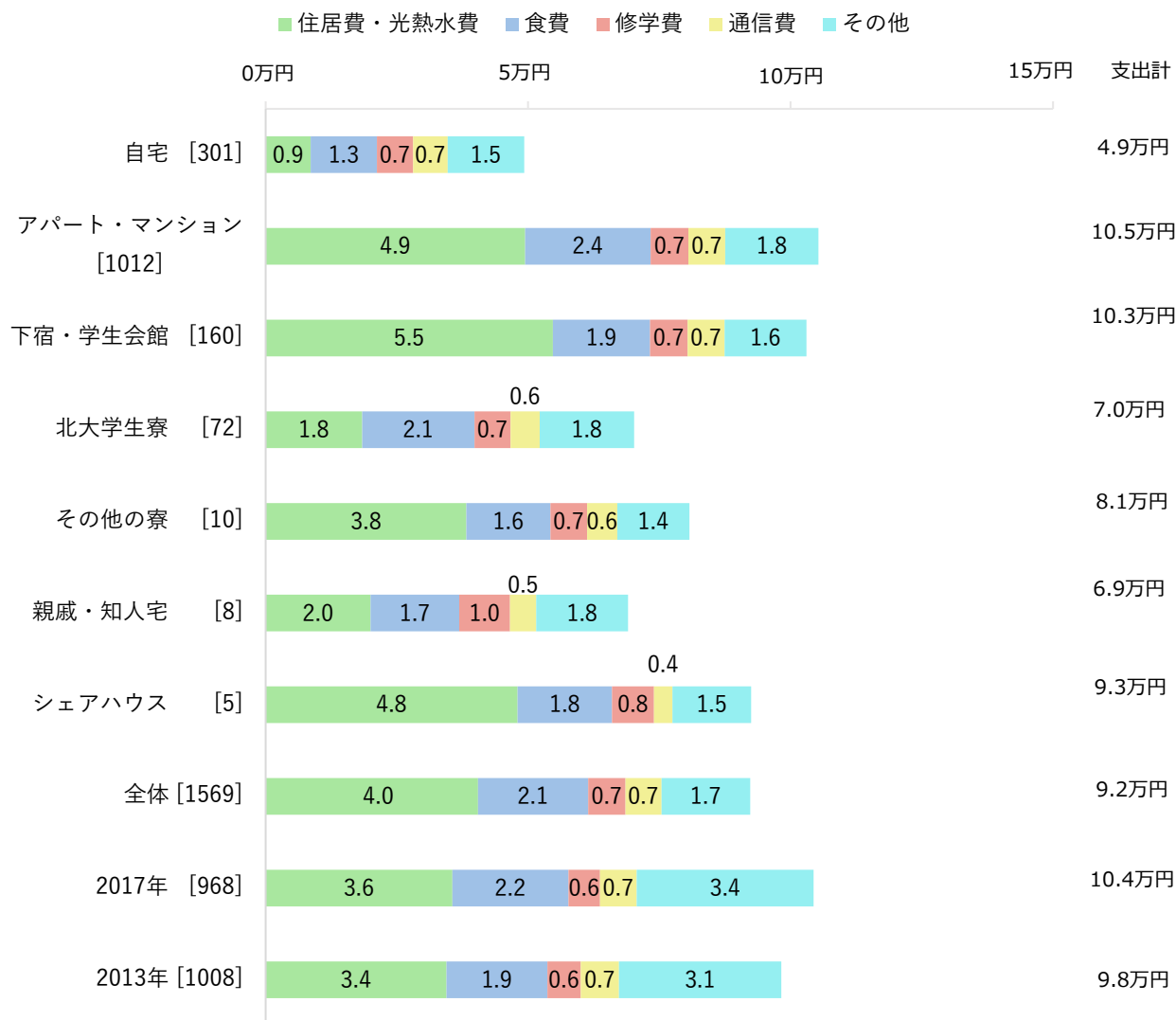
注1) その他 [1] のグラフについては省略。

注2) [] は回答者数を示す。

支出の内訳（住居形態別）

- 平均月間支出額は9.2万円で、「住居費・光熱水費」（平均4.0万円）が最大の支出項目であり、次に「食費」（2.1万円）である。また、支出全体の平均金額は、2017年（10.4万円）と比べて、1万円以上減少した。
- 住居形態別では、「アパート・マンション」や「下宿（食事付き）・学生会館」で暮らす学生は「住居費・光熱水費」の比率が大きく、「北大学生寮」の「住居費・光熱水費」（1.8万円）と比べると、3倍近くになる。
- 今回調査から、金額の選択肢と回答項目を変更したため、解釈には注意が必要である。

■ 支出の内訳（住居形態別）



注1) 今回調査から、「9～11万円未満」「11～13万円未満」「13～15万円未満」「15万円以上」の選択肢を廃し、支出項目ごとに「5千円未満」「5千～1万円未満」「1～3万円未満」「3～5万円未満」「5～7万円未満」「7～9万円未満」「9万円以上」で回答する選択肢とした。

注2) 今回調査から、「教養・娯楽費」「衣料費」「交通費」の設問を廃した。グラフ上、2017年と2013年調査の結果は、それらを「その他」に合算して記している。

注3) 金額の回答は選択式で、平均月間支出額は選択肢の中央値を用いて計算した。

例：3～5万円未満の場合は4万円、5千円未満は2,500円、15万円以上は16万円として計算し、それらの合算値を月間支出額とした。

注4) 千円未満を四捨五入しているため、支出の内訳の合計額と「平均月間支出額」が一致しない場合がある。

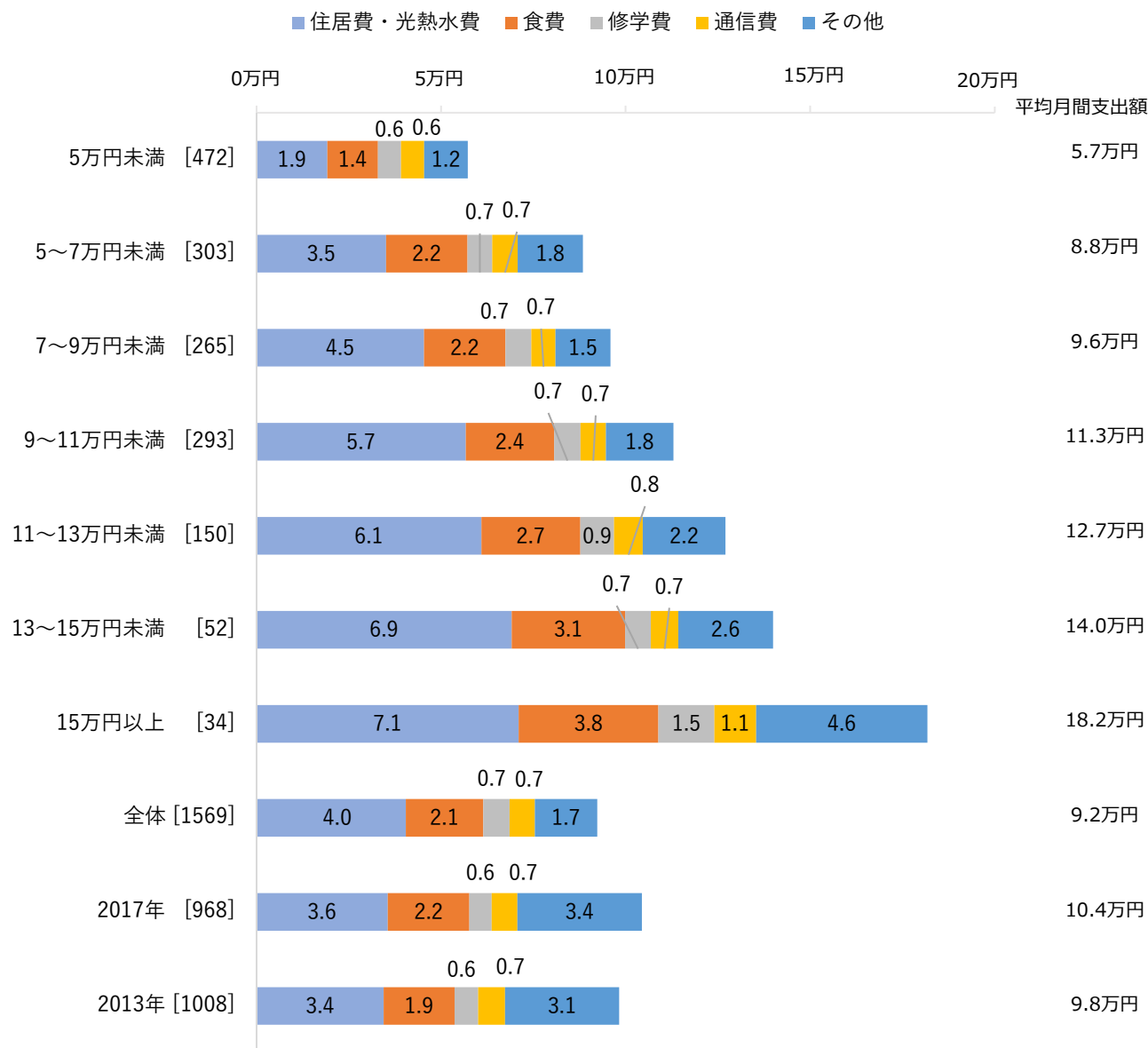
注5) その他 [1] のグラフについては省略。

注6) [] は回答者数を示す。

支出の内訳（月間支出額別）

- 支出の内訳を支出額の階層別にみると、支出額が多い学生ほど「住居費・光熱水費」の占める比率が高い。ただし、自宅通学者が混ざっているために、その解釈には注意が必要である。
- 月額13万円未満の階層では、「住居費・光熱水費」と「食費」を除くと、支出額にほとんど差がみられない。
- 今回調査から、金額の選択肢と回答項目を変更したため、解釈には注意が必要である。

■ 支出の内訳（月間支出額別）

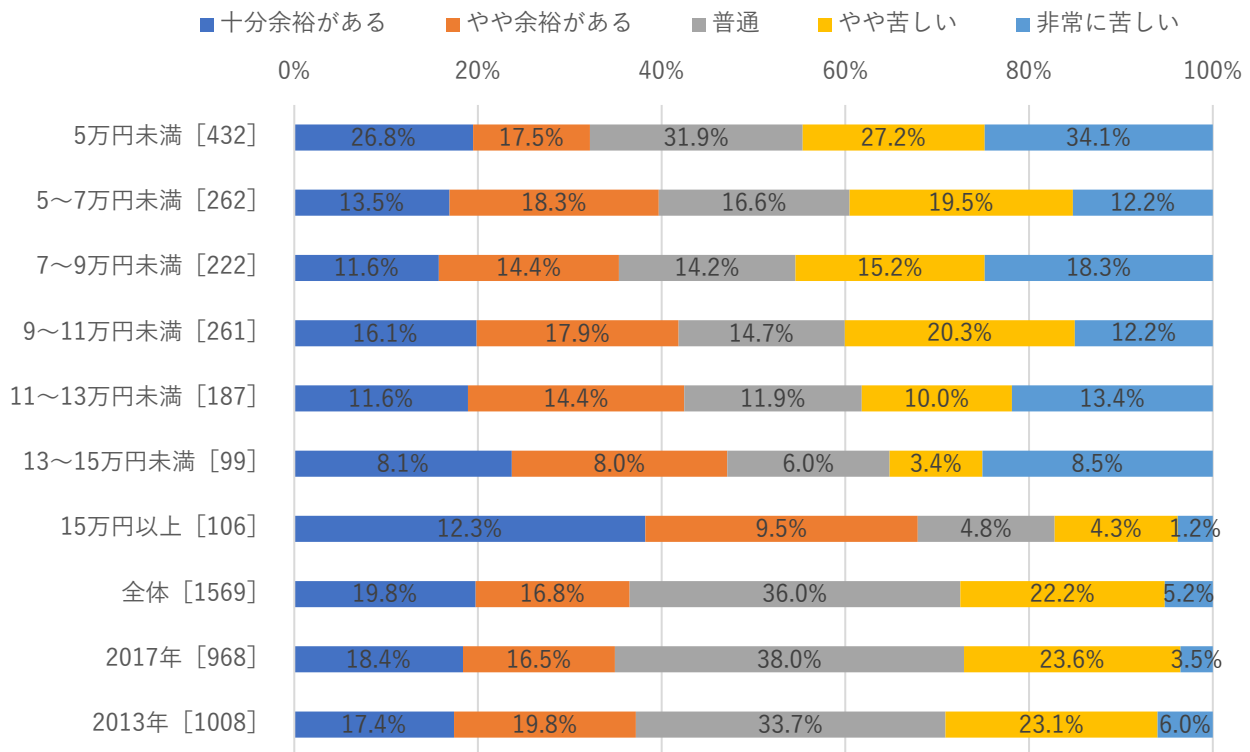


- 注1) 今回調査から、「9～11万円未満」「11～13万円未満」「13～15万円未満」「15万円以上」の選択肢を廃し、支出項目ごとに「5千円未満」「5千～1万円未満」「1～3万円未満」「3～5万円未満」「5～7万円未満」「7～9万円未満」「9万円以上」で回答する選択肢とした。
- 注2) 今回調査から、「教養・娯楽費」「衣料費」「交通費」の設問を廃した。グラフ上、2017年と2013年調査の結果は、それらを「その他」に合算して記している。
- 注3) 金額の回答は選択式で、平均月間支出額は中央値を用いて計算した。
例：3～5万円未満の場合は4万円、5千円未満は2,500円、15万円以上は16万円として計算し、それらの合算値を月間支出額とした。
- 注4) 千円未満を四捨五入しているため、支出の内訳の合計額と「平均月間支出額」が一致しない場合がある。
- 注5) [] は回答者数を示す。

経済状態の実感

- 現在の経済状態について、「十分余裕がある」(19.8%)、「やや余裕がある」(16.8%)を合わせると、「余裕がある」と回答した学生は全体で36.6%である。一方、「やや苦しい」(22.2%)、「非常に苦しい」(5.2%)を合わせると、「苦しい」と回答した学生は27.4%である。

■ 経済状態の実感（月間収入額別）

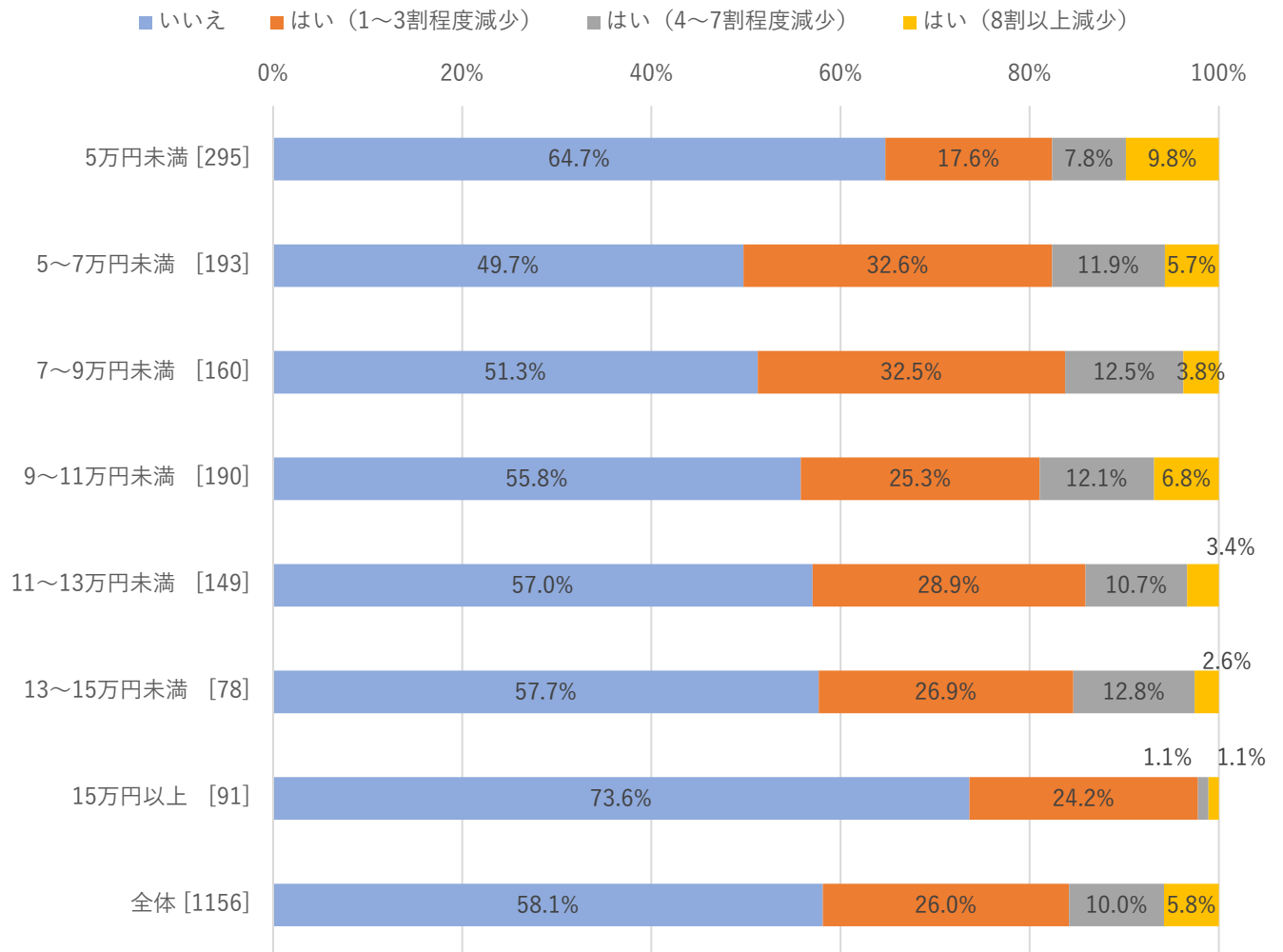


注1) [] は回答者数を示す。

新型コロナウイルス感染症による収入の減少

- 新型コロナウイルス感染症流行前後で収入が減少した学生は、全体の41.8%である。
- 収入が減少した学生の割合が最も大きかったのは、月間収入額が「5～7万円未満」(50.2%)の学生である。

■ 新型コロナウイルス感染症流行前後での収入の減少（月間収入額別）



注1) [] は回答者数を示す。

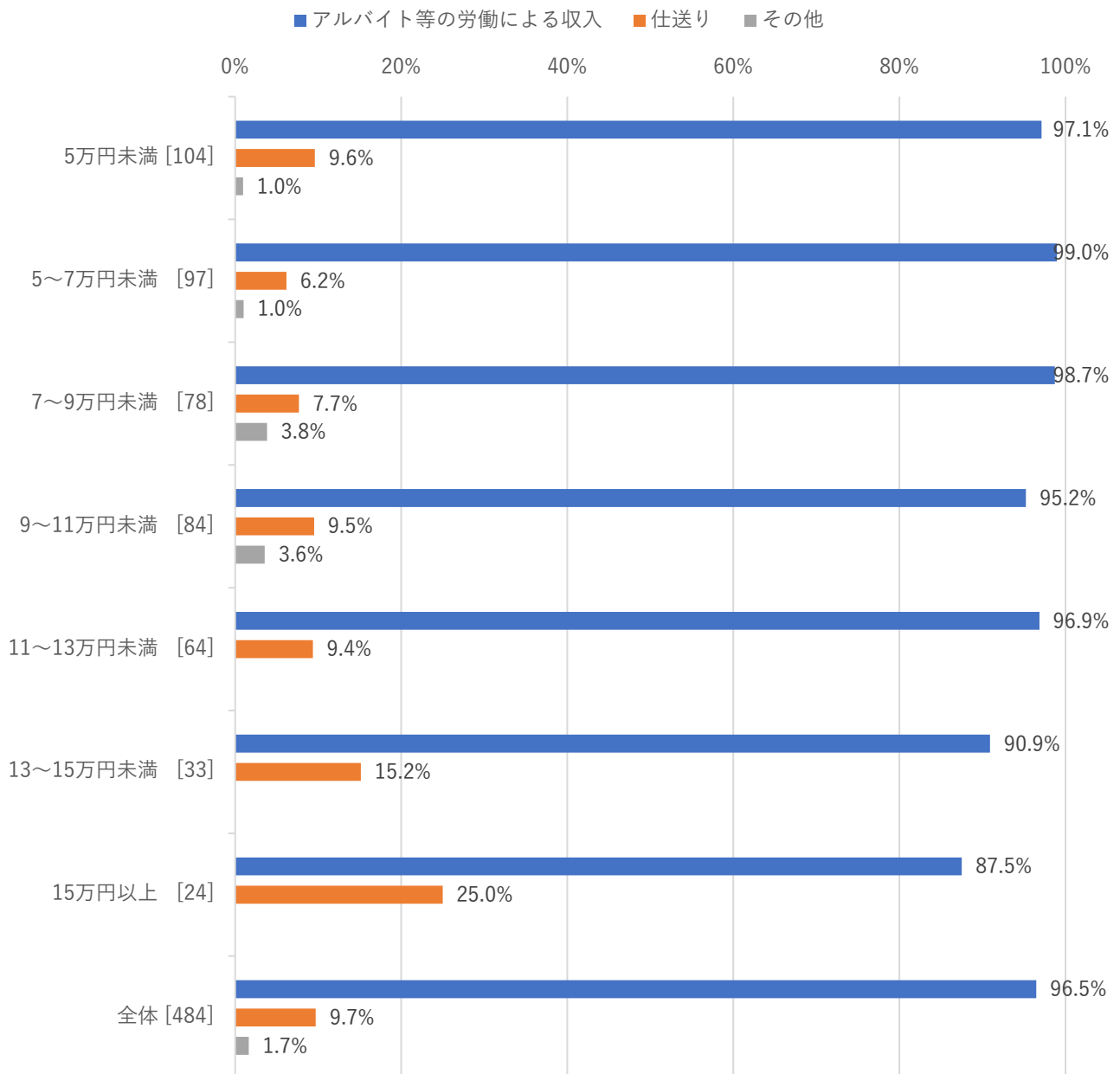
新型コロナウイルス感染症による収入や生活への影響

新型コロナウイルス感染症の影響で収入が減少した学生の内、「アルバイト等の労働による収入」が減少した学生が96.5%と9割を超える。

生活への影響は、「課外活動や交際費、趣味に使う費用等を減らした」学生が71.9%、次いで「食費を減らした」学生が43.4%と続く。

■ 新型コロナウイルス感染症の影響で減少した収入源（月間収入額別・複数回答可）

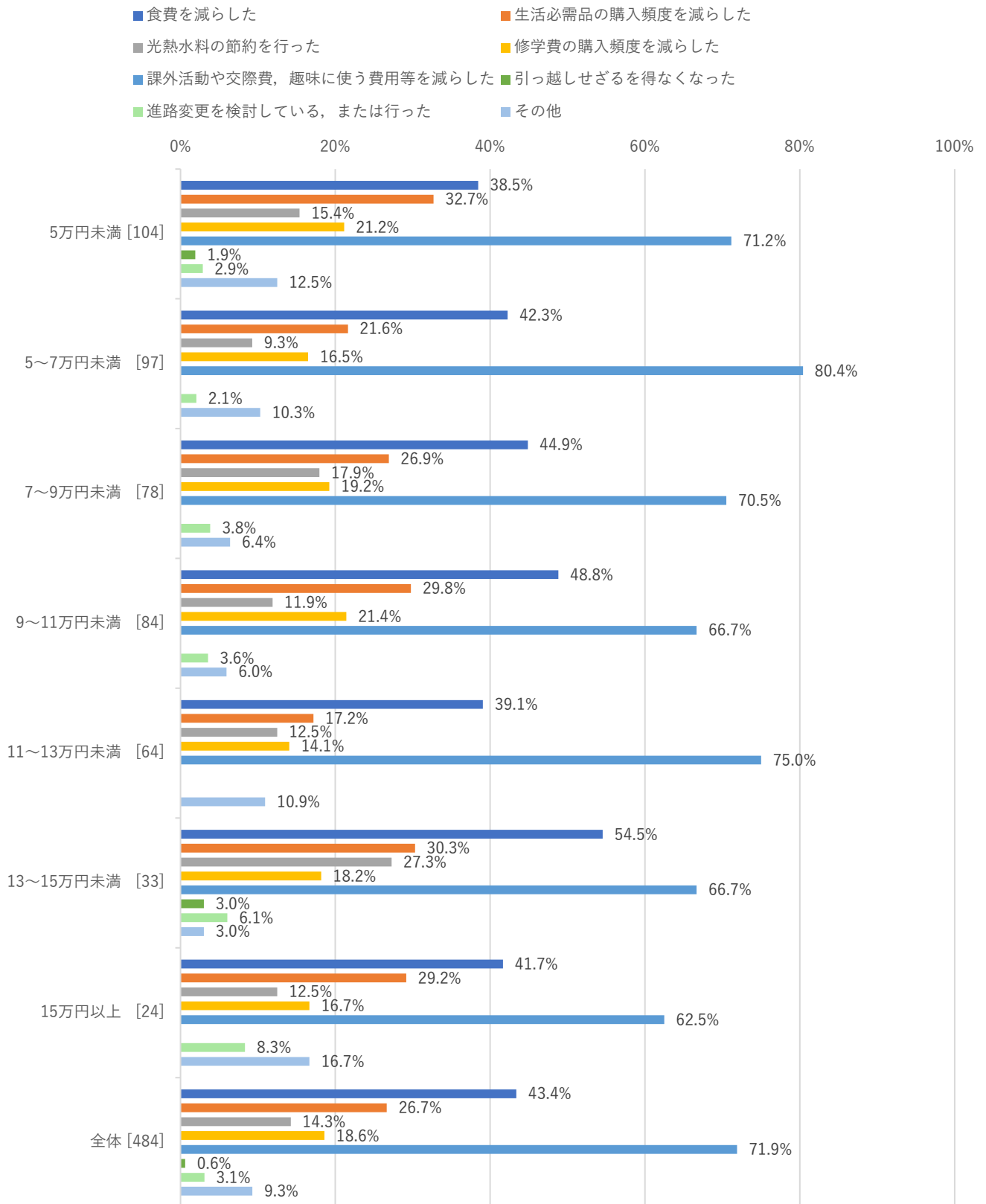
※収入減少者ベース



注1) [] は回答者数を示す。

■ 収入減少による生活への影響（月間収入額別・複数回答可）

※収入減少者ベース

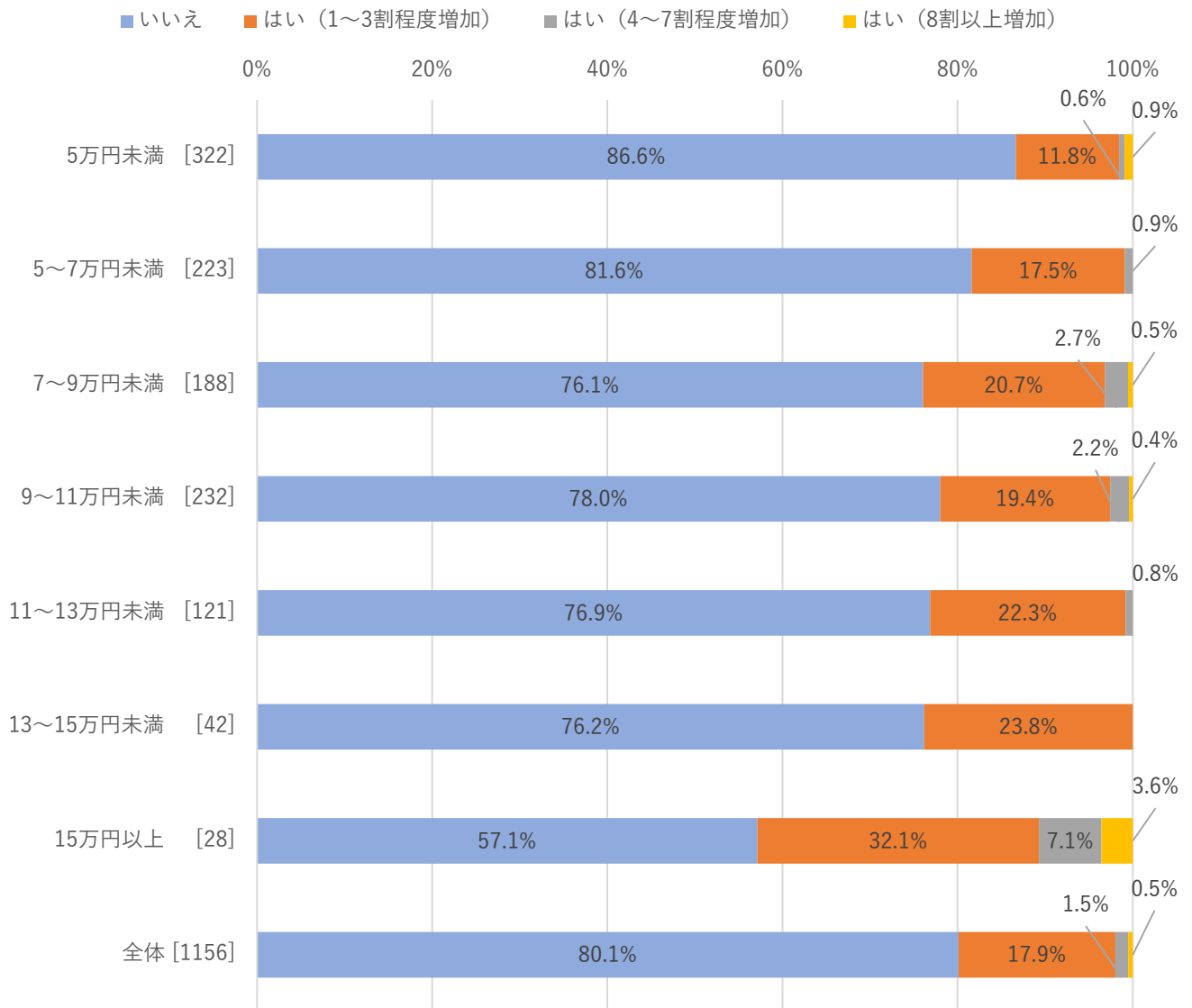


注1) [] は回答者数を示す。

新型コロナウイルス感染症による支出への影響

- 新型コロナウイルス感染症流行前後で支出が増加した学生は、全体の19.9%である。
- 月間支出額別では、支出額が多いほど、支出が増加した学生の割合が大きくなっている。
- 増加した支出源は、「光熱水費」(47.4%)、「修学費」(37.4%)、「食費」(36.5%)が多い。

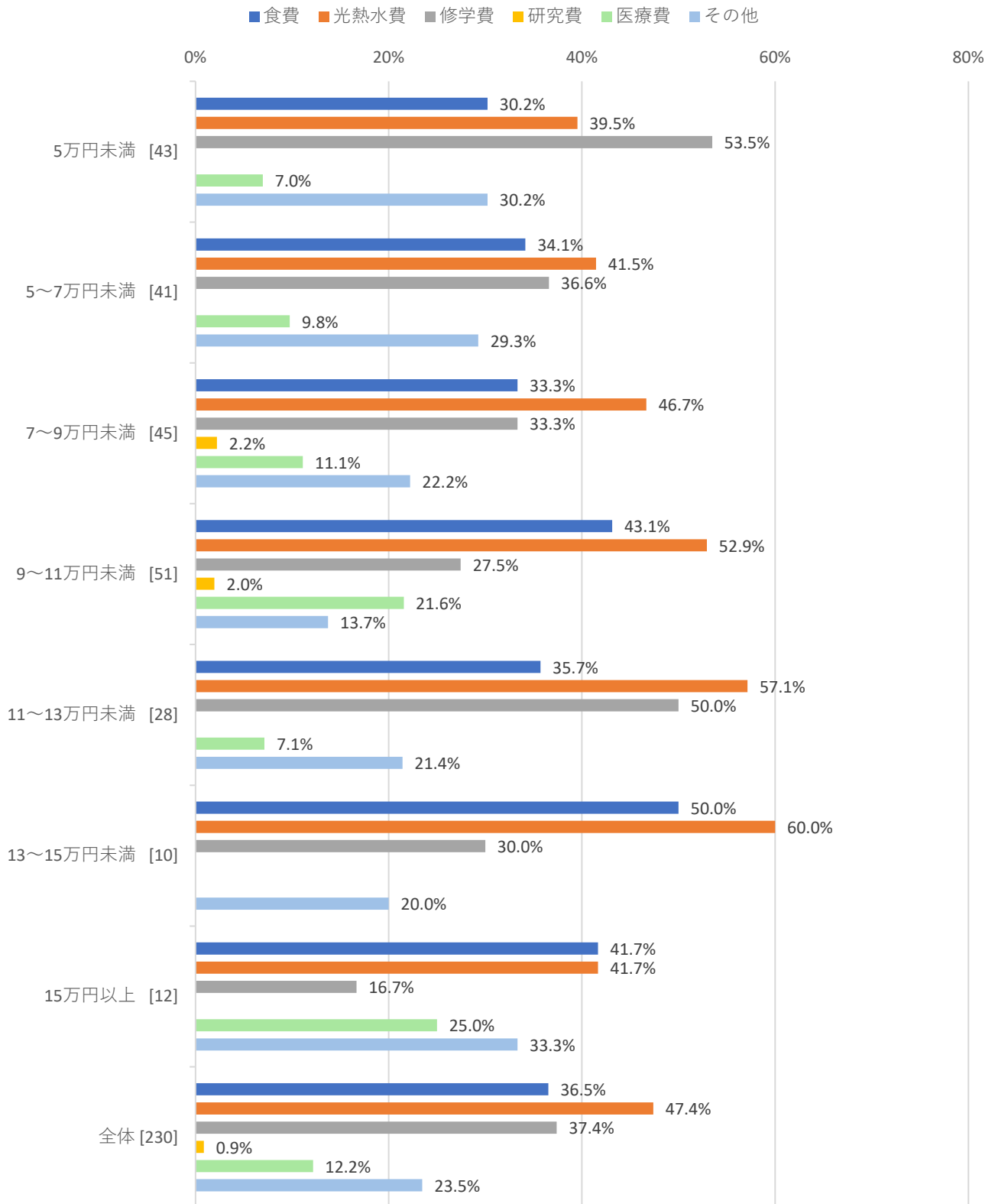
■ 新型コロナウイルス感染症流行前後での支出の増加（月間支出額別）



注1) [] は回答者数を示す。

■ 新型コロナウイルス感染症の影響で増加した支出源（月間支出額別・複数回答可）

※支出増加者ベース



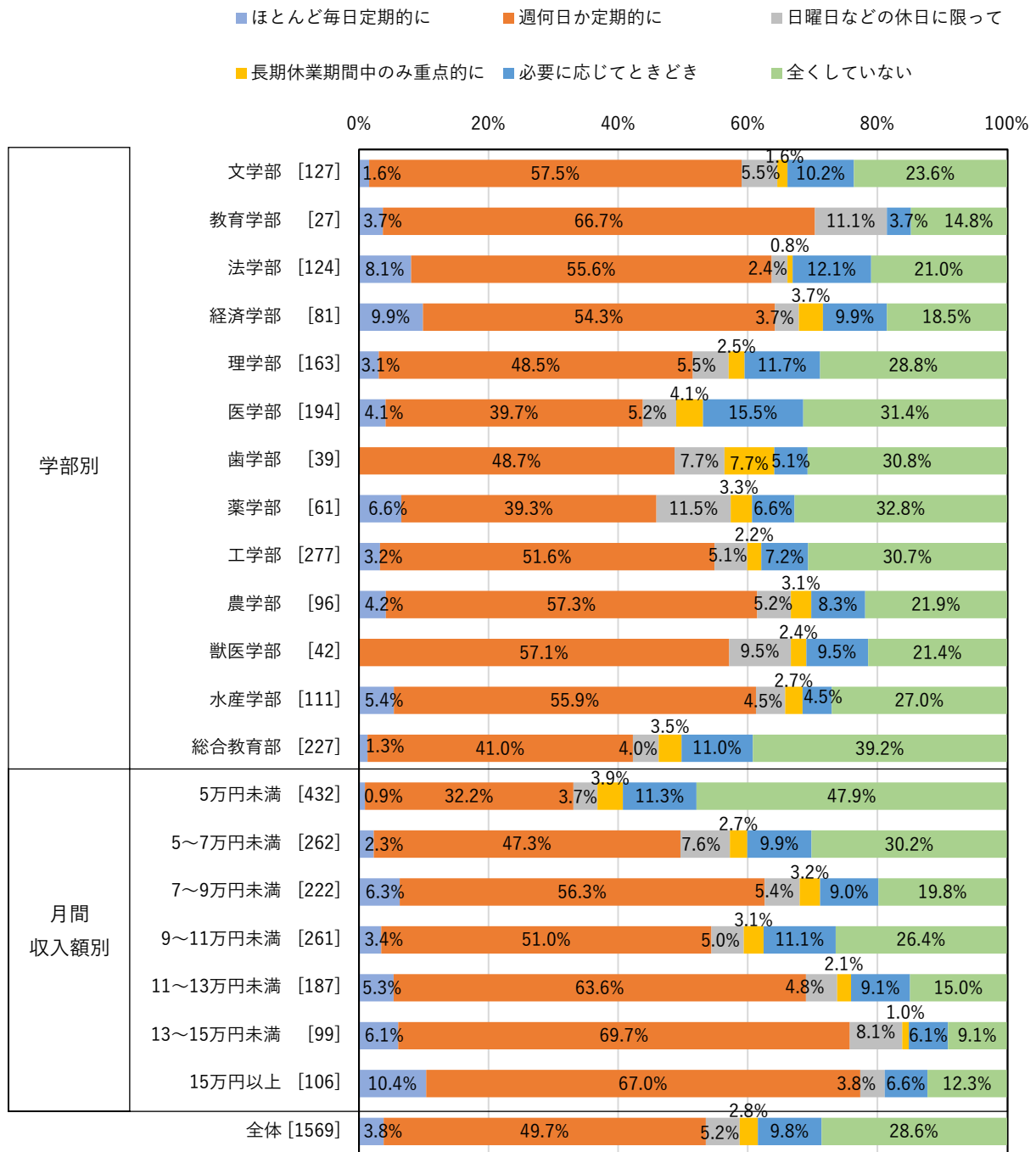
注1) [] は回答者数を示す。

E アルバイトの状況

アルバイトの頻度

- アルバイトを「全くしていない」学生が28.6%、アルバイトをしている学生が71.3%を占めている。アルバイトの頻度は、「週何日か定期的に」が全体の49.7%を占めている。
- 学部別では、アルバイトを「全くしていない」比率が高いのは、総合教育部(39.2%)、薬学部(32.8%)、医学部(31.4%)である(※回答数が少ない学部等は参考程度)。
- 月間収入額別では、アルバイトを「全くしていない」比率が高いのは、「5万円未満」層で47.9%、一方、アルバイトをしている学生が多いのは、「11万円」以上の層である。

■ アルバイトの頻度 (学部別/月間収入額別)



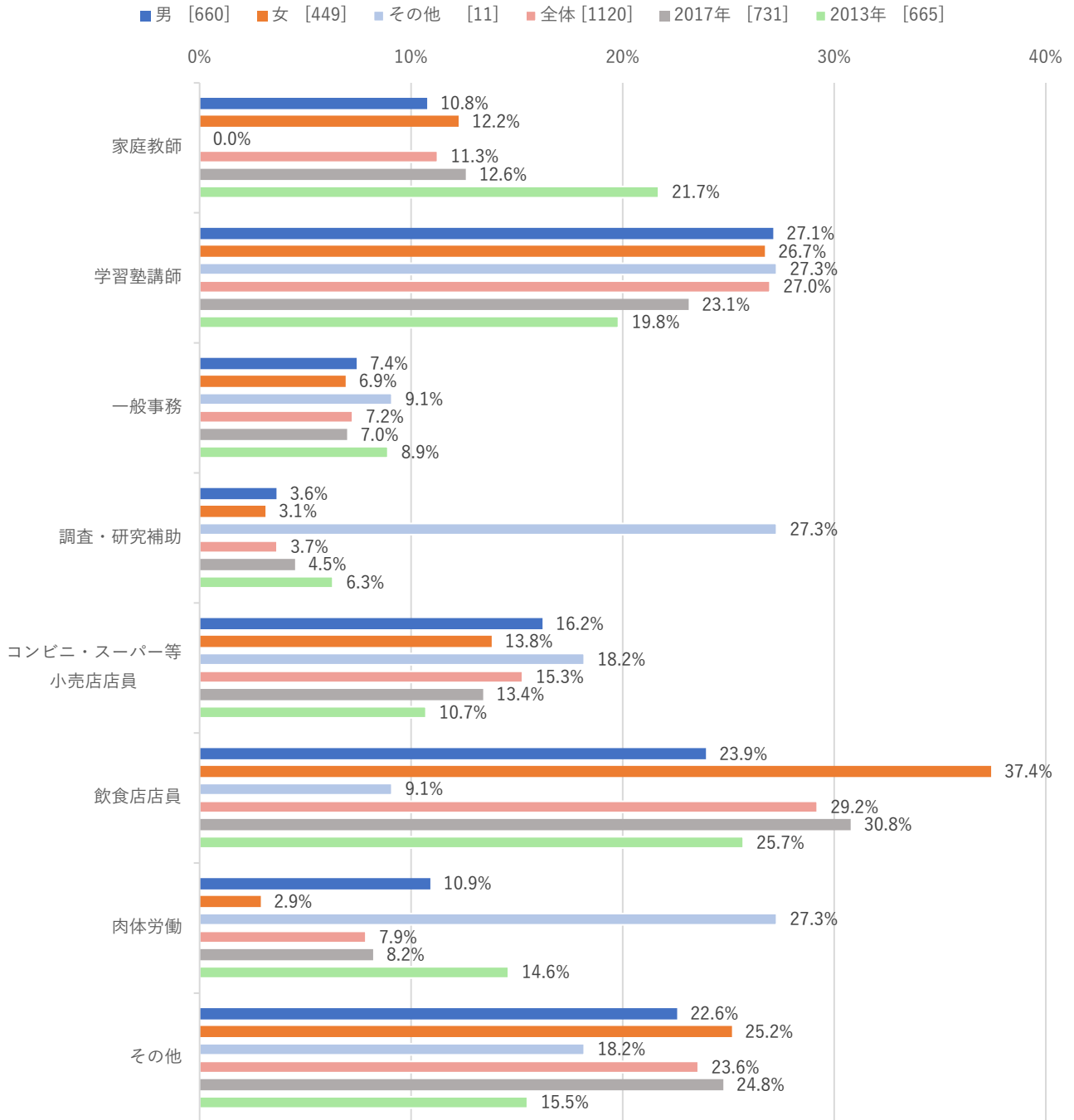
注1) [] は回答者数を示す。

アルバイトの職種

- アルバイトの職種は、「飲食店店員」が29.2%と最も多い。次いで、「学習塾講師」(27.0%)、「コンビニ・スーパー等小売店店員」(15.3%)、「家庭教師」(11.3%)と続く。
- 性別別にみると、男子学生は「学習塾講師」(27.1%)、「飲食店店員」(23.9%)が、女子学生は「飲食店店員」(37.4%)が、その他と回答した学生は「学習塾講師」「調査・研究補助」「肉体労働」(27.3%)が最も多い。「飲食店店員」は、性別別で比率差が大きいのが特徴的である。

■ アルバイトの職種（性別別・2つまで）

※ アルバイト従事者ベース



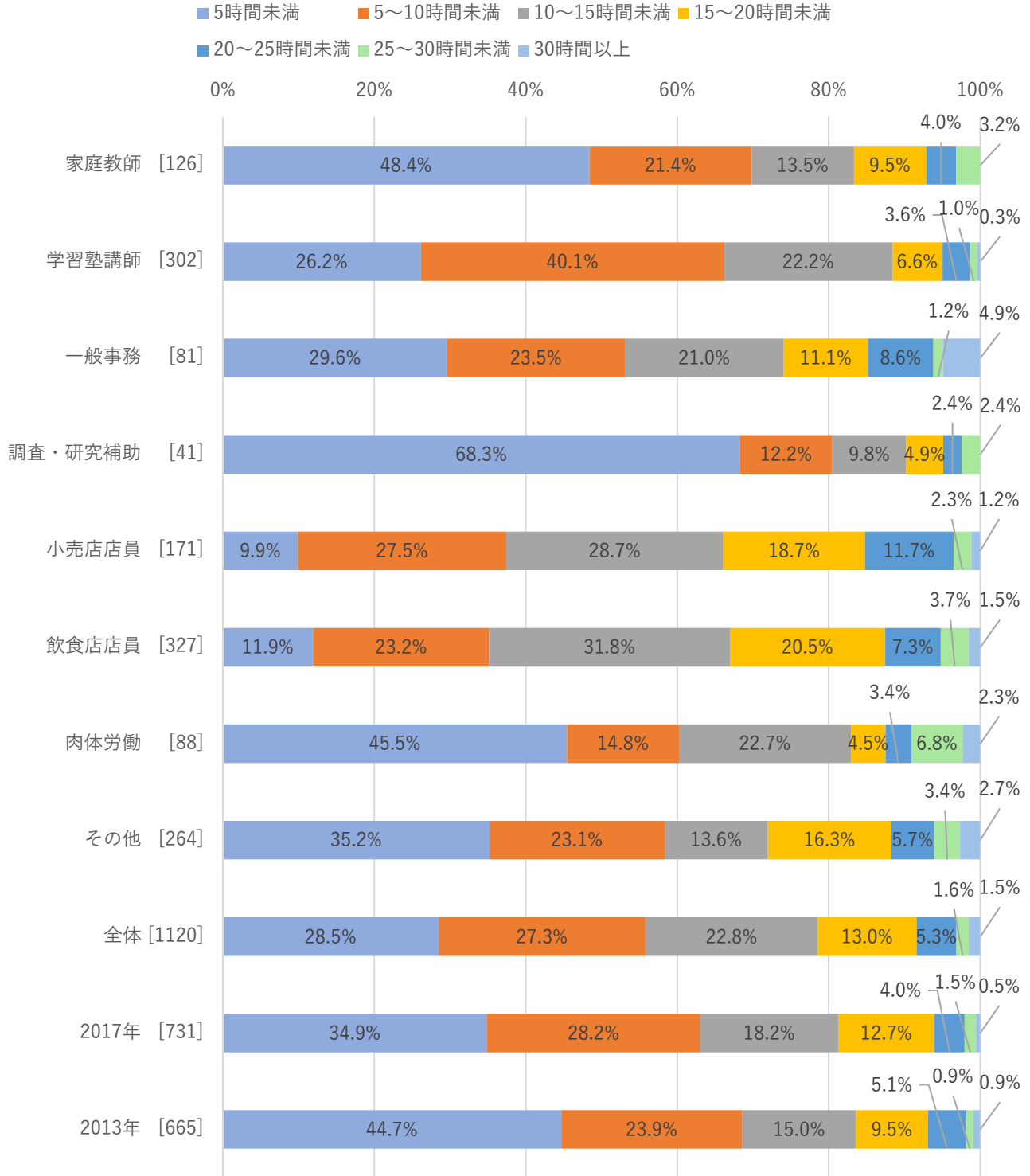
注1) [] は回答者数を示す。

アルバイトの週平均就労時間

- アルバイトの週平均就労時間は、「5時間未満」が最も多く全体の28.5%を占めている。2013年調査（44.7%）、2017年調査（34.9%）と比べると、週平均就労時間は増加傾向にある。
- 職種別では、「調査・研究補助」「家庭教師」「肉体労働」で「5時間未満」の割合が高い。一方、「コンビニ・スーパー等小売店員」「飲食店店員」は「10～15時間未満」「15～20時間未満」の割合が高いのが特徴である。

■ アルバイトの週平均就労時間（職種別）

※ アルバイト従事者ベース



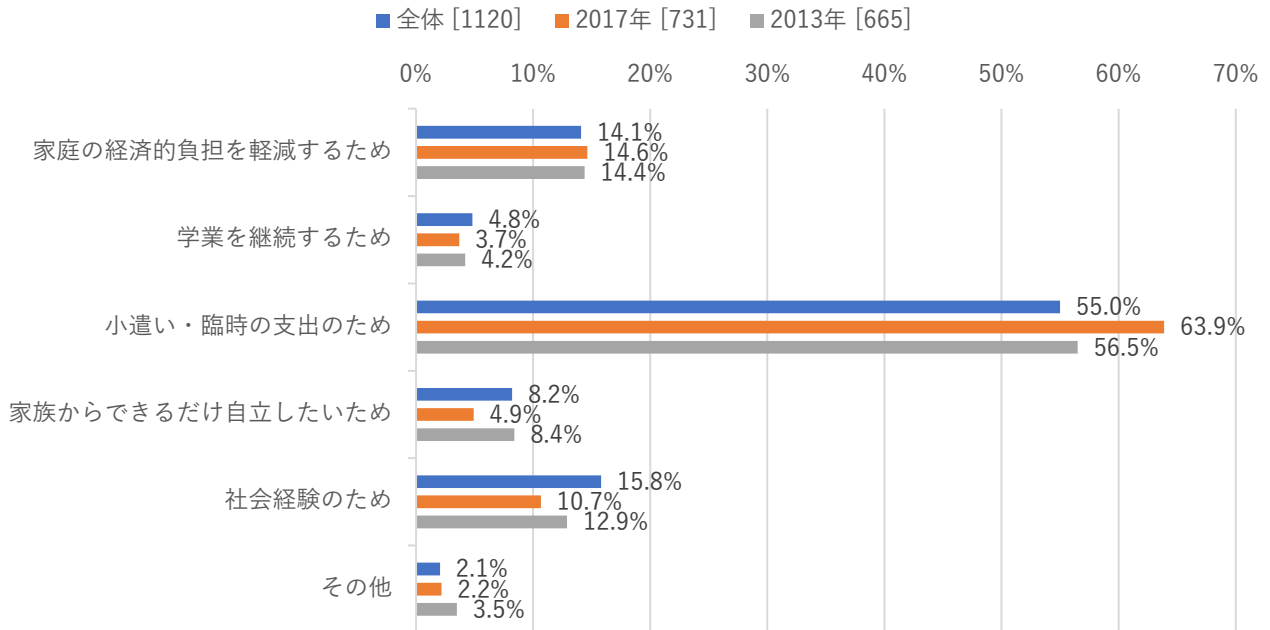
注1) [] は回答者数を示す。

アルバイトの理由

- アルバイトをする主な理由として、「小遣い・臨時の支出のため」が55.0%で最も多い。次いで、「社会経験のため」(15.8%)、「家庭の経済的負担を軽減するため」(14.1%)と続く。全体の傾向は2017年調査と大きくは変わらないが、「社会経験のため」が増加した。
- アルバイトをしない主な理由として、「やりたいが、時間的余裕がない」と回答した学生が49.2%で最も多い。他に「必要がない(経済的に余裕がある)」は25.4%であった。

■ アルバイトをする主な理由

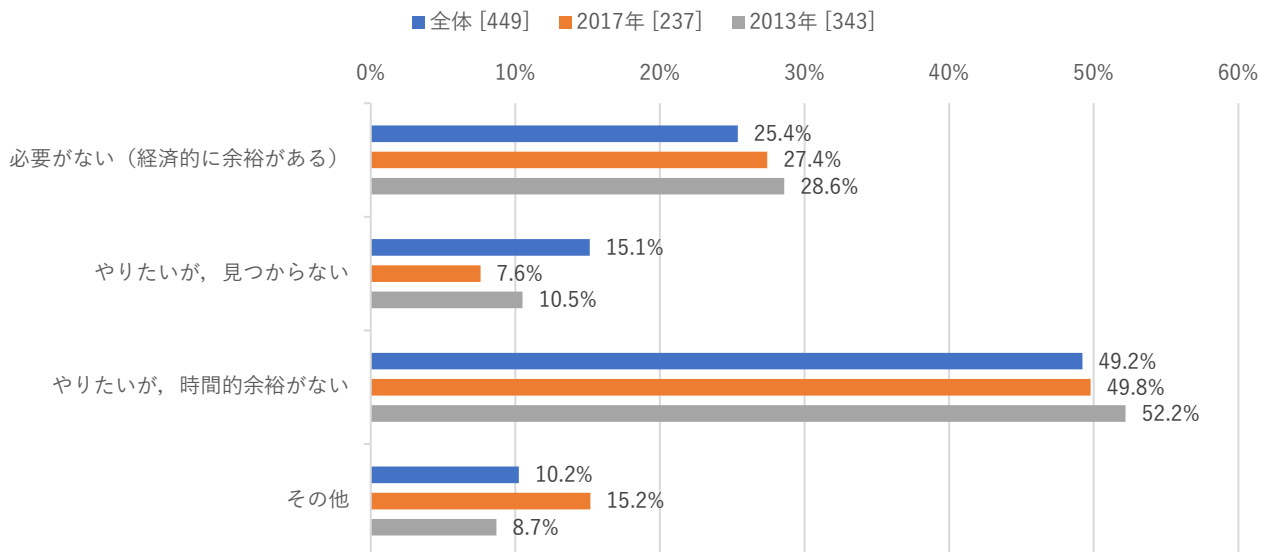
※アルバイト従事者ベース



注1) [] は回答者数を示す。

■ アルバイトをしない主な理由

※アルバイト非従事者ベース



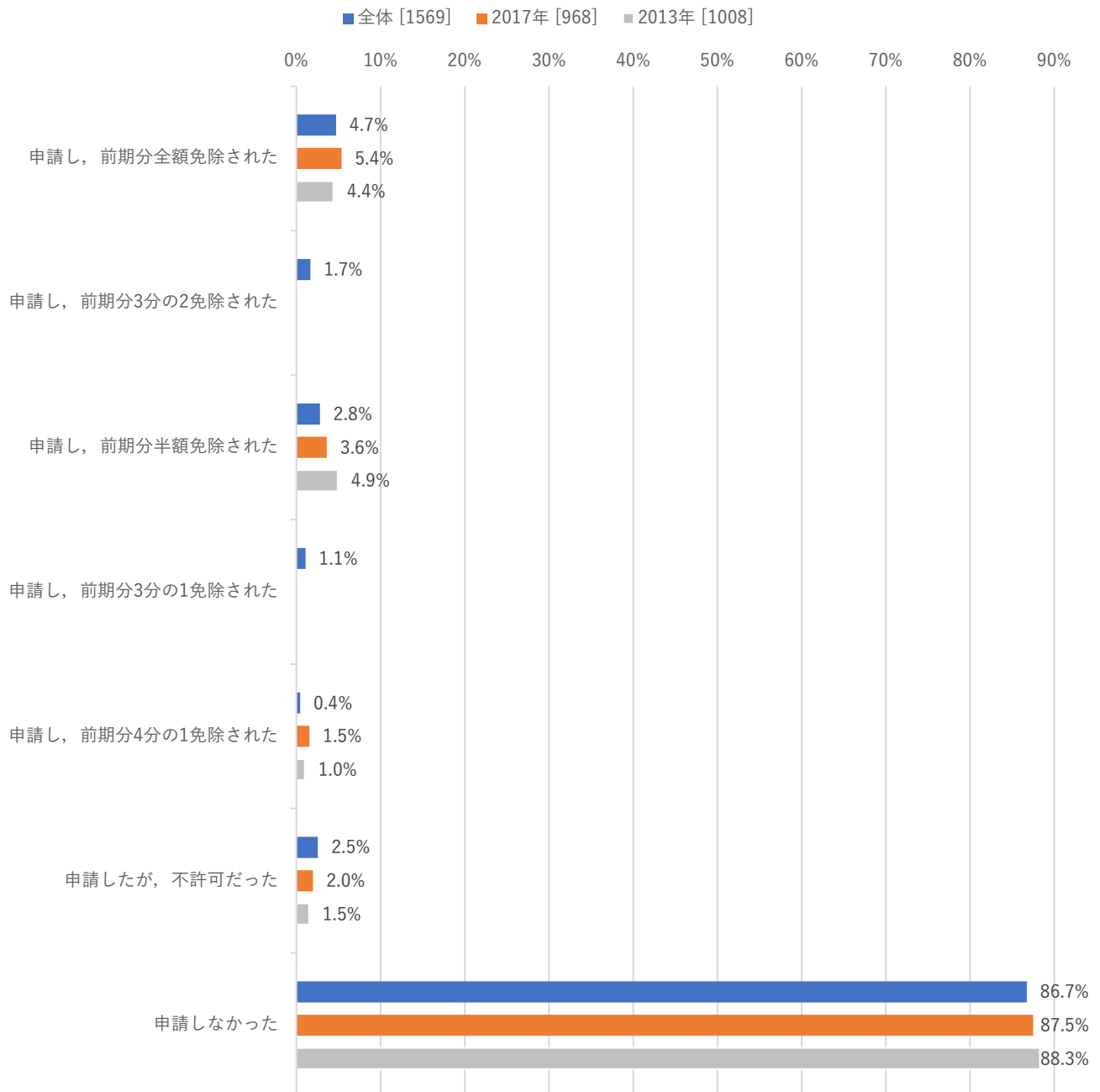
注1) [] は回答者数を示す。

F 授業料免除と奨学金の利用状況

授業料減免の状況（全体）

- 授業料減免の状況を見ると、「前期分全額免除された」は、2013年調査が4.4%、2017年が5.4%、今回調査では4.7%と5.0%前後で推移している。一方、「前期分半額免除された」割合は2013年調査（4.9%）から減少している（2017年3.6%→今回2.8%）。また、「申請しなかった」割合は2013年（88.3%）→2017年（87.5%）→今回（86.7%）と僅かずつではあるが減少傾向を示している。

■ 授業料減免の状況



注1) 「申請し、前期分3分の2免除された」（学部学生のみ）と「申請し、前期分3分の1免除された」（学部学生のみ）は、今回調査からの新選択肢である。

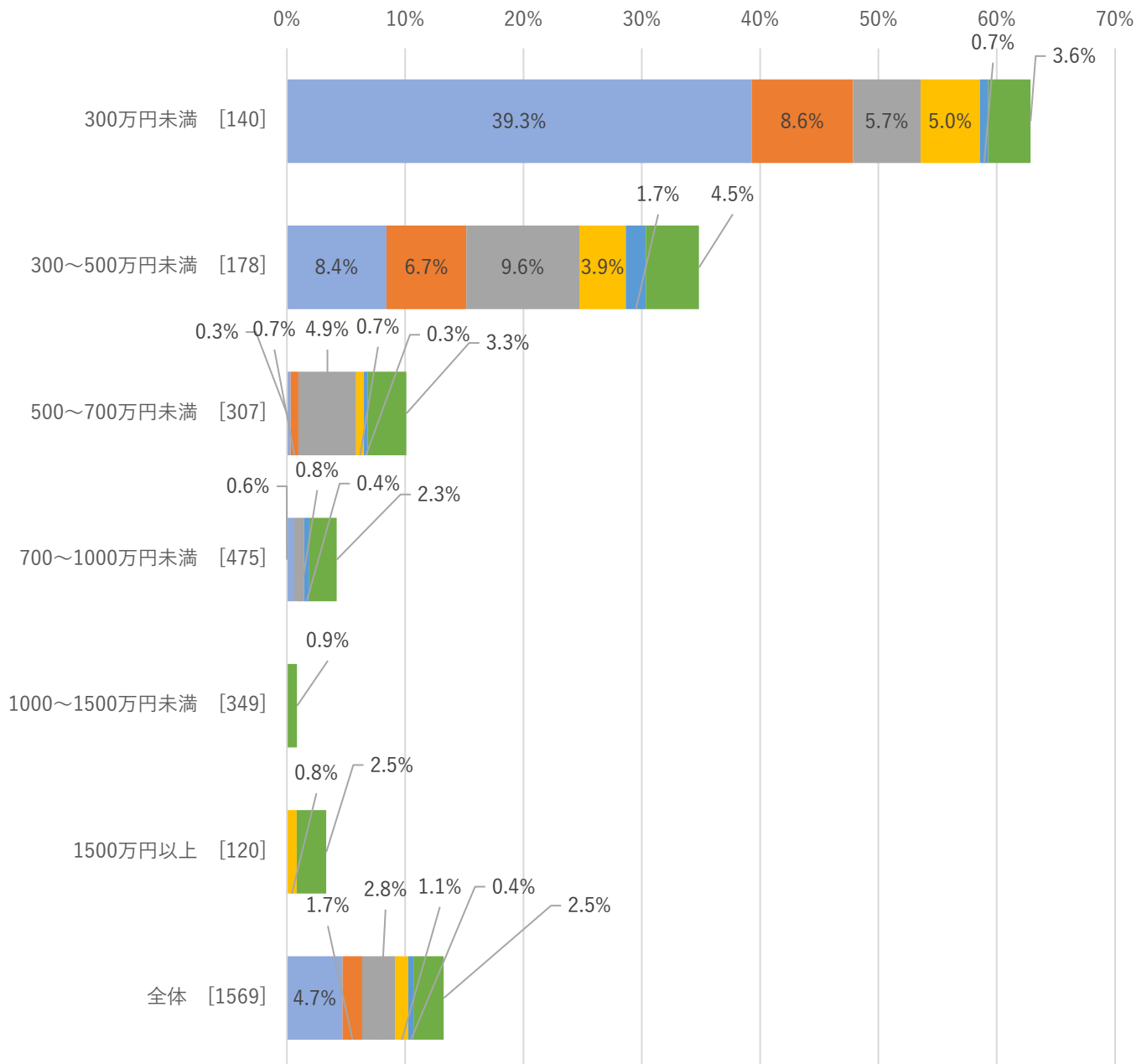
注2) [] は回答者数を示す。

授業料減免の状況（家庭の年間収入別）

- 家庭の年間収入別では、「300万円未満」「300～500万円未満」の世帯の申請比率が高く、特に、「300万円未満」の世帯は62.9%が授業料減免を申請している。

■ 授業料減免の状況（家庭の年間収入別）

- 申請し、前期分全額免除された
- 申請し、前期分3分の2免除された
- 申請し、前期分半額免除された
- 申請し、前期分3分の1免除された
- 申請し、前期分4分の1免除された
- 申請したが、不許可だった



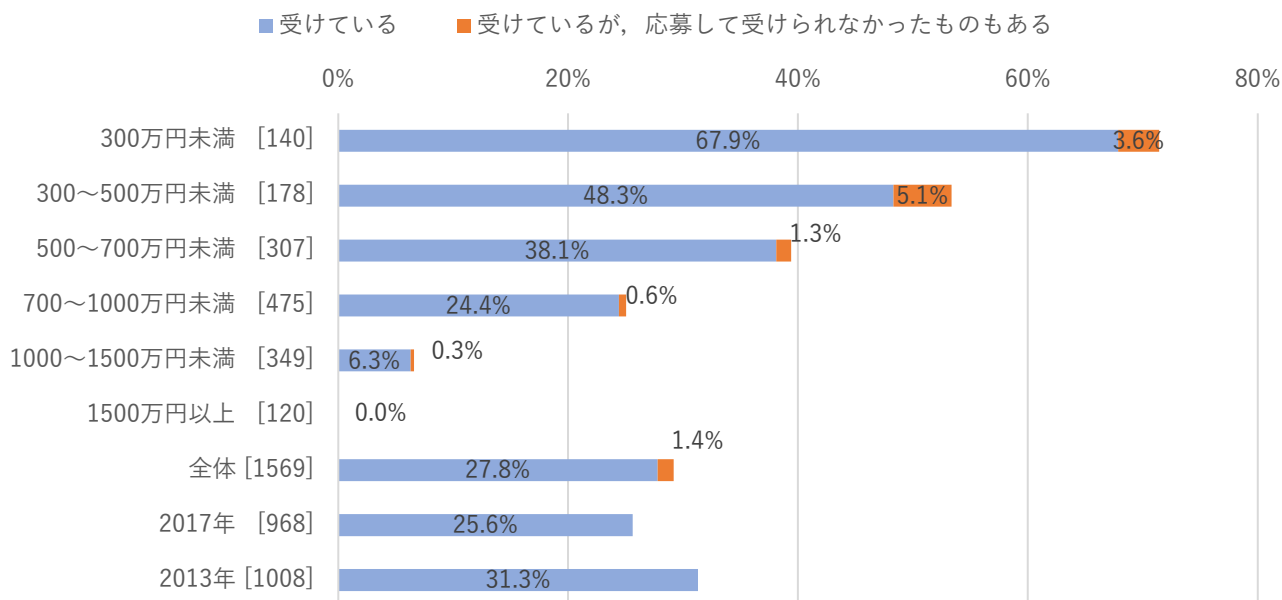
注1) 「申請しなかった」のグラフ表示を省略した。

注2) [] は回答者数を示す。

奨学金の利用状況と種類

- 奨学金の利用状況については、全体の29.2%が奨学金を利用して、2017年調査(25.6%)より増加した。
- 家庭の年間収入別では、収入が低い世帯ほど、奨学金の利用比率が高くなる。特に、「300万円未満」の世帯では71.5%に昇る。
- 利用している奨学金の種類は、「日本学生支援機構(貸与型1種)」の比率が44.5%と最も高く、次いで「日本学生支援機構(貸与型2種)」(33.2%)、「日本学生支援機構(給付型)」(30.6%)と続く。
- 2017年調査と比べて、「地方公共団体」の利用比率は減少、「民間団体」の利用比率は増加している。

■ 奨学金の利用状況(家庭の年間収入別)

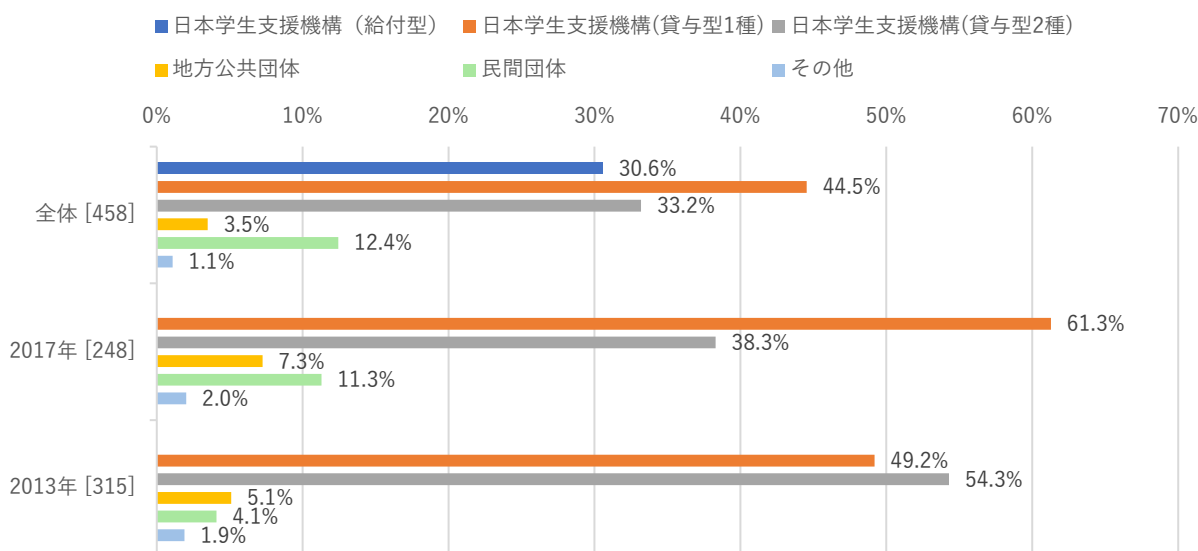


注1) 「受けているが、応募して受けられなかったものもある」は、今回調査からの新選択肢である。

注2) [] は回答者数を示す。

■ 奨学金の種類(複数回答可)

※奨学金受給者ベース



注1) 複数回答のため、割合の総和は100%を超える。

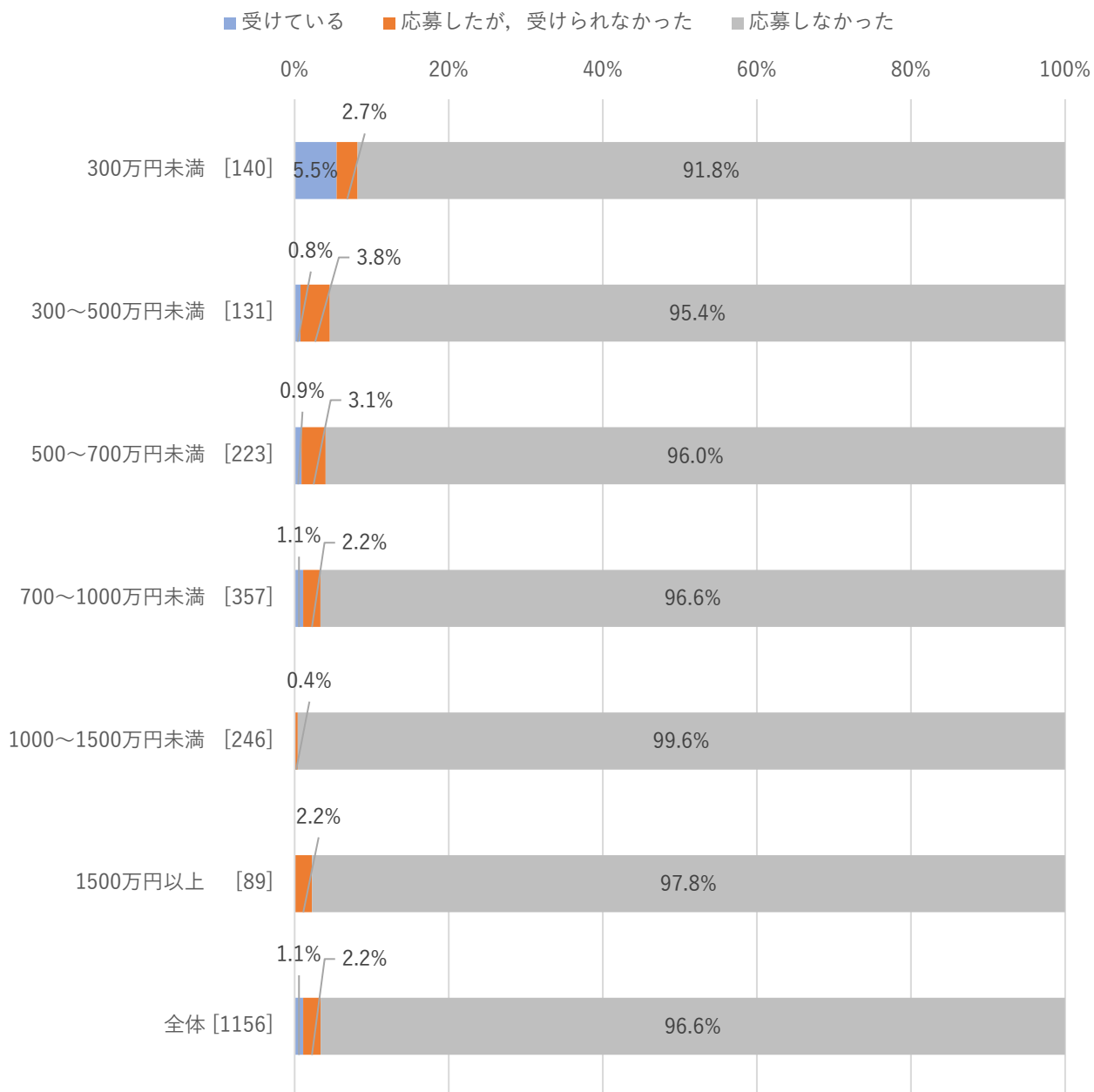
注2) 「日本学生支援機構(給付型)」(学部学生のみ)は今回調査からの新選択肢である。

注3) [] は回答者数を示す。

緊急授業料減免の状況

- 緊急授業料減免の状況については、全体の3.3%が応募していて、実際に受けているのは全体の1.1%である。
- 家庭の年間収入別では、緊急授業料減免を受けている割合が最も大きいのは「300万円未満」の層で、5.5%が実際に減免を受けている。

緊急授業料減免の状況（家庭の年間収入別）



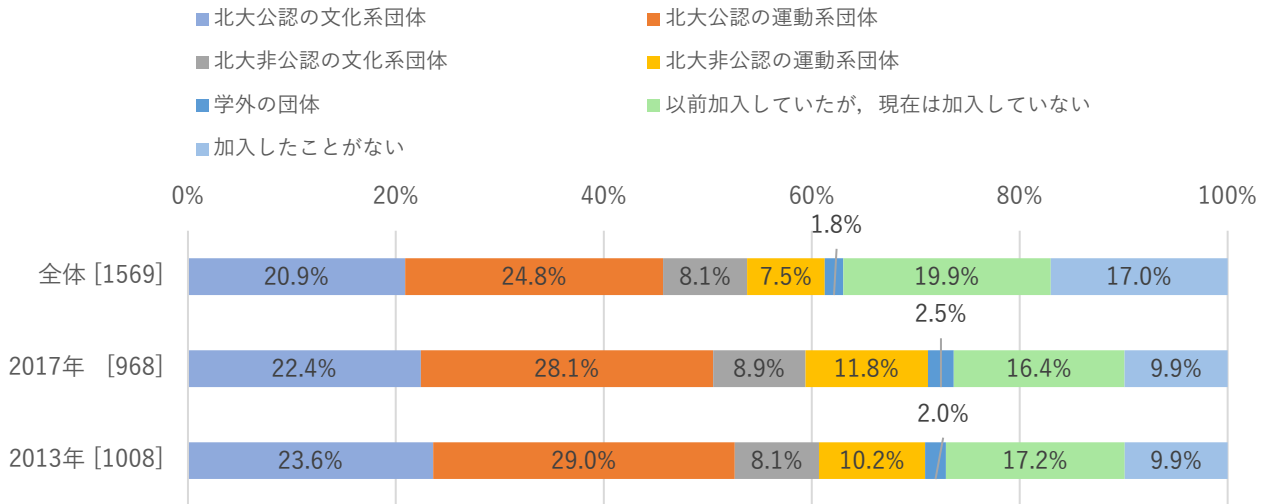
注1) [] は回答者数を示す。

G 課外活動とボランティア活動、海外留学について

課外活動団体への加入状況と週平均活動日数

- 課外活動団体に加入している学生は63.1%で、加入者のうちの45.7%が本学公認団体に所属している。課外活動団体に加入している学生は2017年調査(73.7%)から大きく減少した。
- 課外活動に加入している学生の週平均活動日数は、「1～2日」が最も多く35.6%、次いで「1日未満」(30.4%)、「3～5日未満」(26.6%)と続く。
- 課外活動団体の種類別では、「1日未満」の回答が多いのは、「北大非公認の文化系団体」「北大非公認の運動系団体」である。一方、「北大公認の運動系団体」は「3～5日」の比率が41.4%、「5日以上」の比率が15.7%と、活動日数が最も多い。

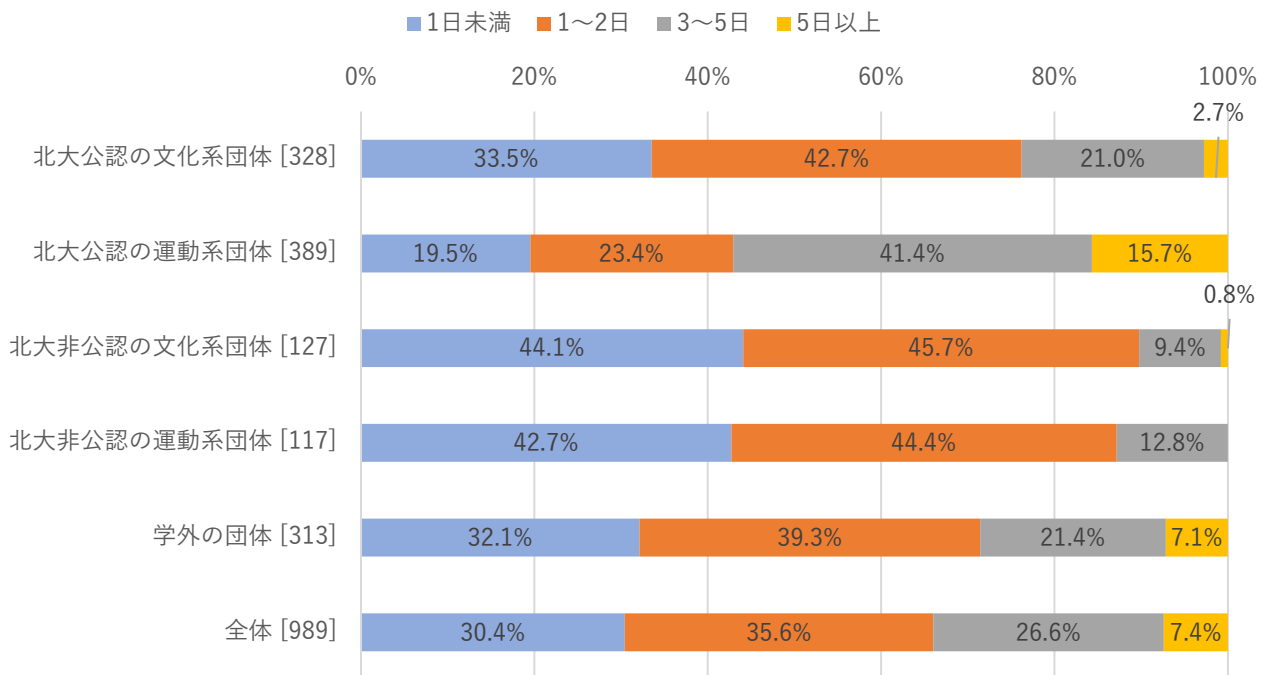
■ 課外活動団体への加入の有無



注1) [] は回答者数を示す。

■ 課外活動の週平均活動日数 (課外活動の種類別)

※課外活動加入者ベース

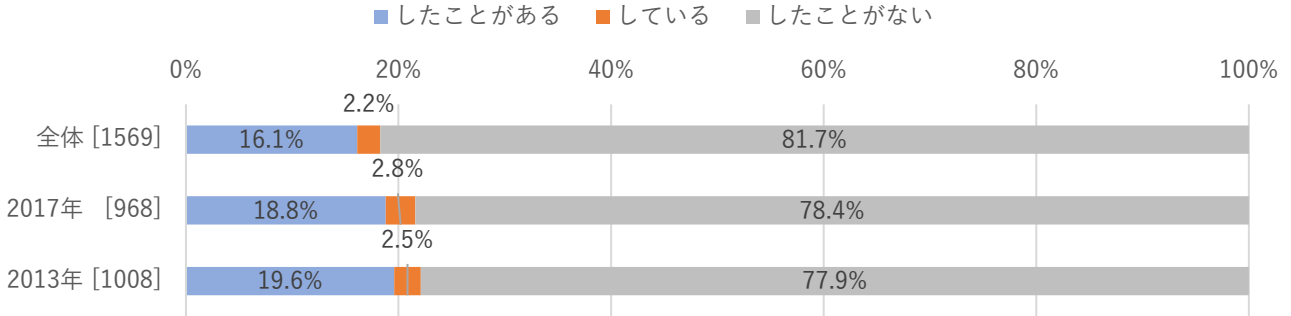


注1) [] は回答者数を示す。

ボランティア活動経験の状況と活動内容

- 現在ボランティア活動を行っている学生は2.2%である。過去に「活動したことがある」割合を含めると、2013年調査(22.1%)→2017年調査(21.6%)→今回(18.3%)と減少傾向にある。
- 活動内容は、「学習活動に関する指導、助言、運営協力」が24.4%と最も多い。次いで、「公共施設」「自然・環境保護」「保健・医療・衛生」がいずれも16.7%で続く。2017年調査から「体育・スポーツ・文化」「国際交流・協力」が大きく減少し、「保健・医療・衛生」が大きく増加している。

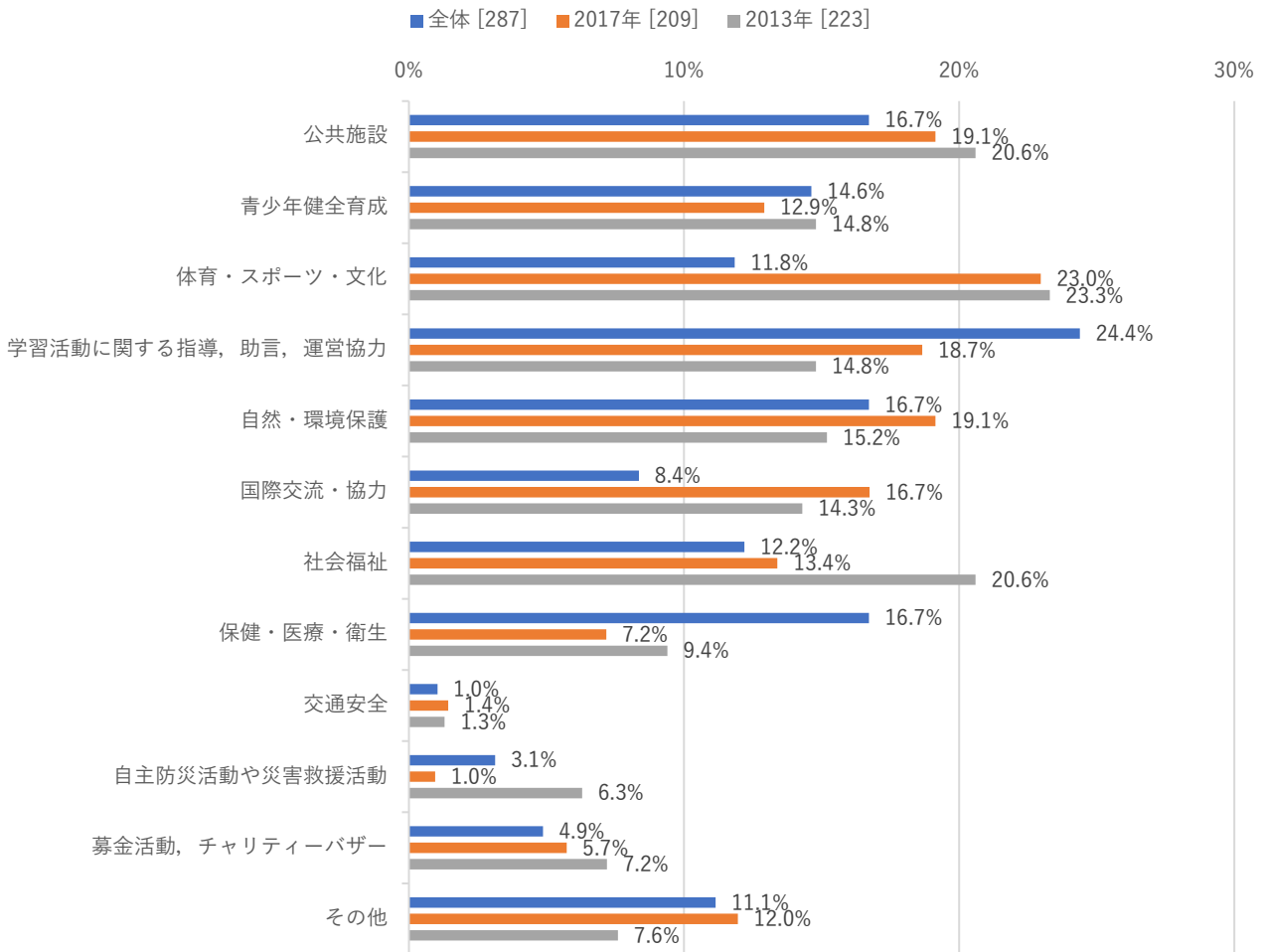
■ ボランティア活動経験の有無



注1) [] は回答者数を示す。

■ ボランティア活動内 (3つまで)

※ボランティア経験者ベース

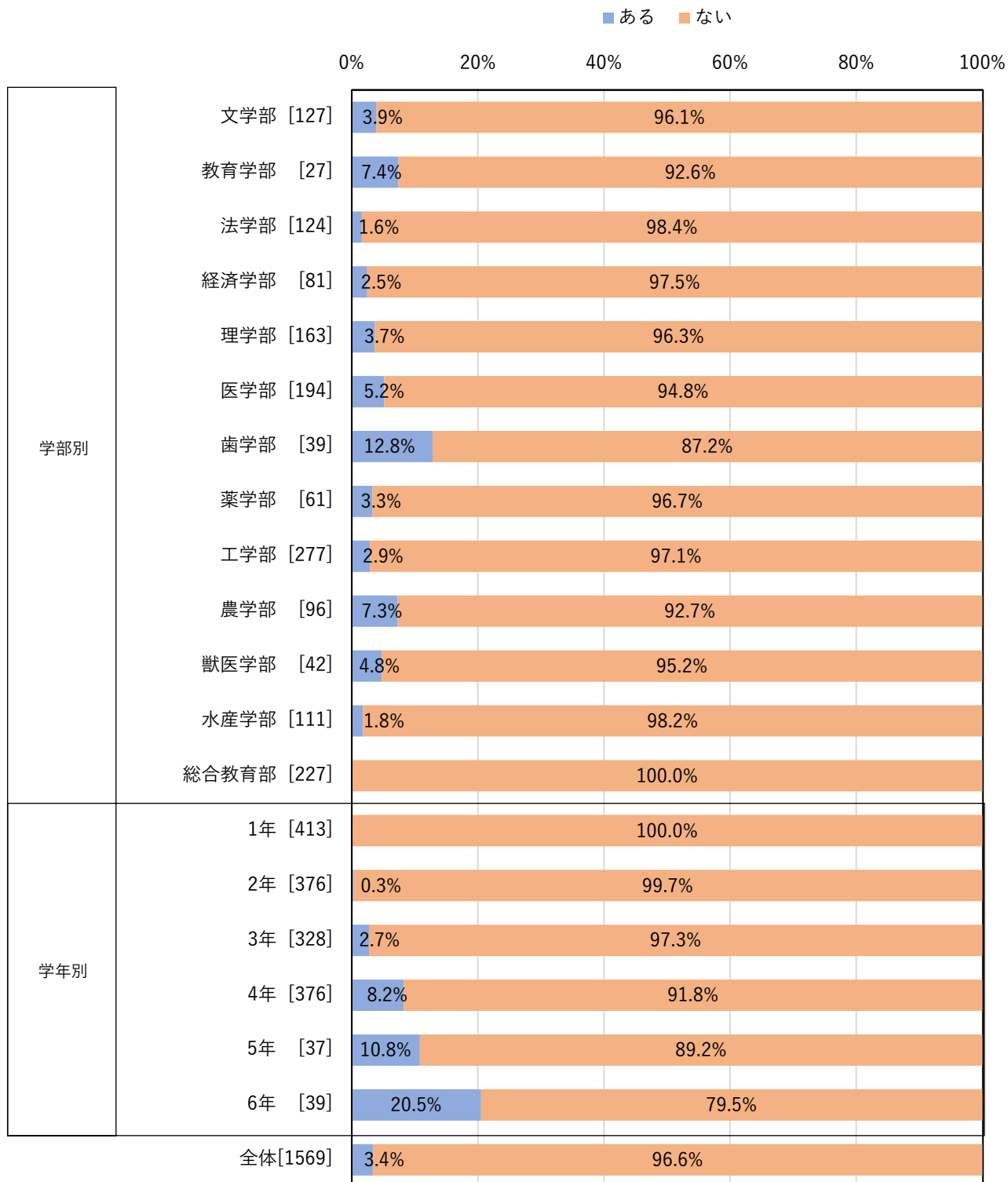


注1) [] は回答者数を示す。

海外留学の経験

- 海外留学の経験が「ある」と回答した学生の割合は3.4%である。
- 学部別では、海外留学の経験が比較的高いのは、歯学部、教育学部、農学部である（※回答数が少ない学部等は参考程度）。
- 学年別では、3年次が2.7%、4年次が8.2%となっている。

■ 海外留学の経験（研究科等別／課程別）



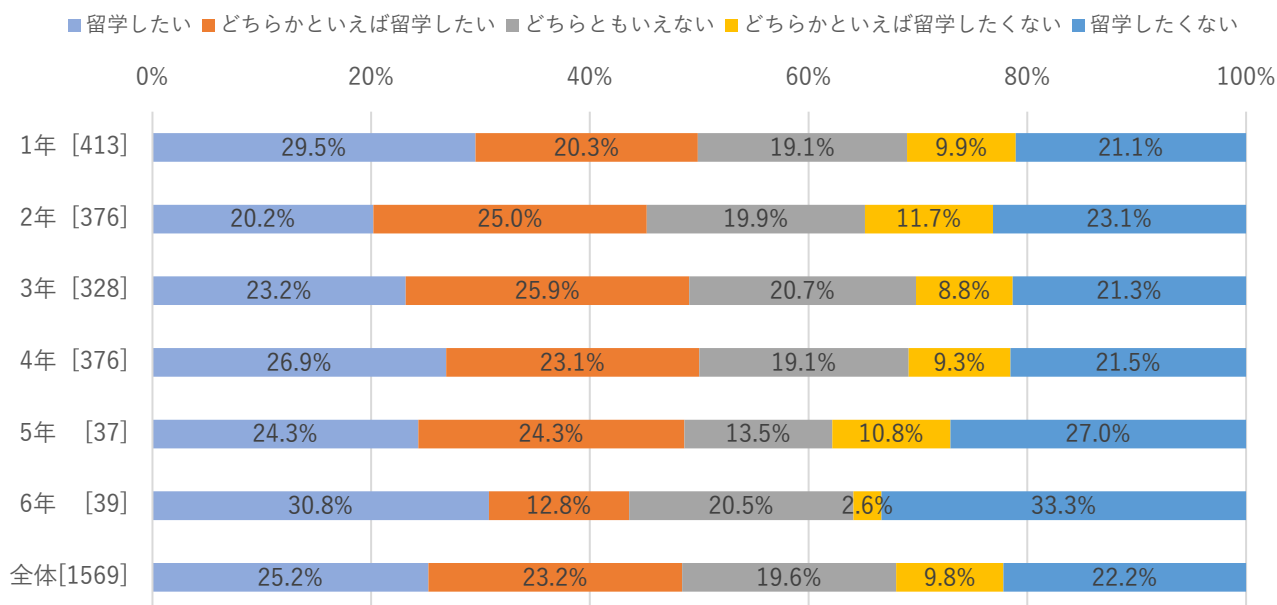
注1) 学年別の「5年」と「6年」は医学部・歯学部・薬学部・獣医学部のみである。

注2) [] は回答者数を示す。

海外留学の意向

- 海外への留学意向については、「留学したい」割合が25.2%。「どちらかといえば留学したい」(23.2%)を合わせて、留学意向がある学生は48.4%と半数近くに昇る。
- 留学意向の高さに、学年による大きな差は見られない。
- 希望する留学期間では、「1ヵ月未満」(19.9%)「3ヵ月未満」(25.4%)、「半年未満」(21.8%)、「1年未満」(19.7%)、「1年以上」(13.2%)と短期から長期まで様々である。
- 学年別では、1年次と6年次で長期の留学を希望する割合が比較的高い。

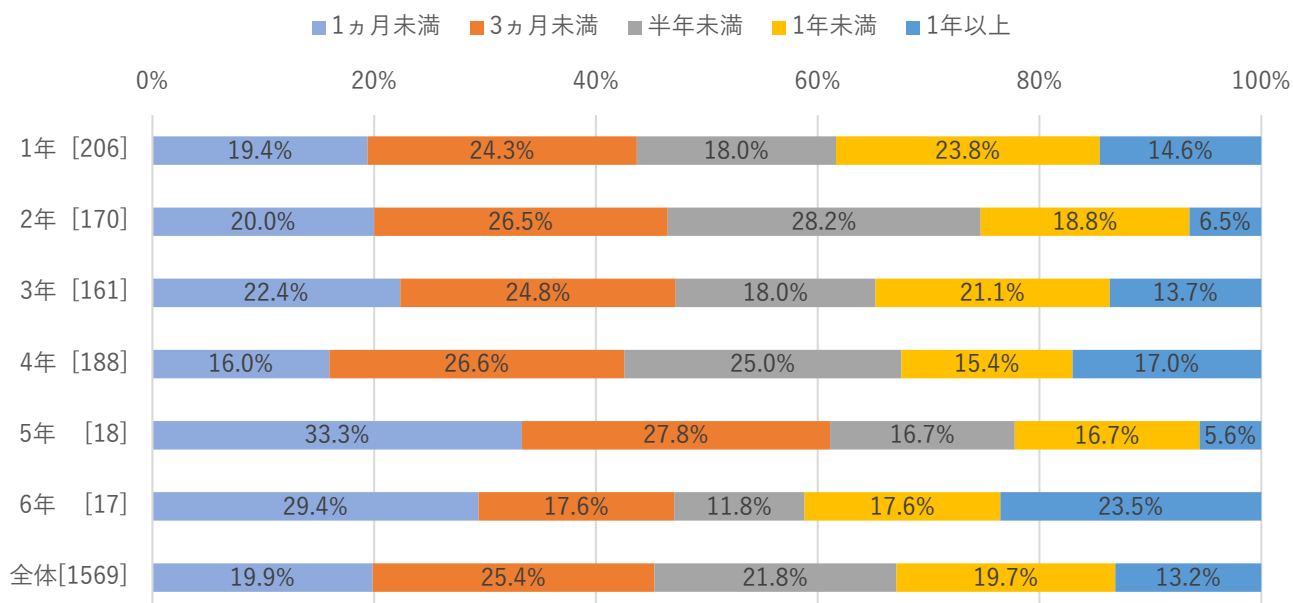
■ 海外留学の意向 (学年別)



注1) [] は回答者数を示す。

■ 希望する留学期間 (学年別)

※海外留学希望者ベース



注1) 学年別の「5年」と「6年」は医学部・歯学部・薬学部・獣医学部のみである。

注2) [] は回答者数を示す。

H 北大の学生生活

学生生活の満足度

- 学生生活の満足度については、全体の平均満足度は3.5点（最大5点満点）で、2017年調査と同程度の評価であった。満足度が高いのは「北大・札幌の生活環境」（4.1点）や「図書館」（3.9点）であり、低いのは「オンライン授業（ライブ）」「新型コロナ対策」でいずれも3.2点である。
- 学部別では、総合教育部が平均3.7点と最も高く、他の学部と比べて「食堂・売店などのサービス」が3.7点と特に高くなっている。
- 一方平均満足度が低いのは歯学部、工学部、水産学部の3.3点である。工学部では授業関係の満足度が低く、歯学部、水産学部では「その他の施設・設備」「食堂・売店等のサービス」の満足度が低い。（※回答数が少ない学部等は参考程度）

■ 学生生活の満足度（学部別）

	対面授業	オンライン授業 (オンデマンド)	オンライン授業 (ライブ)	教育研究用 施設・設備	その他の 施設・設備	北大・札幌 の生活環境
文学部 [127]	3.7	3.6	3.4	3.4	3.3	4.3
教育学部 [27]	3.9	3.6	3.0	3.4	3.3	4.5
法学部 [124]	3.4	3.4	3.2	3.3	3.2	4.2
経済学部 [81]	3.0	3.5	3.0	3.1	3.1	4.1
理学部 [163]	3.7	3.5	3.1	3.6	3.3	4.1
医学部 [194]	3.5	3.4	3.3	3.6	3.5	4.1
歯学部 [39]	3.3	3.7	3.2	3.2	3.1	4.1
薬学部 [61]	3.7	3.7	3.5	3.7	3.4	4.3
工学部 [277]	3.1	3.2	3.0	3.4	3.2	4.1
農学部 [96]	3.9	3.4	2.9	3.6	3.5	4.3
獣医学部 [42]	3.8	3.5	3.6	3.7	3.7	4.4
水産学部 [111]	3.4	3.5	3.1	3.3	3.1	3.7
総合教育部 [227]	3.5	3.6	3.4	3.7	3.7	4.2
全体 [1569]	3.5	3.5	3.2	3.5	3.4	4.1
2017年 [968]	3.5	*	*	3.6	3.4	4.1
2013年 [1008]	3.5	*	*	3.7	3.6	4.2

学生生活の満足度（つづき）

	食堂・売店等のサービス	図書館	教員との関係	窓口の対応	新型コロナ対策	平均
文学部 [127]	3.4	4.0	3.6	3.5	3.2	3.6
教育学部 [27]	3.4	4.1	4.1	3.0	2.9	3.6
法学部 [124]	3.5	3.9	3.3	3.2	3.1	3.4
経済学部 [81]	3.5	4.0	3.5	3.4	3.0	3.4
理学部 [163]	3.2	4.0	3.5	3.1	3.2	3.5
医学部 [194]	3.3	3.9	3.5	3.3	3.4	3.5
歯学部 [39]	3.0	3.7	3.1	2.9	3.2	3.3
薬学部 [61]	3.0	3.9	3.5	3.4	3.3	3.6
工学部 [277]	3.4	3.9	3.3	3.2	3.0	3.3
農学部 [96]	3.3	3.8	3.9	3.4	3.2	3.6
獣医学部 [42]	3.0	4.0	3.8	3.4	3.3	3.6
水産学部 [111]	3.0	3.5	3.3	3.4	3.1	3.3
総合教育部 [227]	3.7	4.1	3.3	3.6	3.4	3.7
全体 [1569]	3.4	3.9	3.4	3.3	3.2	3.5
2017年 [968]	3.5	3.9	3.5	3.3	*	3.6
2013年 [1008]	3.5	4.0	3.4	3.1	*	3.6

(点)

注1) 単位：加重平均値の算出は、5：満足 4：まあまあ満足 3：普通 2：少し不満 1：不満

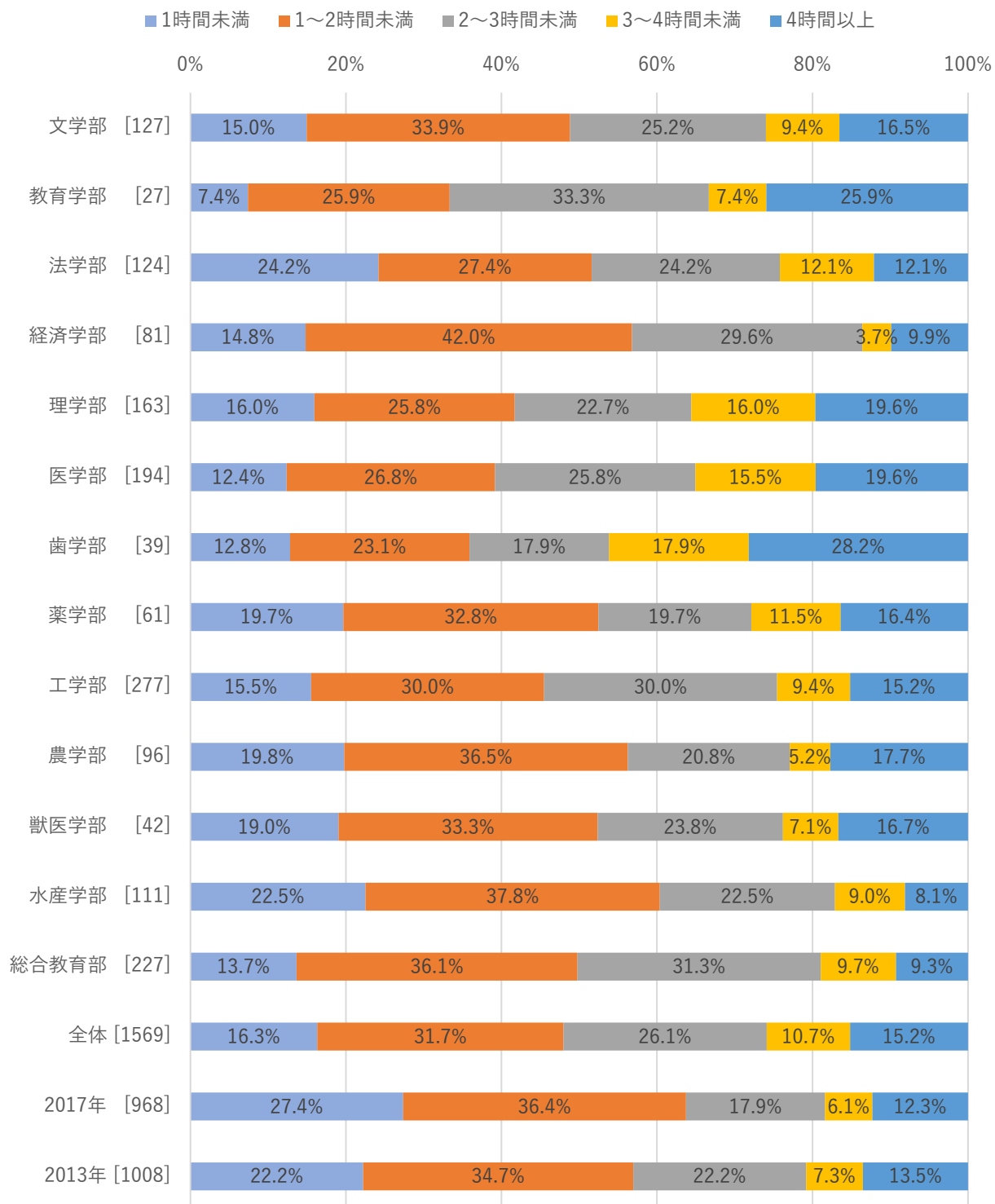
注2) 「オンライン授業（オンデマンド）」「オンライン授業（ライブ）」「新型コロナ対策」は、今回調査からの新項目である。

注3) [] は回答者数を示す。

一日の平均自習時間

- 一日の平均自習時間は、「1～2 時間未満」が 31.7%で最も多い。次いで、「2～3 時間未満」(26.1%)、「1 時間未満」(16.3%)である。2017 年調査よりも、自習時間が増加している。
- 学部別では、一日の自習時間が短いのは、水産学部、経済学部、法学部、農学部である。自習時間が長いのは、歯学部、教育学部、医学部である。(※回答数が少ない学部等は参考程度)

■ 一日の平均自習時間（学部別）

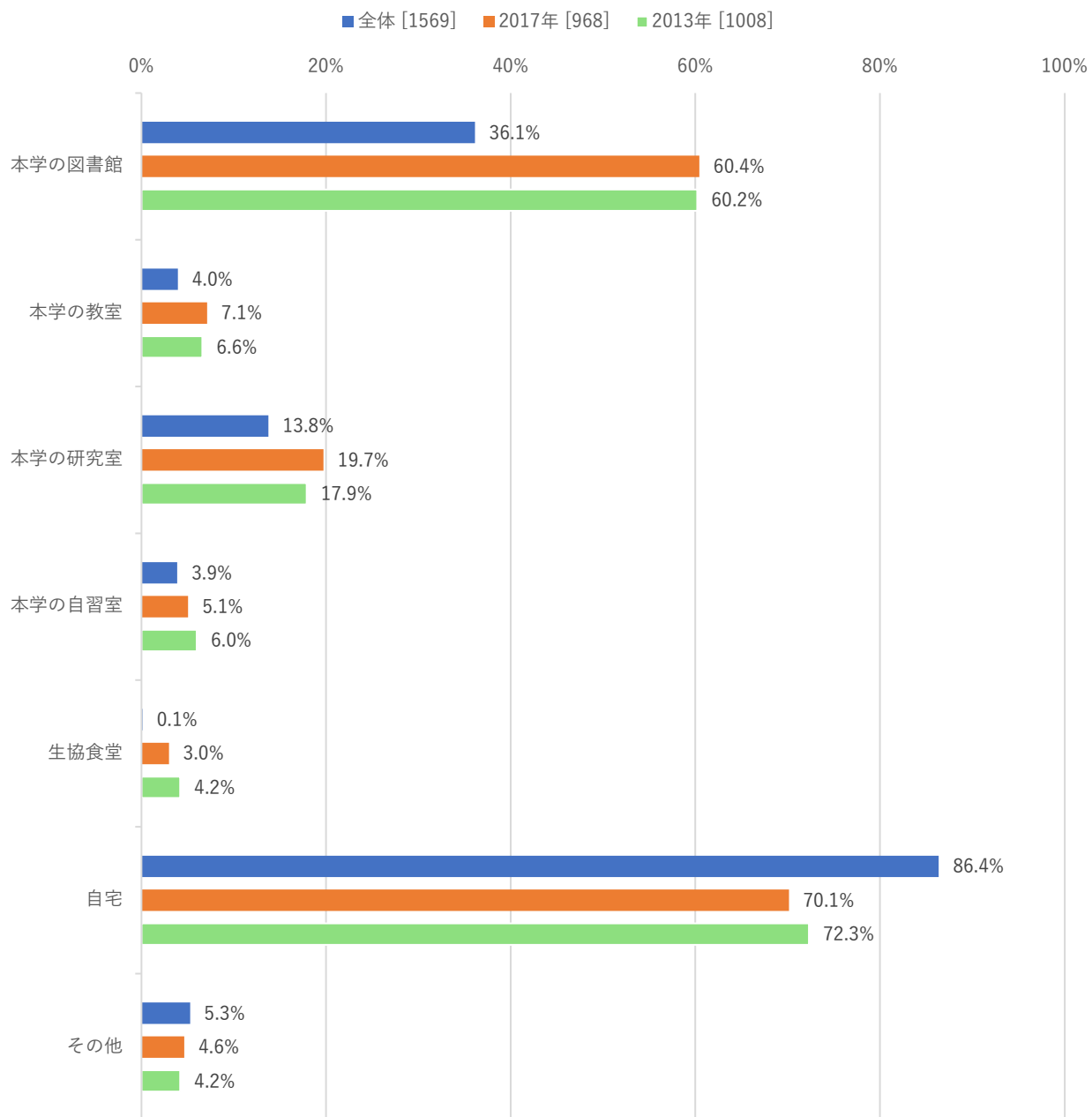


注1) [] は回答者数を示す。

自習を行う場所

- 自習を行う場所は、「自宅」が86.4%と最も多く、次いで、「本学の図書館」が36.1%である。2017年調査と比べると、「本学の図書館」が大きく減少し、「自宅」が増加した。

■ 自習を行う場所（2つまで）

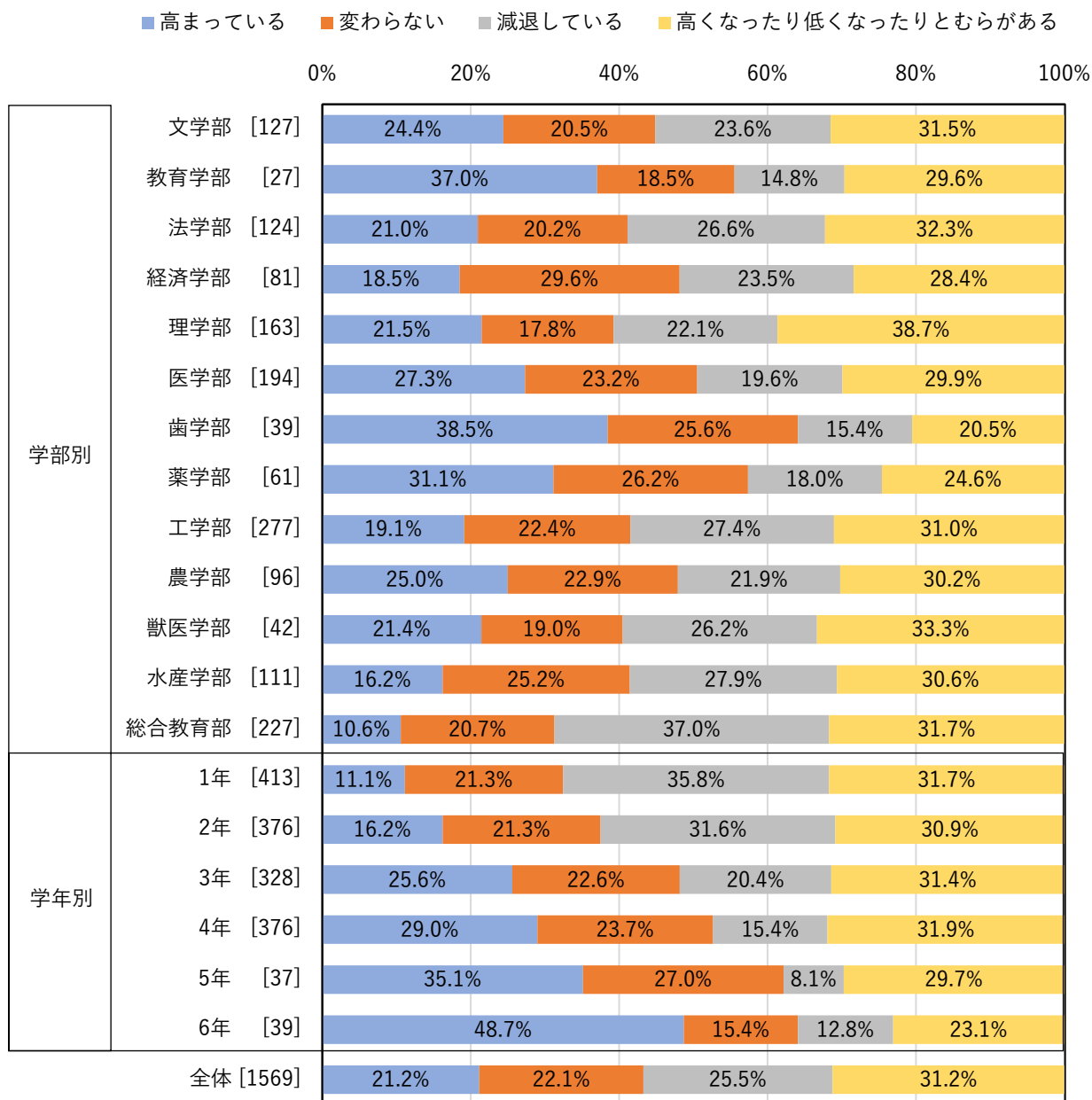


注1) [] は回答者数を示す。

入学後の学習意欲

- 入学後の学習意欲は、「高まっている」と回答した学生は全体の21.2%で、「変わらない」が22.1%、「減退している」が25.5%、「高くなったり低くなったりとむらがある」が31.2%である。
- 学部別では、学習意欲が「高まっている」と回答した割合が最も高いのは歯学部（38.5%）、次いで教育学部（37.0%）である。（※回答数が少ない学部等は参考程度）
- 学年別では、年次が上がるほど学習意欲が高まっている。

■ 入学後の学習意欲（学部別／学年別）



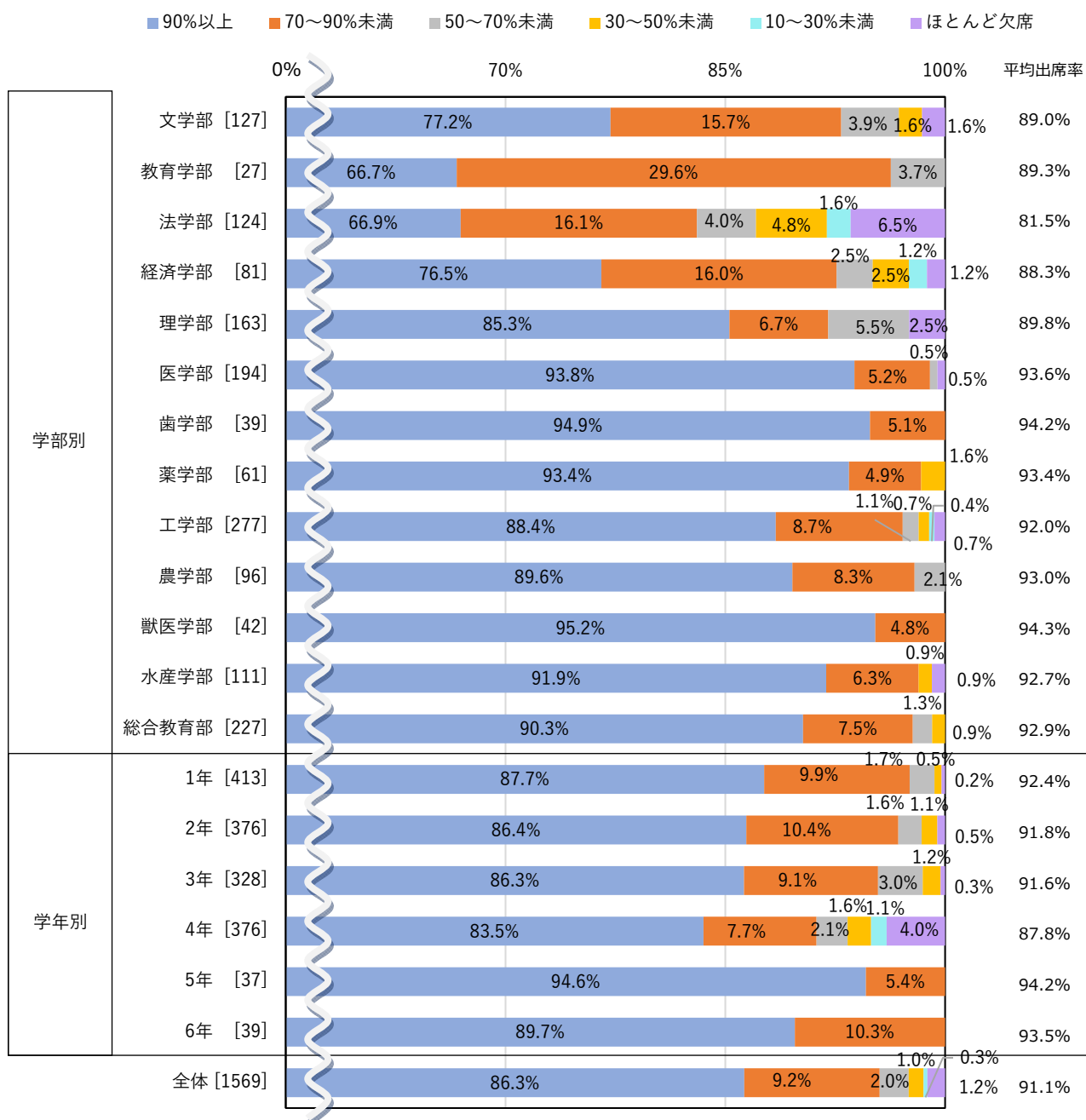
注1) 「高くなったり低くなったりとむらがある」は今回調査からの新選択肢である。

注2) [] は回答者数を示す。

授業への出席率

- 授業への出席率は、「90%以上」と回答した学生の割合は全体の86.3%で、平均出席率は91.1%である。
- 学部別では、獣医学部で「90%以上」の比率が95.2%で、最も出席率が高い。（※回答数が少ない学部等は参考程度）
- 学年別では、1年次、5年次、6年次の出席率は高めである。

■ 授業への出席率（学部別/学年別）



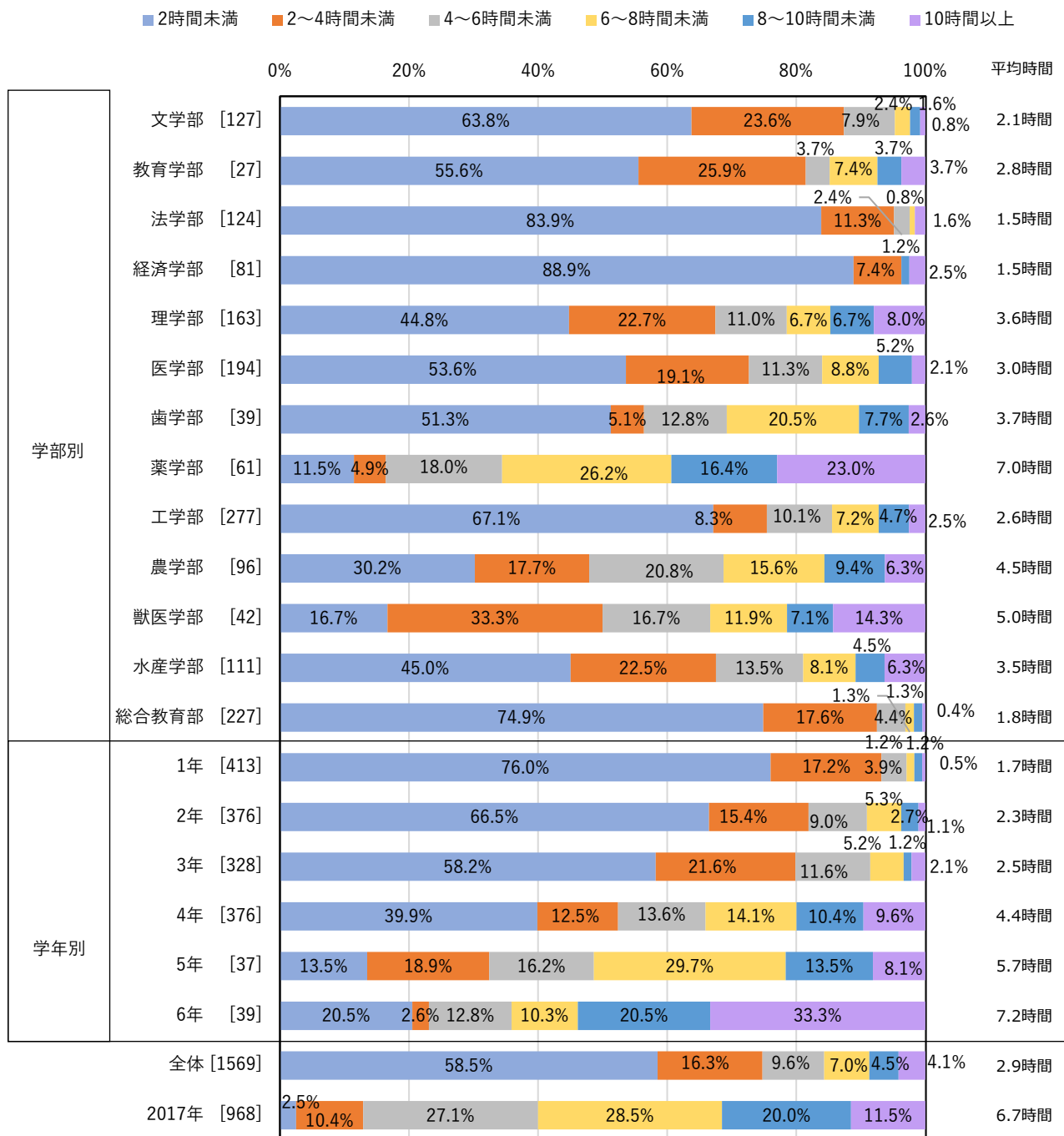
注1) グラフ内波線は省略を示す。

注2) [] は回答者数を示す。

大学で過ごす一日の平均時間

- 大学で過ごす一日の平均時間は 2.9 時間で、「2 時間未満」の割合が 58.5% を占めている。また、2017 年調査（平均時間：6.7 時間）と比べて、大学で過ごす時間が大きく減少した。
- 学部別の平均時間は、薬学部が 7.0 時間と最も長い。一方、法学部や経済学部の平均時間は短い。（※回答数が少ない学部等は参考程度）
- 学年別では、年次が上がるごとに大学で過ごす時間が増加する傾向にある。

■ 大学で過ごす一日の平均時間（学部別／学年別）



注 1) 平均時間は各選択肢の中央値を用いて計算した。

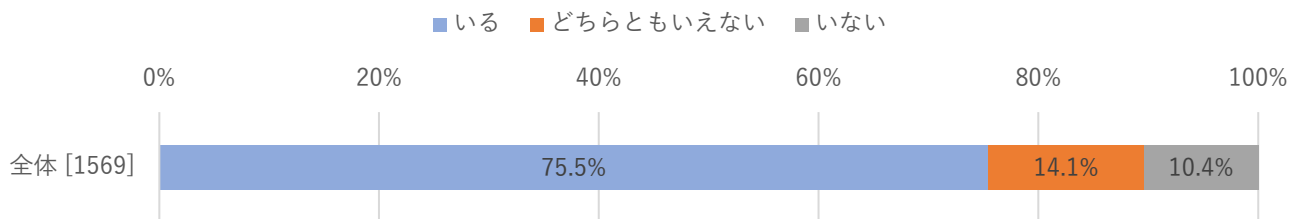
例：2～4 時間未満の場合は 3 時間、2 時間未満は 1 時間、10 時間以上は 11 時間として計算し、それらの平均値を平均時間とした。

注 2) [] は回答者数を示す。

対人関係、教員との関係

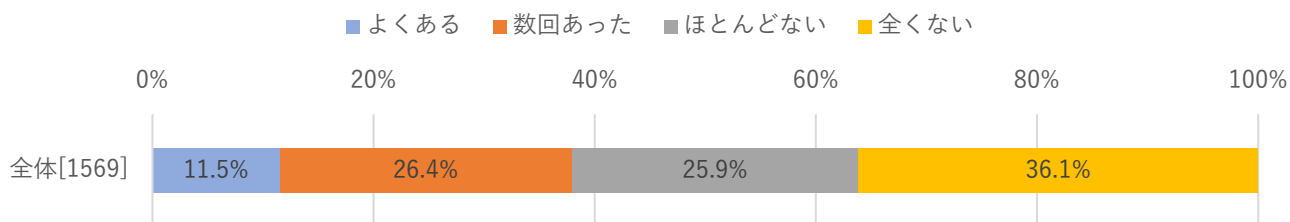
- 全体の75.5%の学生が、親しく話したり、相談したりできる友人が「いる」と回答している。
- 教員との会話・相談機会については、全体の37.9%の学生が「よくある」または「数回あった」と回答している。一方、会話・相談機会が「ほとんどない」「全くない」と回答した学生の割合は62.0%である。
- 教員との会話・相談機会が「ほとんどない」「全くない」と回答した学生が教員に相談しない理由は、「なんとなく話しにくい」(32.2%)が最も多く、次いで「必要がない」(31.5%)が多い。

■ 相談できる友人の有無



注1) [] は回答者数を示す。

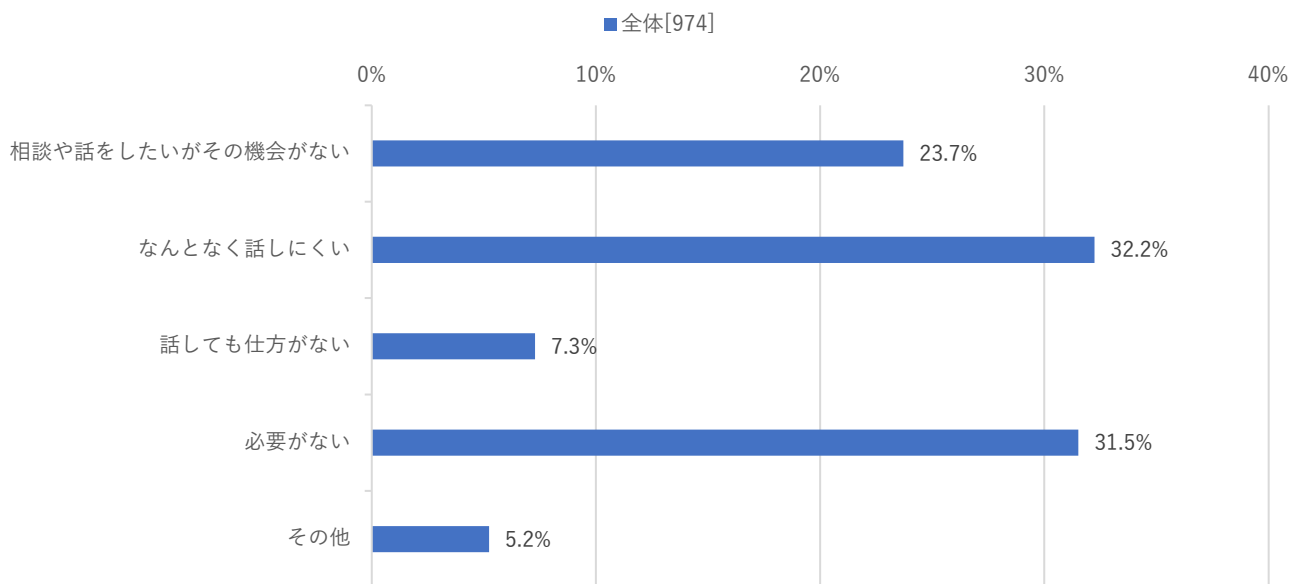
■ 教員との会話・相談機会



注1) [] は回答者数を示す。

■ 教員に相談しない理由

※教員との非相談者ベース



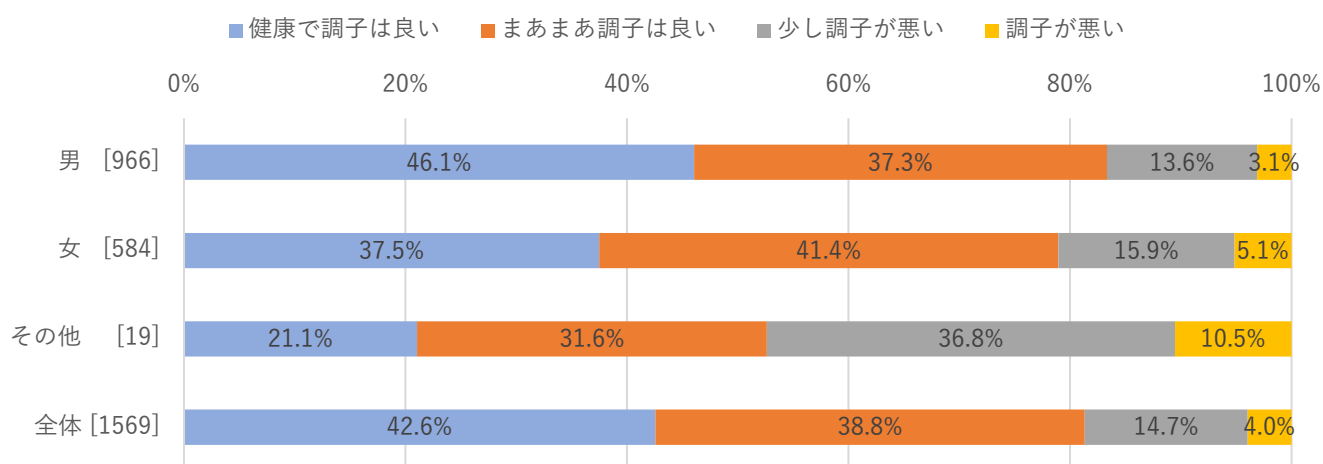
注1) [] は回答者数を示す。

I 健康状態

身体の調子と通院状況

- 「健康で調子が良い」が42.6%、「まあまあ調子が良い」38.8%を合わせると、「調子が良い」と回答した学生は81.4%である。
- 男女で比べると、女子学生の方が「調子が良い」と回答した比率がわずかに低い。
- 身体の調子が悪い学生のうち、通院している学生は21.8%でおおよそ5人に1人が通院している。
- 性別別では、通院率が高いのは女子学生（28.5%）であり、他選択肢を上回る。

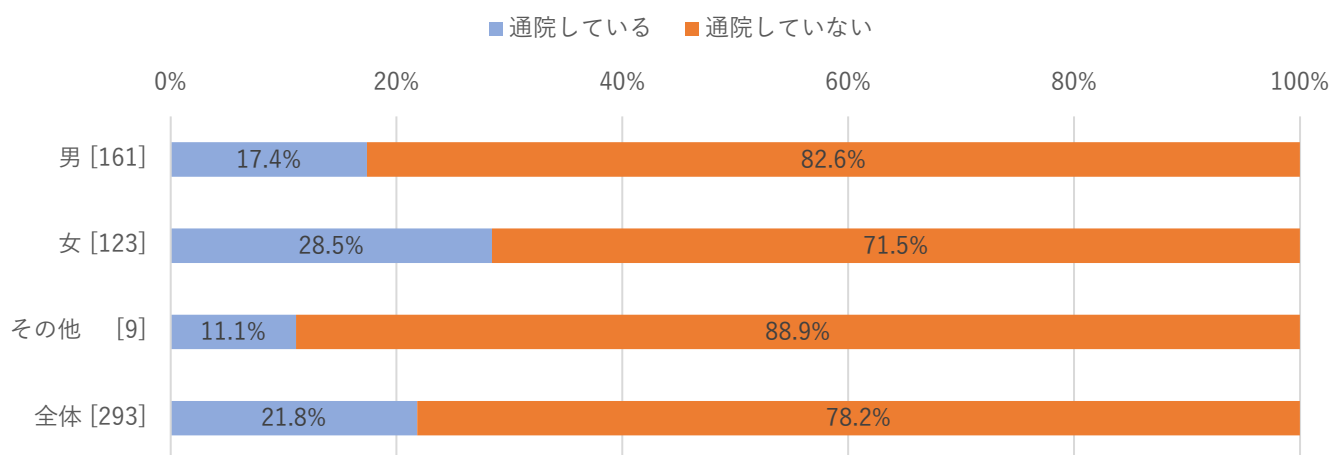
■ 身体の調子（性別別）



注1) [] は回答者数を示す。

■ 通院状況（性別別）

※身体の調子が悪い者ベース

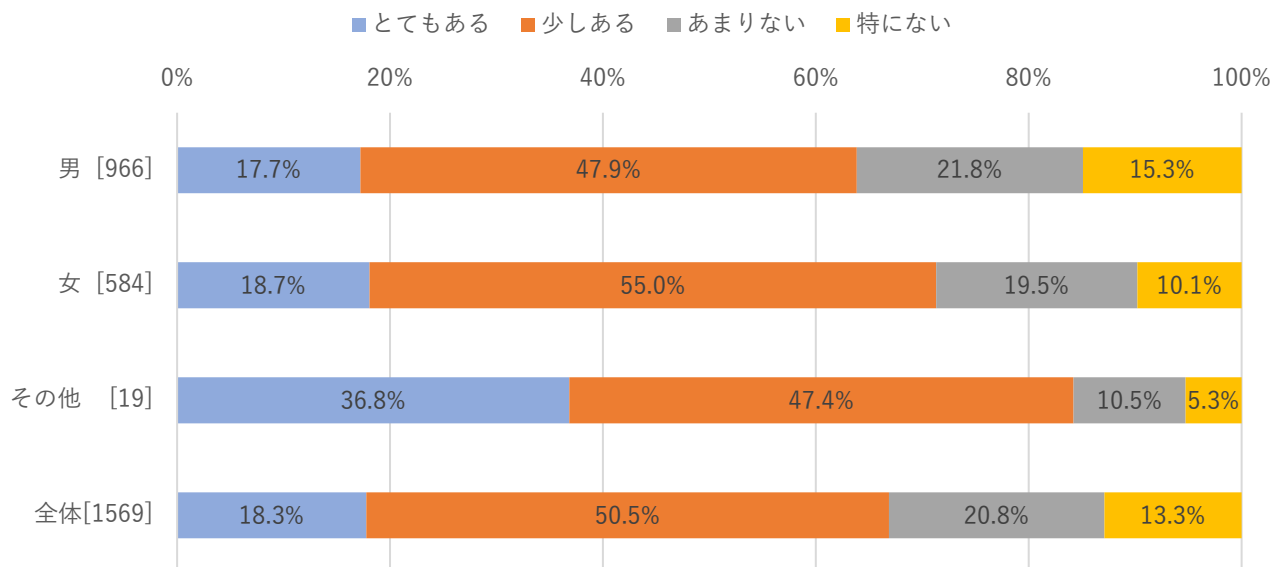


注1) [] は回答者数を示す。

悩み・不安

- 悩み・不安が「とてもある」と回答した学生は18.3%、「少しある」(50.5%)を合わせると、悩み・不安が「ある」学生は68.8%である。一方、「あまりない」(20.8%)、「特にない」(13.3%)を合わせた悩み・不安が「ない」学生は34.1%である。
- 悩み・不安が「ある」と回答した学生の原因は、「進路・就職」が69.7%で最も多く、次いで「学業・成績」(57.7%)や「人生・生き方」(50.9%)である。
- 悩み・不安の相談相手は、「北大の友人・先輩」(51.3%)が最も多く、次いで「家族」(44.3%)と続く。女子学生は他選択肢よりも「北大の友人・先輩」「家族」に相談する比率が高い。男子学生は「相談できる相手はいない」「相談相手は不要(自分で解決)」が多い。その他を選択した学生は、他の学生よりも「学生相談室」「相談できる相手はいない」を選択した割合が高い。

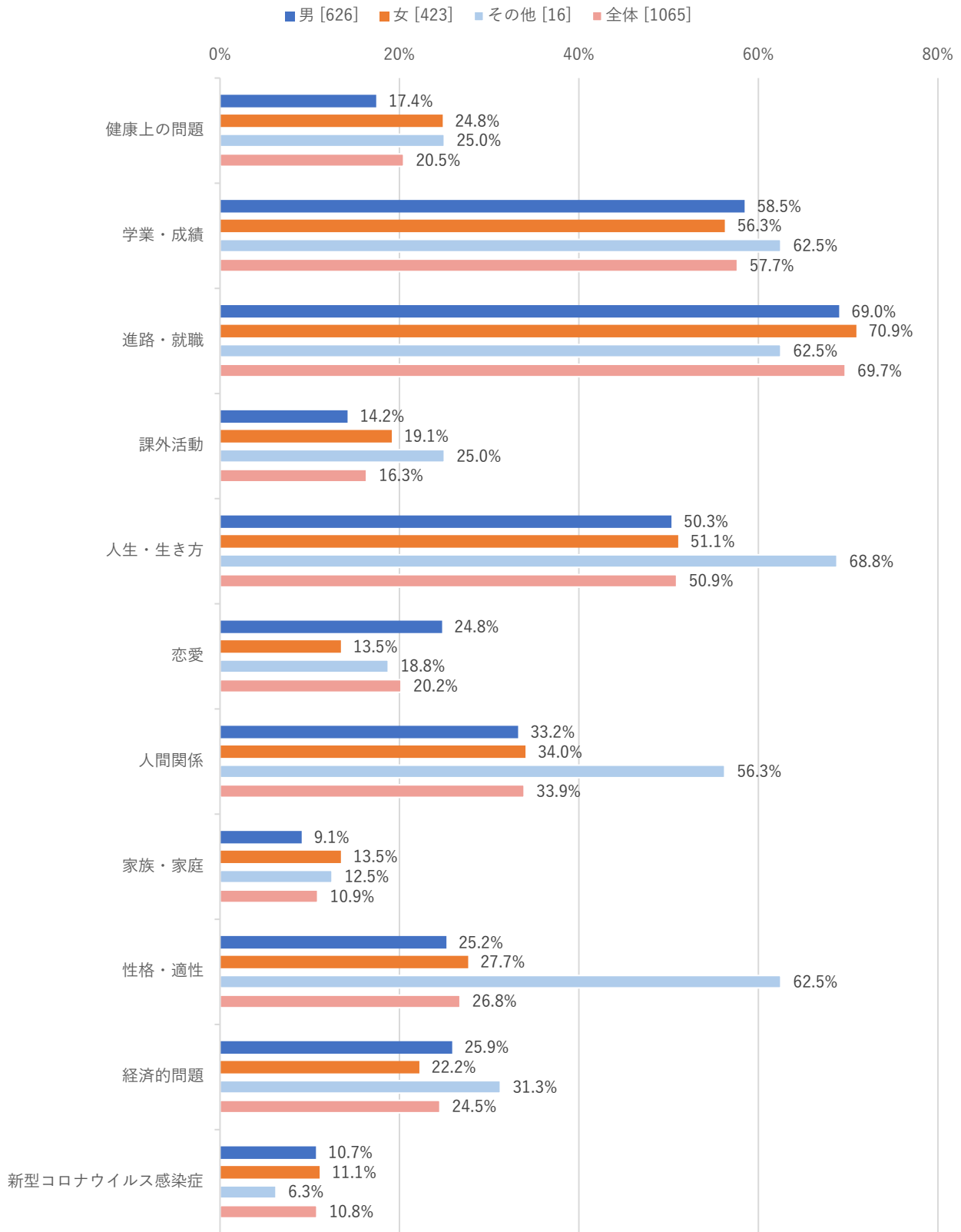
■ 悩み・不安の有無 (性別別)



注1) [] は回答者数を示す。

■ 悩み・不安の原因（性別別・3つまで）

※悩み・不安がある者ベース

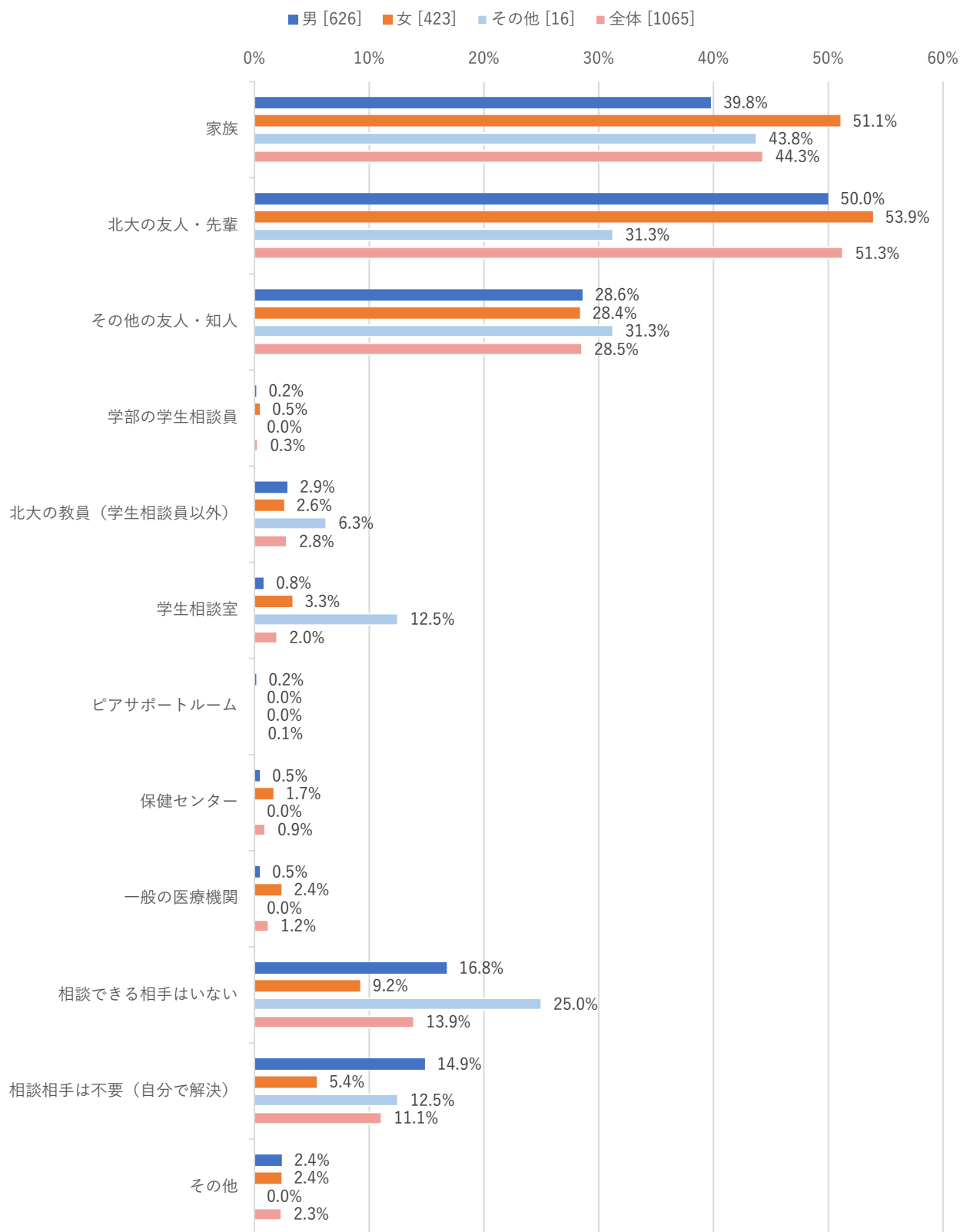


注1) [] は回答者数を示す。

悩み・不安（つづき）

■ 悩み・不安の相談相手（性別別・2つまで）

※悩み・不安がある者ベース

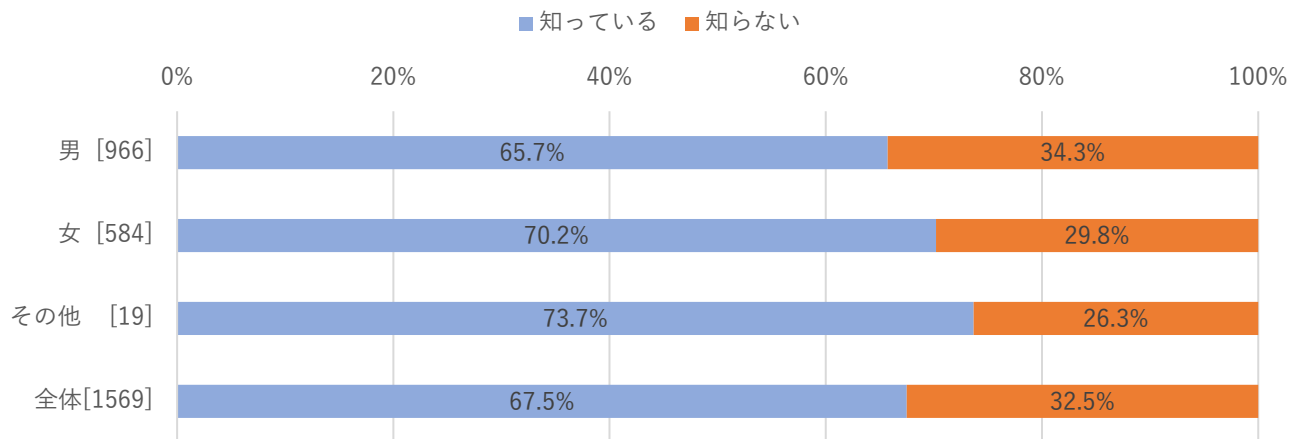


注1) [] は回答者数を示す。

カウンセリングサービスの認知状況

- カウンセリングサービスの認知率は67.5%である。
- 性別別では、男子学生の認知率が他選択肢よりも若干低い。

■ カウンセリングサービスの認知状況（性別別）



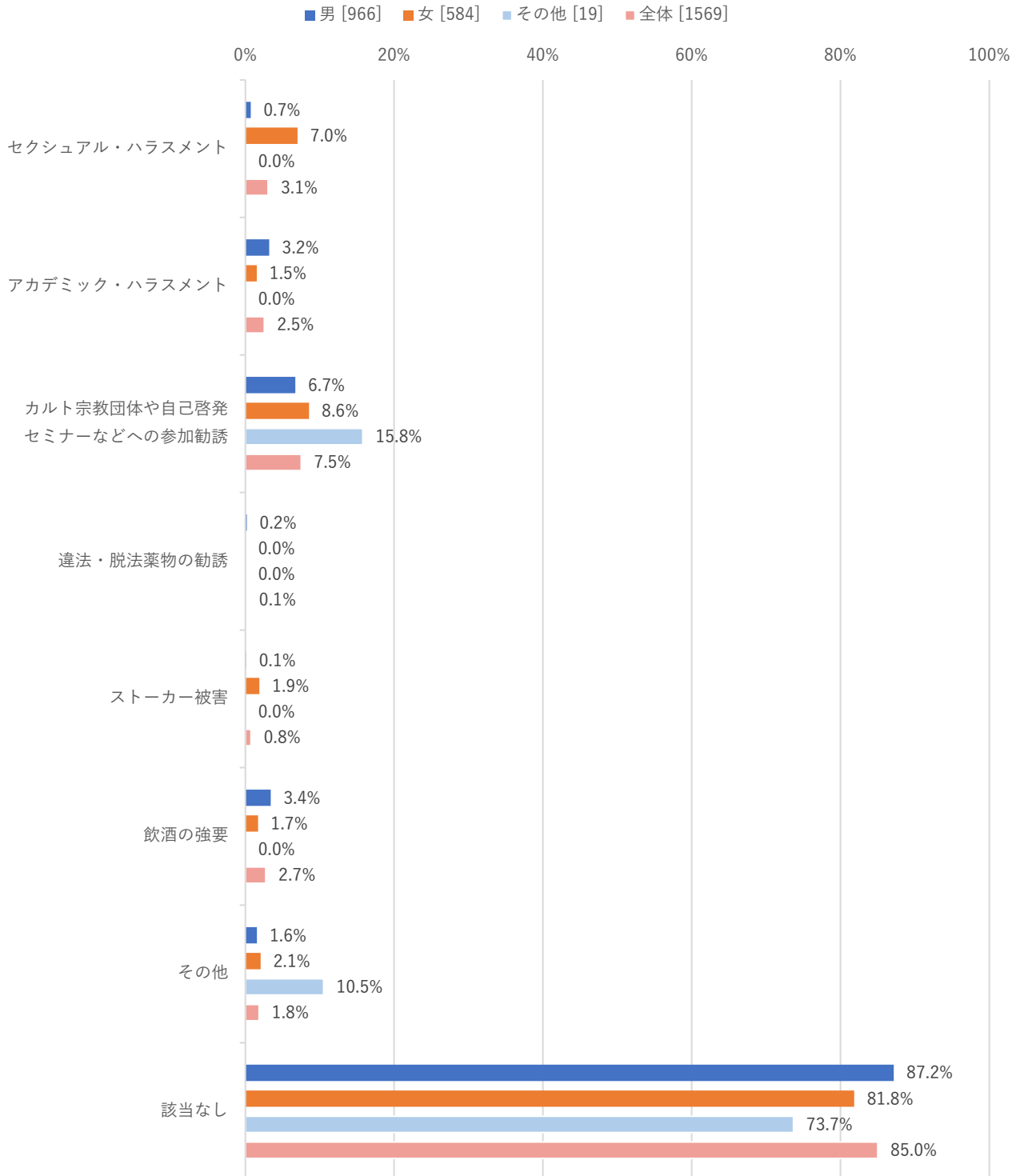
注1) [] は回答者数を示す。

J ハラスメント及びカルト宗教団体等の被害状況

自身のハラスメント等の被害経験

- 学生の15.0%はハラスメント等の被害を経験している。その被害経験として、7.5%が「カルト宗教団体や自己啓発セミナーなどへの参加勧誘」をあげている。
- セクシュアル・ハラスメントの被害は、女子学生の7.0%が経験している。

■ 自身のハラスメント等の被害経験（性別別・複数回答可）

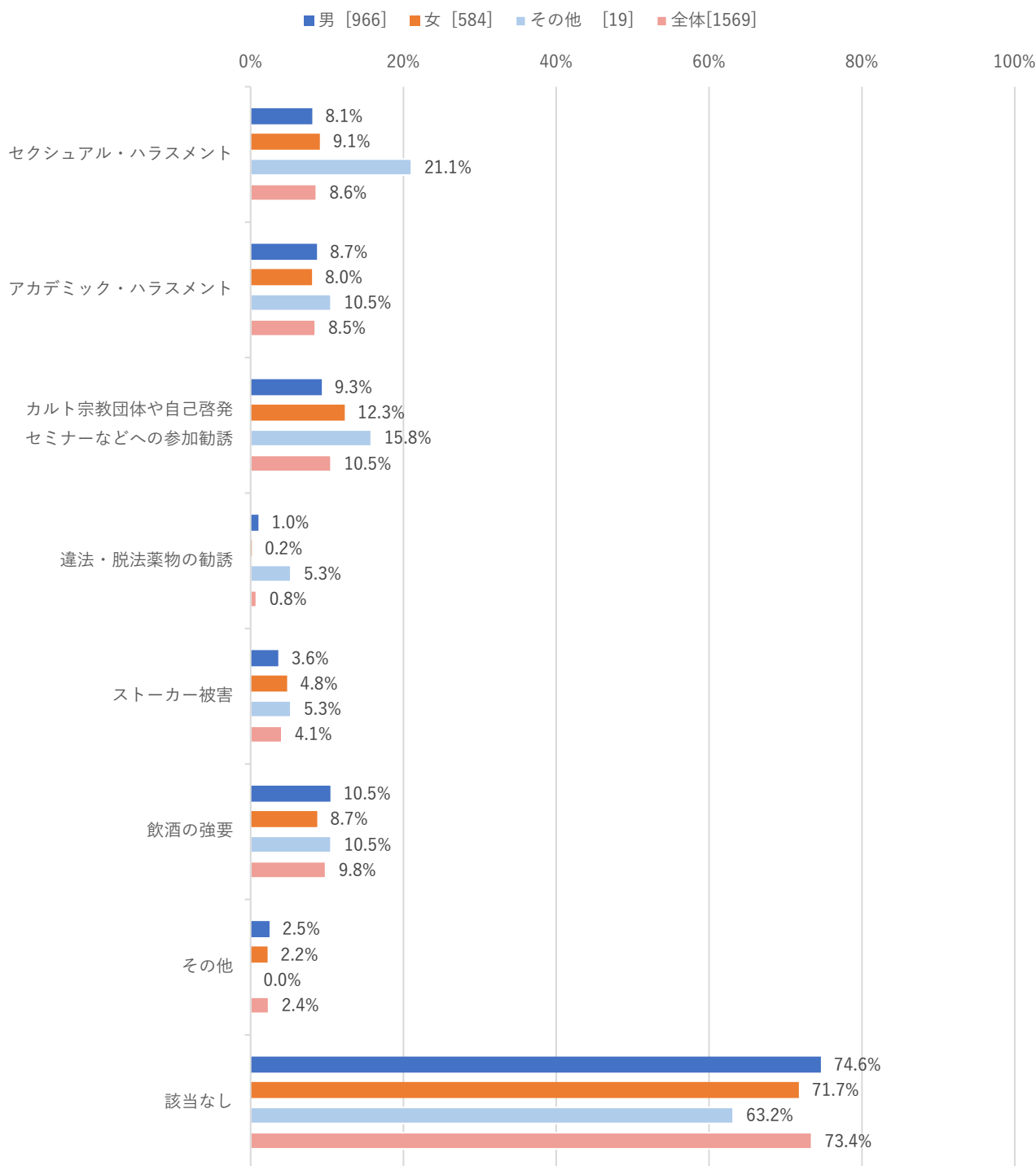


注1) [] は回答者数を示す。

他人のハラスメント等の被害を見聞きした経験

- 学生の26.6%は他人のハラスメント等を見聞きした経験を持つ。その経験として、「カルト宗教団体や自己啓発セミナーなどへの参加勧誘」が10.5%、「飲酒の強要」が9.8%などである。
- 性別別では、男子学生の比率が高いのは「飲酒の強要」「アカデミック・ハラスメント」である。一方女子学生の比率が高いのは「カルト宗教団体や自己啓発セミナーなどへの参加勧誘」「セクシュアル・ハラスメント」「ストーカー被害」である。
- 「その他」は性の多様性等と関係するものも多いと推察されるが、「その他」のもの半数がハラスメントやカルト等の被害が50%弱であり、「男」「女」と回答した学生よりも割合が高い。

■ 他人のハラスメント等の被害を見聞きした経験（性別別・複数回答可）

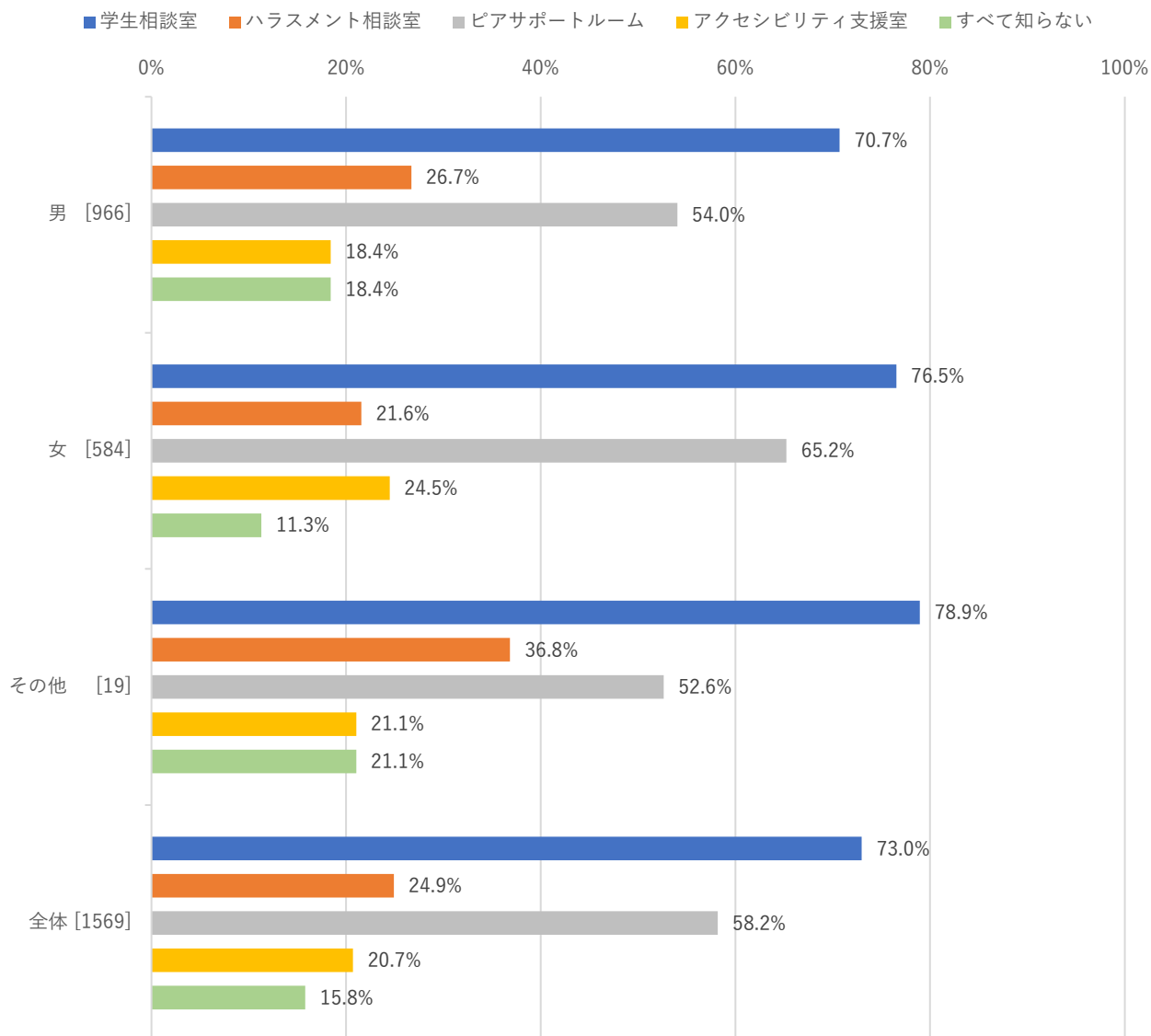


注1) [] は回答者数を示す。

学生相談窓口の認知状況

- 学生相談窓口の認知状況として、「学生相談室」は7割以上、「ピアサポートルーム」は6割近くの学生が認知している。一方「ハラスメント相談室」が24.9%、「アクセシビリティ支援室」が20.7%で認知率は低い。
- 性別別では、「ピアサポートルーム」の認知率は、女子学生が65.2%であるのに対して、男子学生は54.0%、その他と回答した学生は52.6%と差が大きい。

■ 学生相談窓口の認知状況（性別別・複数回答可）



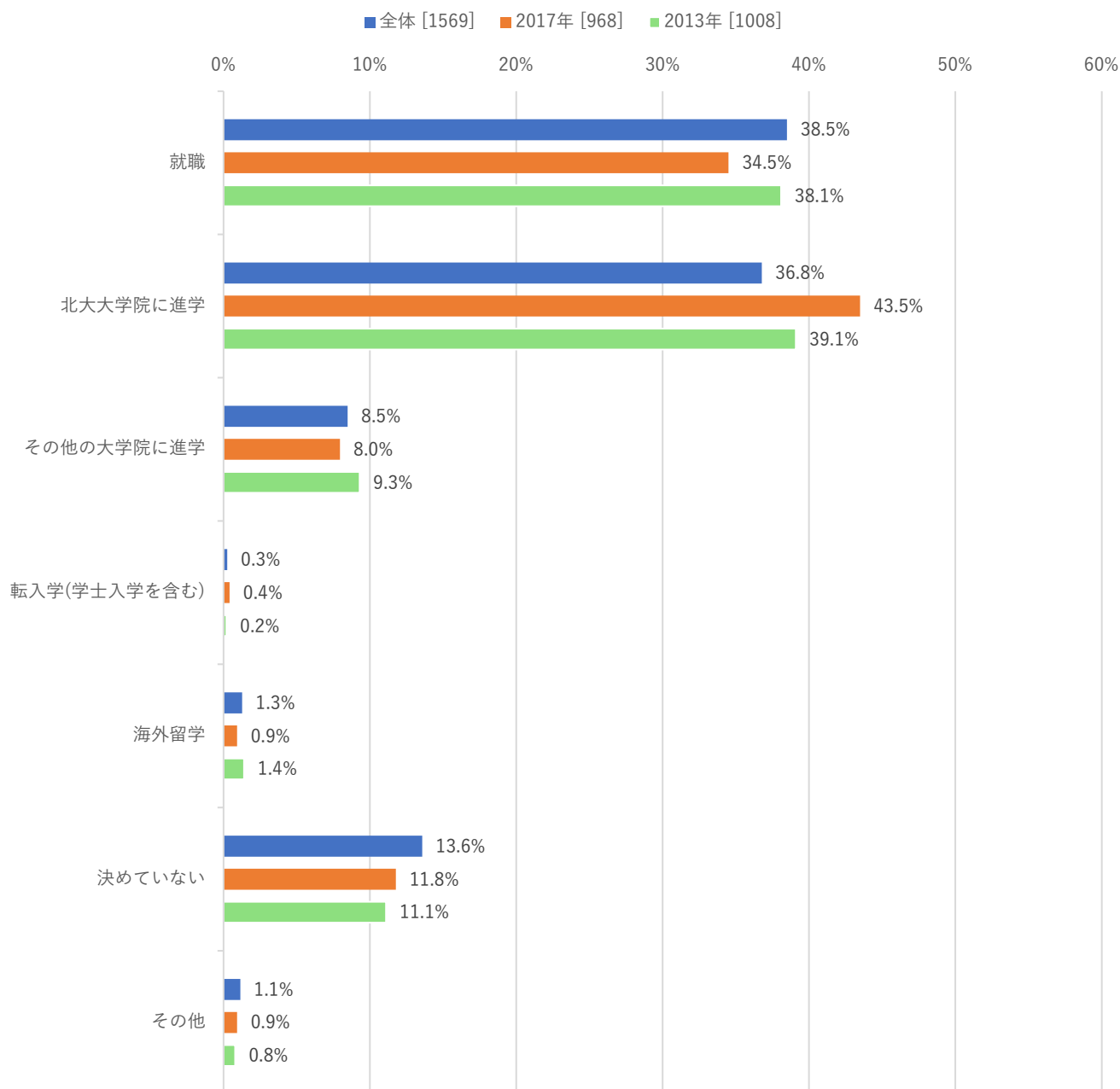
注1) [] は回答者数を示す。

K 進路の希望

卒業後の進路希望（全体）

- 卒業後の進路希望は、「北大大学院に進学」が36.8%、「その他の大学院に進学」は8.5%で、「大学院への進学」を希望する学生は45.3%と半数近くを占める。2017年調査と比べると、「北大大学院に進学」の割合は減少し、「その他の大学院に進学」はわずかに増加した。一方「就職」は38.5%であり、2017年調査よりも増加している。

■ 卒業後の進路希望（全体）

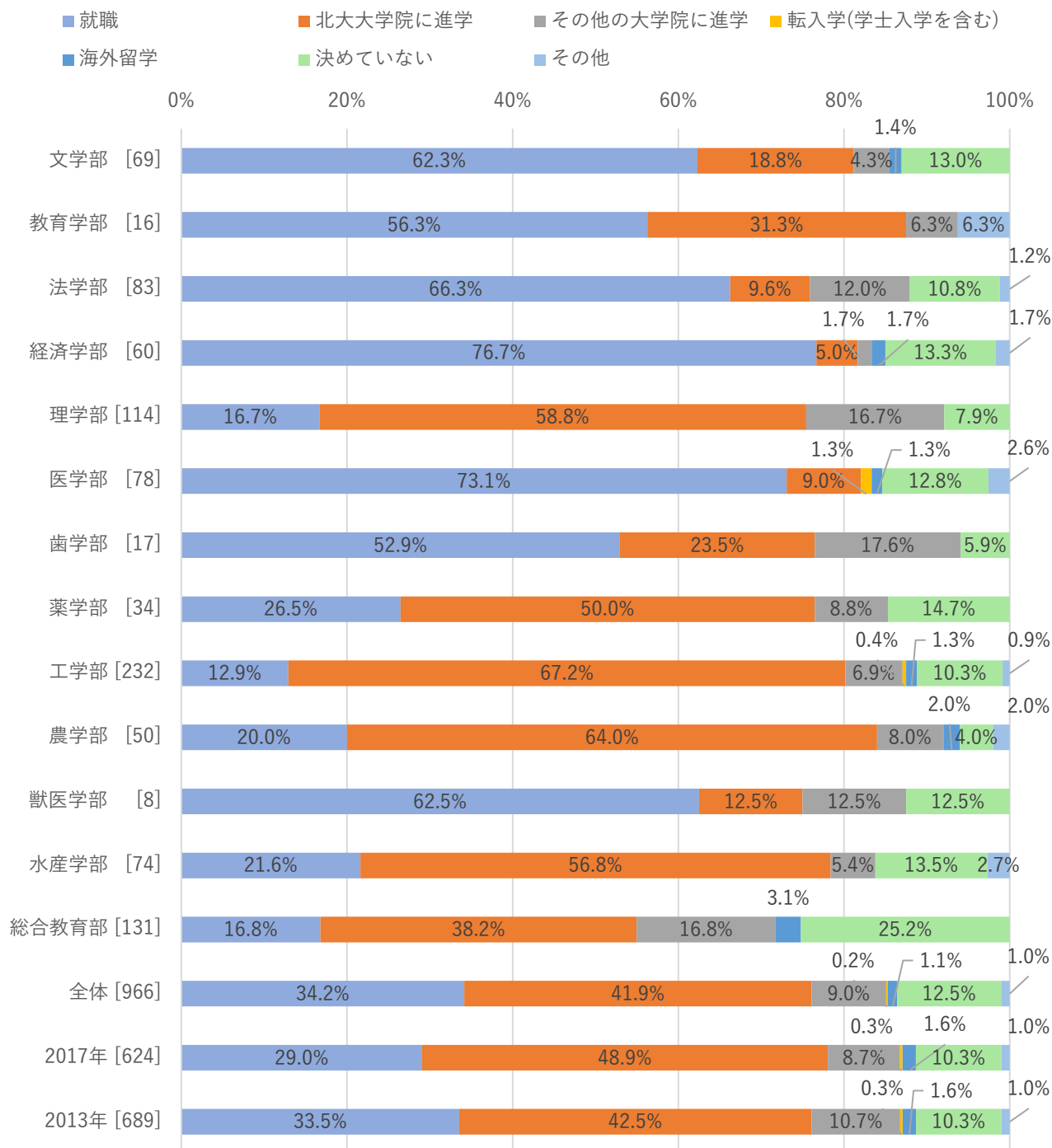


注1) [] は回答者数を示す。

卒業後の進路希望（男子）

- 男子学生の卒業後の進路希望は、「北大大学院に進学」が41.9%、「その他の大学院に進学」は9.0%で、合わせると「大学院への進学」が50.9%とほぼ半数を占める。一方、「就職」は34.2%と、2017年調査より比率が増加した。
- 学部別では、「北大大学院に進学」を希望する男子学生が多いのは工学部、農学部、理学部、水産学部、薬学部である。一方、「就職」を希望する男子学生が多いのは経済学部、医学部、法学部、獣医学部、文学部である。（※回答数が少ない学部等は参考程度）

■ 卒業後の進路希望（男子・学部別）

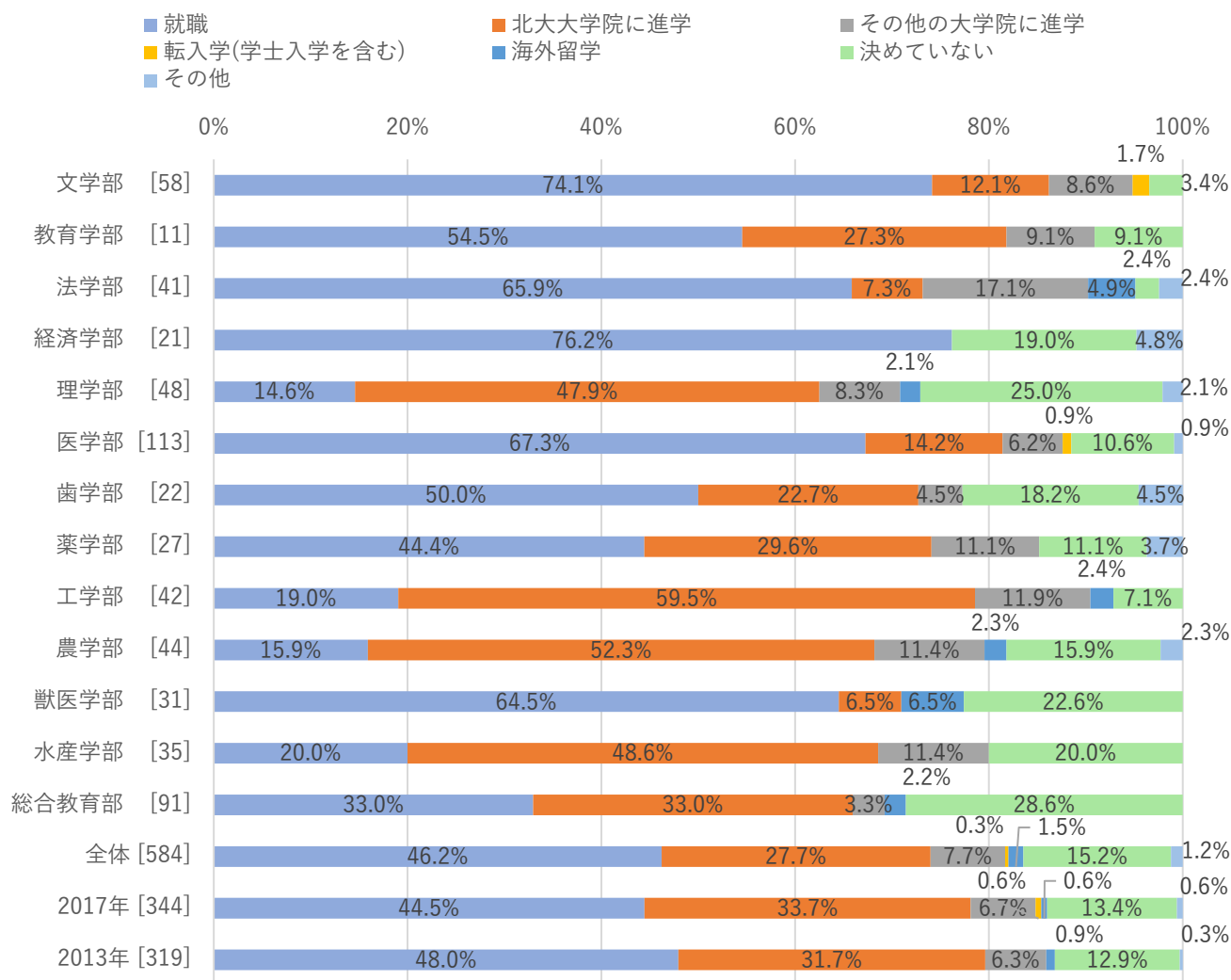


注1) [] は回答者数を示す。

卒業後の進路希望（女子／その他）

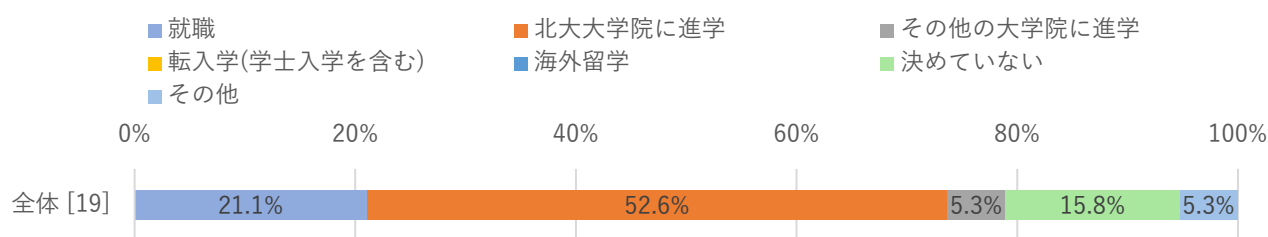
- 女子学生の卒業後の進路希望は、「北大大学院に進学」が27.7%、「その他の大学院に進学」は7.7%で、「大学院への進学」は合わせて35.4%であった。「就職」は46.2%で、「大学院への進学」より「就職」希望者が多い。
- その他と回答した学生の卒業後の進路希望は、「北大大学院に進学」が52.6%、「その他の大学院に進学」は5.3%で、「大学院への進学」は合わせて57.9%であった。「就職」は21.1%で、「就職」希望者より「大学院への進学」が多い。
- 学部別では、「北大大学院に進学」を希望する女子学生が多いのは工学部、農学部、水産学部、理学部である。一方、「就職」を希望する女子学生が多いのは経済学部、文学部、医学部、法学部、獣医学部、教育学部、歯学部である。（※回答数が少ない学部等は参考程度）

■ 卒業後の進路希望（女子・学部別）



注1) [] は回答者数を示す。

■ 卒業後の進路希望（その他）

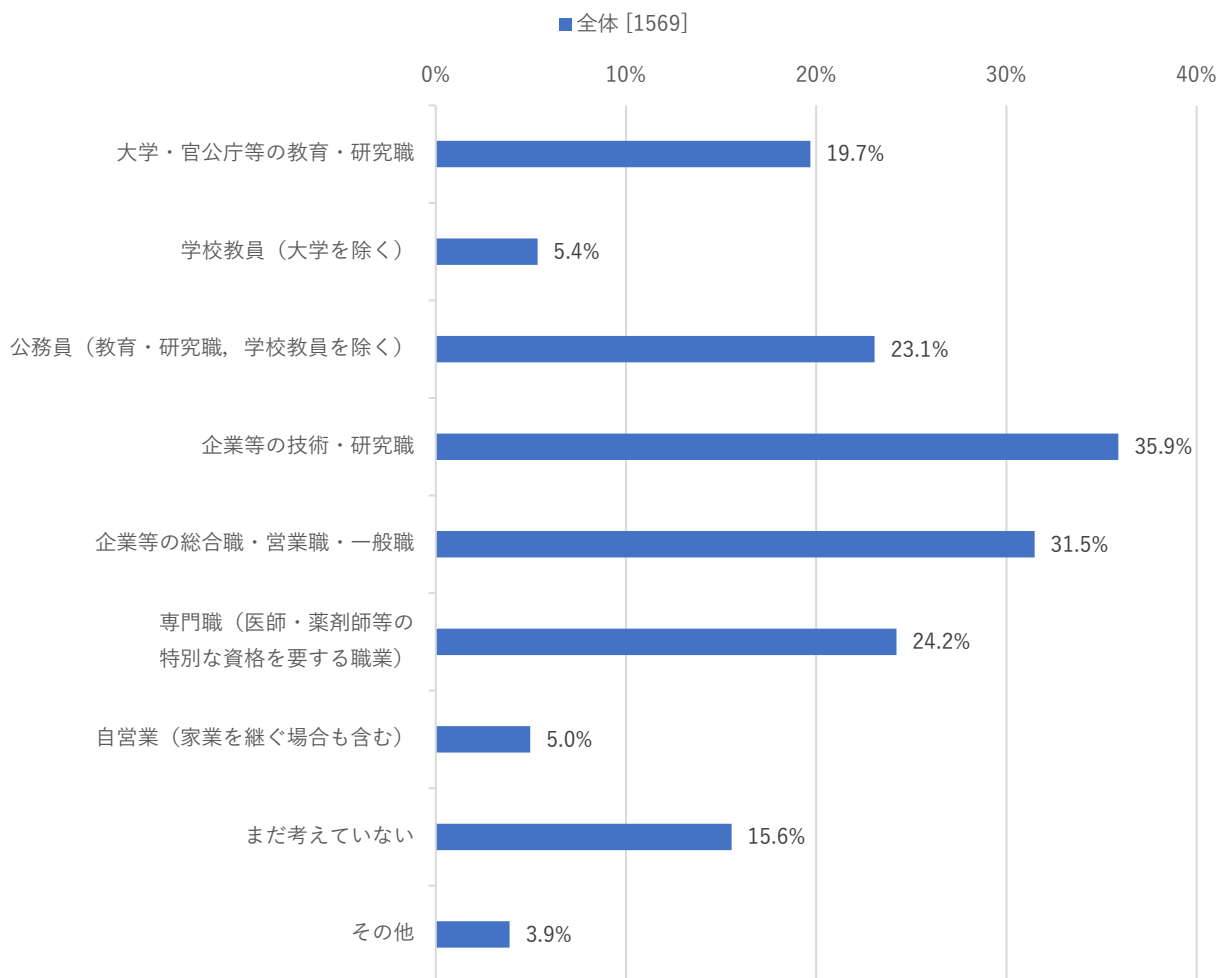


注1) [] は回答者数を示す。

希望職種（全体）

- 希望職種は、「企業等の技術・研究職」（35.9%）が最も多く、次いで、「企業等の総合職・営業職・一般職」（31.5%）、「専門職（医師・薬剤師等の特別な資格を要する職業）」（24.2%）「公務員（教育・研究職、学校教員を除く）」（23.1%）、「大学・官公庁等の教育・研究職」（19.7%）、と続く。

■ 希望職種（全体・3つまで）

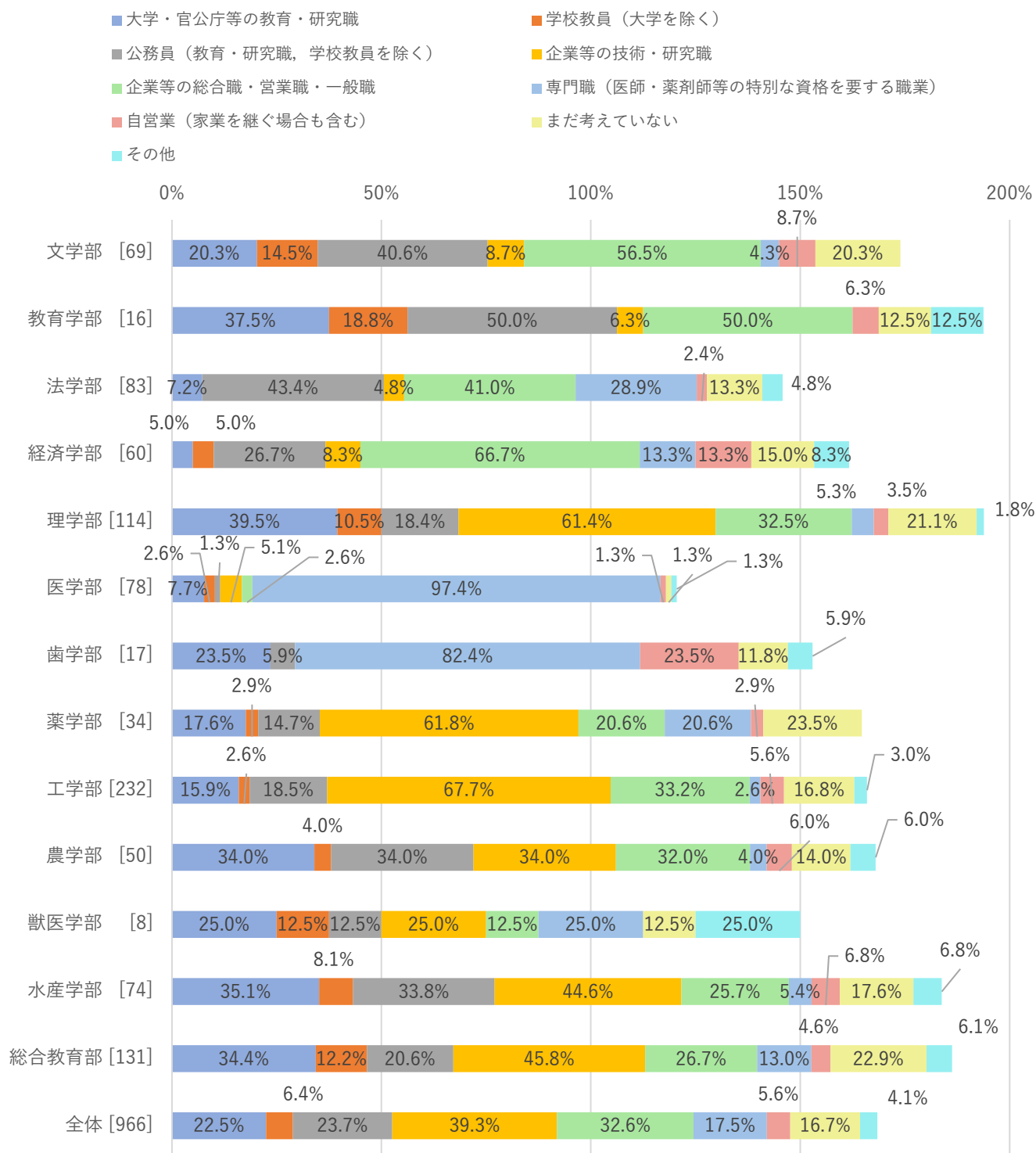


注1) [] は回答者数を示す。

希望職種（男子）

- 男子学生の卒業後の希望職種は、「企業等の技術・研究職」（39.3%）が最も多く、次いで、「企業等の総合職・営業職・一般職」（32.6%）、「公務員（教育・研究職、学校教員を除く）」（23.7%）、「大学・官公庁等の教育・研究職」（22.5%）と続く。
- 学部別では、学部の専門性を反映した希望職種となっている。特に医学部と歯学部は「専門職」を、工学部、薬学部、理学部、水産学部、農学部は「企業等の技術・研究職」を希望する割合が高い。（※ 回答数が少ない学部等は参考程度）

■ 希望職種（男子・学部別・3つまで）



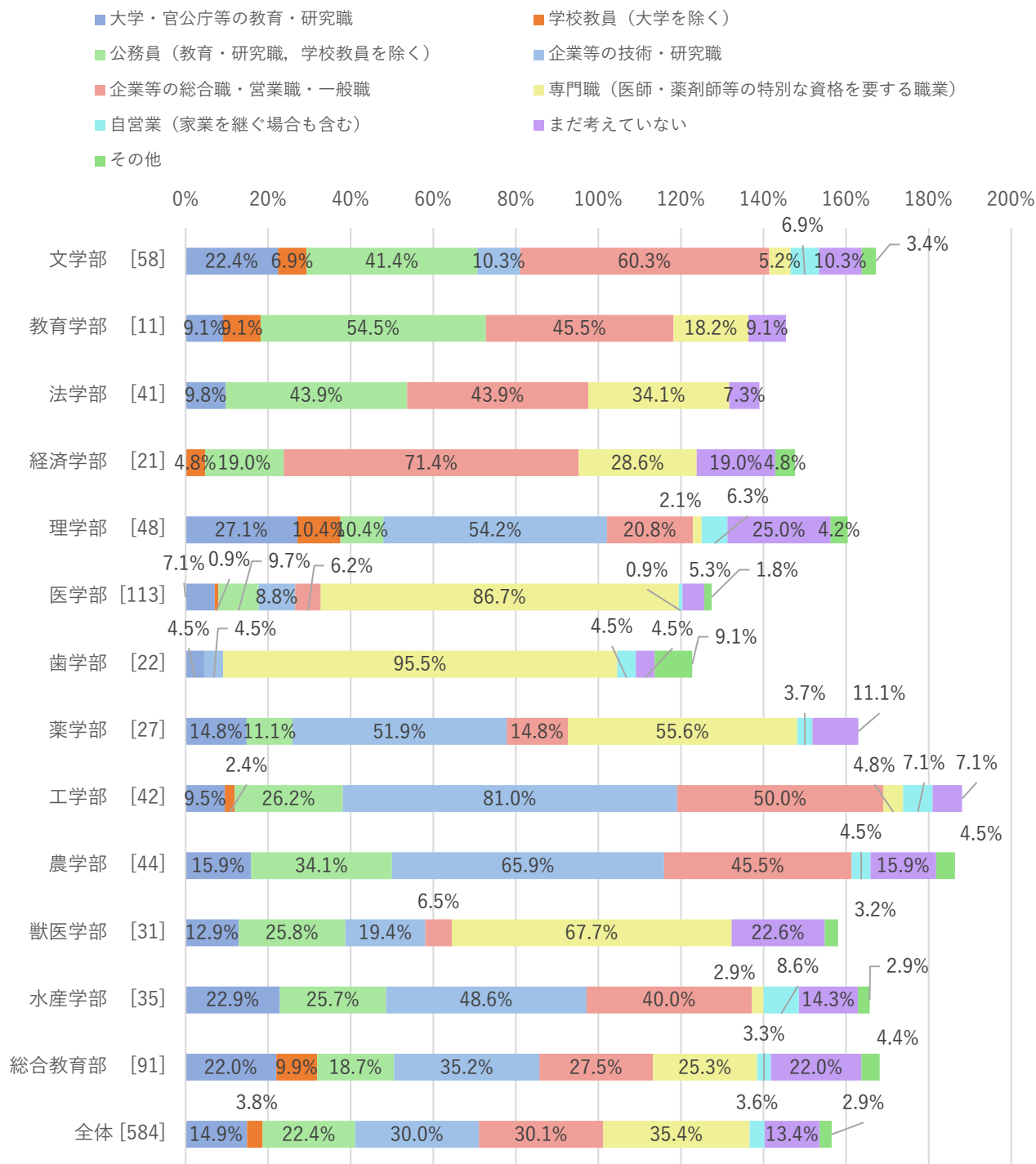
注1) 複数選択のため、割合の総和は100%を超える。

注2) [] は回答者数を示す。

希望職種（女子）

- 女子学生の卒業後の希望職種は、「専門職（医師・薬剤師等の特別な資格を要する職業）（35.4%）」が多く、次いで「企業等の総合職・営業職・一般職」（30.1%）、「企業等の技術・研究職」（30.0%）と続く。
- 学部別では、学部の専門性を反映した希望職種となっている。特に歯学部と医学部は「専門職」を、工学部、農学部、理学部、薬学部、水産学部は「企業などの技術・研究職」を、経済学部は「企業などの総合職・営業職・一般職」を希望する割合が高い。（※回答数が少ない学部等は参考程度）

■ 希望職種（女子・学部別・3つまで）



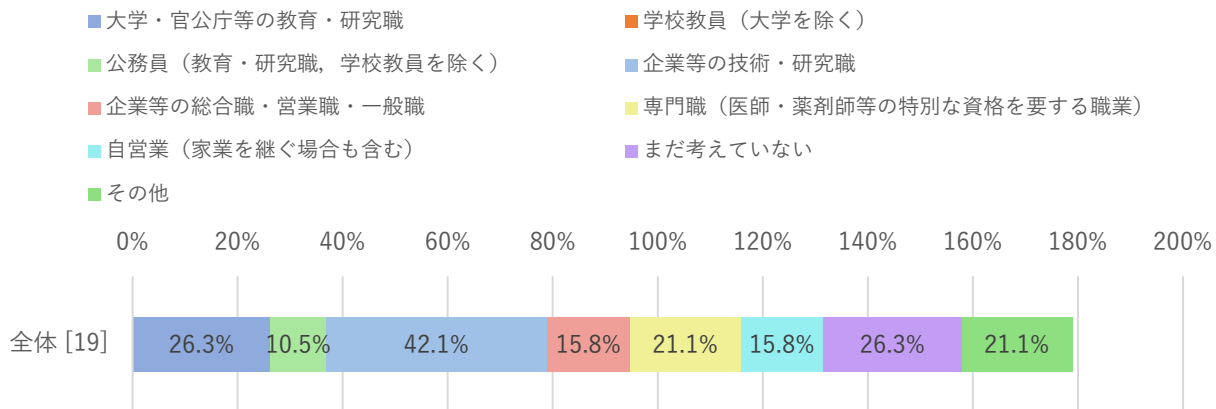
注1) 複数選択のため、割合の総和は100%を超える。

注2) [] は回答者数を示す。

希望職種（その他）

- その他と回答した学生の卒業後の希望職種は、「企業等の技術・研究職」（42.1%）が多く、次いで「大学・官公庁等の教育・研究職」（26.3%）、「専門職（医師・薬剤師等の特別な資格を要する職業）」（21.1%）と続く。

■ 希望職種（その他・学部別・3つまで）



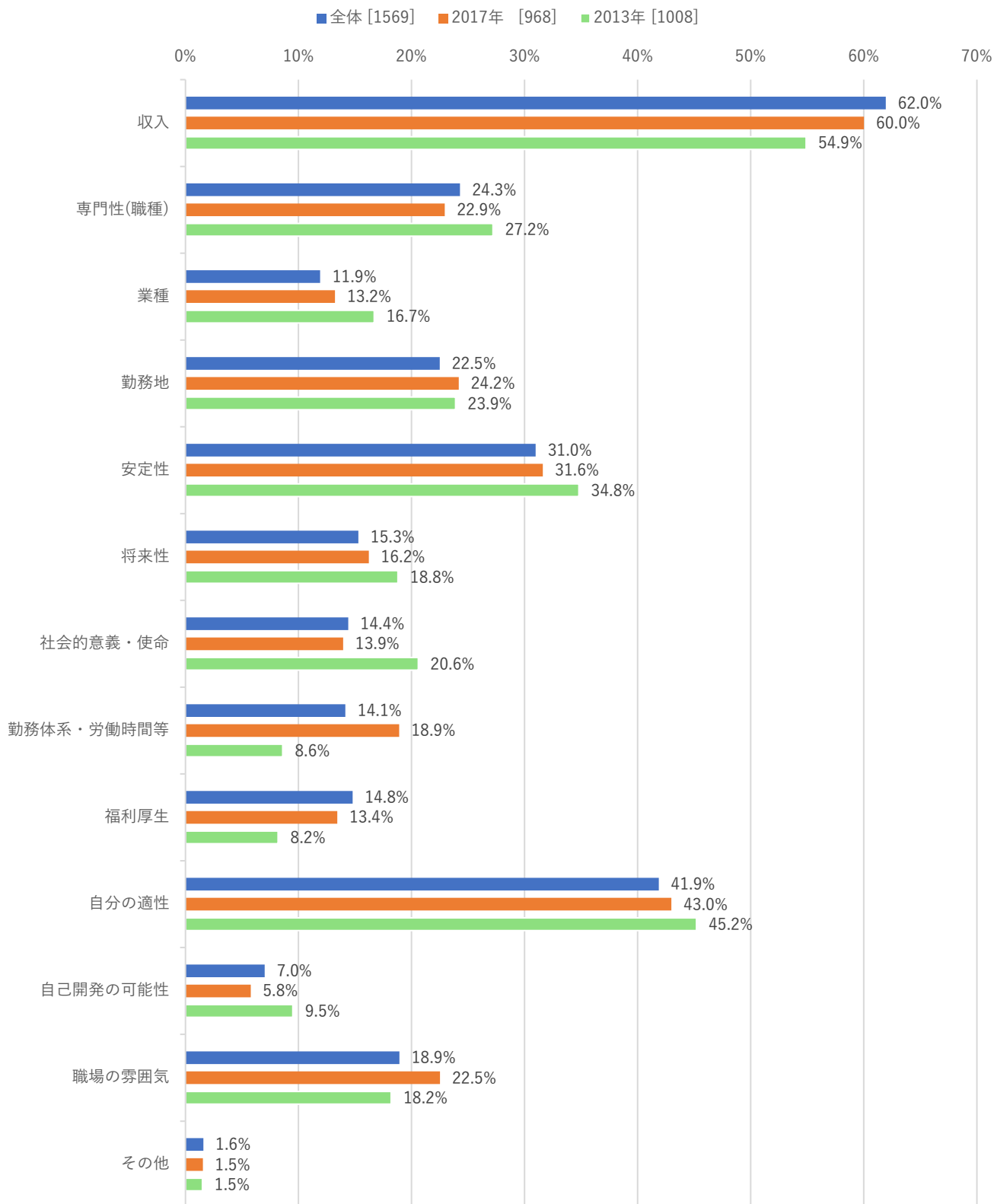
注 1) 複数選択のため、割合の総和は 100%を超える。

注 2) [] は回答者数を示す。

就職で重要視すること（全体）

- 就職で重要視することは、「収入」が62.0%で最も多く、次いで「自分の適性」（41.9%）、
- 「安定性」（31.0%）、「専門性（職種）」（24.3%）、「勤務地」（22.5%）、「職場の雰囲気」（18.9%）と続く。

■ 就職で重要視すること（全体・3つまで）

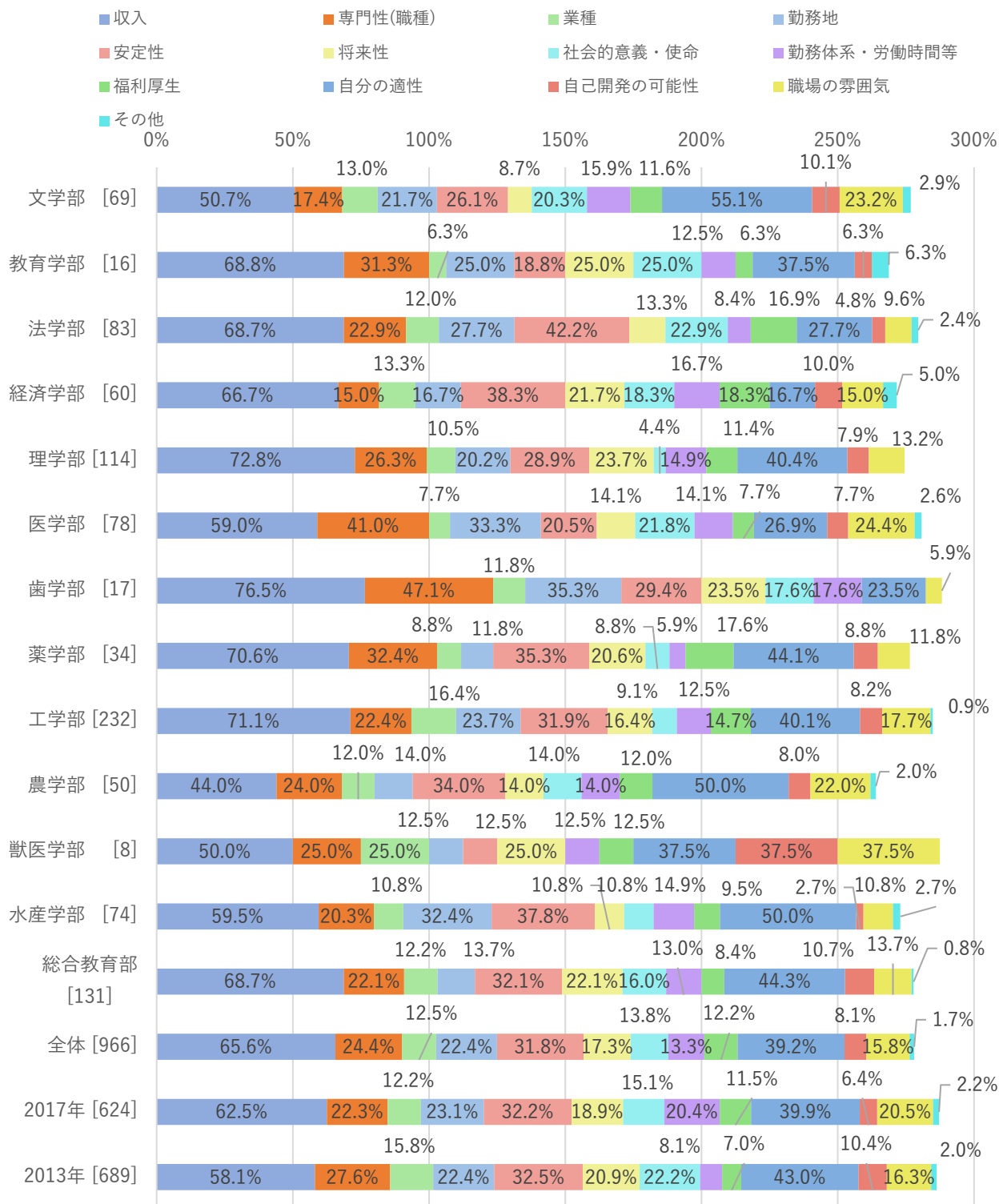


注1) [] は回答者数を示す。

就職で重要視すること（男子）

- 男子学生の就職で重要視することは、「収入」（65.6%）が最も多く、次いで「自分の適性」（39.2%）、「安定性」（31.8%）、「専門性（職種）」（24.4%）、「勤務地」（22.4%）と続く。
- 学部別では、「収入」を重視する傾向がみられるのは歯学部、理学部、工学部、薬学部である。（※回答数が少ない学部等は参考程度）

■ 就職で重要視すること（男子・学部別・3つまで）



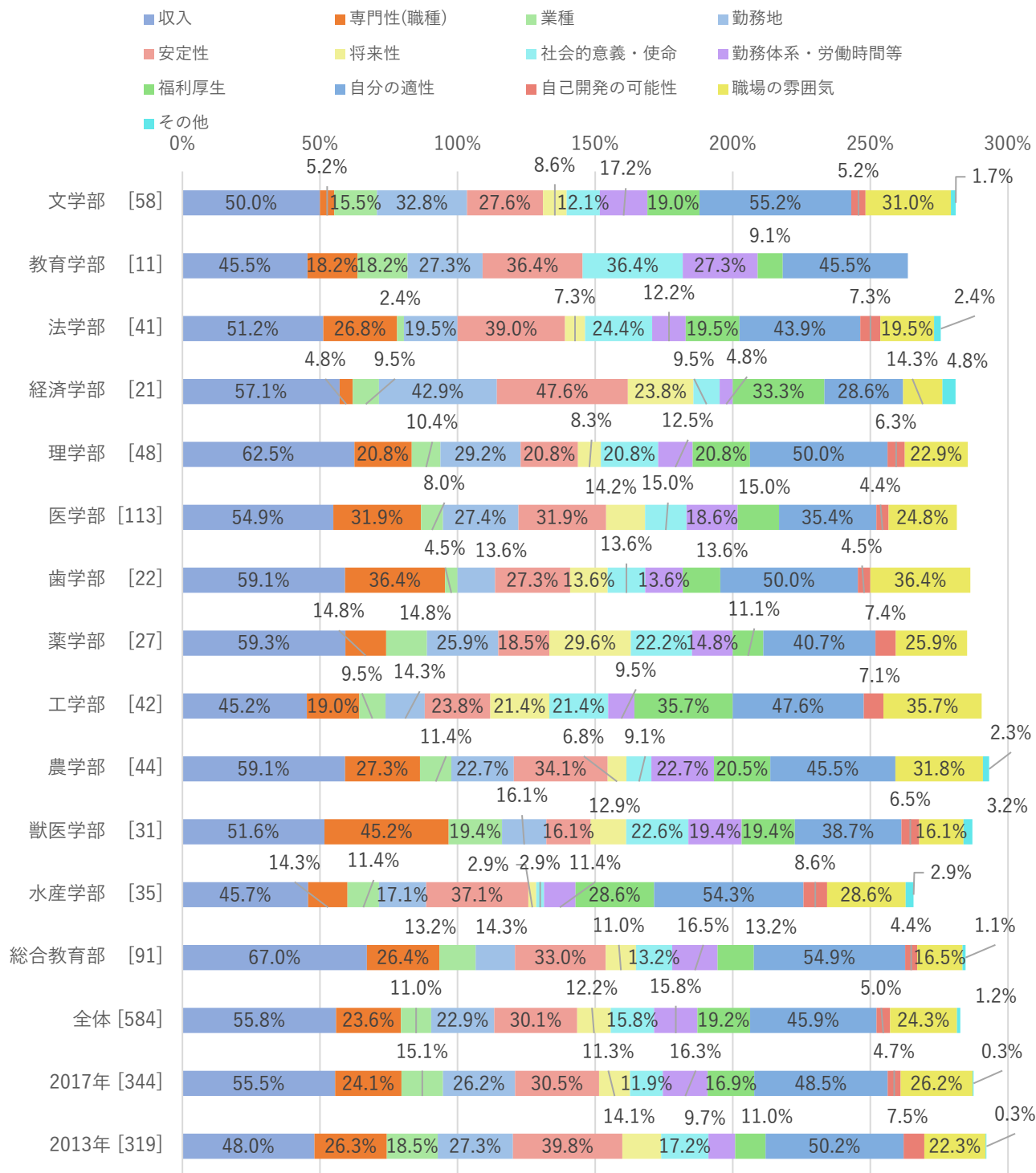
注1) 複数選択のため、割合の総和は100%を超える。

注2) [] は回答者数を示す。

就職で重要視すること（女子）

- 女子学生の就職で重要視することは、「収入」（55.8%）が最も多く、次いで「自分の適性」（45.9%）、「安定性」（30.1%）、「職場の雰囲気」（24.3%）、「専門性（職種）」（23.6%）と続く。
- 学部別では、「自分の適性」を重視する傾向がみられるのは文学部、総合教育部、水産学部、理学部、歯学部である。（※回答数が少ない学部等は参考程度）

■ 就職で重要視すること（女子・学部別・3つまで）

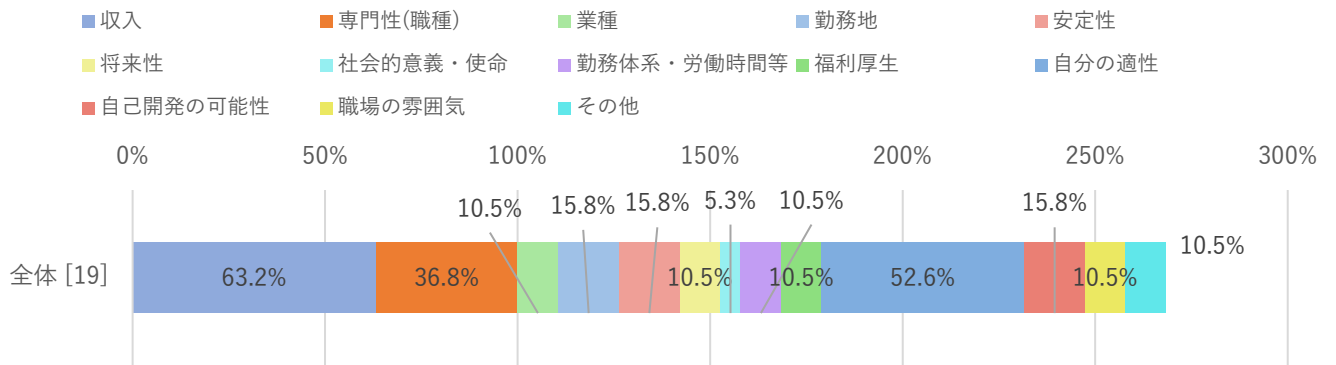


注1) 複数選択のため、割合の総和は100%を超える。
 注2) [] は回答者数を示す。

就職で重要視すること（その他）

- その他と回答した学生の就職で重要視することは、「収入」（63.2%）が最も多く、次いで「自分の適性」（52.6%）、「専門性（職種）」（36.8%）と続く。

■ 就職で重要視すること（その他・3つまで）



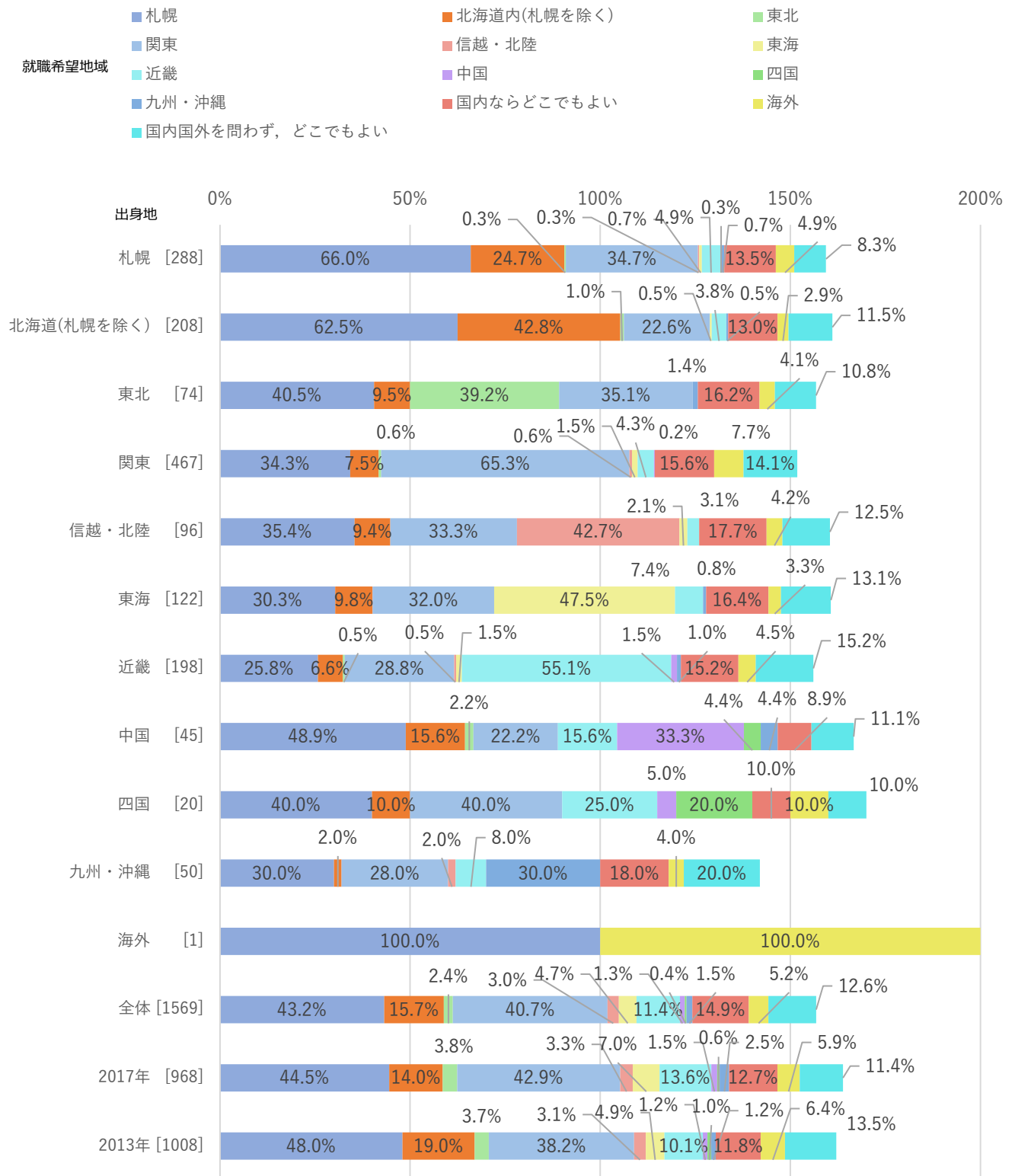
注1) 複数選択のため、割合の総和は100%を超える。

注2) [] は回答者数を示す。

就職希望地域

- 就職希望地域は、全体では「札幌」(43.2%)と「関東」(40.7%)が上位を占める。次いで「北海道内(札幌を除く)」(15.7%)、「国内ならどこでもよい」(14.9%)である。
- 出身地別では、一般的に地元志向が強い。その中で「中国」と「四国」の出身者は他の地域の出身者ほど地元志向が強くない。

■ 就職希望地域 (出身地別・2つまで)



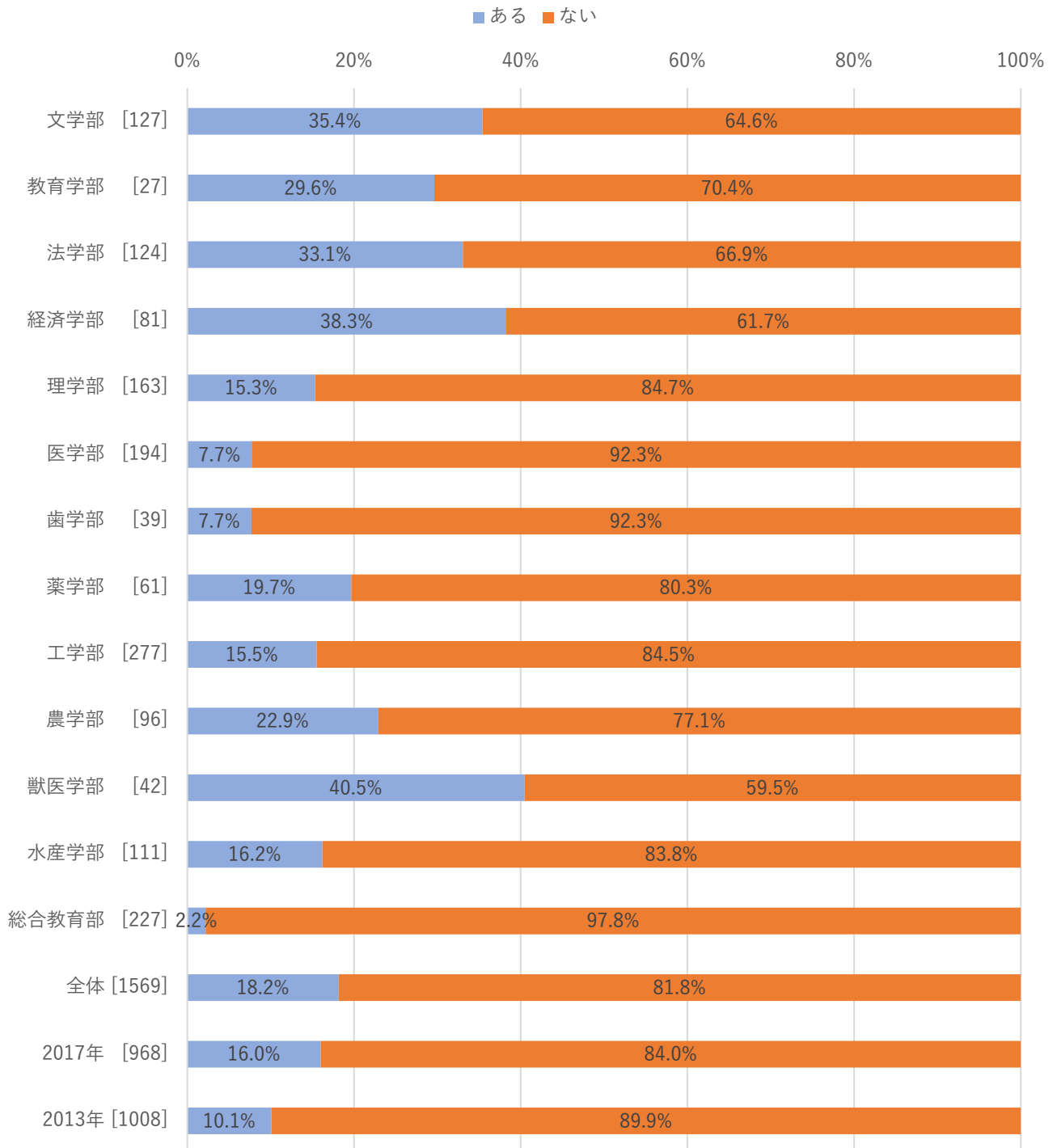
注1) 複数選択のため、割合の総和は100%を超える。

注2) [] は回答者数を示す。

インターンシップへの参加経験

- 全体の18.2%がインターンシップへの参加経験が「ある」と回答している。2013年調査（10.1%）、2017年調査（16.0%）と比べると増加傾向である。
- 学部別では、獣医学部、経済学部、文学部、法学部が参加経験の比率が高い。（※回答数が少ない学部等は参考程度）

■ インターンシップ参加経験（学部別）



注1) [] は回答者数を示す。

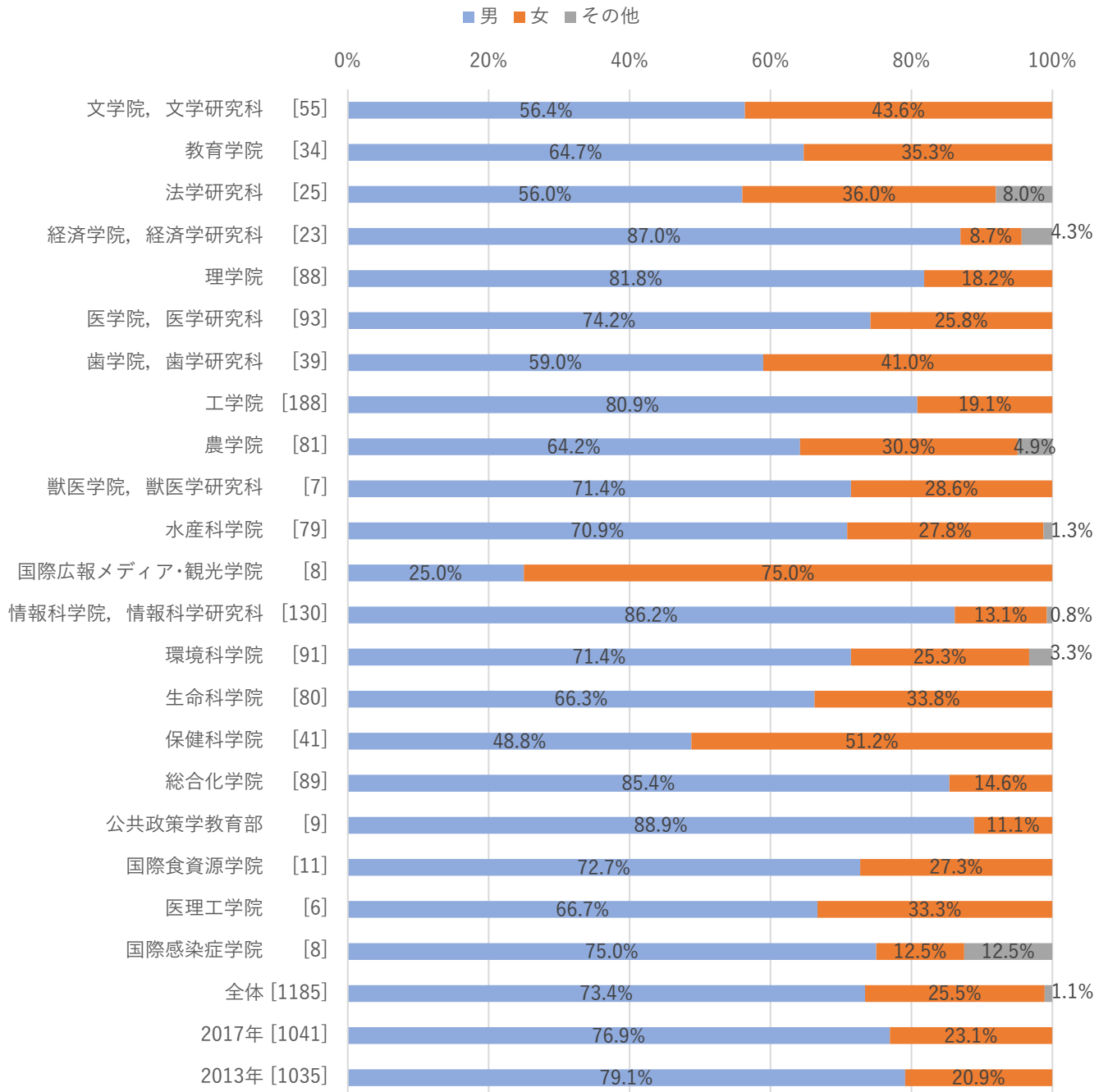
III 大学院学生編

A 回答者の基本的特徴

回答者の性別比

- 回答者のうち男子学生が全体の73.4%、女子学生が25.5%、その他の学生が1.1%を占めている。これは本学の在籍学生数における女子の割合29.3%（令和3年10月1日現在）とほぼ一致しており、サンプルとしては妥当である。
- 研究科等別の在籍学生数における性別比率では、各研究科ともほぼ研究科等の在籍者の比率に対応している。その中で経済学院、経済学研究科の回答者数の比率が在籍者比率（女子学生の比率が38.9%）より30ポイント程度少なく、また国際食資源学院の回答者数の比率が在籍者比率（女子学生の比率が58.0%）より31ポイント程度少ないのが目立つ程度である。

■ 回答者の性別比（研究科等別）



注1) 本報告書では、小数点第2位を四捨五入して表示しているため、必ずしも合計が100.0%になるとは限らない。

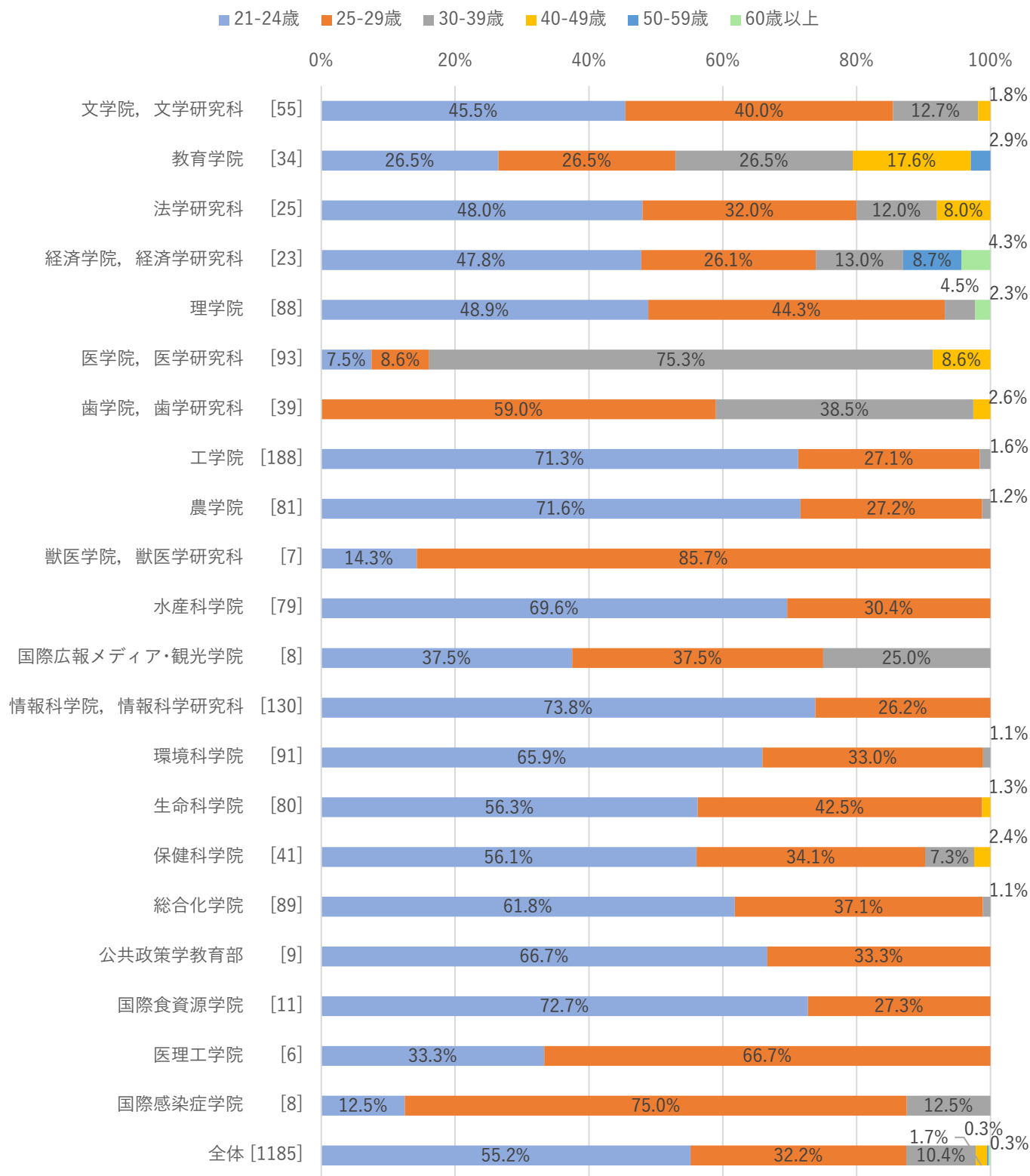
注2) 「その他」は、今回調査からの新選択肢である。

注3) [] は回答者数を示す。

年齢

- 年齢は、「21-24歳」が55.2%、「25-29歳」(32.2%)を合わせた20代が9割近く(87.4%)を占める。
- 研究科等別では、30代以上の割合が高いのが、医学院・医学研究科、教育学院、歯学院・歯学研究科、経済学院・経済学研究科、国際広報メディア・観光学院である。(※回答数が少ない研究科等は参考程度)

■ 年齢（研究科等別）



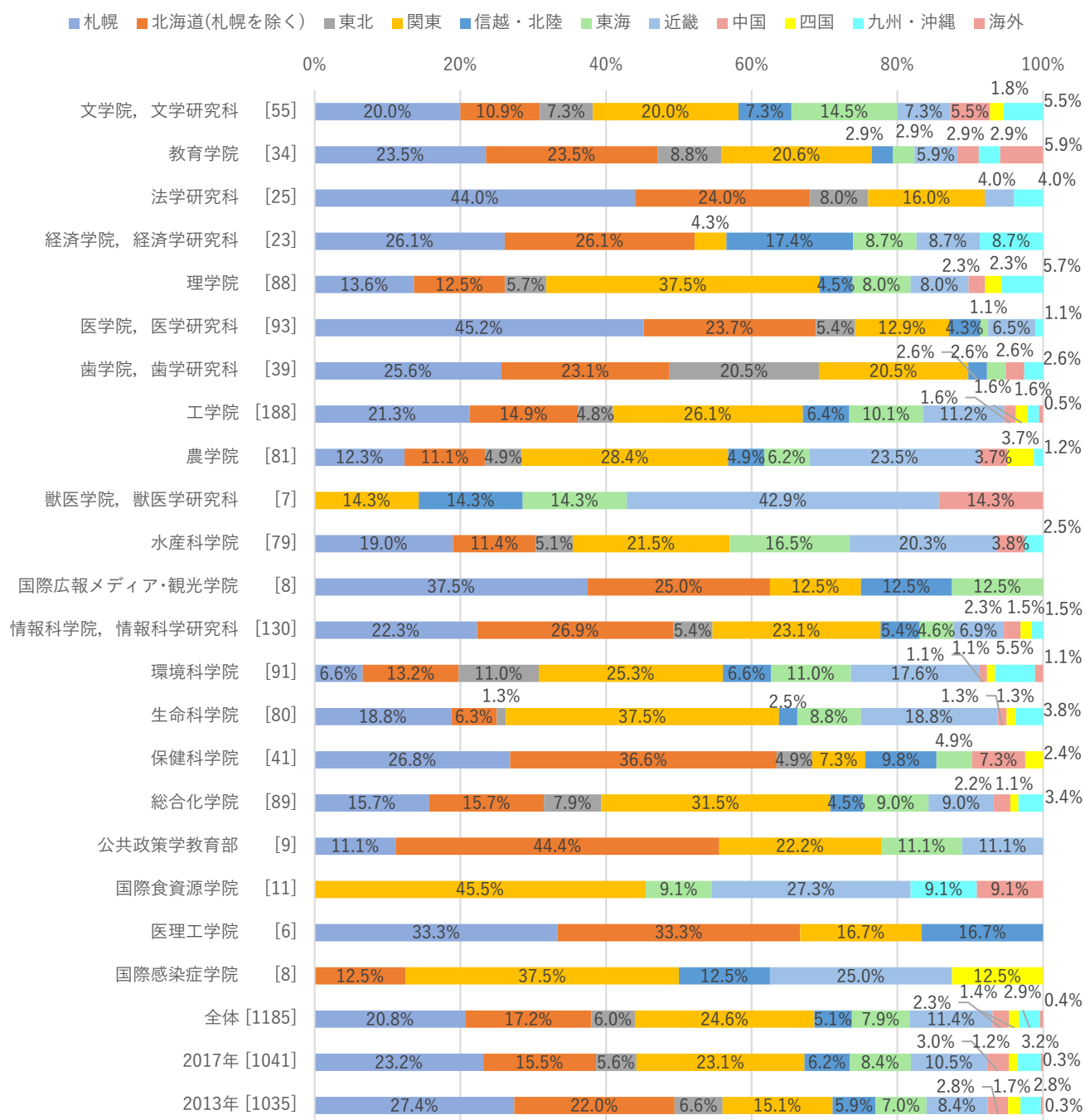
注1) [] は回答者数を示す。

B 家庭状況

出身地

- 札幌出身者の比率は、今回の調査が20.8%であり、2013年調査(27.4%)、2017年調査(23.2%)と比べると、減少傾向である。
- 札幌を含む道内出身者の割合は、今回の調査が38.0%であり、2013年調査(49.4%)、2017年調査(38.7%)と比べると、こちらも減少傾向である。
- 道内出身者に次いで多いのは、関東(24.6%)で2013年調査(15.1%)、2017年調査(23.1%)と比べると、増加傾向にある。
- 出身地が北海道以外の学生が多いのが、獣医学院・獣医学研究科、国際食資源学院、国際感染症学院、環境科学院、農学院である。
- 逆に、道内出身が多いのが、医学院・医学研究科、法学研究科、医理工学院、保健科学院である。(※回答数が少ない研究科等は参考程度)

■ 出身地 (研究科等別)

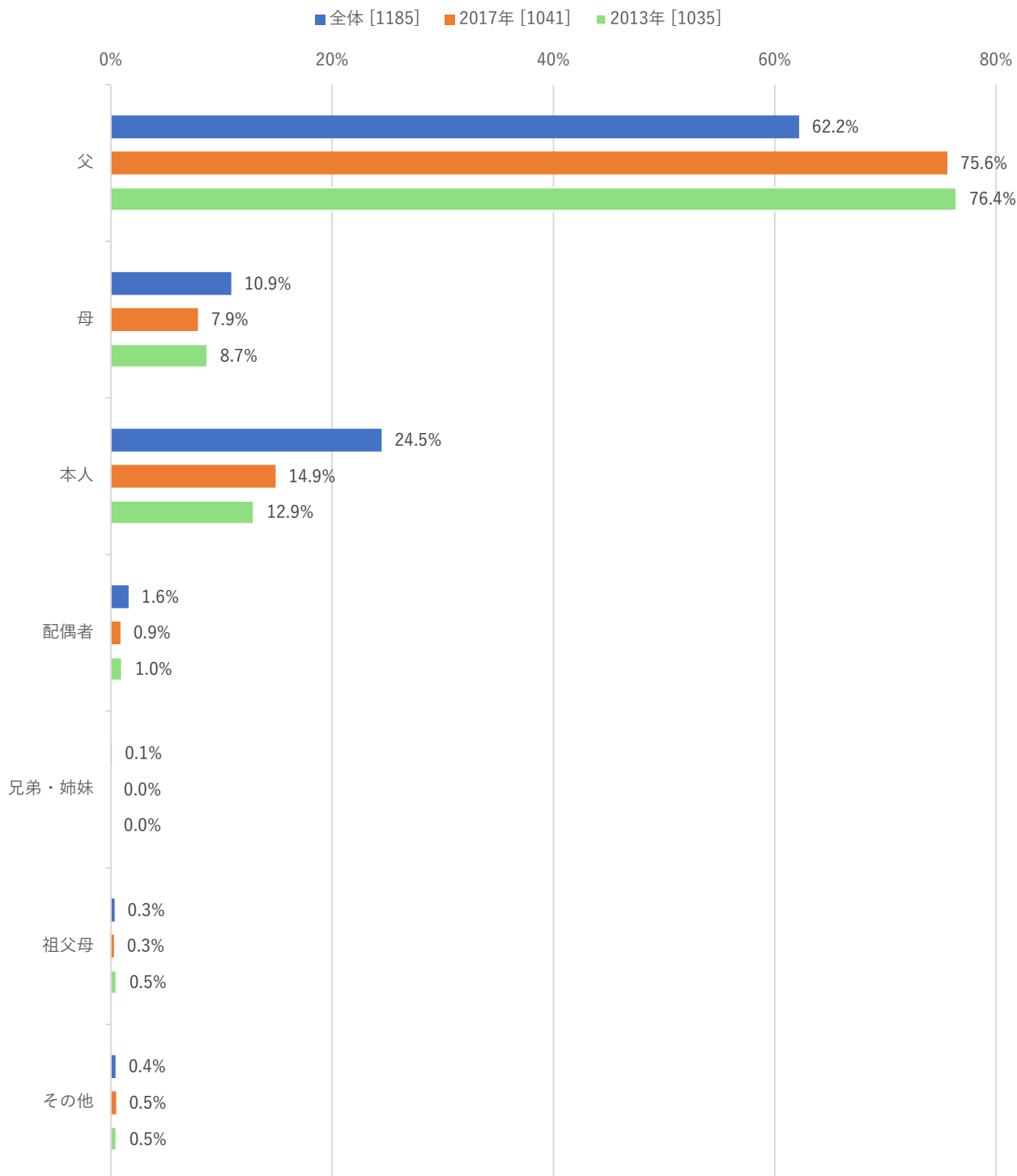


注1) [] は回答者数を示す。

主な家計支持者

- 主な家計支持者は、「父」（62.2%）が最も多く、「母」（10.9%）と合わせた「両親」が73.1%を占める。2013年調査（85.1%）、2017年調査（83.5%）と比べると、大きく減少した。一方「本人」が占める割合は24.5%であり、こちらは大きく増加した。

■ 主な家計支持者

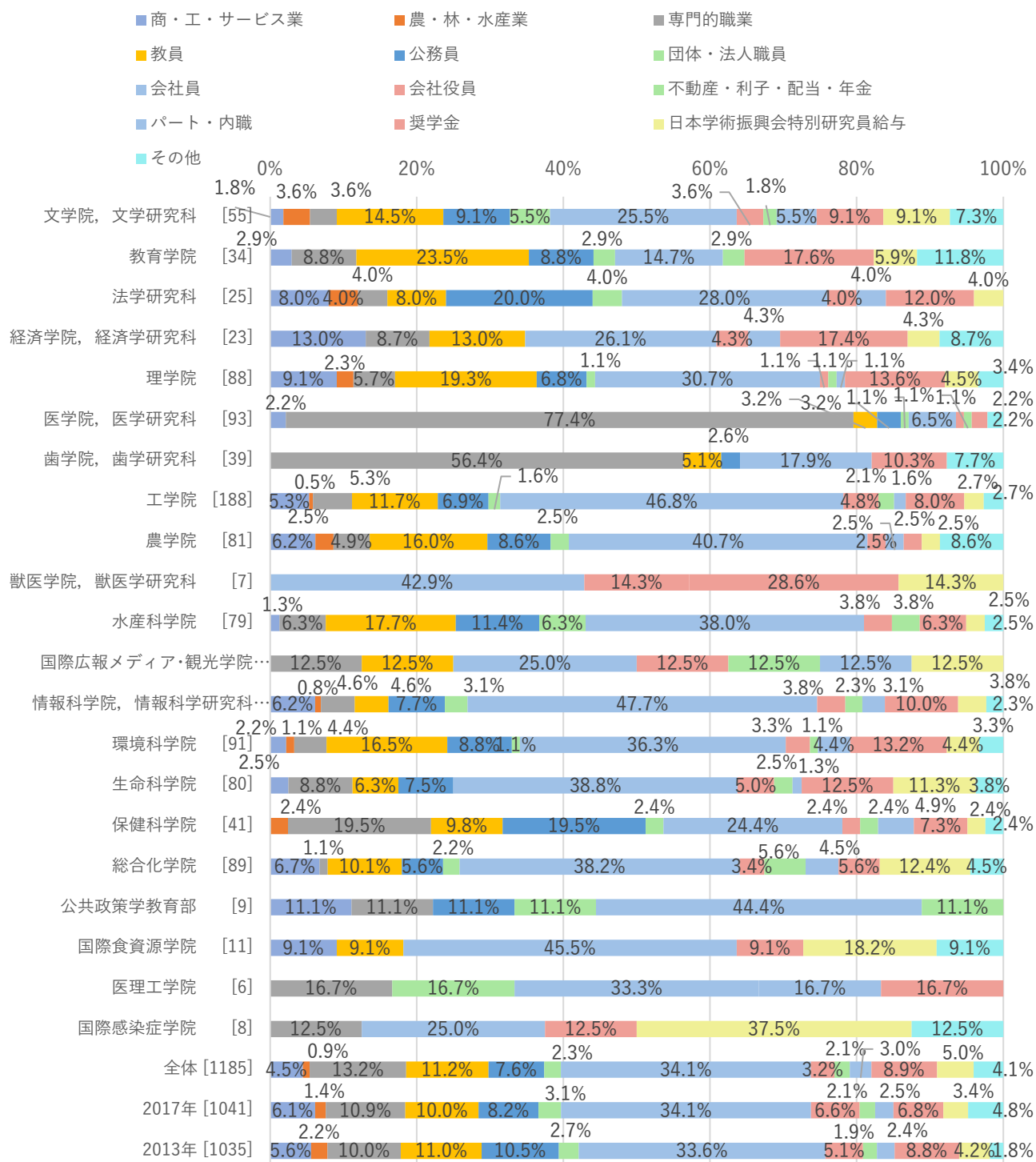


注1) [] は回答者数を示す。

家計支持者の職業

- 家計支持者の職業として、全体で最も比率が高いのは、「会社員」(34.1%)であり、2013年調査(33.6%)、2017年調査(34.1%)と毎回3分の1程度を占めている。
- 次いで高いのは「専門的職業」(13.2%)である。2013年調査(10.0%)、2017年調査(10.9%)と比べると、わずかに増加傾向である。3番目に高いのは「教員」(11.2%)である。
- 研究科等別では、医学院・医学研究科、歯学院・歯学研究科は「専門的職業」の比率が高いこと、教育学院は「教員」の比率が高いことが特徴的である。(※回答数が少ない研究科等は参考程度)

■ 家計支持者の職業（研究科等別）

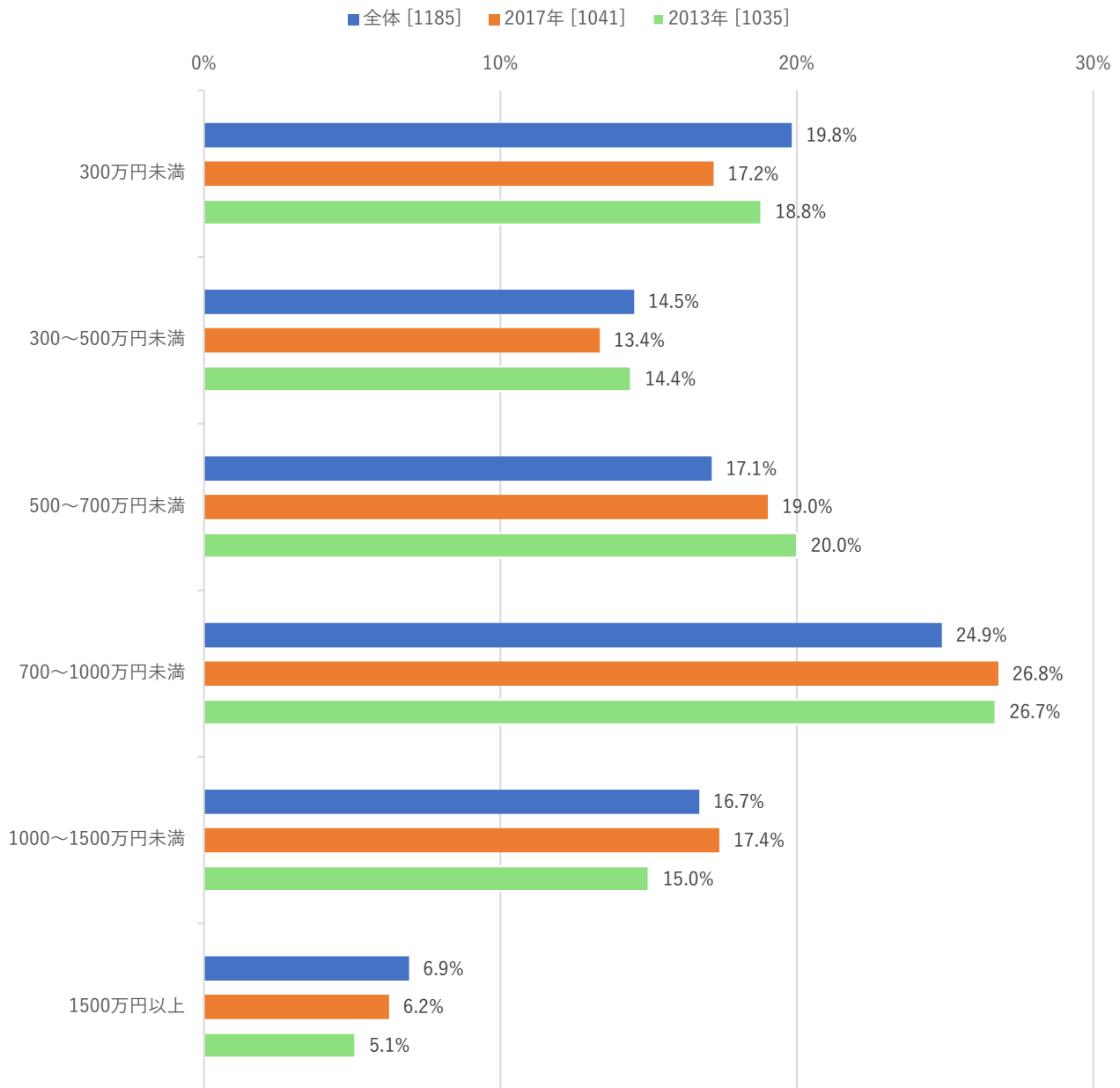


注1) [] は回答者数を示す。

家庭の年間収入

- 家庭の年間収入の階層分布図について、2013年と比べると、「300万円未満」、「300～500万円未満」、「1000～1500万円未満」、「1500万円以上」は増加し、「500～700万円未満」、「700～1000万円未満」は減少している。

■ 家庭の年間収入



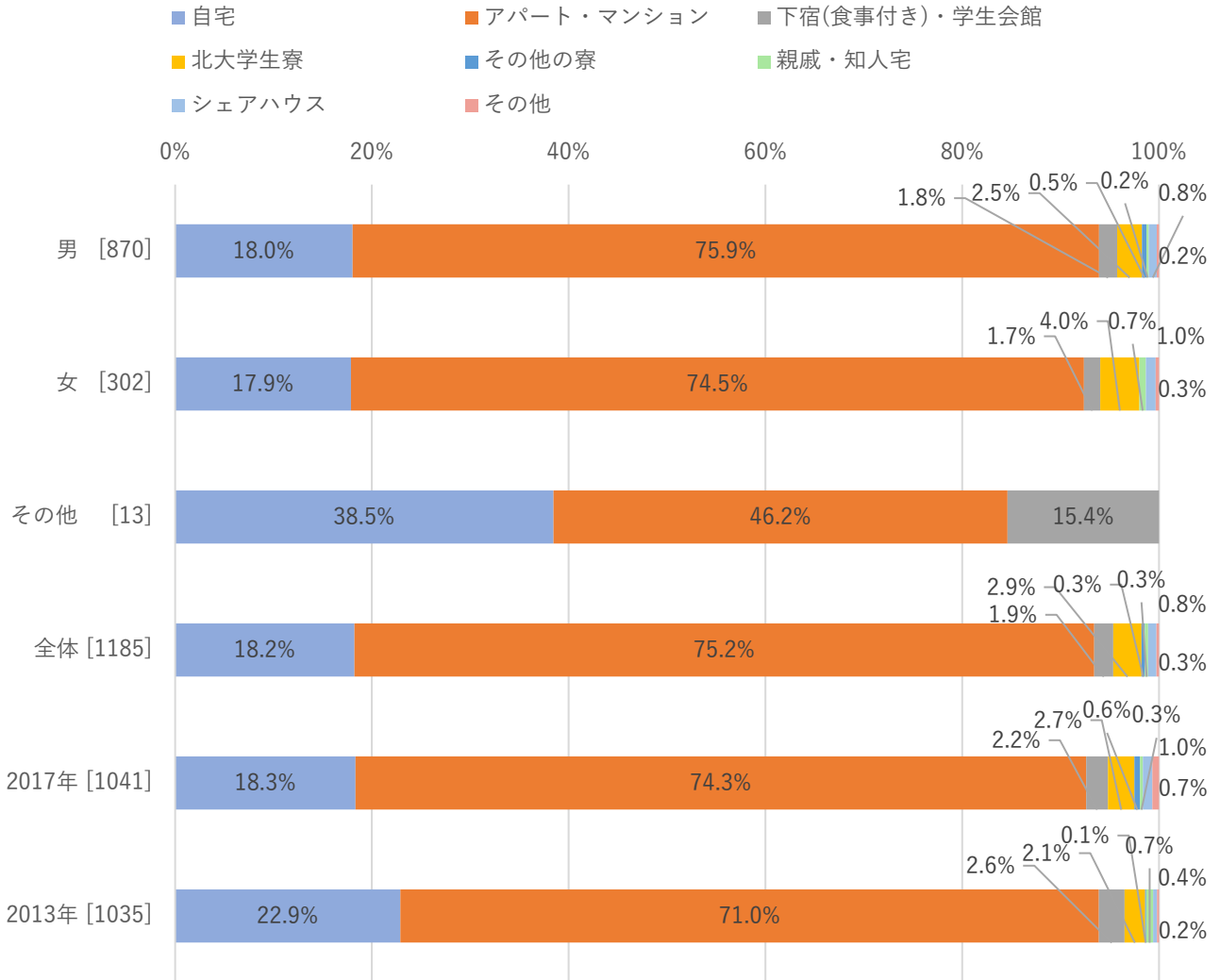
注1) [] は回答者数を示す。

C 住居・通学・食事の状況

住居形態

- 住居形態は、「アパート・マンション」(75.2%)が最も多い。2017年と比べると、「アパート・マンション」は増加、「自宅」はわずかに減少している。性別別においても、「アパート・マンション」が中心であるが、その他と回答した学生については、他の学生よりも「自宅」(38.5%)と「下宿(食事付き)・学生会館」(15.4%)が多い。

■ 住居形態 (性別別)



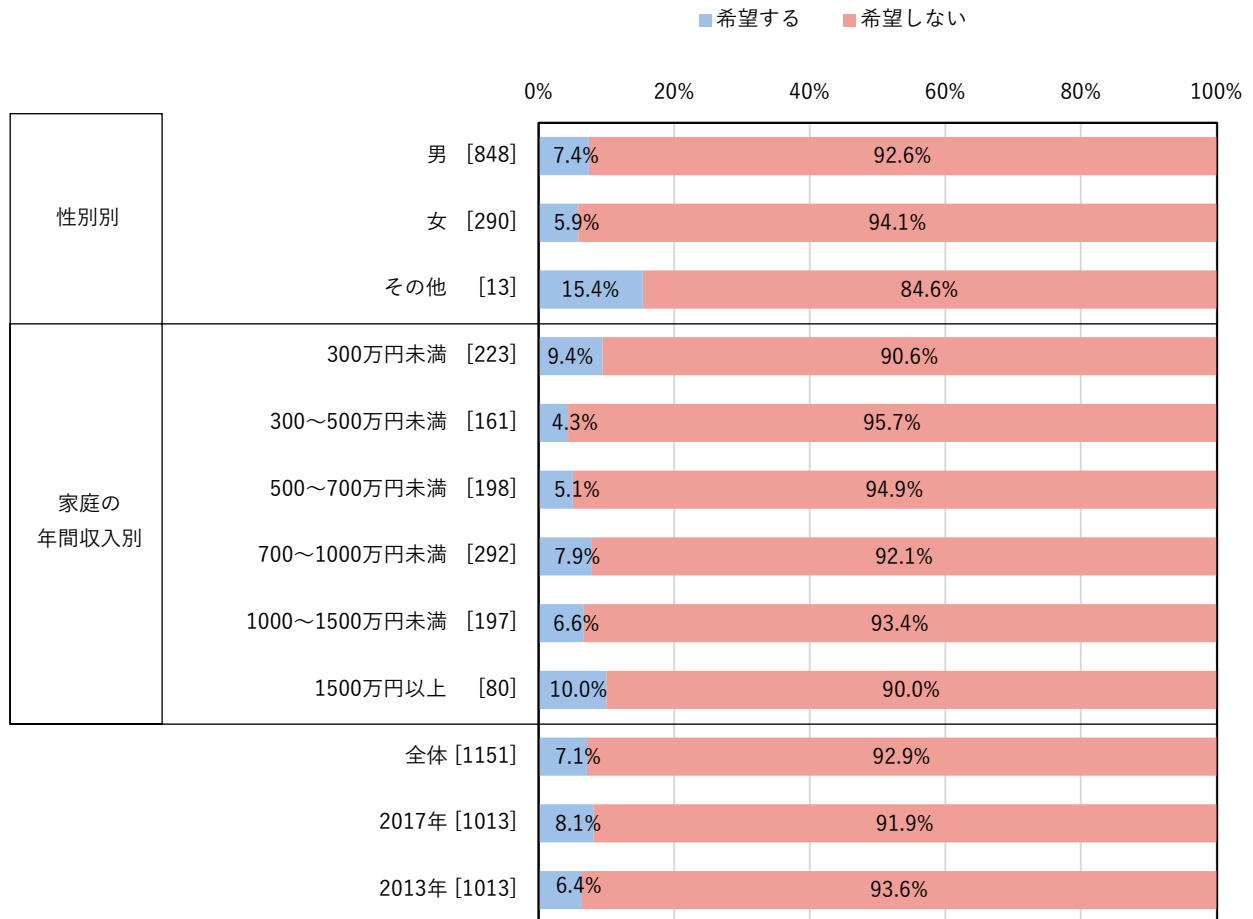
注1) [] は回答者数を示す。

学生寮入寮希望の有無とその理由

- 入寮希望の比率は7.1%であり、2013年調査(6.4%)、2017年(8.1%)と、横ばいの傾向にある。

■ 入寮希望者の割合(性別別/家庭の年間収入別)

※学生寮非入寮者ベース

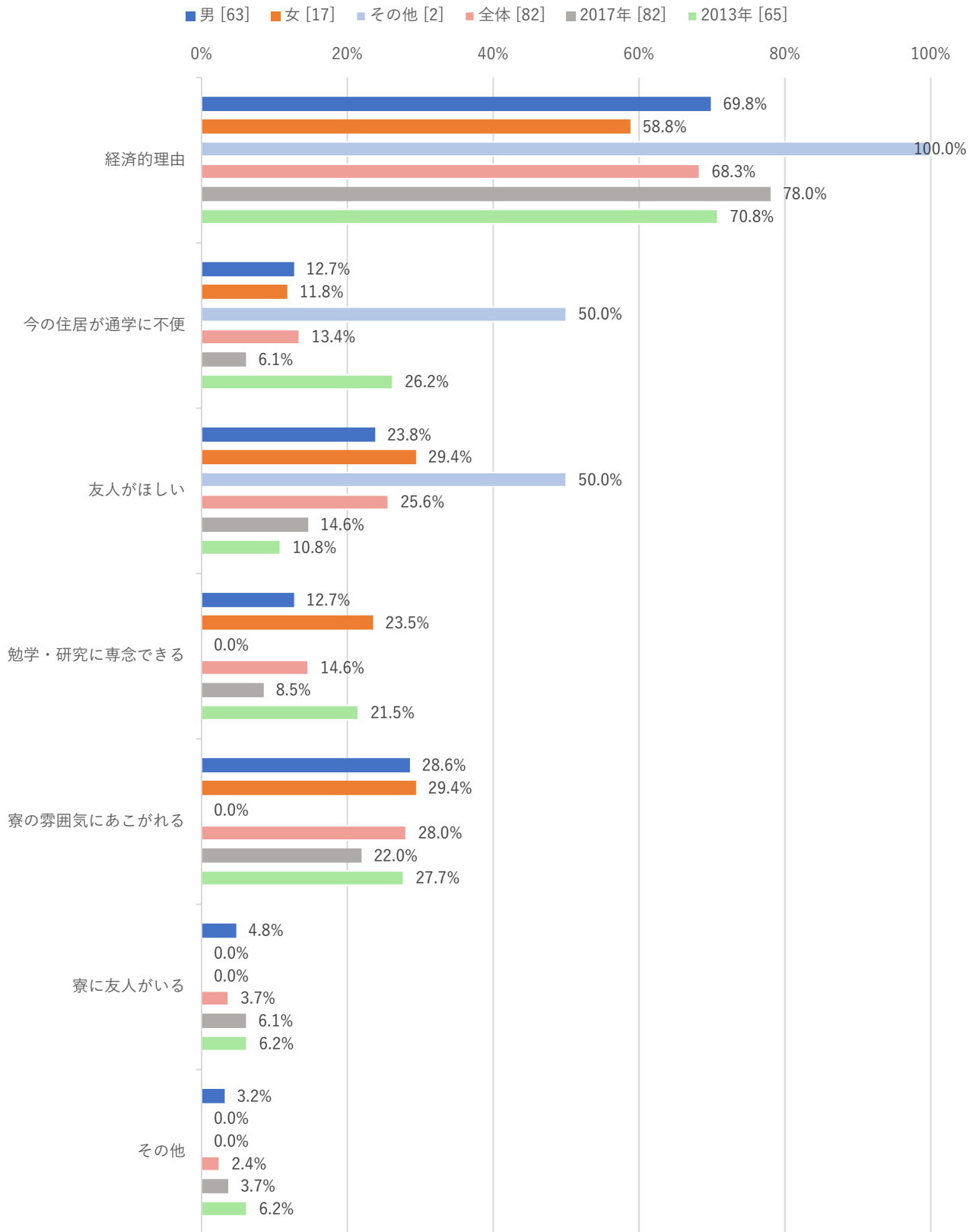


注1) [] は回答者数を示す。

■ 入寮を希望する理由（性別別・2つまで）

※学生寮入寮希望者ベース

- 入寮希望の理由は、「経済的理由」(68.3%)が多く、次いで「寮の雰囲気にあこがれる」(28.0%)である。「経済的理由」の比率は減少している。また、女子は「勉学・研究に専念できる」(23.5%)が多い。



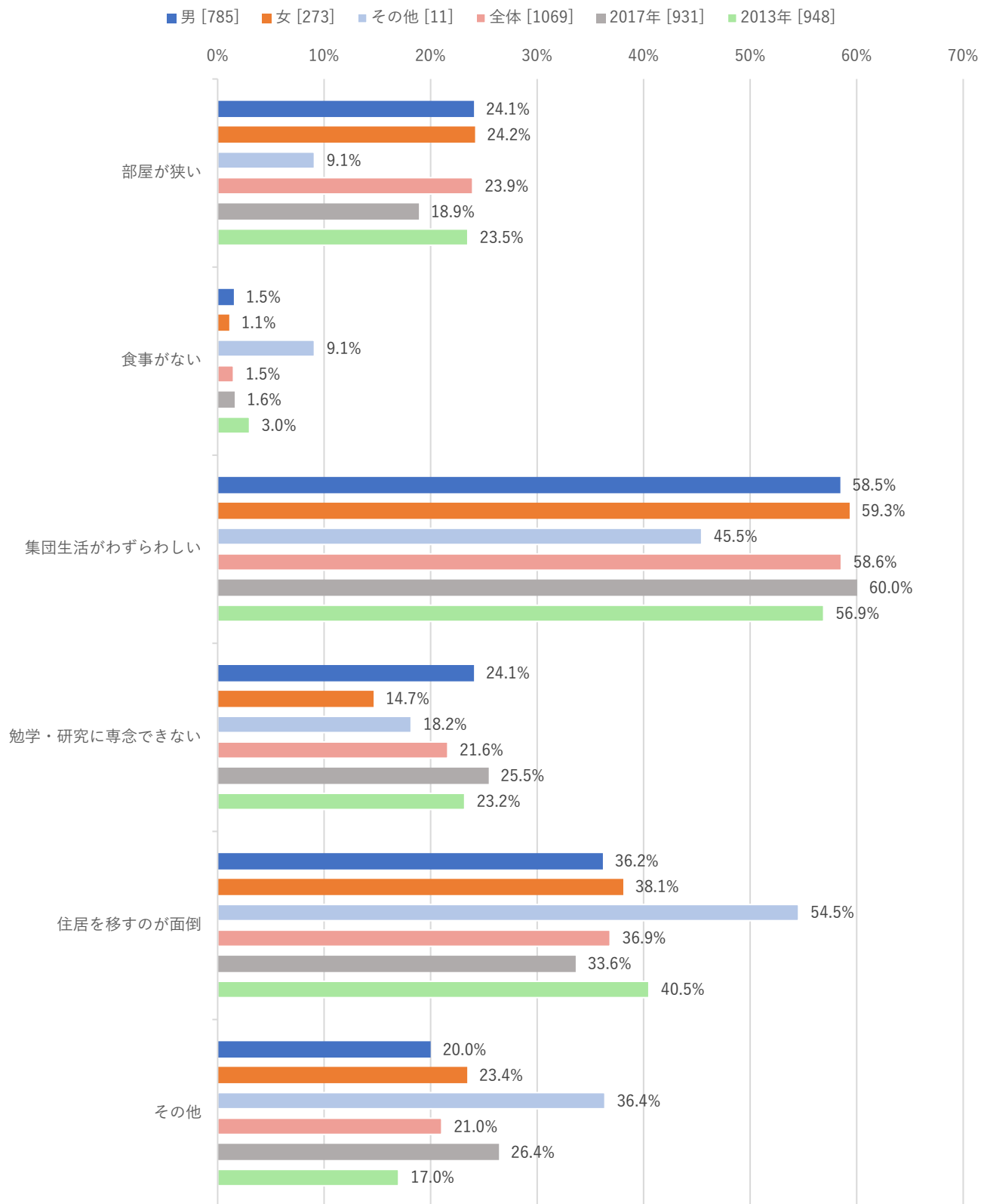
注1) [] は回答者数を示す。

学生寮入寮希望の有無とその理由（つづき）

※入寮非希望者ベース

- 入寮を希望しない理由は、「集団生活がわずらわしい」(58.6%)が最も多く、次いで「住居を移すのが面倒」(36.9%)となっている。

■ 入寮を希望しない理由（性別別・2つまで）

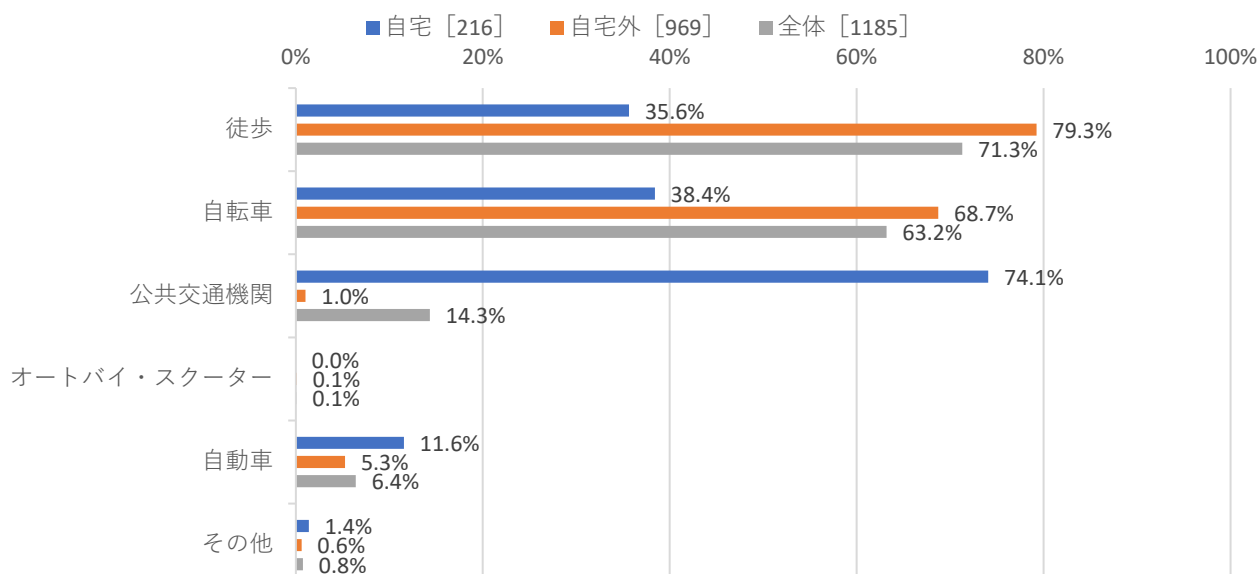


注1) [] は回答者数を示す。

通学方法と通学時間

- 通学方法は、自宅通学者の「公共交通機関」を利用している割合が74.3%と最も多い。
- 自宅外通学者は、「徒歩」(79.3%)、「自転車」(68.7%)が多い。

■ 通学方法 (2つまで)

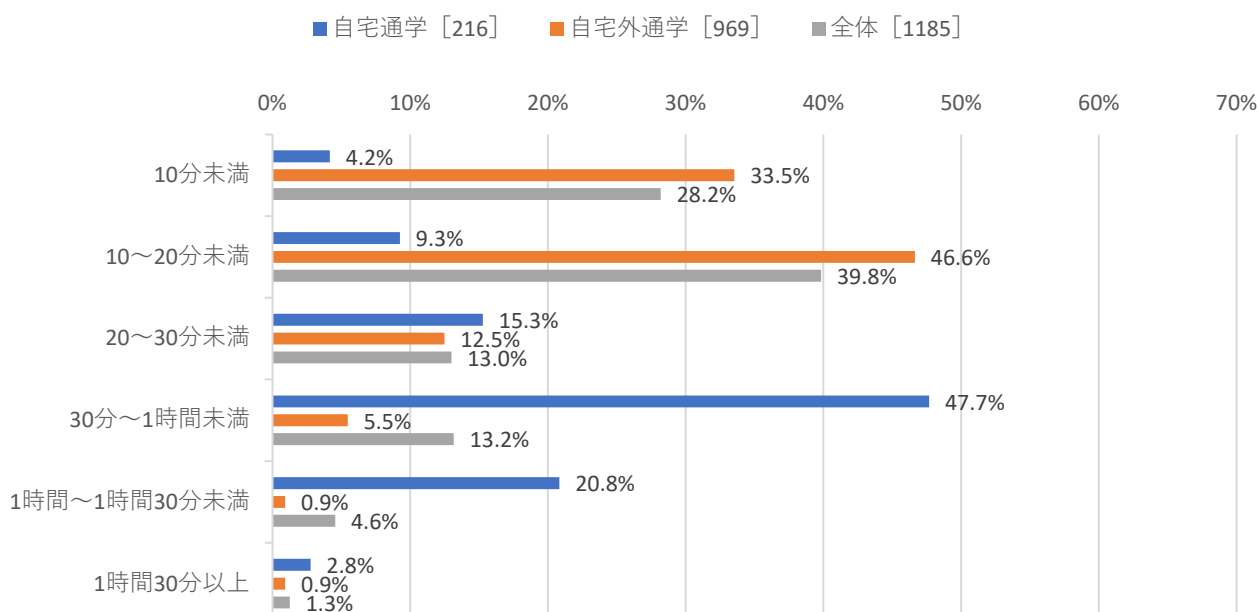


注1) 「自宅外通学」は、住居種別設問に「アパート・マンション」、「下宿(食事付き)・学生会館」、「北大学生寮」、「その他の寮」、「親戚・知人宅」、「シェアハウス」、「その他」と回答した学生を示す。

注2) [] は回答者数を示す。

- 通学時間は、自宅通学者は「30分～1時間未満」が47.7%と最も多い。
- 自宅外通学者は「10分～20分未満」が46.6%、「10分未満」が33.5%であり、8割近くの自宅外通学者は、20分圏内に住んでいる。

■ 通学時間



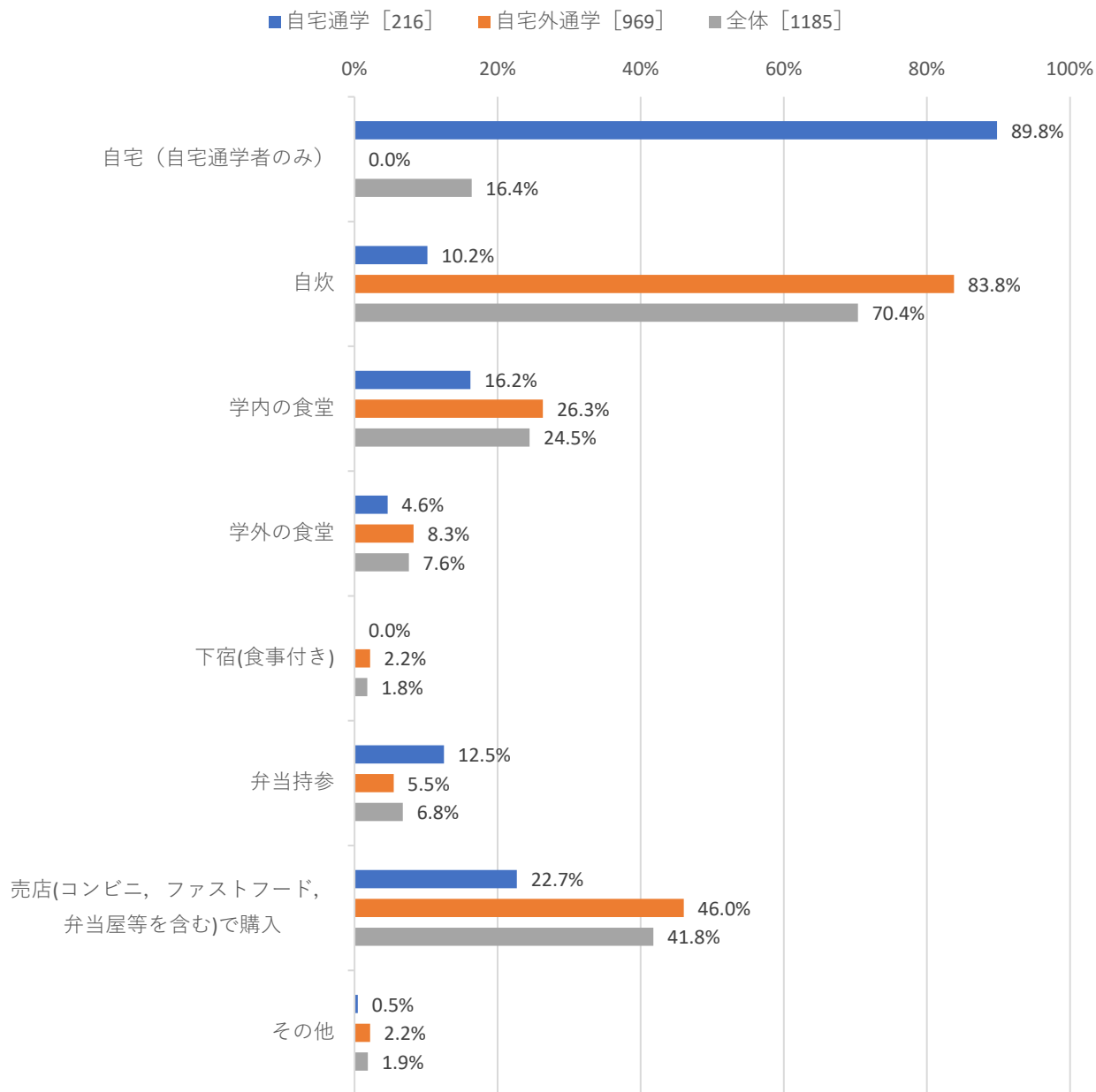
注1) 「自宅外通学」は、住居種別設問に「アパート・マンション」、「下宿(食事付き)・学生会館」、「北大学生寮」、「その他の寮」、「親戚・知人宅」、「シェアハウス」、「その他」と回答した学生を示す。

注2) [] は回答者数を示す。

食事

- 食事は、自宅通学者は「自宅（自宅通学者のみ）」が89.8%である。
- 自宅外通学者は「自炊」が83.8%と8割を超える。次いで、「売店」（46.0%）や「学内の食堂」（26.3%）が多くなっている。

■ 食事（2つまで）



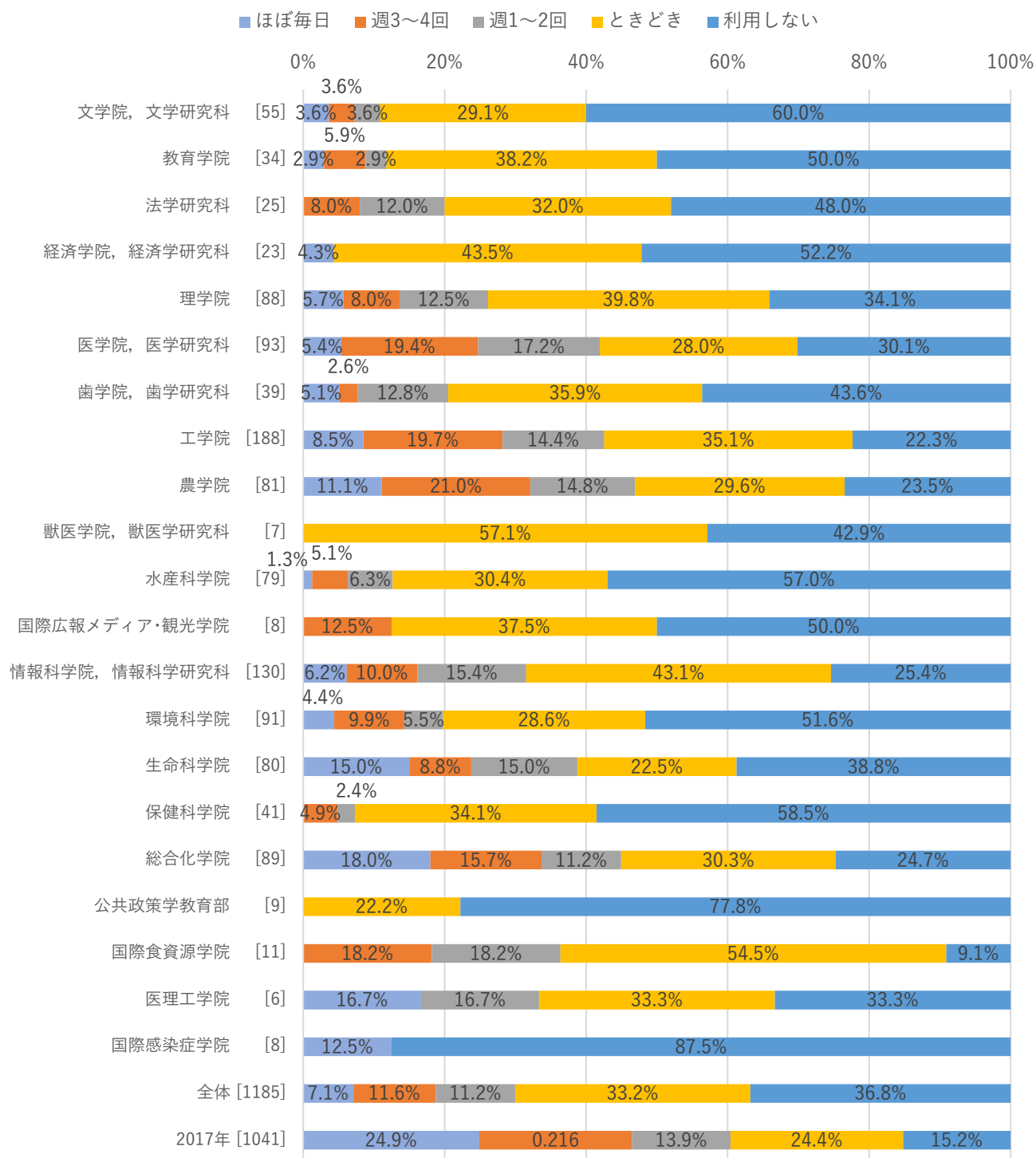
注1) 「自宅外通学」は、住居種別設問に「アパート・マンション」、「下宿（食事付き）・学生会館」、「北大学生寮」、「その他の寮」、「親戚・知人宅」、「シェアハウス」、「その他」と回答した学生を示す。

注2) [] は回答者数を示す。

学食の利用頻度

- 学食の利用頻度は、「利用しない」(36.8%)と「ときどき」(33.2%)が、それぞれ全体の3分の1を占めている。一方、「ほぼ毎日」利用する学生は7.1%と1割に満たない。
- 学食の利用頻度は、2017年調査に比べて、全体的に大きく減少した。
- 研究科等別では、学食を「ほぼ毎日」利用している割合が高いのは、総合化学院(18.0%)、医理工学院(16.7%)、生命科学院(15.0%)である。一方、学食を「利用しない」割合が高いのは、国際感染症学院(87.5%)、公共政策学教育部(77.8%)であった。(※回答数が少ない研究科等は参考程度)

■ 学食の利用頻度(研究科等別)



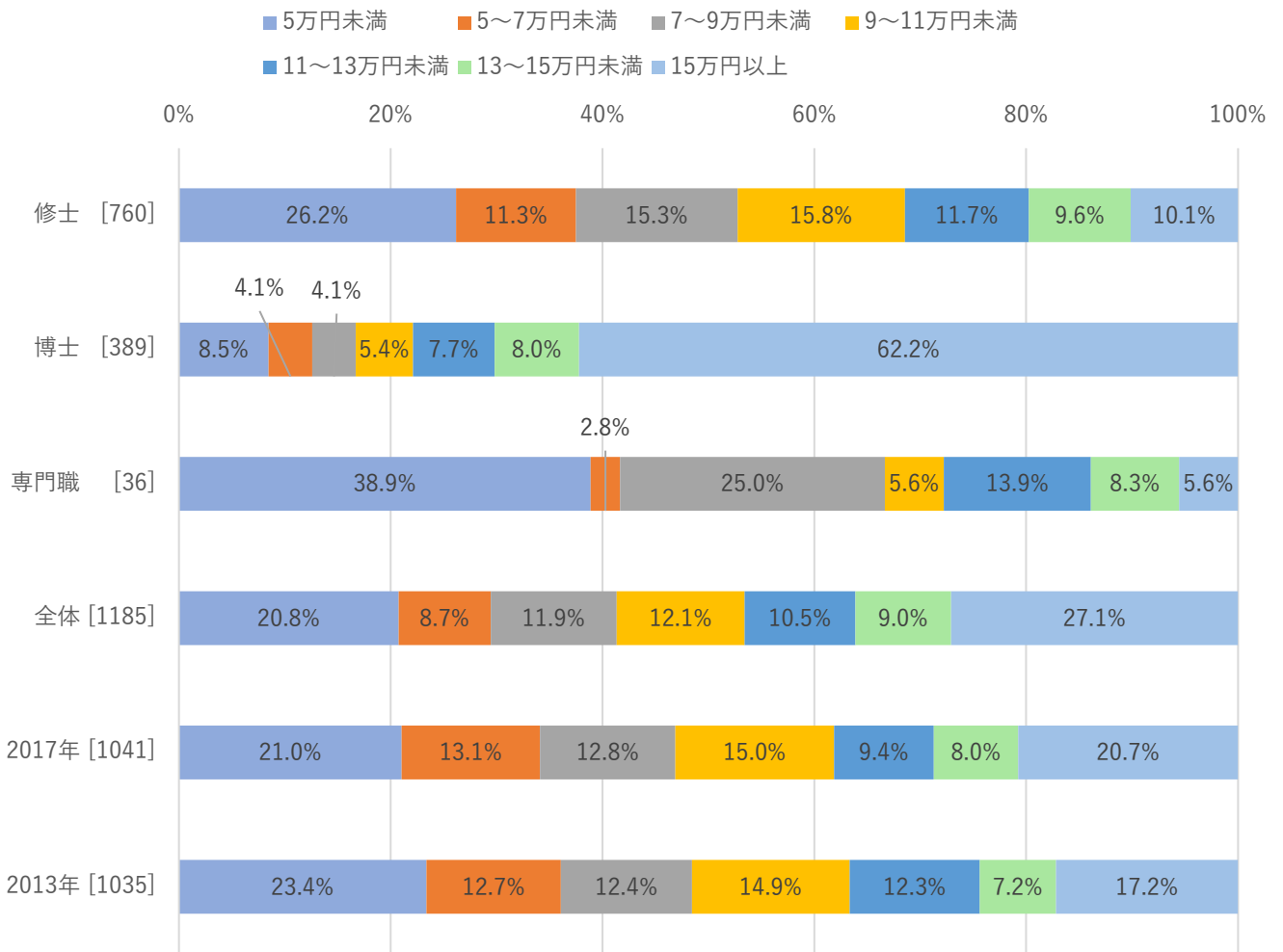
注1) [] は回答者数を示す。

D 収入と支出の状況

月間収入額の分布（課程別）

- 月間収入額の分布は、「5万円未満」が20.8%、「15万円以上」が27.1%で、2017年と比べると、「5万円未満」が減少傾向、「15万円以上」が増加傾向を示した。
- 修士課程、博士（後期）課程、専門職学位課程では収入額の分布が大きく異なる。博士は「15万円以上」が62.2%、専門職は「5万円未満」が38.9%を占めている。

■ 月間収入額の分布（課程別）

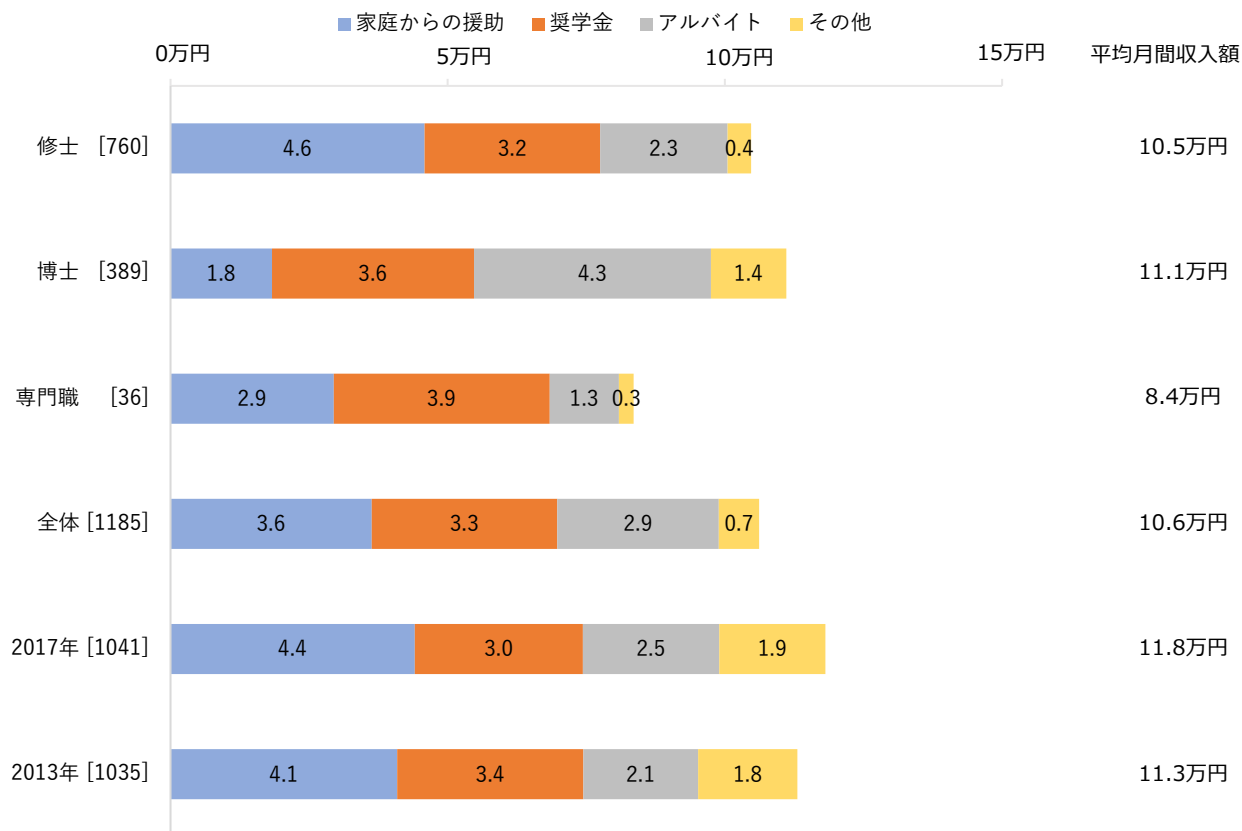


注1) [] は回答者数を示す。

収入の内訳（課程別）

- 平均月間収入額は10.6万円です、2017年調査（11.8万円）と比べると、減少している。
- 今回調査から、金額の選択肢と回答項目を変更したため、解釈には注意が必要である。

■ 月間収入の内訳（課程別）

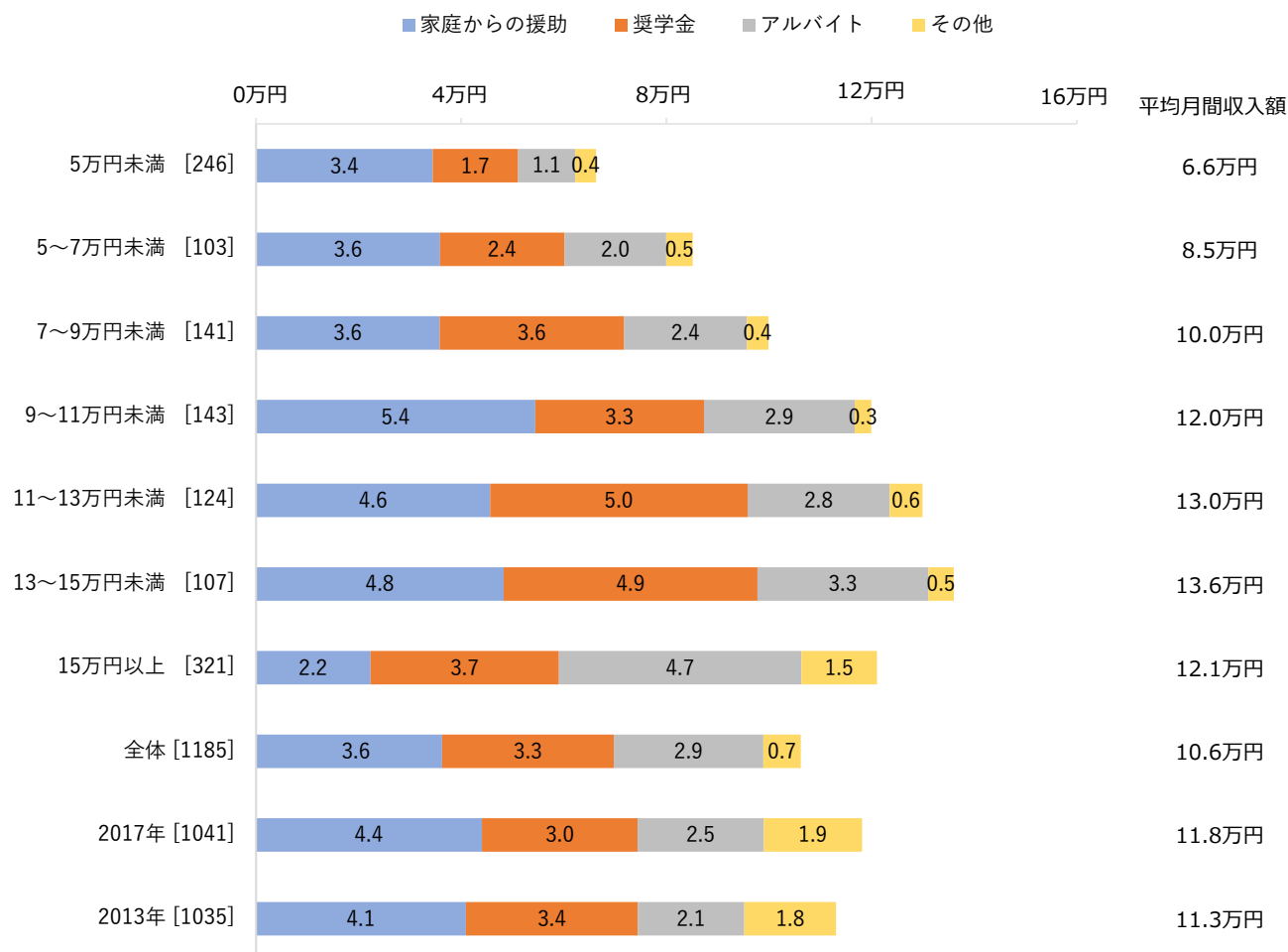


- 注1) 今回調査から、「9～11万円未満」「11～13万円未満」「13～15万円未満」「15万円以上」の選択肢を廃し、収入源ごとに「5千円未満」「5千～1万円未満」「1～3万円未満」「3～5万円未満」「5～7万円未満」「7～9万円未満」「9万円以上」で回答する選択肢とした。
- 注2) 今回調査から、「預貯金切り崩し」の設問を廃した。グラフ上、2017年と2013年調査の結果は、「預貯金切り崩し」を「その他」に合算して記している。
- 注3) 金額の回答は選択式で、平均月間収入額は中央値を用いて計算した。
例：3～5万円未満の場合は4万円、5千円未満は2,500円、9万円以上は10万円として計算し、それらの合算値を月間収入とした。
- 注4) 千円未満を四捨五入しているため、収入内訳の合計額と「平均月間収入額」が一致しない場合がある。
- 注5) [] は回答者数を示す。

収入の内訳（月間収入額別）

- 月間収入が7万円未満と9万円～15万円未満を比較すると、9万円～15万円未満は「家庭からの援助」の金額が高い。15万円以上では「アルバイト」の収入が増えて「家庭からの援助」が減っている。ただし、月間収入分布が3つの課程の平均であることを注意が必要である。
- 今回調査から、金額の選択肢と回答項目を変更したため、解釈には注意が必要である。

■ 月間収入の内訳（月間収入額別）

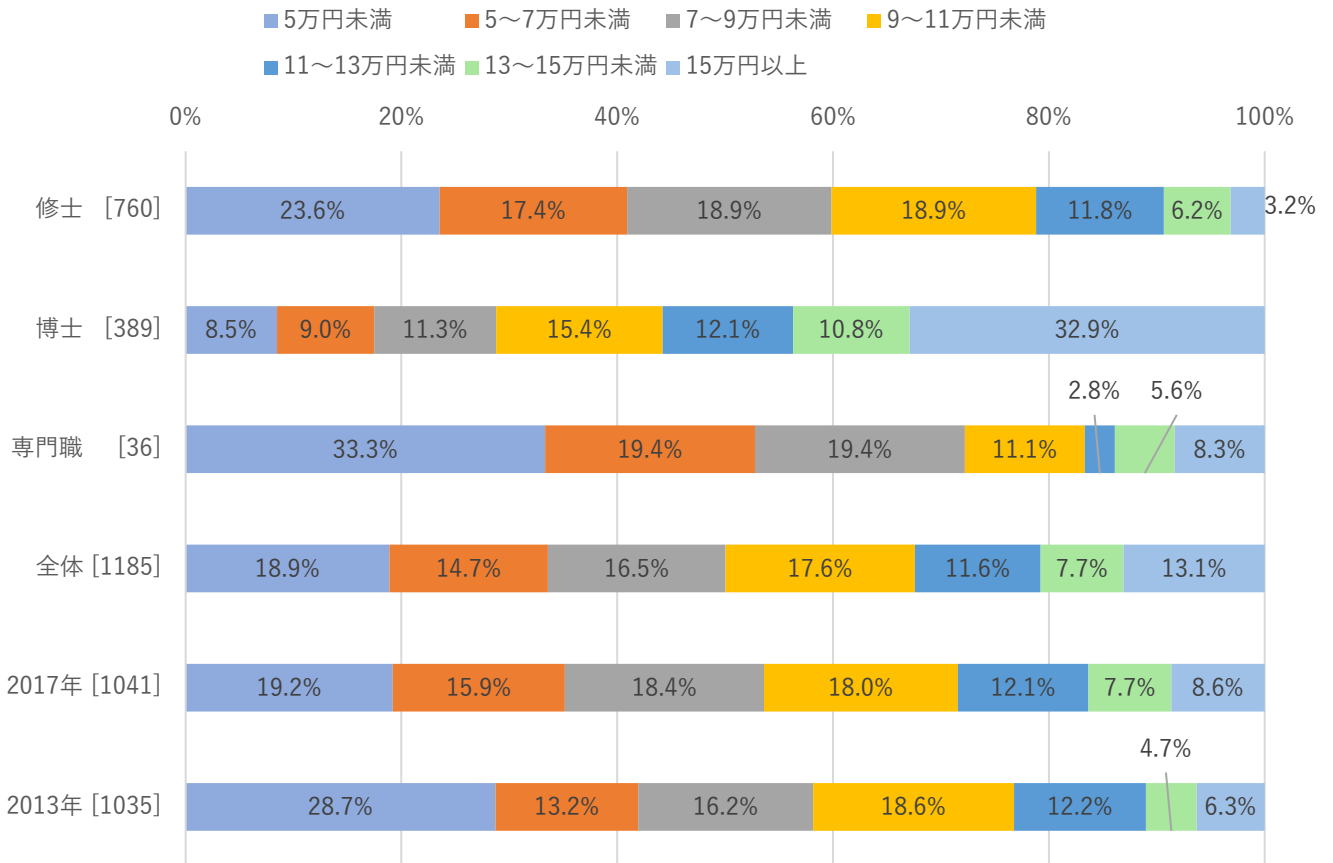


- 注1) 今回調査から、「9～11万円未満」「11～13万円未満」「13～15万円未満」「15万円以上」の選択肢を廃し、収入源ごとに「5千円未満」「5千～1万円未満」「1～3万円未満」「3～5万円未満」「5～7万円未満」「7～9万円未満」「9万円以上」で回答する選択肢とした。
- 注2) 今回調査から、「預貯金切り崩し」の設問を廃した。グラフ上、2017年と2013年調査の結果は、「預貯金切り崩し」を「その他」に合算して記している。
- 注3) 金額の回答は選択式で、平均月間収入額は中央値を用いて計算した。
例：3～5万円未満の場合は4万円、5千円未満は2,500円、9万円以上は10万円として計算し、それらの合算値を月間収入とした。
- 注4) 千円未満を四捨五入しているため、収入内訳の合計額と「平均月間収入額」が一致しない場合がある。
- 注5) [] は回答者数を示す。

月間支出額の分布（課程別）

- 収入と同様、支出においてもその金額分布は修士課程、博士（後期）課程、専門職学位課程で大きく異なる。「5万円未満」の階層は、修士課程と専門職学位課程で20～35%を占めるが、博士（後期）課程は8.5%とその約半分以下である。一方で「15万円以上」は、博士（後期）課程は32.9%を占めるが、修士課程は3.2%、専門職学位課程は8.3%である。
- 月間支出額の分布を全体でみると、2017年と比べると、「5万円未満」（18.9%）がわずかに減少し、15万円以上が増加している。

■ 月間支出額の分布（課程別）

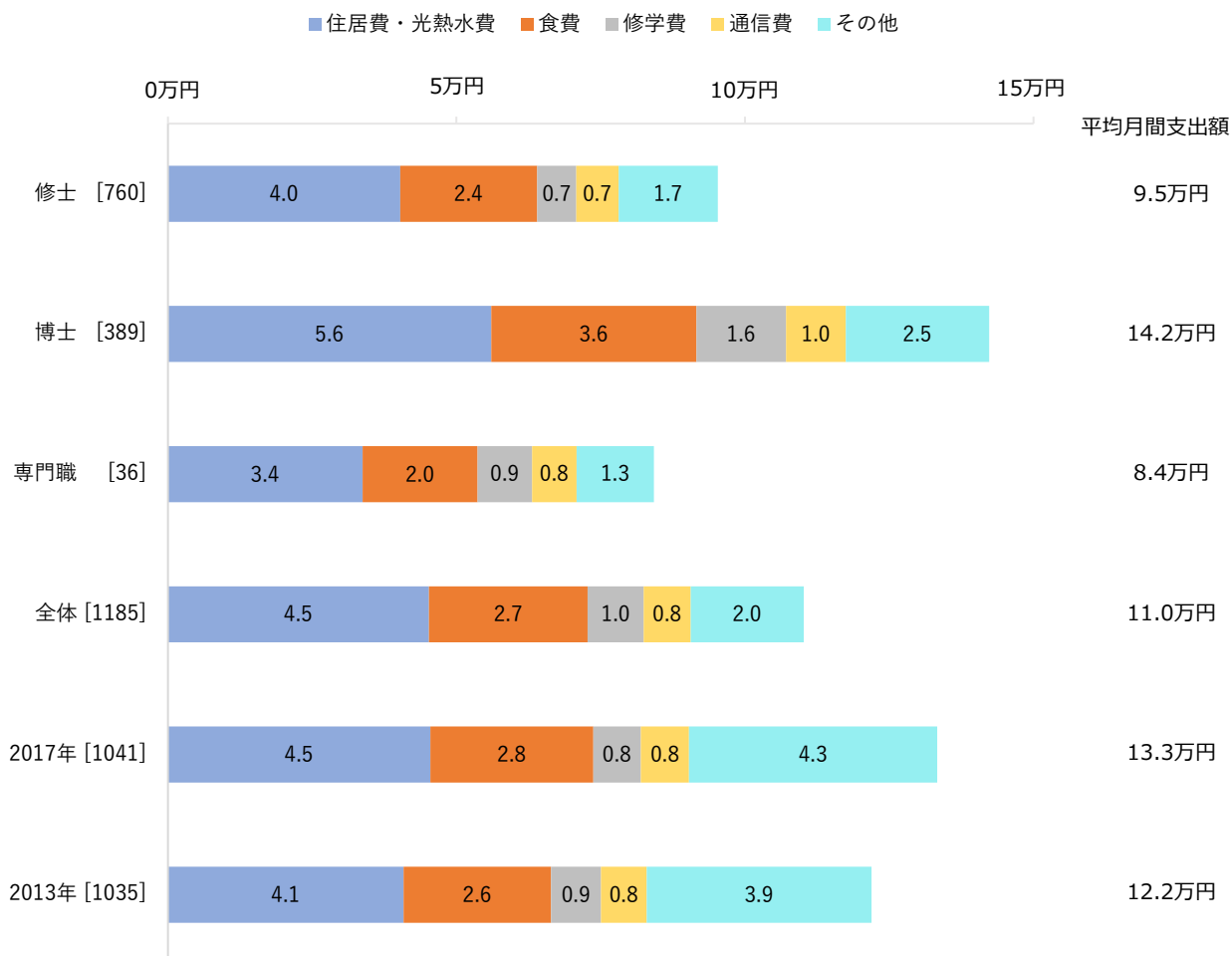


注1) [] は回答者数を示す。

支出の内訳（課程別）

- 課程別に比較すると、博士（後期）課程の支出額が最も大きく、次いで修士、専門職の順番である。特に博士（後期）課程の支出額が大きいのは「住居費・光熱水費」「食費」である。
- 今回調査から、金額の選択肢と回答項目を変更したため、解釈には注意が必要である。

■ 月間支出額の分布（課程別）

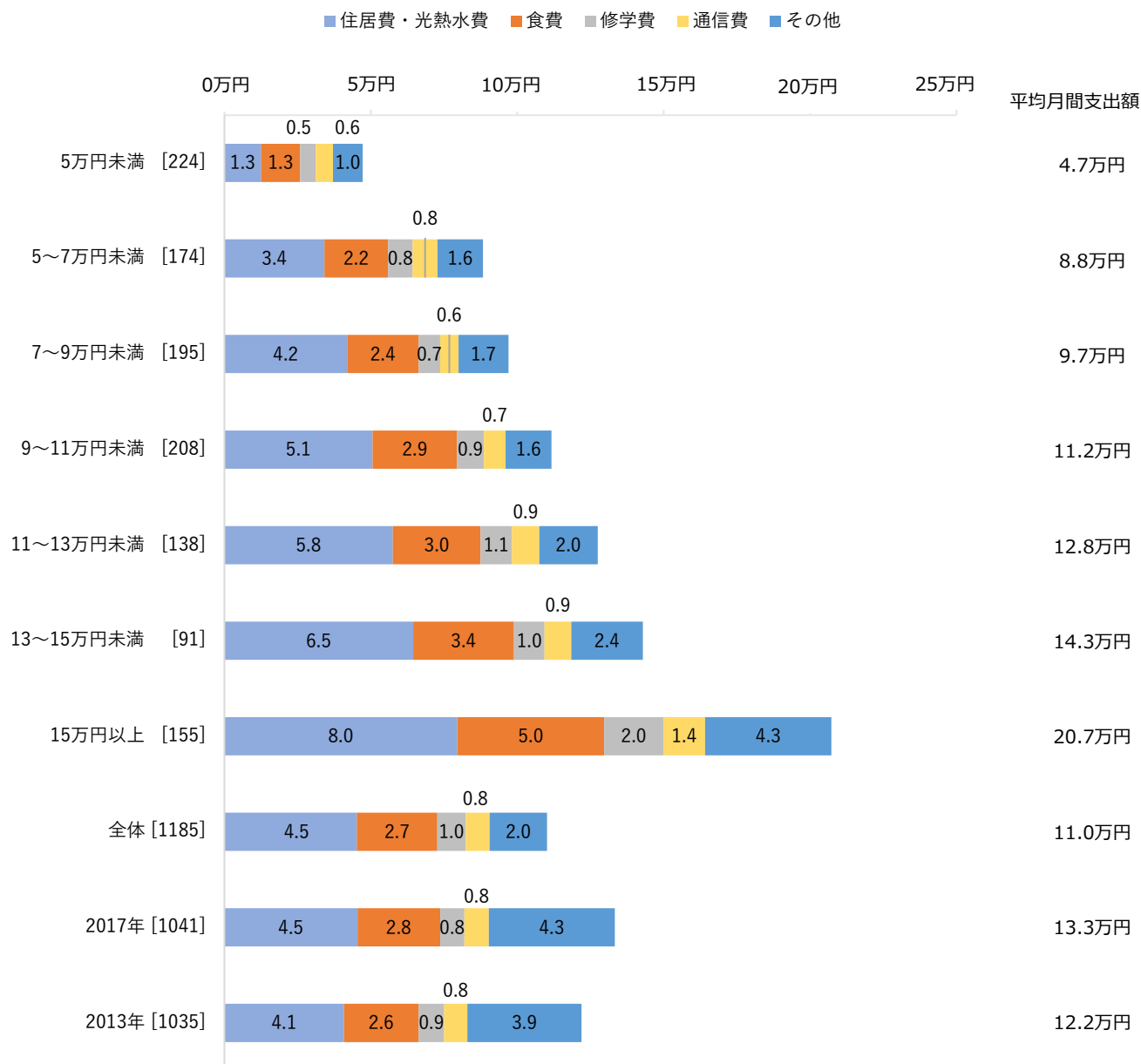


- 注 1) 今回調査から、「9～11万円未満」「11～13万円未満」「13～15万円未満」「15万円以上」の選択肢を廃し、支出項目ごとに「5千円未満」「5千～1万円未満」「1～3万円未満」「3～5万円未満」「5～7万円未満」「7～9万円未満」「9万円以上」で回答する選択肢とした。
- 注 2) 今回調査から、「教養・娯楽費」「衣料費」「交通費」の設問を廃した。グラフ上、2017年と2013年調査の結果は、それらを「その他」に合算して記している。
- 注 3) 金額は選択式で、平均月間支出額は中央値を用いて計算した。
例：3～5万円未満の場合は4万円、5千円未満は2,500円、15万円以上は16万円として計算し、それらの合算値を月間支出額とした。
- 注 4) 千円未満を四捨五入しているため、支出の内訳の合計額と「平均月間支出額」が一致しない場合がある。
- 注 5) [] は回答者数を示す。

支出の内訳（月間支出額別）

- 月間支出額が大きくなるに従って、支出内訳の比率が大きな「住居費・光熱水費」と「食費」の金額が大きくなる。ただし、経済的状況が大きく異なる3つの課程を区別しない統計であることに注意が必要である。
- 今回調査から、金額の選択肢と回答項目を変更したため、解釈には注意が必要である。

■ 月間支出の内訳（月間支出額別）

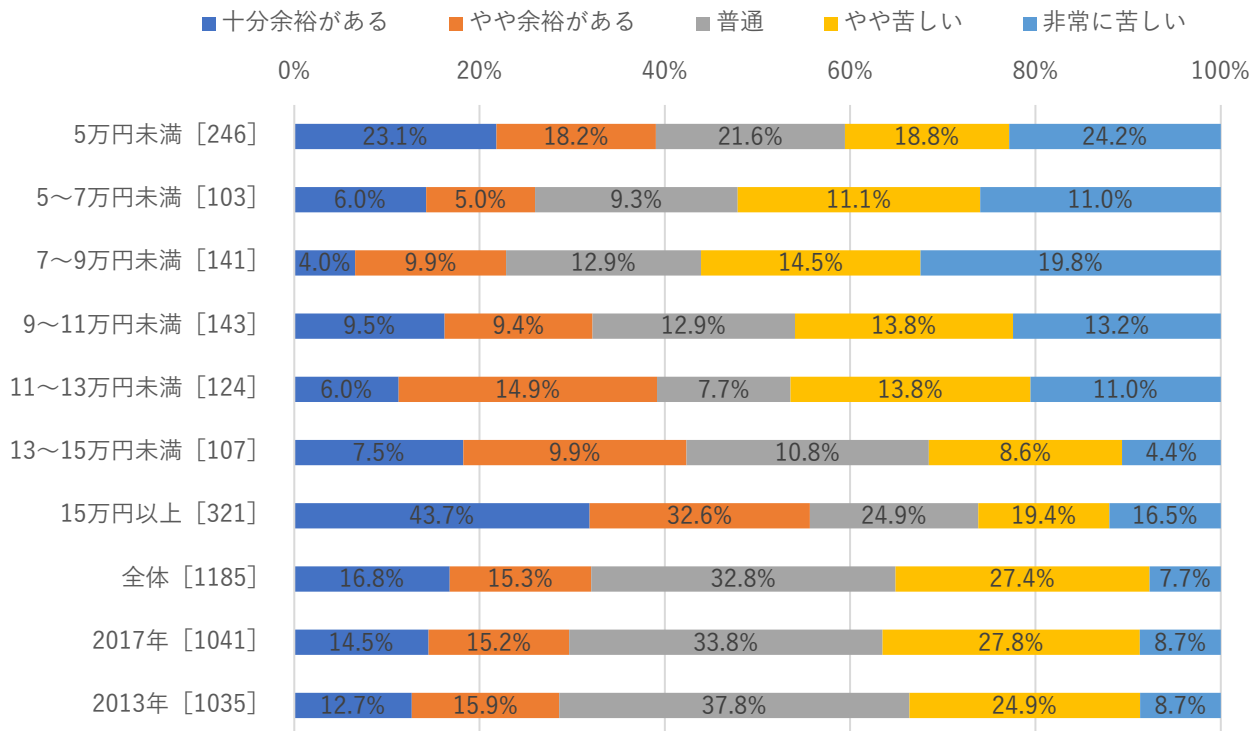


- 注 1) 今回調査から、「9～11万円未満」「11～13万円未満」「13～15万円未満」「15万円以上」の選択肢を廃し、支出項目ごとに「5千円未満」「5千～1万円未満」「1～3万円未満」「3～5万円未満」「5～7万円未満」「7～9万円未満」「9万円以上」で回答する選択肢とした。
- 注 2) 今回調査から、「教養・娯楽費」「衣料費」「交通費」の設問を廃した。グラフ上、2017年と2013年調査の結果は、それらを「その他」に合算して記している。
- 注 3) 前回調査から、月間支出額と個別の支出額は金額を選択肢に変更し、平均月間支出額は中央値を用いて計算した。
例：3～5万円未満の場合は4万円、5千円未満は2,500円、15万円以上は16万円として計算し、それらの合算値を月間支出額とした。
- 注 4) 千円未満を四捨五入しているため、支出の内訳の合計額と「平均月間支出額」が一致しない場合がある。
- 注 5) [] は回答者数を示す。

経済状態の実感

- 現在の経済状態は、「十分余裕がある」(16.8%)、「やや余裕がある」(15.3%)を合わせた「余裕がある」と回答した学生は全体で32.1%である。一方、「やや苦しい」(27.4%)、「非常に苦しい」(7.7%)を合わせた「苦しい」と回答した学生は全体で35.1%である。

■ 経済状態の実感（月間収入額別）

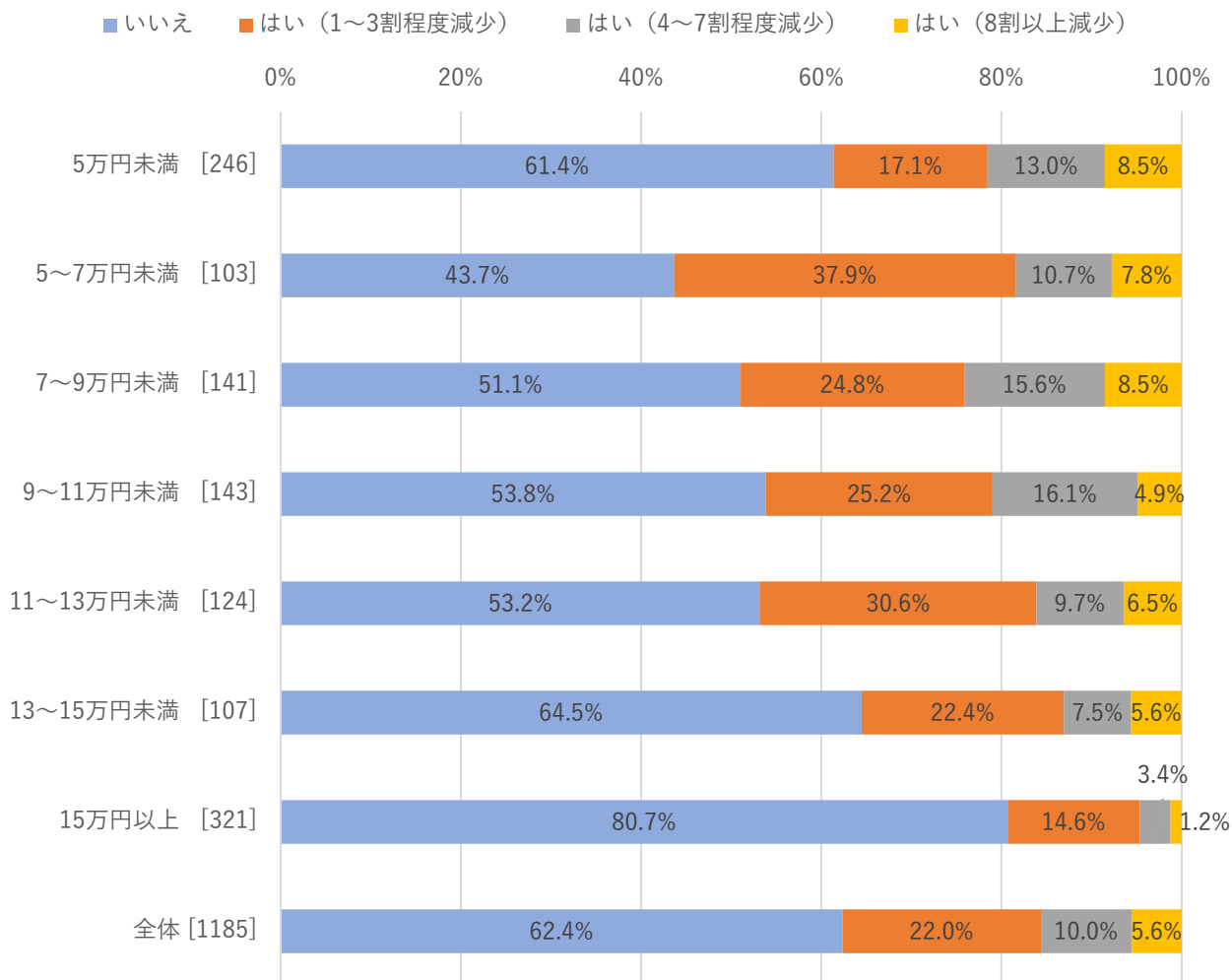


注1) [] は回答者数を示す。

新型コロナウイルス感染症による収入の減少

- 新型コロナウイルス感染症流行前後で収入が減少した学生は、全体の37.6%である。
- 収入が減少した学生の比率が最も大きかったのは、月間収入額が「5～7万円未満」の層である。

■ **新型コロナウイルス感染症流行前後での収入の減少（月間収入額別）**



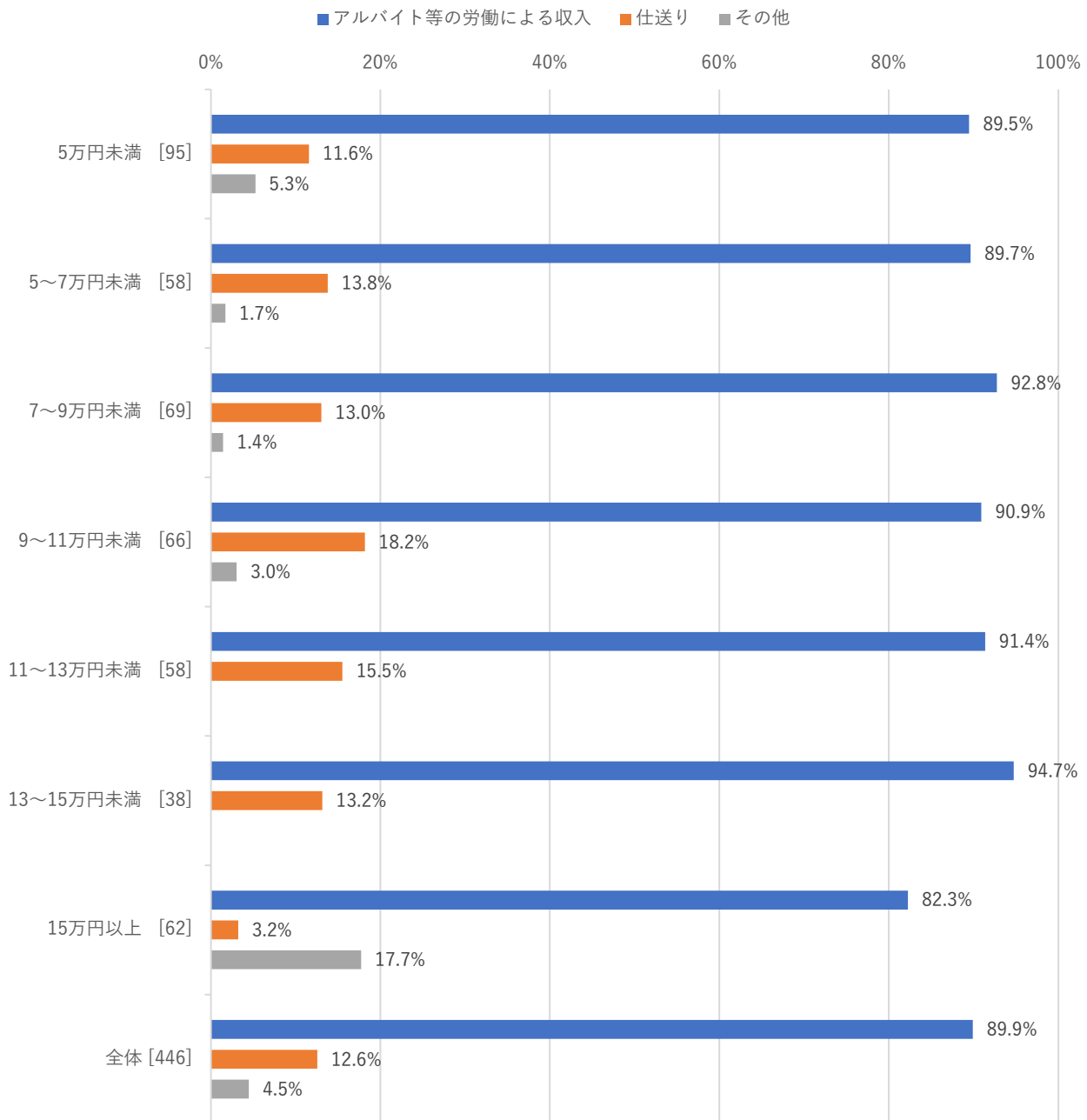
注1) [] は回答者数を示す。

新型コロナウイルス感染症による収入や生活への影響

- 新型コロナウイルス感染症の影響で収入が減少した学生の内、「アルバイト等の労働による収入」が減少した学生が89.9%と9割近くに上る。
- 生活への影響は、「課外活動や交際費、趣味に使う費用等を減らした」学生が69.3%と最も多く、次いで「食費を減らした」学生が43.3%と続く。

■ 新型コロナの影響で減少した収入源（月間収入額別・複数回答可）

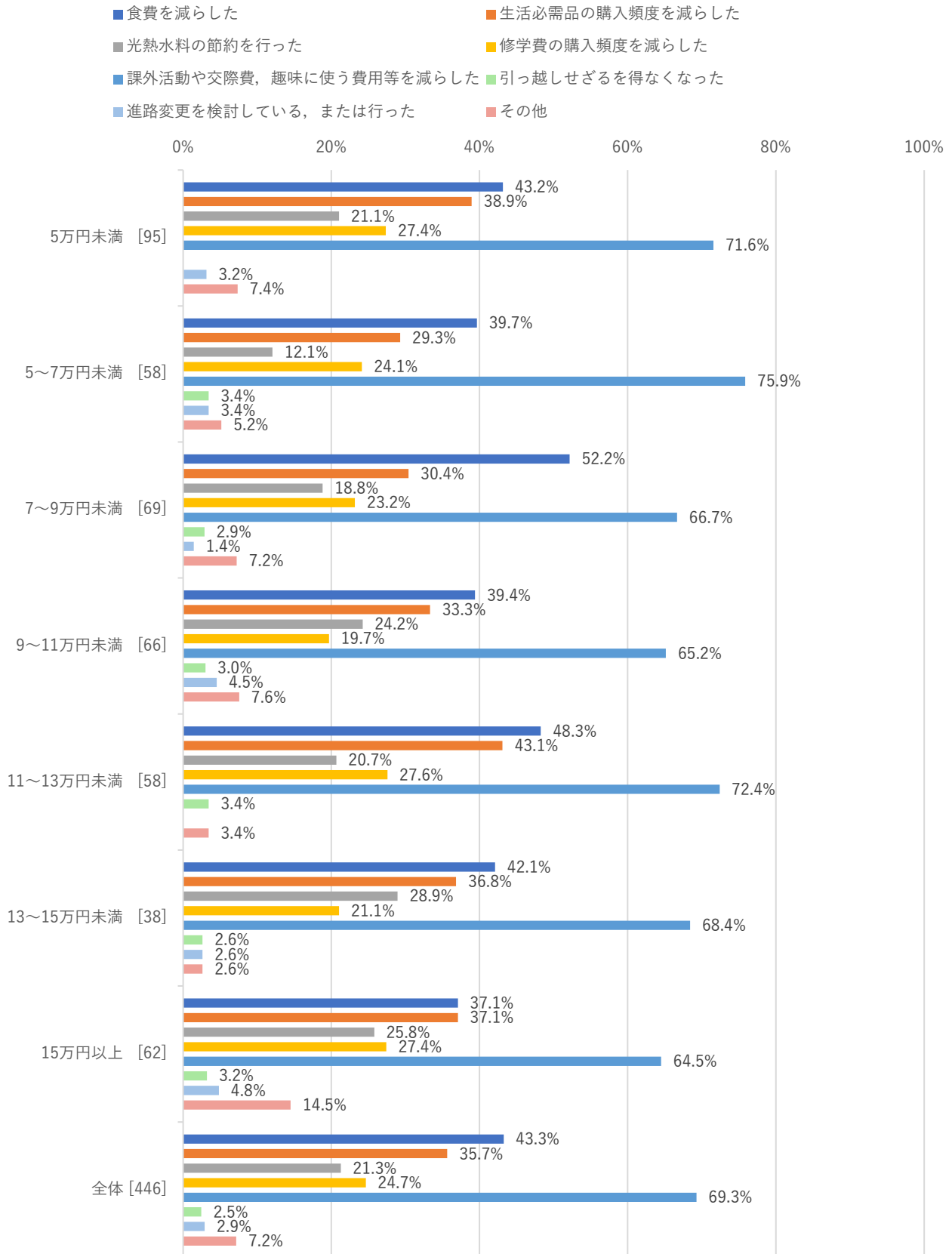
※収入減少者ベース



注1) [] は回答者数を示す。

■ 収入減少による生活への影響（月間収入額別・複数回答可）

※収入減少者ベース

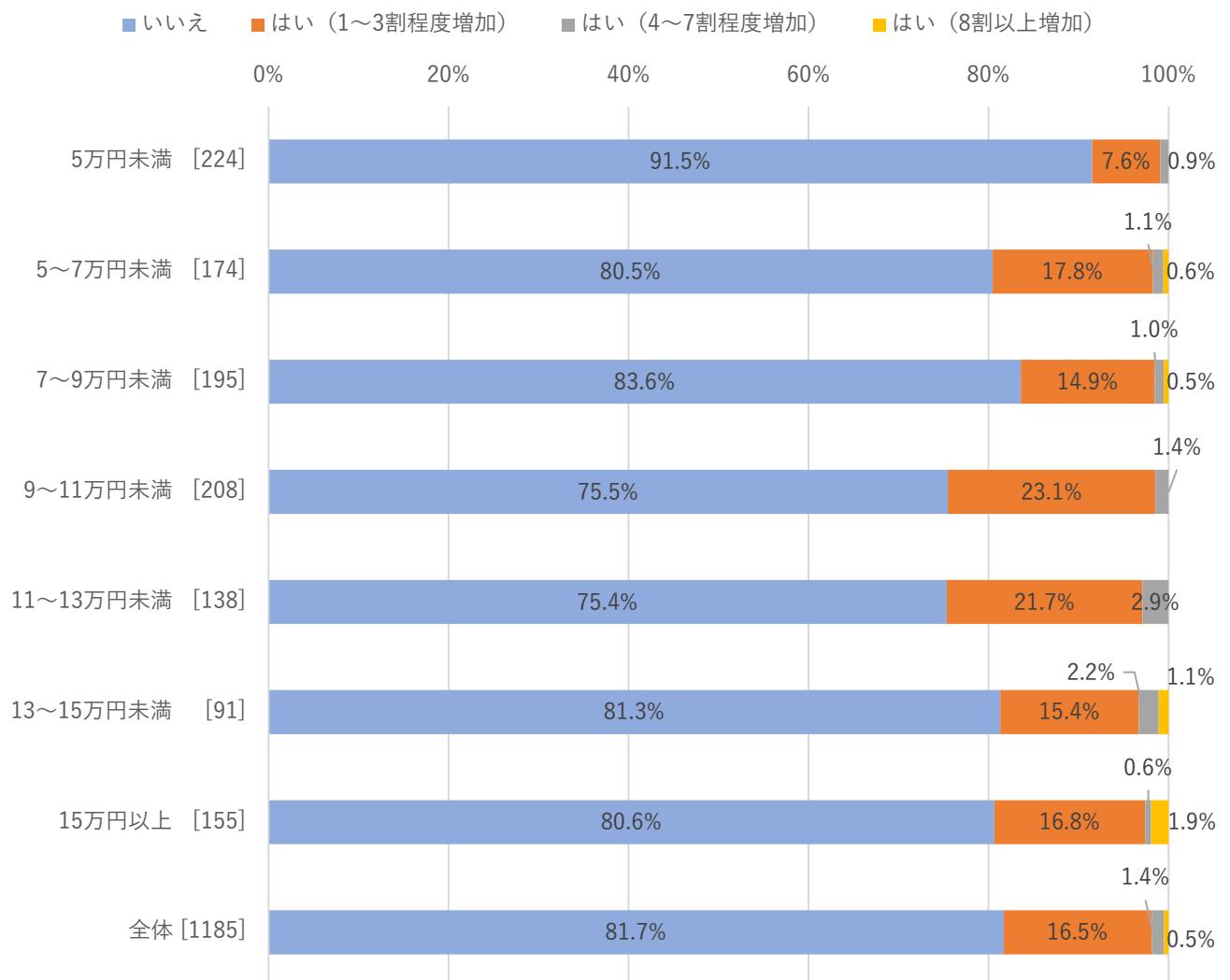


注1) [] は回答者数を示す。

新型コロナウイルス感染症による支出への影響

- 新型コロナウイルス感染症流行前後で支出が増加した学生は、全体の18.4%である。
- 月間支出額別では、「9～11万円未満」と「11～13万円未満」の層で、支出が増加した比率が高くなっている。
- 増加した支出源は、「食費」(50.2%)、「光熱水費」(40.6%)、「修学費」(40.1%)が多い。

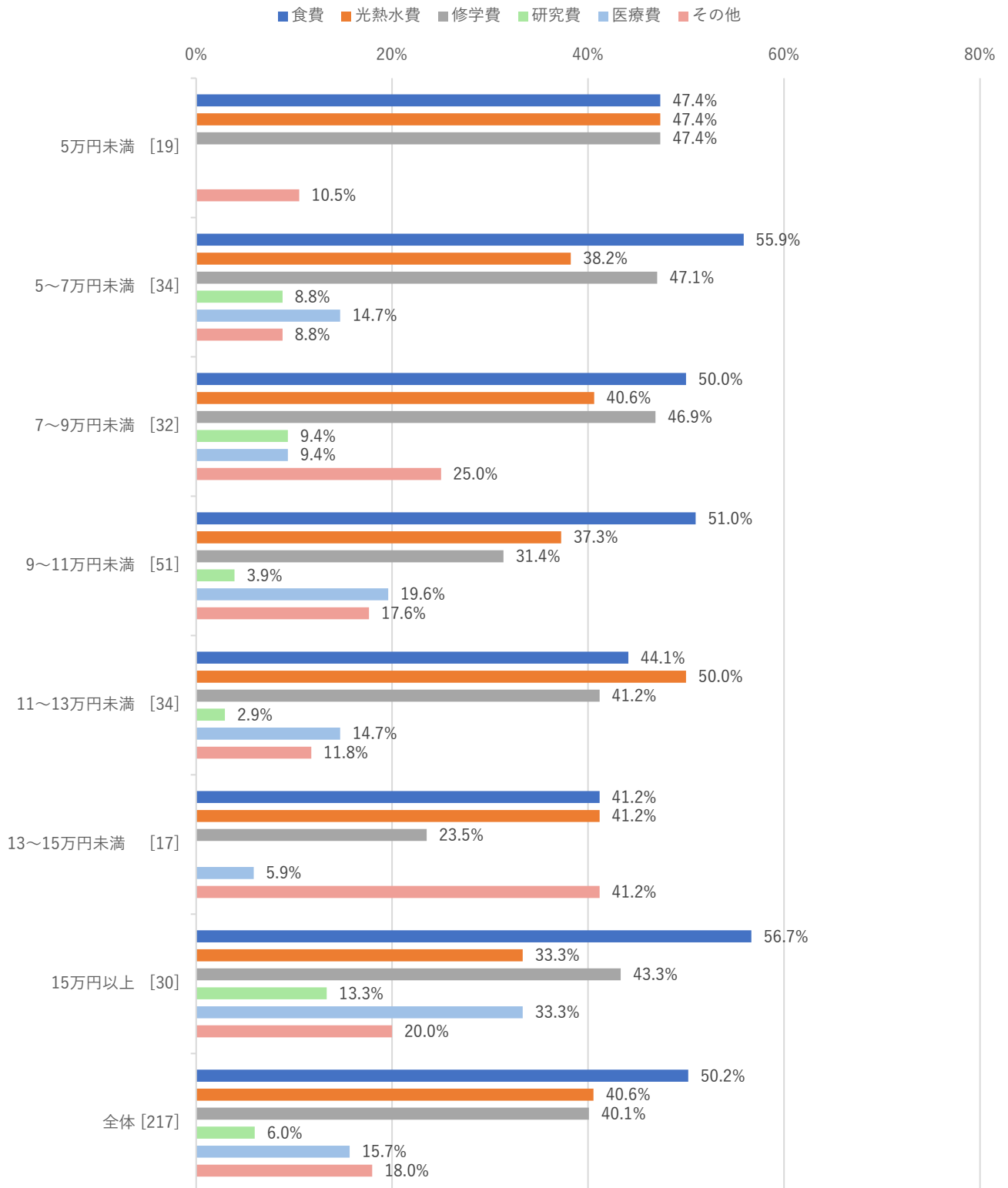
■ 新型コロナウイルス感染症流行前後での支出の増加（月間支出額別）



注1) [] は回答者数を示す。

■ 新型コロナの影響で増加した支出源（月間支出額別・複数回答可）

※支出増加者ベース



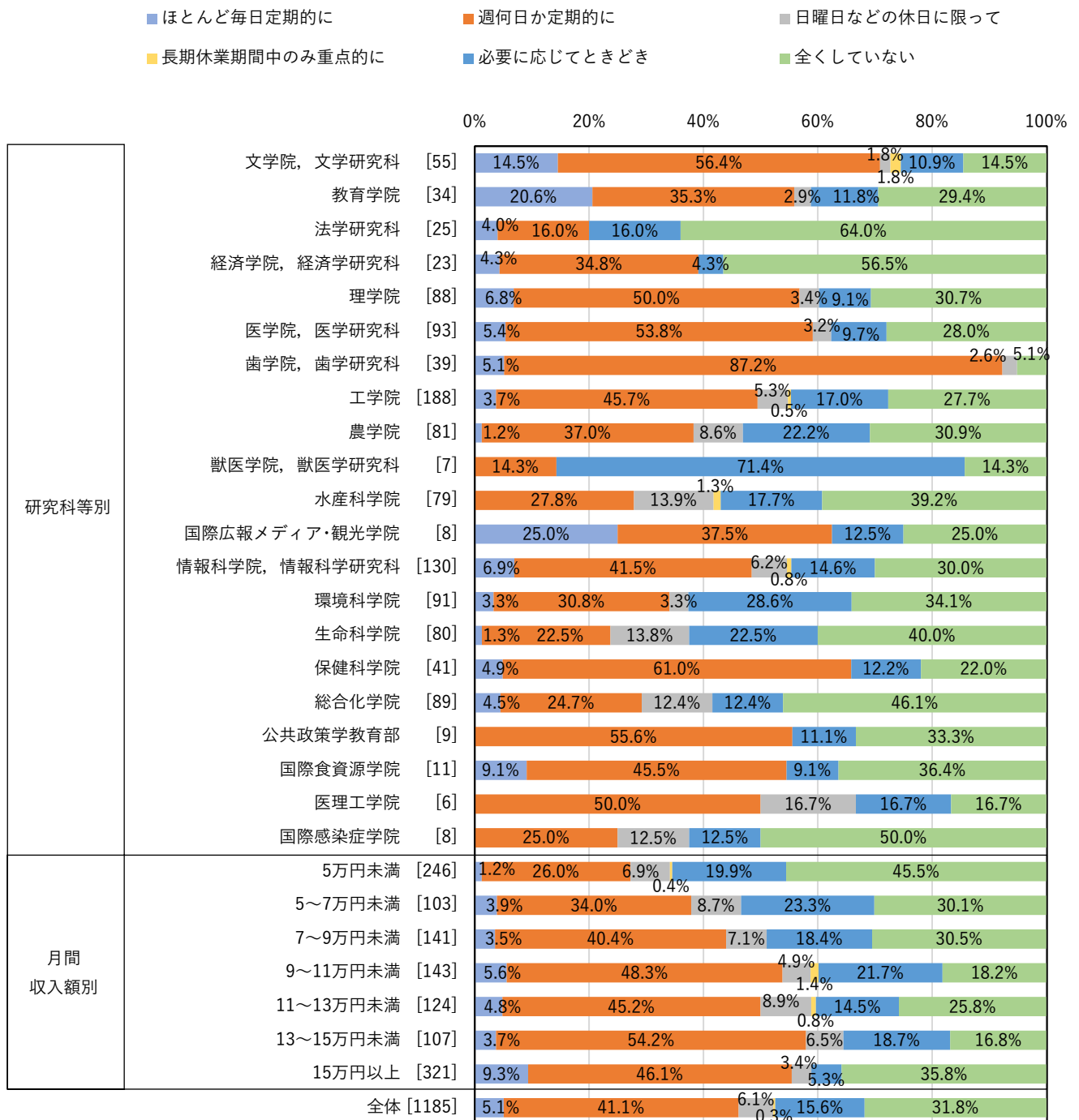
注1) [] は回答者数を示す。

E アルバイトの状況

アルバイトの頻度

- アルバイトを「全くしていない」学生が 31.8%で、学生の 68.2%がアルバイトをしている。アルバイト頻度は、「週何日か定期的に」が全体の 41.1%を占め最も多い。
- 研究科等別では、アルバイトを「全くしていない」比率が高いのは、法学研究科（64.0%）、経済学院・経済学研究科（56.5%）、国際感染症学院（50.0%）、総合化学院（46.1%）である。（※回答数が少ない研究科等は参考程度）
- 月間収入額別では、アルバイトを「全くしていない」比率が高いのは、「5万円未満」（45.5%）と「15万円以上」（35.8%）である。一方、アルバイトをしている学生が多いのは、「9～11万円未満」、「13～15万円未満」である。

■ アルバイトの頻度（研究科等別／月間収入額別）



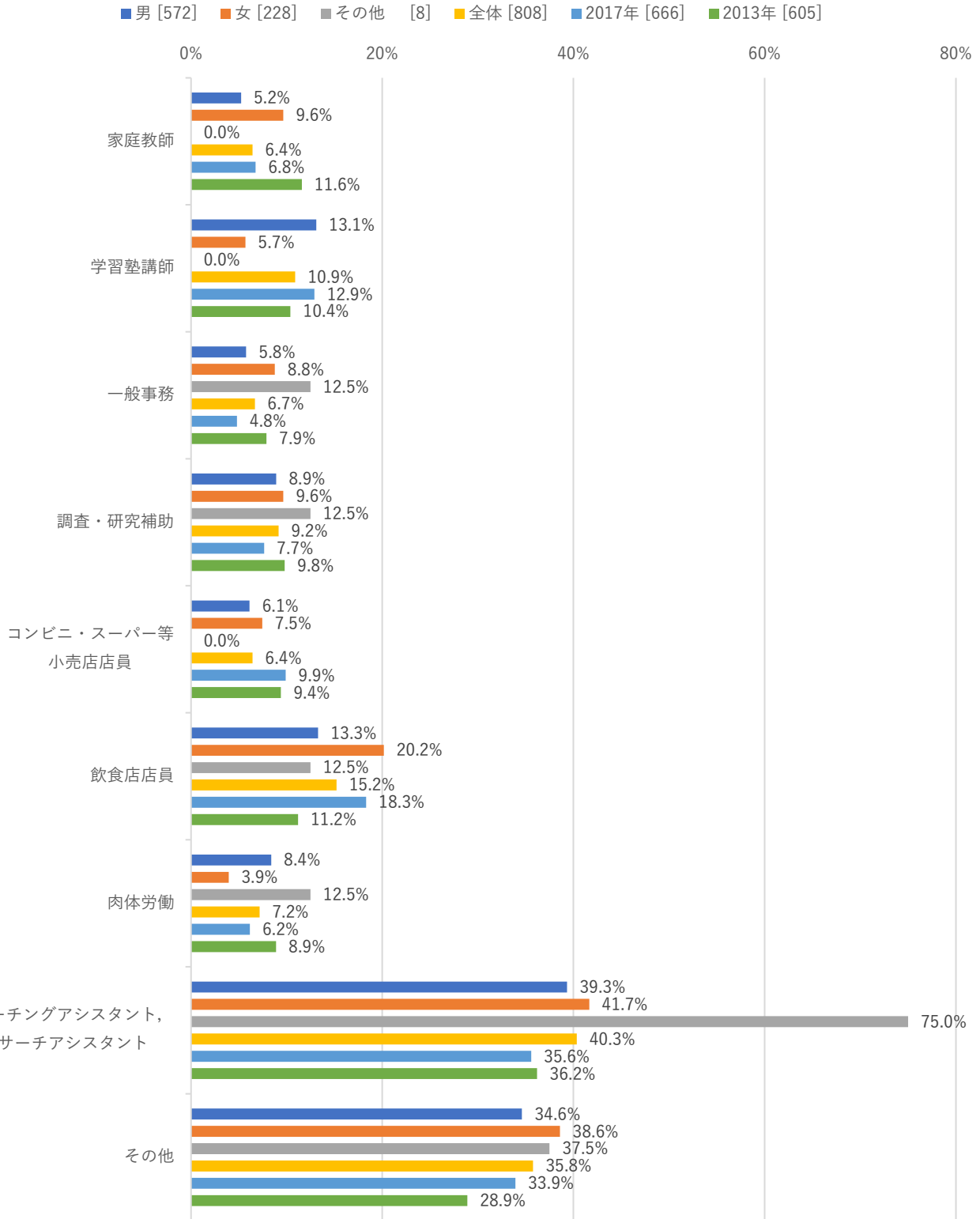
注1) [] は回答者数を示す。

アルバイトの職種

- アルバイトの職種は、「ティーチングアシスタント、リサーチアシスタント」が 40.3%と最も多く、次いで、「飲食店店員」(15.2%)、「学習塾講師」(10.9%)、「調査・研究補助」(9.2%)と続く。「家庭教師」は減少傾向が続いている。

■ アルバイトの頻度（性別別・複数回答可）

※アルバイト従事者ベース



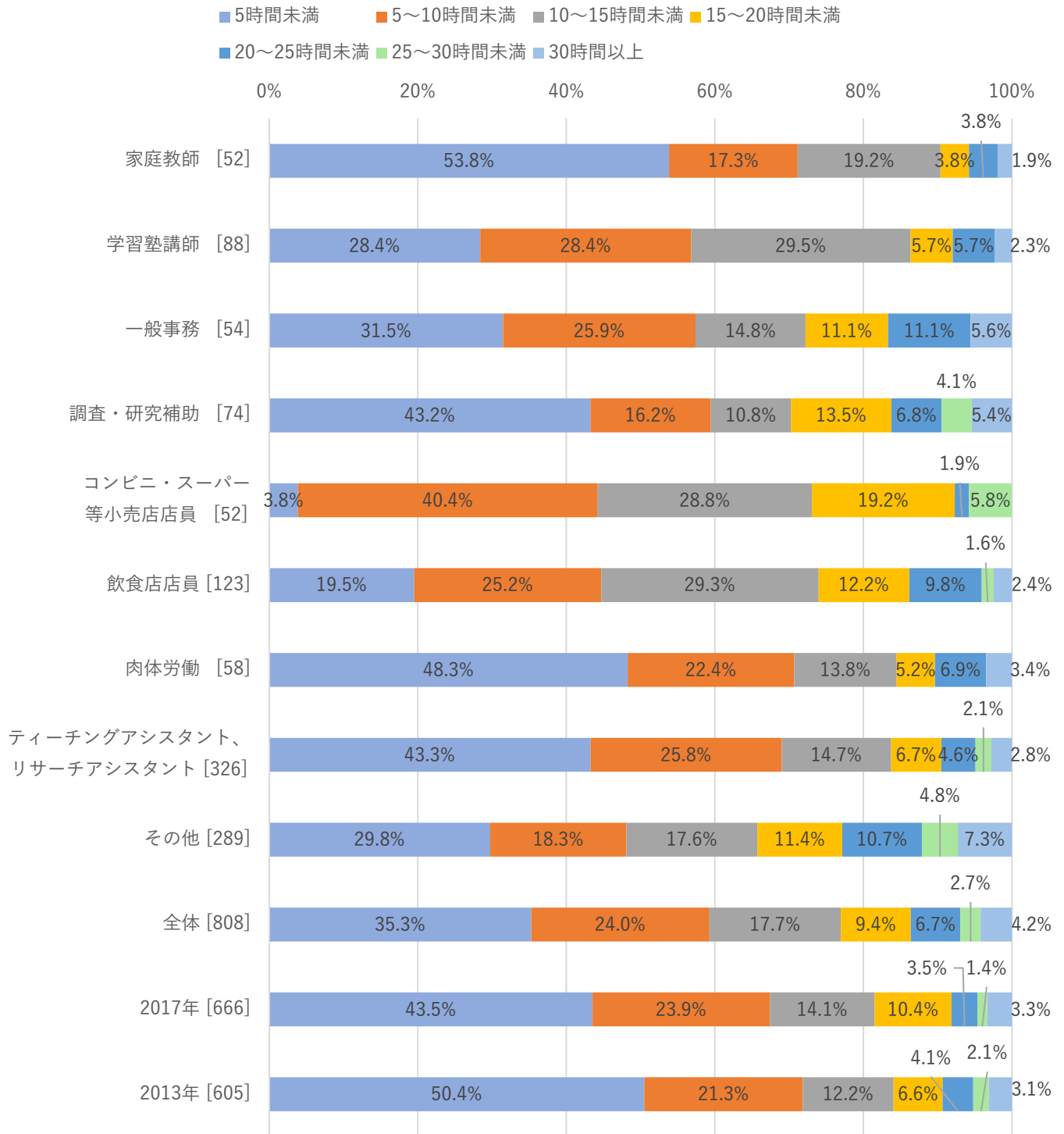
注1) [] は回答者数を示す。

アルバイトの週平均就労時間

- アルバイトの週平均就労時間は、「5時間未満」(35.3%)が最も多いが、2017年調査(43.5%)と比べると、「5時間未満」の比率が減少し、週平均労働時間は増加傾向にある。
- 職種別にみると、「5時間未満」の割合が多いのは、家庭教師、肉体労働、ティーチングアシスタント・リサーチアシスタント、調査・研究補助である。一方「10時間～20時間未満」の比率が多いのは「コンビニ・スーパー等小売店員」、「飲食店員」、「学習塾講師」である。

■ アルバイトの週平均就労時間（職種別）

※アルバイト従事者ベース



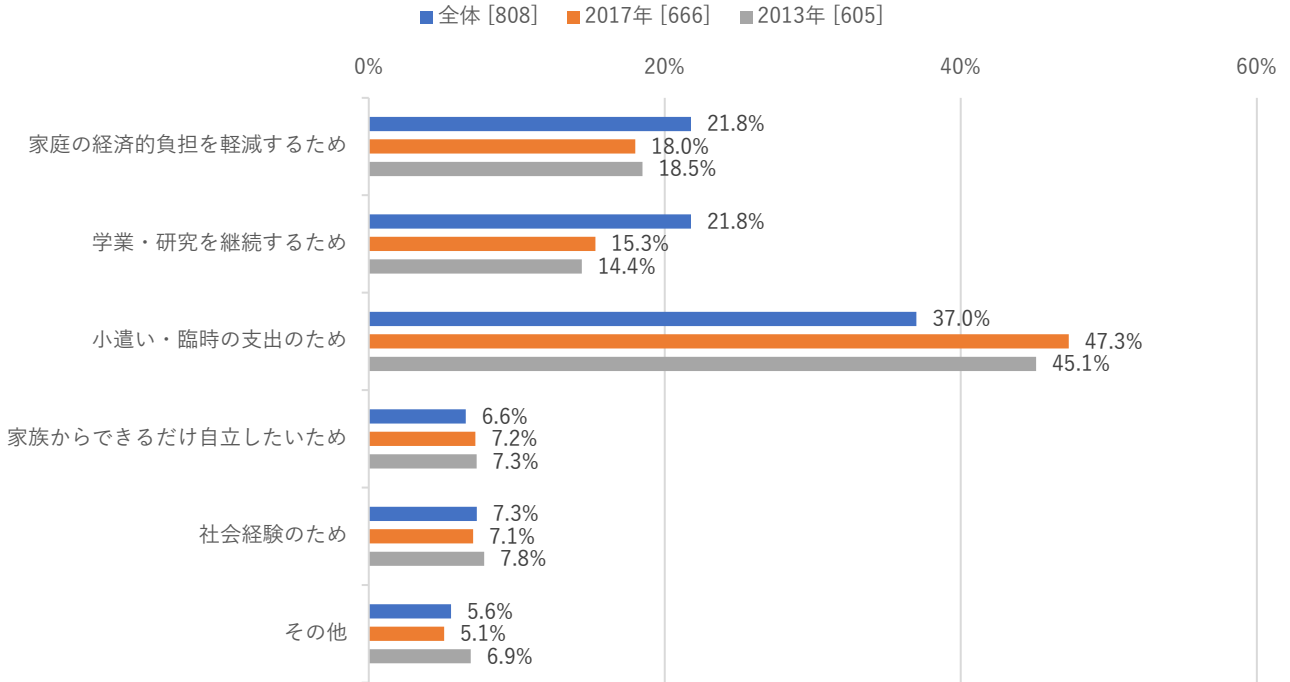
注1) [] は回答者数を示す。

アルバイトの理由

- アルバイトをする主な理由として、「小遣い・臨時の支出のため」(37.0%)が最も多く、次いで「家庭の経済的負担を軽減するため」(21.8%)、「学業・研究を継続するため」(21.8%)と続く。「学業・研究を継続するため」が増加傾向を示している。
- アルバイトをしない主な理由として、「やりたいが、時間的余裕がない」(45.1%)が最も多く、次いで、「必要がない(経済的に余裕がある)」(31.3%)であった。

■ アルバイトをする主な理由

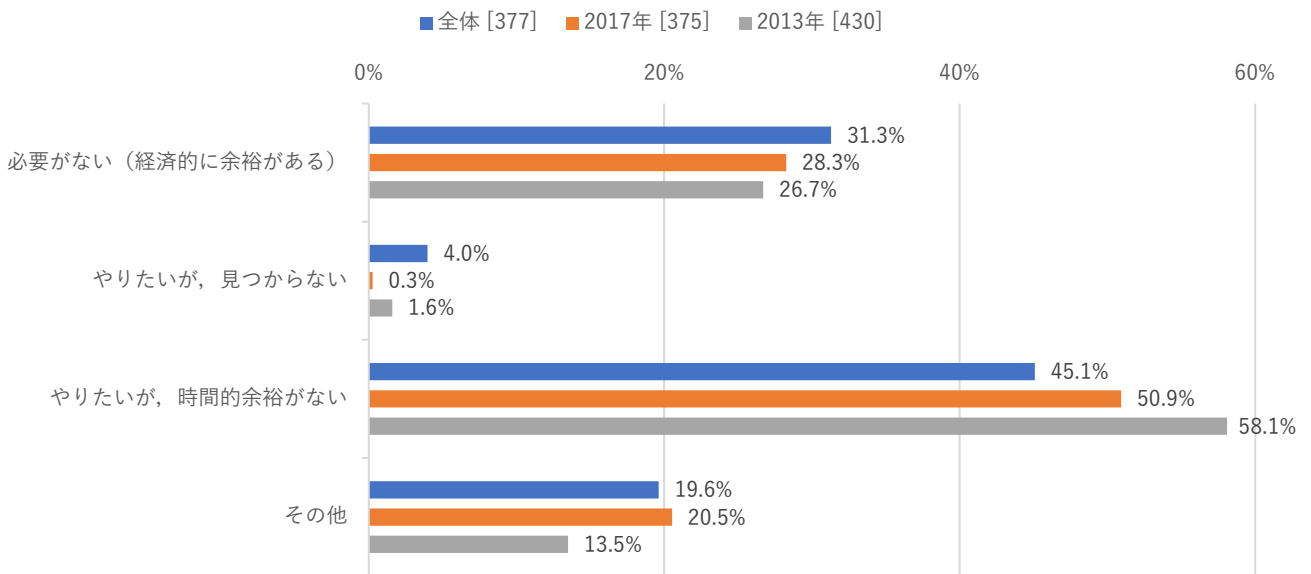
※アルバイト従事者ベース



注1) [] は回答者数を示す。

■ アルバイトをしない主な理由

※アルバイト非従事者ベース



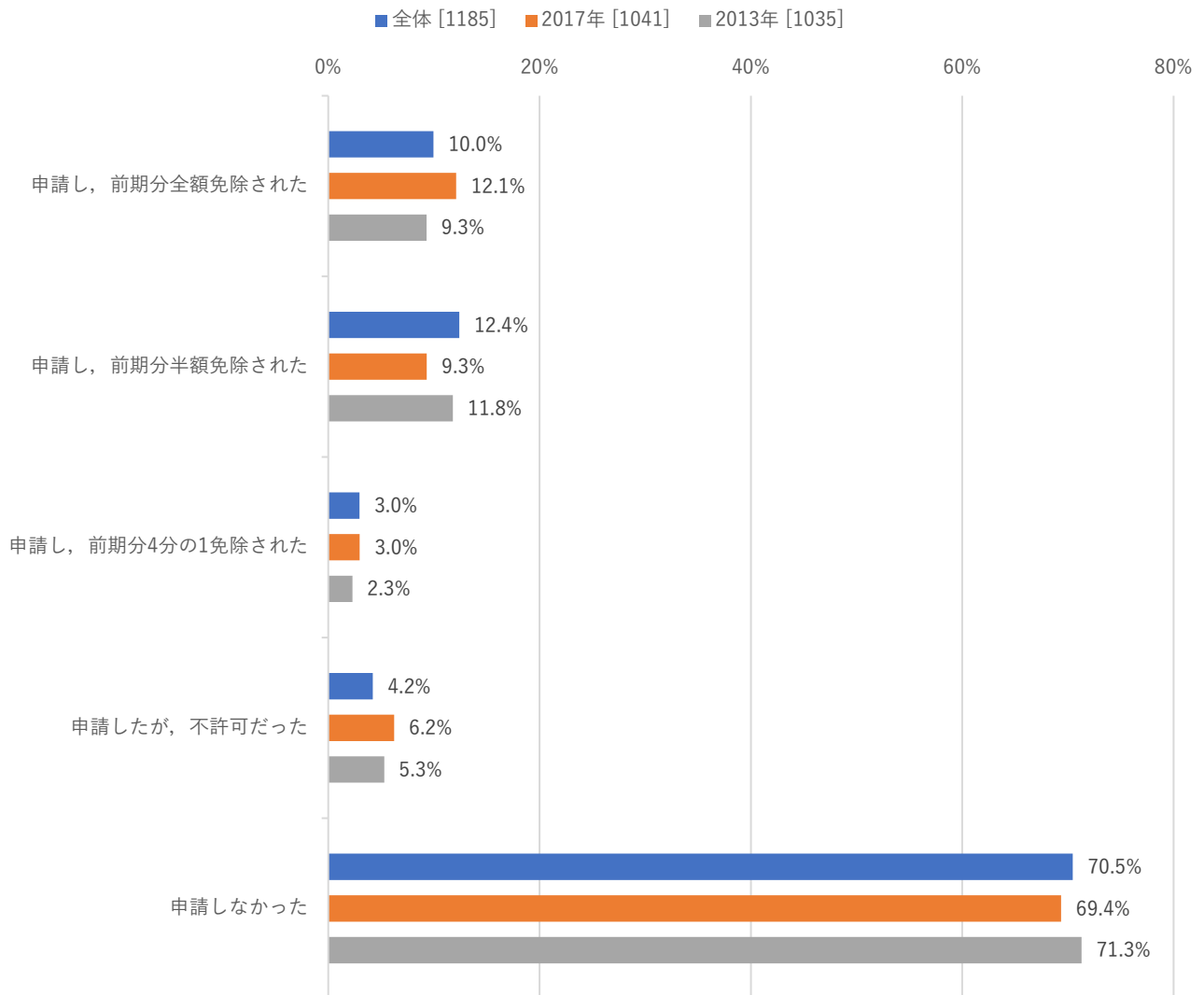
注1) [] は回答者数を示す。

F 授業料減免と奨学金の利用状況

授業料減免の状況

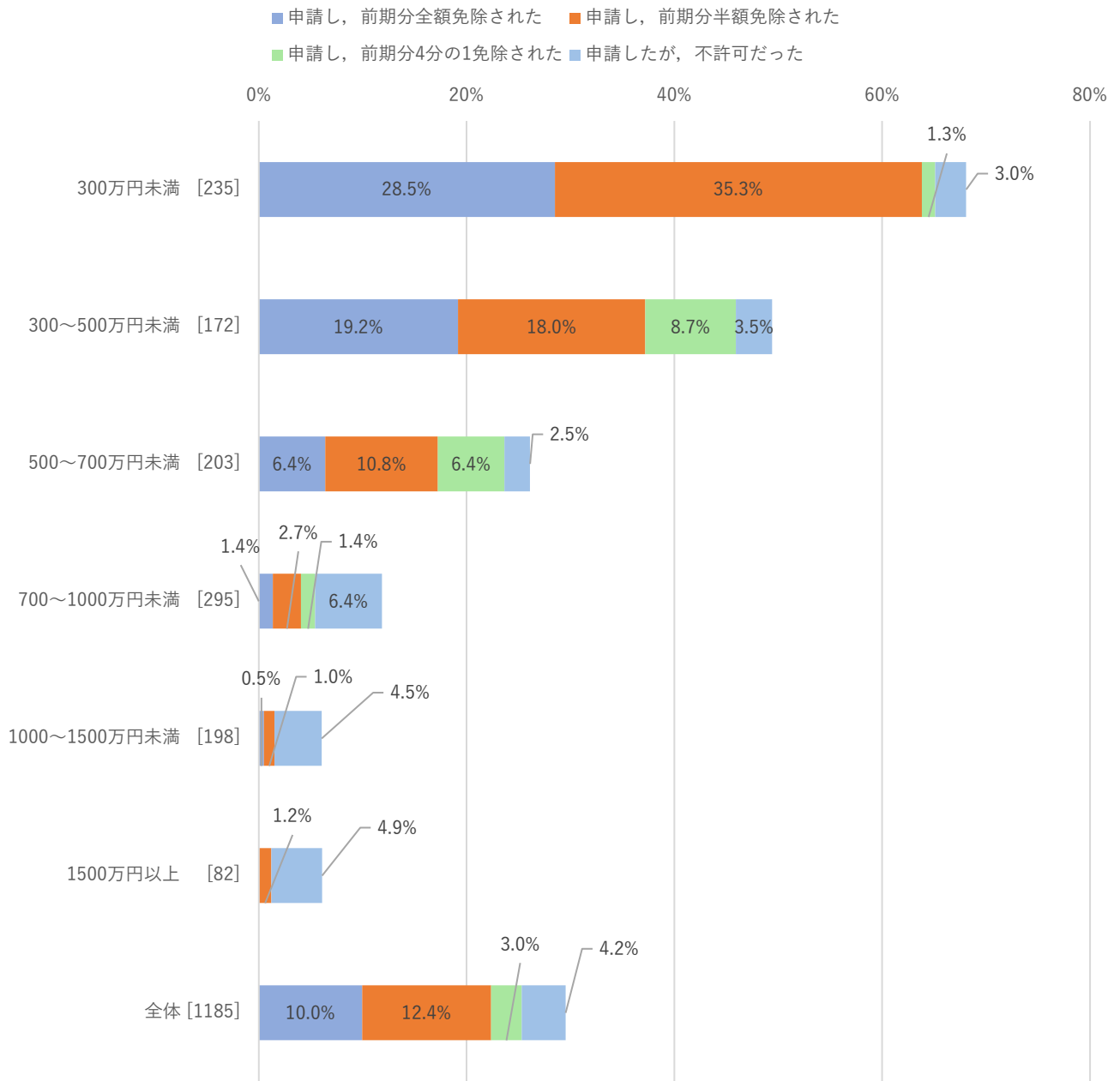
- 授業料減免の状況をみると、「前期分全額免除された」割合は10.0%で、2013年調査（9.3%）、2017年調査（12.1%）と1割前後で推移している。「前期分半額免除された」の比率同様の傾向にある。また、「申請しなかった」は2013年調査（71.3%）、2017年調査（69.4%）、今回調査（70.5%）と7割前後で推移している。
- 年間収入が500万円以下は、授業料減免の比率が高く、特に300万円未満では68.1%の学生が授業料を減免されている。

■ 授業料減免の状況



注1) [] は回答者数を示す。

■ 授業料減免の状況（家庭の年間収入別）



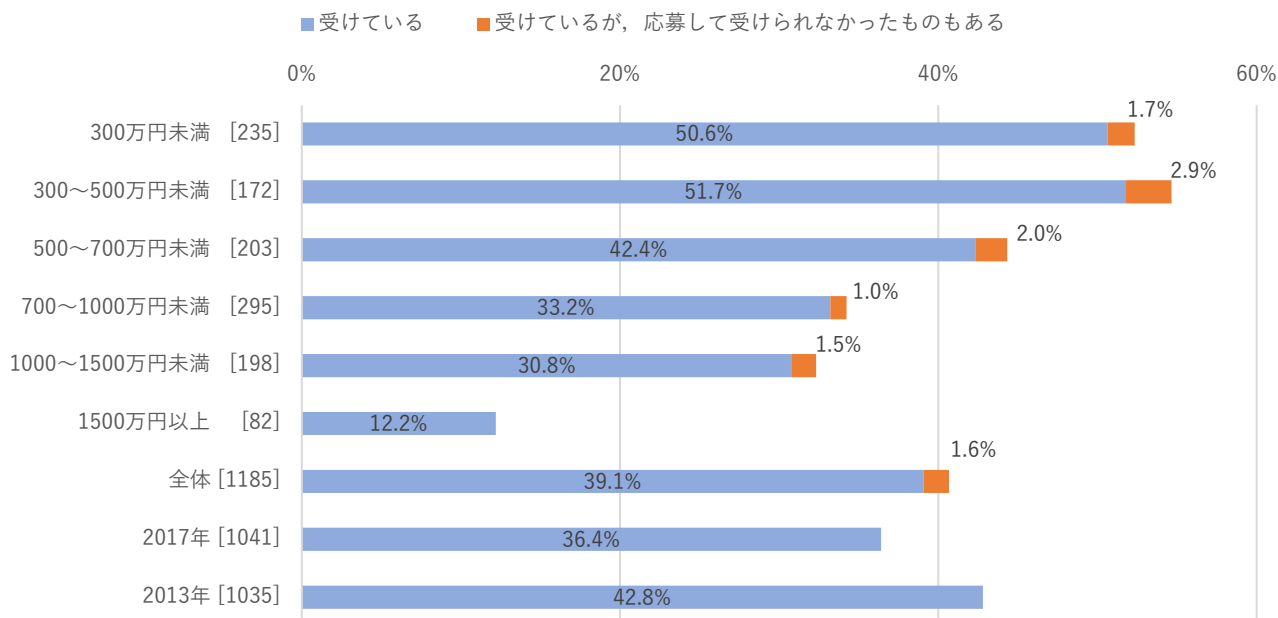
注1) 「申請しなかった」のグラフ表示を省略した。

注2) [] は回答者数を示す。

奨学金の利用状況と種類

- 大学院学生の40.7%が奨学金を利用しており、2017年調査(36.4%)と比べて、増加した。
- 家庭の年間収入別では、家庭の年間収入が低くなるほど、奨学金の利用が増加する。
- 奨学金の種類は、「日本学生支援機構(1種)」(86.1%)を利用しての学生が最も多い。次いで、「民間団体」(12.2%)を利用している。

■ 奨学金の利用状況(家庭の年間収入別)

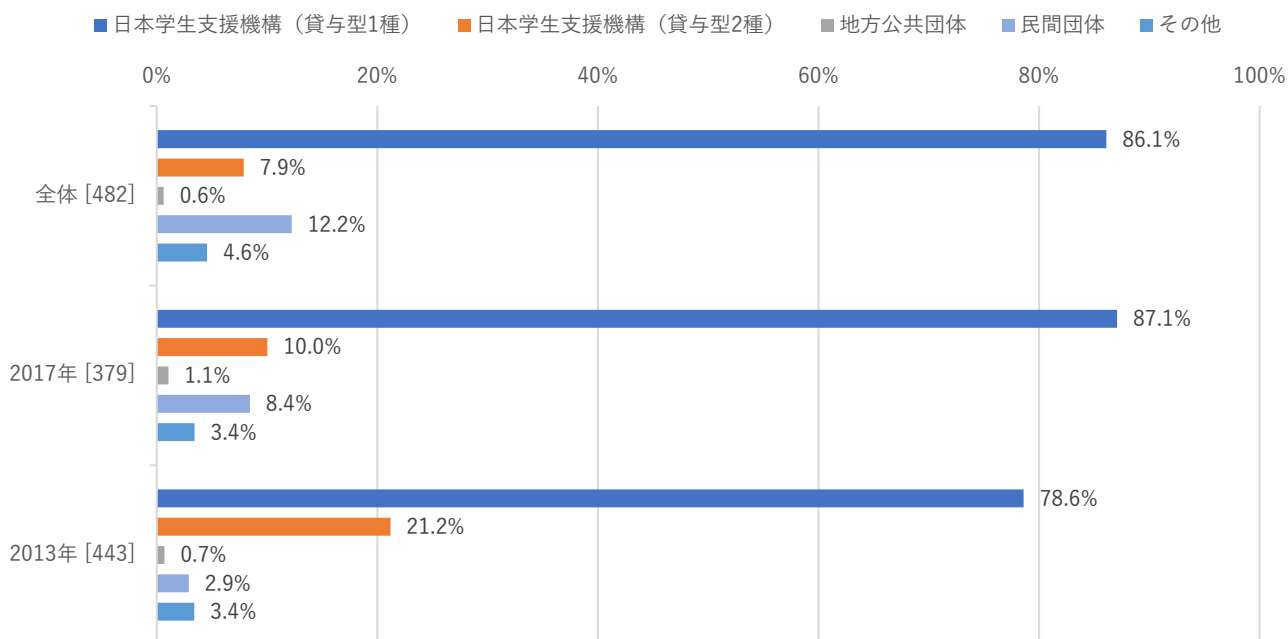


注1) 「受けているが、応募して受けられなかったものもある」は、今回調査からの新選択肢である。

注2) [] は回答者数を示す。

■ 奨学金の種類(複数回答可)

※奨学金受給者ベース



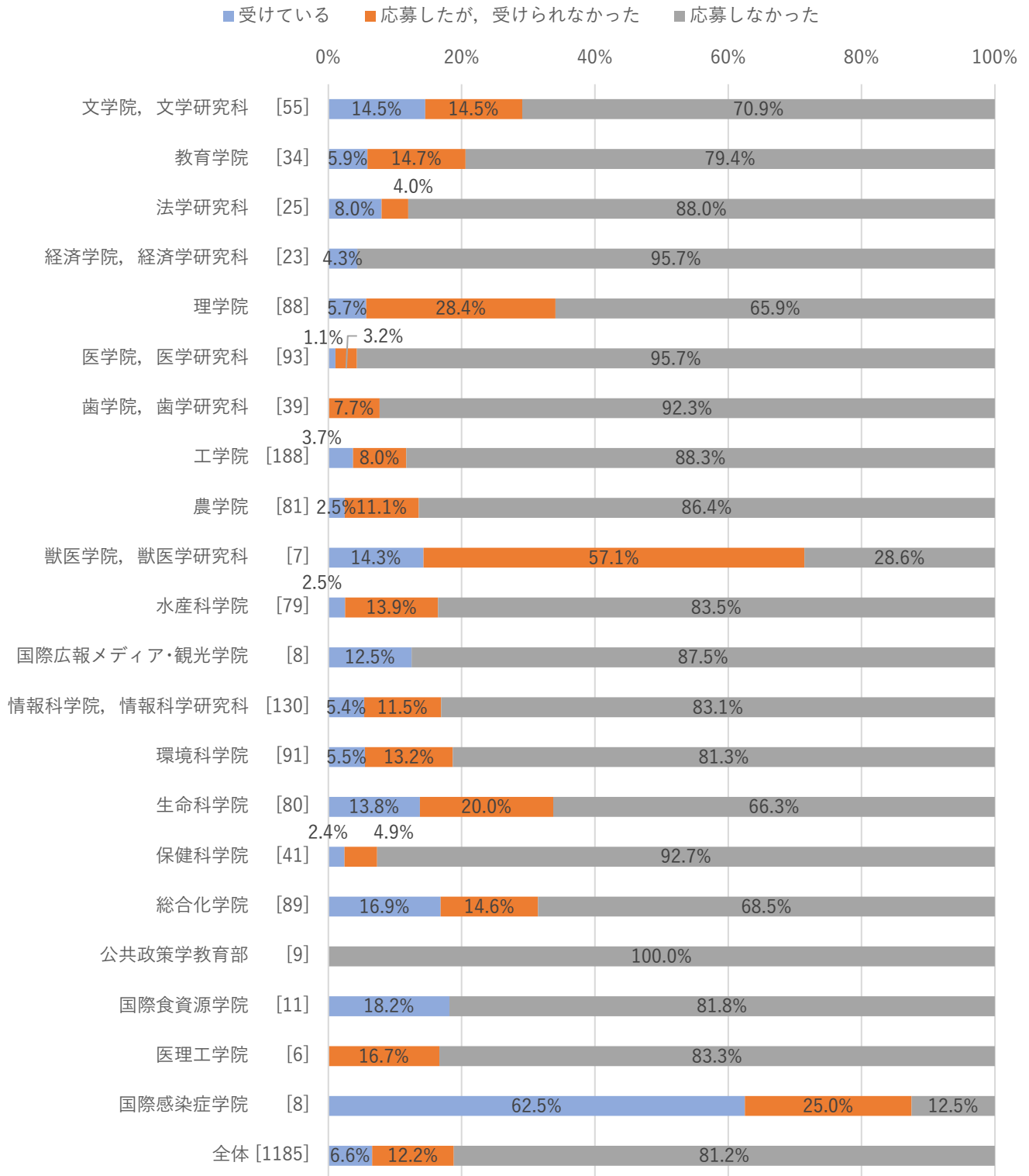
注1) 複数選択のため、割合の総和は100%を超える。

注2) [] は回答者数を示す。

日本学術振興会特別研究員の給与

- 日本学術振興会特別研究員の給与を「受けている」学生は全体の6.6%で、「応募したが受けられなかった」(12.2%)を合すると博士(後期)課程の学生の18.8%が日本学術振興会特別研究員に応募している。
- 日本学術振興会特別研究員の給与を受けているのは、国際感染症学院、国際食資源学院、総合化学院などである。(※回答数が少ない研究科等は参考程度)

■ 日本学術振興会特別研究員の給与 (博士後期課程のみ・研究科等別)



注1) [] は回答者数を示す。

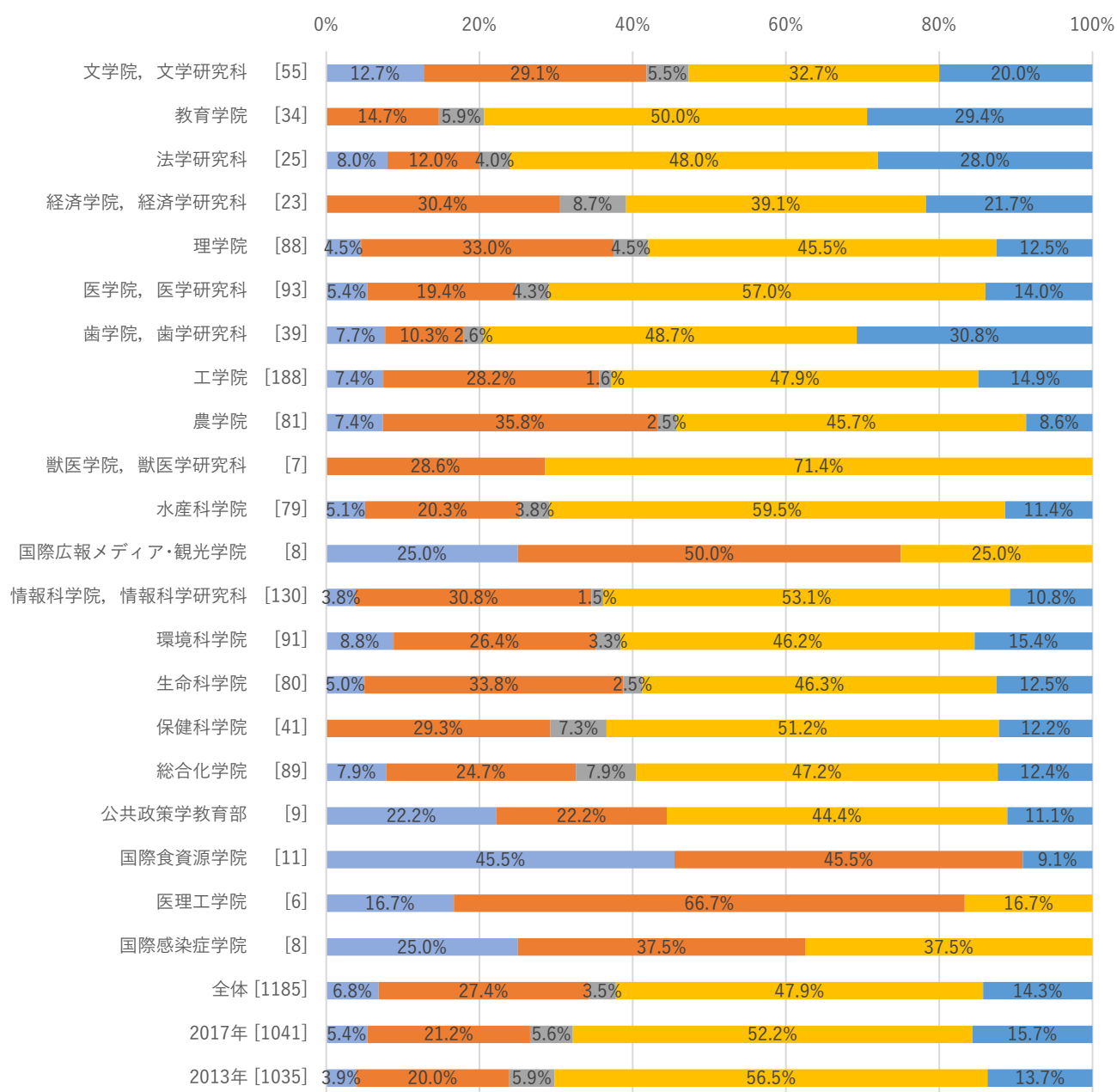
G 大学院学生の研究活動と海外留学

語学力

- 外国語の使用能力については、「読むのはなんとかできるが、作文と会話が苦手である」が47.9%を占めている。「読み書きには不自由しないが、会話は苦手である」(27.4%)、「すべてが苦手」(14.3%)を合すると、「会話が苦手である」学生の割合が9割近くに達する。その傾向は2013年調査から大きく変わらない。
- 研究科等別にみると、「すべてが苦手である」の比率が高いのは、歯学院・歯学研究科、法学研究科、教育学院である。(※回答数が少ない研究科等は参考程度)

■ 語学力（研究科等別）

- 読み書き、会話や討論など、ほとんど不自由を感じない
- 読み書きには不自由しないが、会話は苦手である
- 読み書きは苦手であるが、会話には不自由しない
- 読むのはなんとかできるが、作文と会話は苦手である
- すべてが苦手である

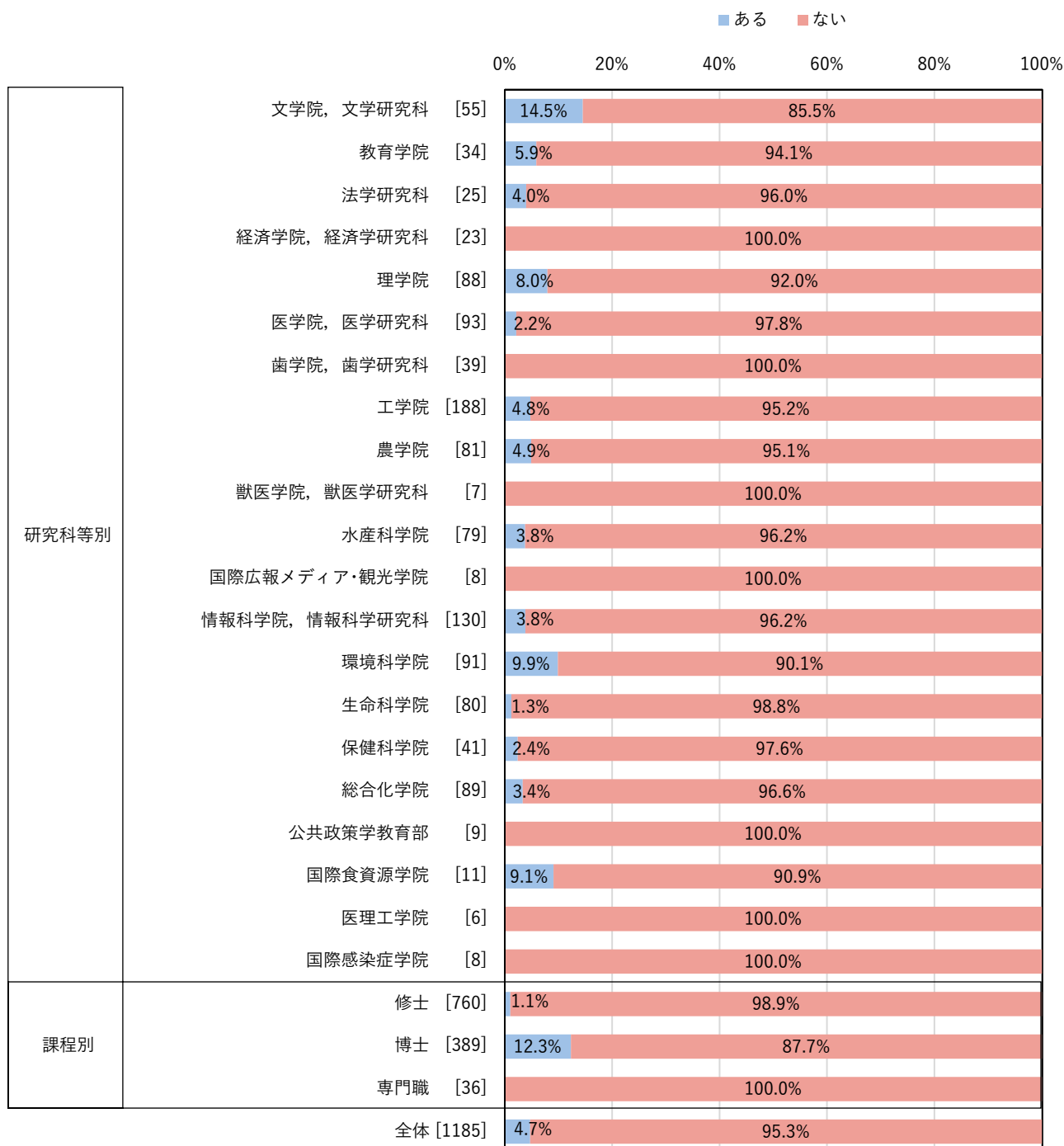


注1) [] は回答者数を示す。

海外での調査研究経験

- 海外での調査研究経験が「ある」と回答した学生は4.7%である。
- 研究科等別では、研究経験が「ある」の比率が高いのは、文学院・文学研究科（14.5%）である。（※回答数が少ない研究科等は参考程度）
- 課程別では、博士（後期）課程が12.3%と、修士の1.1%を上回っている。

■ 海外での調査研究経験（研究科等別／課程別）

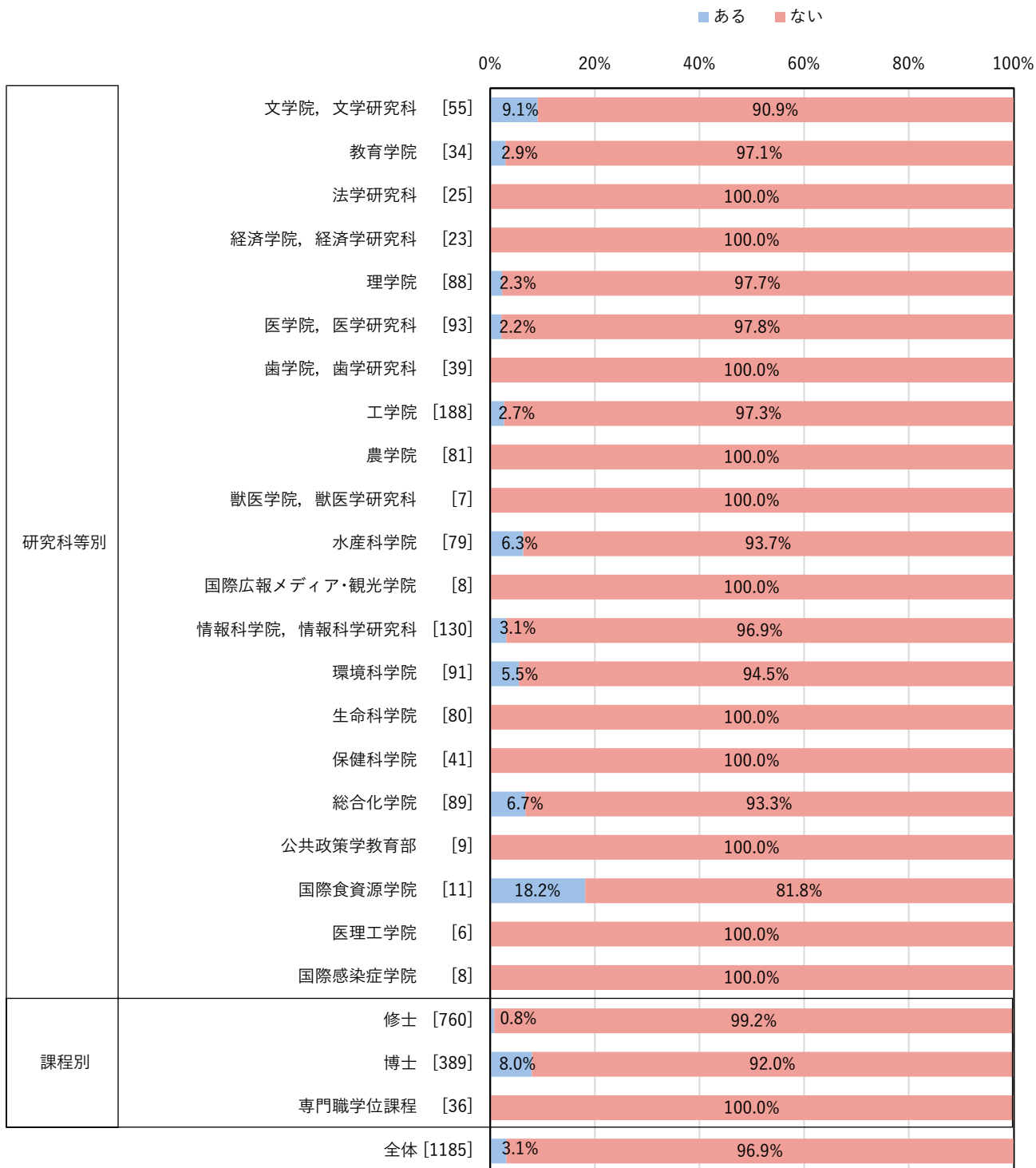


注1) [] は回答者数を示す。

海外留学の経験

- 海外留学の経験が「ある」と回答した学生の割合は3.1%である。
- 研究科等別では、海外留学経験が比較的あるのは、国際食資源学院、文学院・文学研究科、総合化学院、水産科学院である。（※回答数が少ない研究科等は参考程度）
- 課程別では、修士課程が0.8%、博士（後期）課程が8.0%である。

■ 海外留学の経験（研究科等別／課程別）

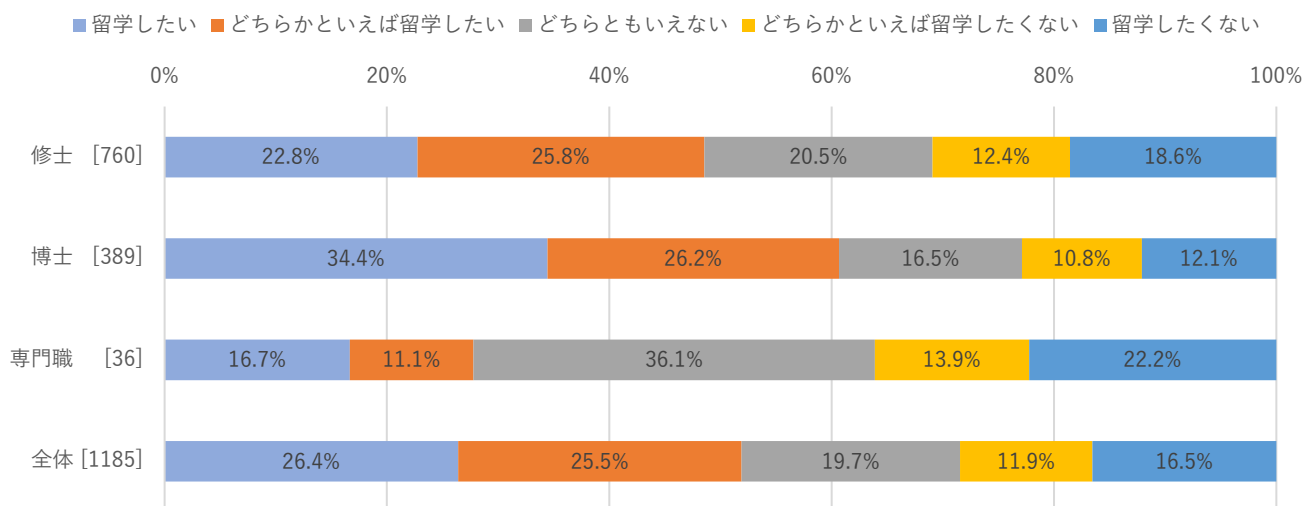


注1) [] は回答者数を示す。

海外留学の意向

- 海外への留学意向については、「留学したい」割合が26.4%。「どちらかといえば留学したい」(25.5%)を合わせて、留学意向がある学生は51.9%と半数を超える。
- 課程別にみると、留学意向が高いのは博士(後期)課程で、その割合は60.6%である。
- 希望する留学期間では、「3ヵ月未満」(27.3%)、「半年未満」(22.4%)、「1年未満」(21.5%)、「1年以上」(22.3%)と短期から長期まで様々である。
- 課程別では、博士(後期)課程で「半年以上」の割合が55.1%と、他の課程よりも長期を考える学生が多い。

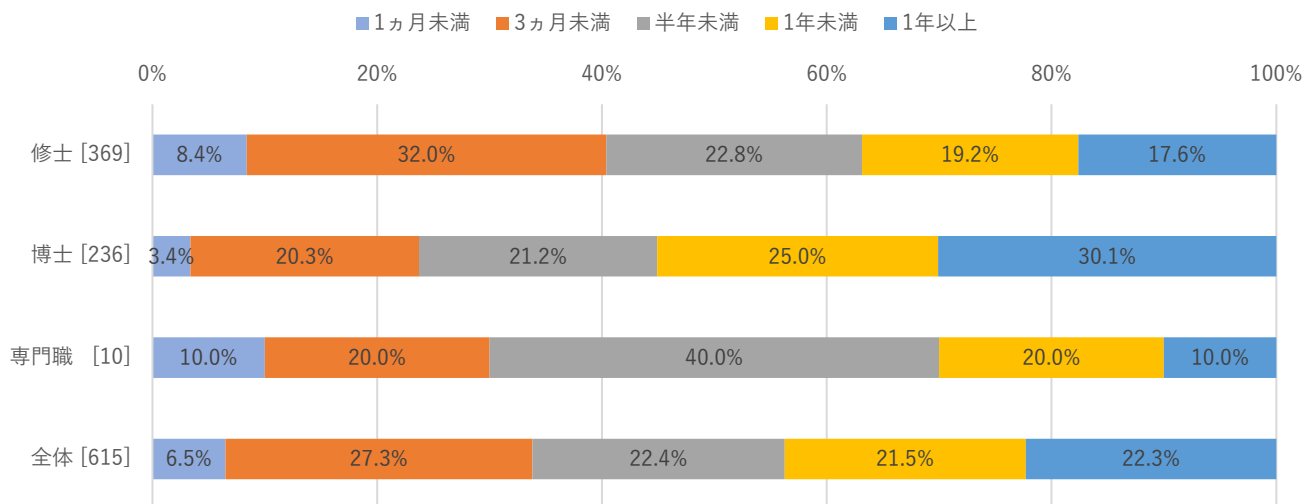
■ 海外留学の意向(課程別)



注1) [] は回答者数を示す。

■ 希望する留学期間(課程別)

※海外への留学希望者ベース

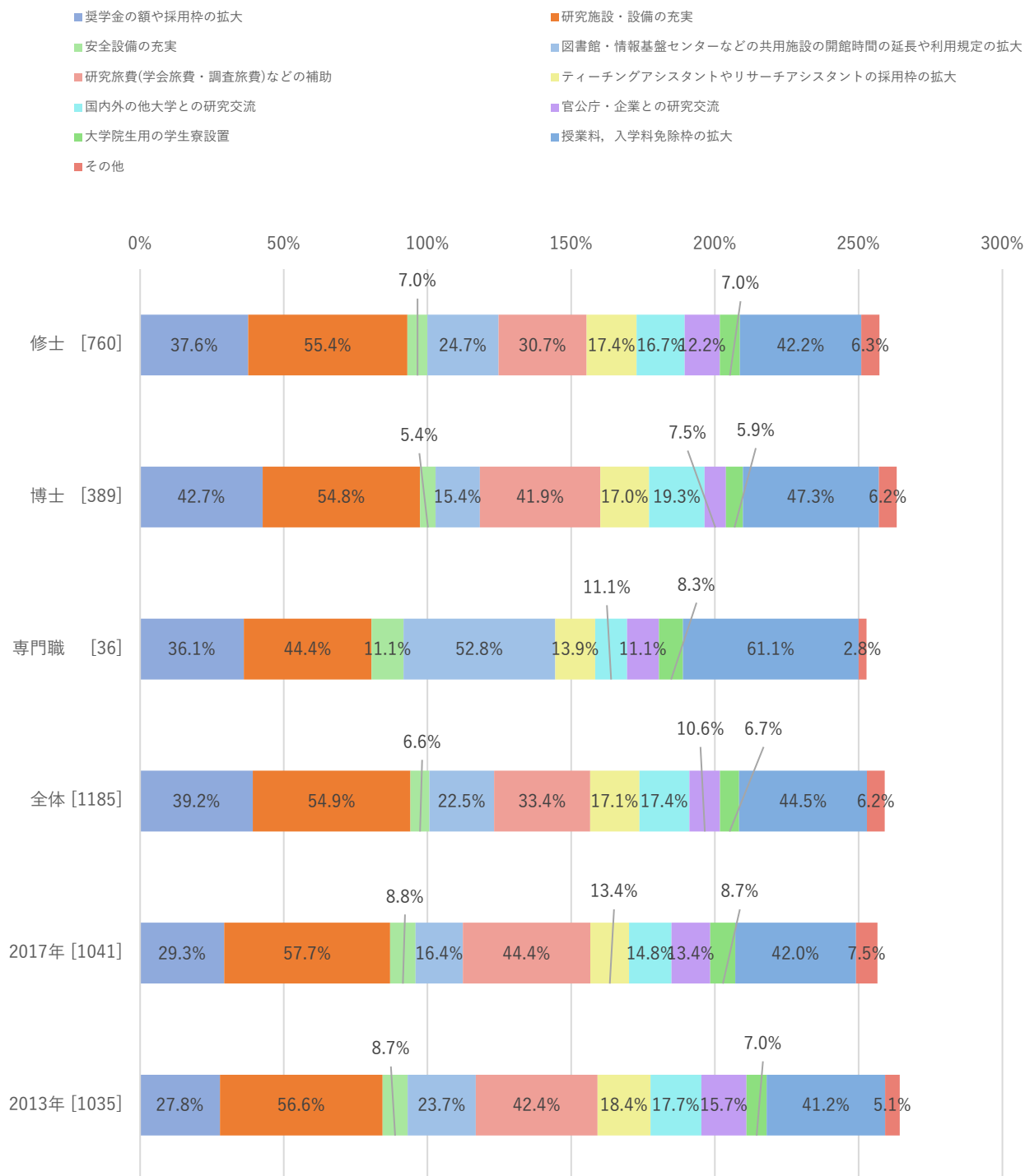


注1) [] は回答者数を示す。

研究・学業を進める上で大学に要望すること

- 各課程に共通して「研究施設・設備の充実」、「授業料、入学料免除枠の拡大」の比率が高い。それ以外に、修士課程や博士（後期）課程は「研究旅費(学会旅費・調査旅費)などの補助」、専門職学位課程は「図書館・情報基盤センターなどの共用施設の開館時間の延長や利用規定の拡大」を求める学生が多いのが特徴的である。

■ 研究・学業を進める上で大学に要望すること（課程別・3つまで）



注1) 複数選択のため、割合の総和は100%を超える。

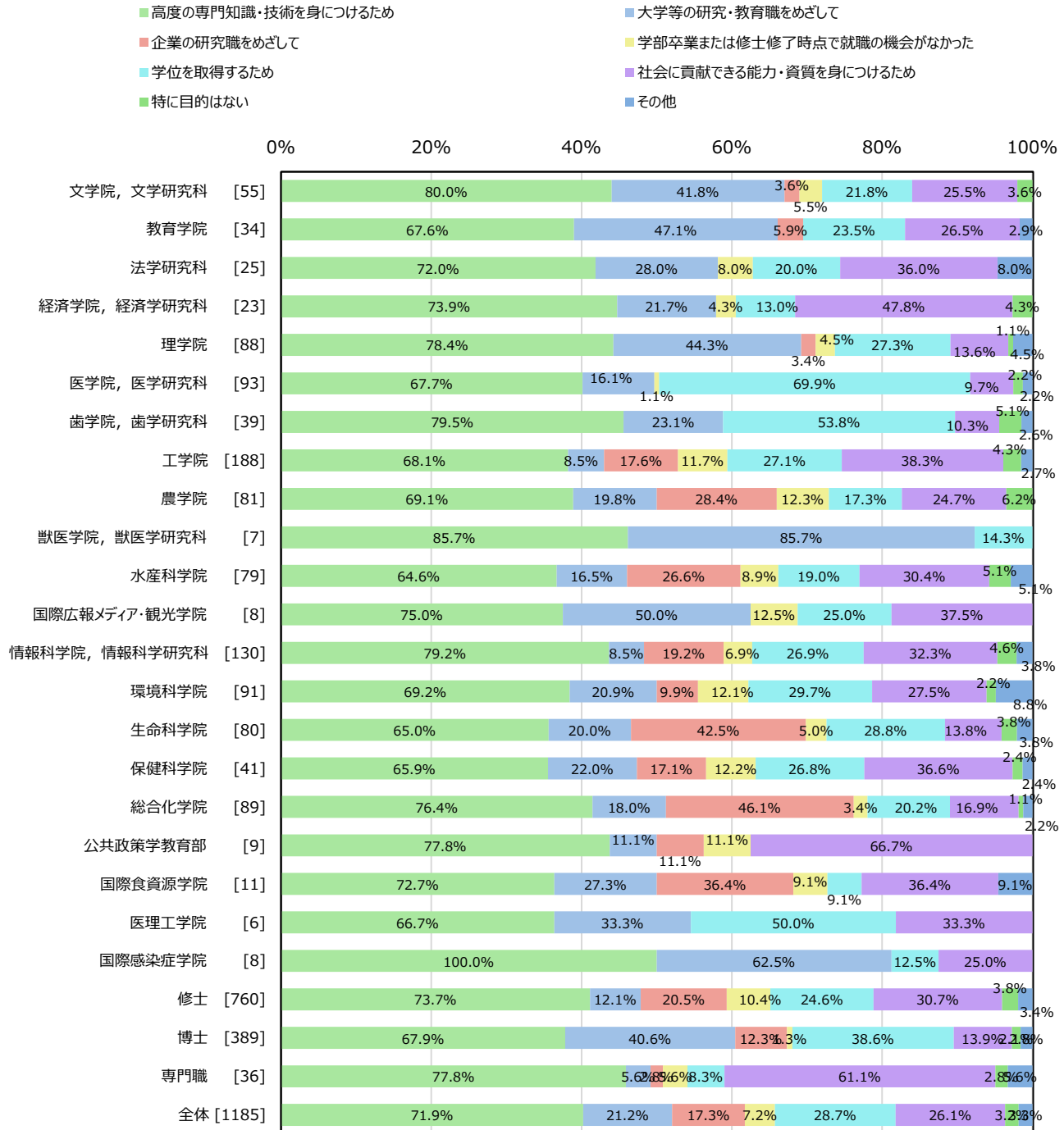
注2) [] は回答者数を示す。

H 北大の大学生活

大学院入学の目的

- 大学院入学の目的をみると、「高度の専門知識・技術を身につけるため」(71.9%)が最も多い。それ以外に、「学位を取得するため」(28.7%)、「社会に貢献できる能力・資質を身につけるため」(26.1%)、「大学等の研究・教育職をめざして」(21.2%)、「企業の研究職をめざして」(17.3%)である。
- 研究科等別にみると、各研究科ともに「高度の専門知識・技術を身につけるため」が最も高い。獣医学院・獣医学研究科、国際感染症学院、国際広報メディア・観光学院は「大学等の研究・教育職をめざして」の比率も高い。(※回答数が少ない研究科等は参考程度)

■ 大学院入学の目的 (課程別研究科等別・2つまで)



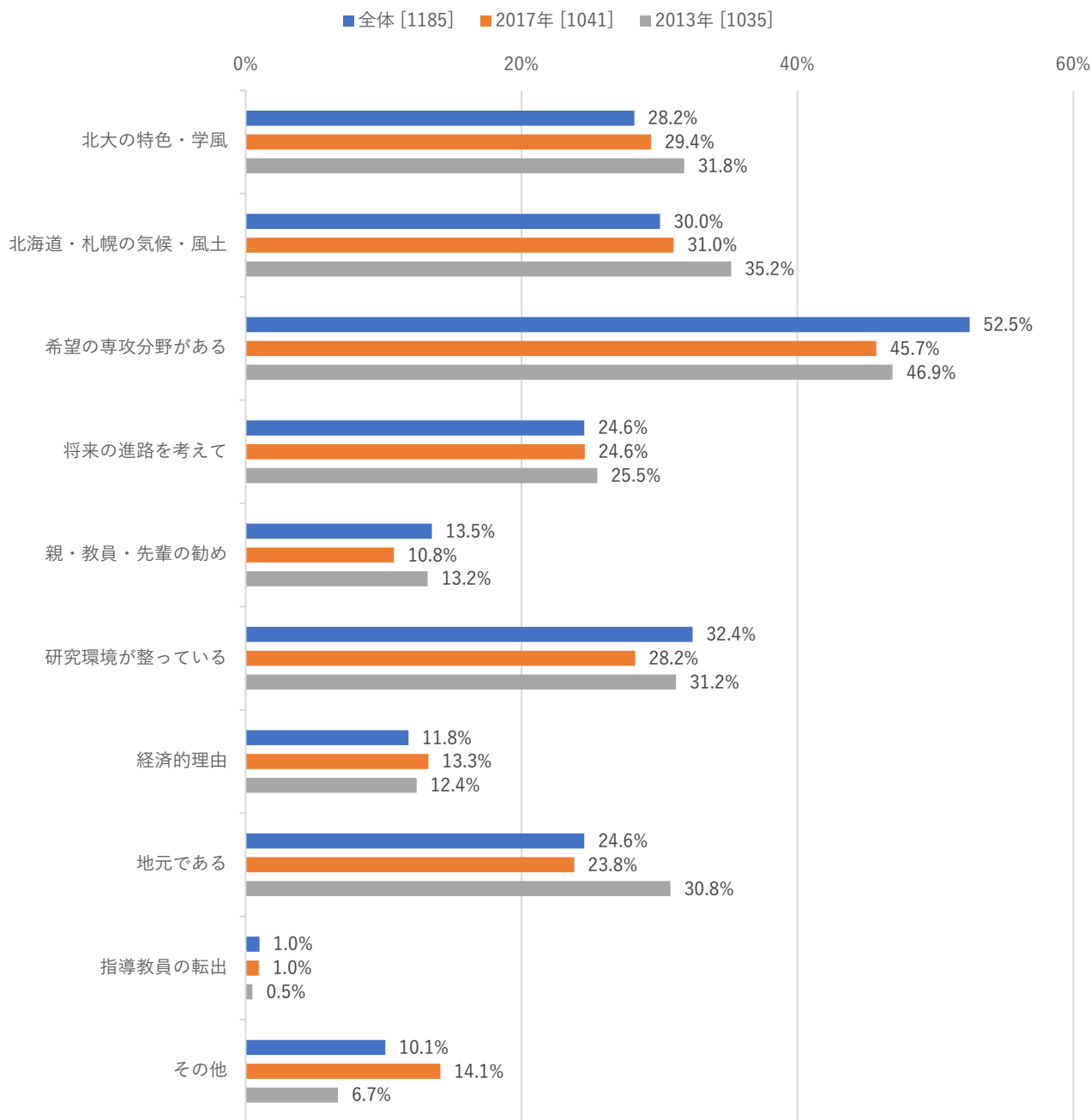
注1) 複数選択のため、割合の総和は100%を超える。

注2) [] は回答者数を示す。

北大大学院の志望理由

- 北大大学院を志望した理由は、「希望の専攻分野がある」(52.5%)が最も高く、次いで、「研究環境が整っている」(32.4%)、「北海道・札幌の気候・風土」(30.0%)、「北大の特色・学風」(28.2%)、「将来の進路を考えて」(24.6%)、「地元である」(24.6%)である。2017年調査と比べて、傾向に大きな違いは見られない。

■ 北大大学院を志望した理由 (3つまで)



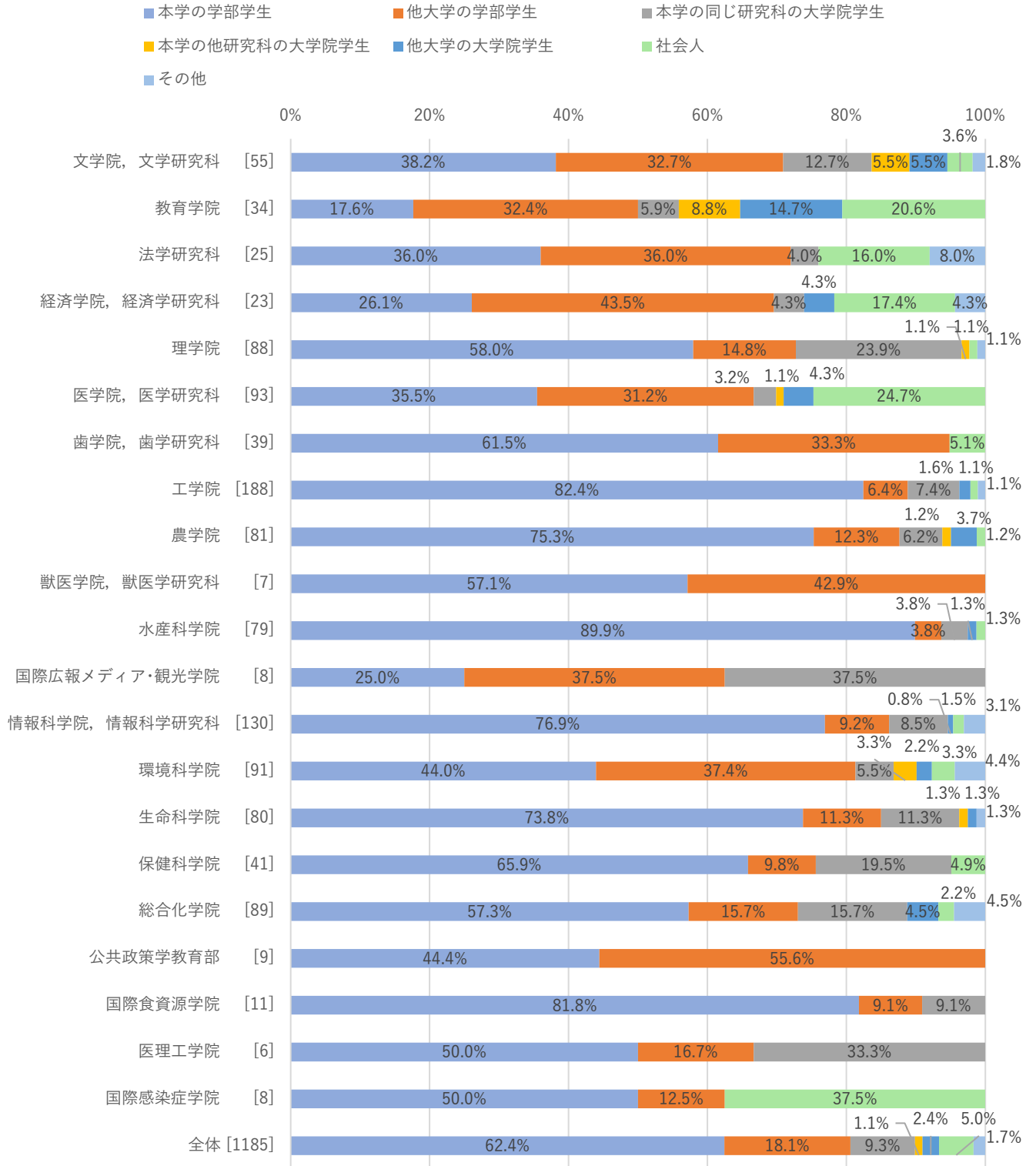
注1) 「指導教員の転出」は、前々回調査(2013年)からの新選択肢である。

注2) [] は回答者数を示す。

出身大学等

- 大学院入学前の出身大学等は、「本学の学部学生」が62.4%を占めている。「他大学の学部学生」は18.1%である。
- 「本学の学部学生」が多い研究科は、水産科学院、国際食資源学院、工学院、農学院、生命科学院である。「他大学の学部学生」が多い研究科等は、公共政策学教育部、経済学院・経済学研究科、獣医学院・獣医学研究科、国際広報メディア・観光学院、環境科学院である。（※回答数が少ない研究科等は参考程度）

■ 大学院入学前の出身大学等（研究科等別）



注1) [] は回答者数を示す。

大学生生活の満足度

- 大学生生活の平均満足度は3.6点（最大5点満点）であり、2013年調査（3.6点）、2017年調査（3.6点）と比べて、大きくは変わらない。
- 研究科等別では、最も平均満足度が高いのは、4.1点の国際広報メディア・観光学院である。一方、最も平均満足度が低いのは、3.3点の水産科学院である。（※回答数が少ない研究科等は参考程度）
- 全体として、満足度の高い項目は、「北大・札幌の生活環境」（4.2点）、「教員との関係」（4.0点）である。一方、満足度が低いのは、「食堂・売店等のサービス」（3.2点）である。

■ 大学生生活の満足度（研究科等別）

	対面授業	オンライン授業 (オンデマンド)	オンライン授業 (ライブ)	教育研究用 施設・設備	その他の 施設・設備	北大・札幌 の生活環境
文学院, 文学研究科 [55]	4.0	3.8	4.0	3.6	3.5	4.1
教育学院 [34]	4.1	3.7	3.9	3.3	3.4	4.1
法学研究科 [25]	4.0	3.6	3.9	3.3	3.6	4.4
経済学院, 経済学研究科 [23]	3.6	3.9	4.0	3.4	3.3	4.3
理学院 [88]	3.8	3.5	3.4	3.8	3.5	4.3
医学院, 医学研究科 [93]	3.1	3.5	3.3	3.3	3.2	4.1
歯学院, 歯学研究科 [39]	3.0	3.5	3.3	3.4	3.3	4.1
工学院 [188]	3.5	3.6	3.4	3.5	3.3	4.3
農学院 [81]	3.6	3.3	2.9	3.6	3.7	4.4
獣医学院, 獣医学研究科 [7]	3.4	4.4	4.1	3.1	3.1	3.6
水産科学院 [79]	3.4	3.5	3.1	3.1	2.9	3.5
国際広報メディア・観光学院 [8]	3.9	4.4	4.0	3.6	4.0	4.3
情報科学院, 情報科学研究科 [130]	3.5	3.9	3.6	3.9	3.6	4.4
環境科学院 [91]	3.5	3.6	3.7	3.6	3.5	4.1
生命科学学院 [80]	3.4	3.7	3.2	3.6	3.5	4.2
保健科学院 [41]	3.5	3.8	3.5	3.1	3.2	4.2
総合化学院 [89]	3.6	3.8	3.7	3.9	3.7	4.4
公共政策学教育部 [9]	4.0	3.7	4.3	3.4	3.6	4.6
国際食資源学院 [11]	3.5	2.5	3.2	3.5	3.5	4.8
医理工学院 [6]	3.3	3.8	3.8	4.0	3.8	4.7
国際感染症学院 [8]	3.8	4.3	3.8	4.4	3.4	4.6
全体 [1185]	3.5	3.6	3.5	3.6	3.4	4.2
2017年 [1041]	3.5	*	*	3.5	3.4	4.1
2013年 [1035]	3.5	*	*	3.7	3.5	4.2

大学生生活の満足度（つづき）

	食堂・売店等のサービス	図書館	教員との関係	窓口の対応	新型コロナ対策	平均
文学院, 文学研究科 [55]	3.4	3.7	4.3	3.7	3.5	3.8
教育学院 [34]	3.6	3.9	4.6	3.8	3.6	3.8
法学研究科 [25]	3.3	3.7	4.1	3.5	3.2	3.7
経済学院, 経済学研究科 [23]	3.8	3.9	4.0	4.0	3.6	3.8
理学院 [88]	3.1	3.9	4.0	3.3	3.4	3.6
医学院, 医学研究科 [93]	3.2	3.6	3.8	3.2	3.4	3.4
歯学院, 歯学研究科 [39]	3.0	3.6	3.8	3.5	3.6	3.4
工学院 [188]	3.3	3.7	3.9	3.2	3.3	3.5
農学院 [81]	3.3	3.9	3.9	3.3	3.5	3.6
獣医学院, 獣医学研究科 [7]	2.3	3.6	4.6	3.6	3.6	3.6
水産科学院 [79]	2.7	3.5	3.8	3.4	3.2	3.3
国際広報メディア・観光学院 [8]	4.0	4.4	4.6	3.8	3.8	4.1
情報科学院, 情報科学研究科 [130]	3.5	3.9	4.0	3.6	3.6	3.8
環境科学院 [91]	3.3	3.9	4.0	3.6	3.6	3.7
生命科学院 [80]	2.9	3.7	3.9	3.4	3.2	3.5
保健科学院 [41]	3.1	3.5	4.0	3.1	3.2	3.5
総合化学院 [89]	3.2	4.0	4.0	3.5	3.6	3.8
公共政策学教育部 [9]	3.4	3.8	4.6	3.6	3.0	3.8
国際食資源学院 [11]	2.5	4.0	4.1	3.8	3.5	3.5
医理工学院 [6]	3.8	4.2	5.0	3.3	3.7	4.0
国際感染症学院 [8]	1.9	3.8	4.1	2.8	3.4	3.6
全体 [1185]	3.2	3.8	4.0	3.4	3.4	3.6
2017年 [1041]	3.2	3.6	3.9	3.3	*	3.6
2013年 [1035]	3.3	3.8	3.9	3.1	*	3.6

(点)

注1) 加重平均値の算出は、5：満足、4：まあ満足、3：普通、2：少し不満、1：不満

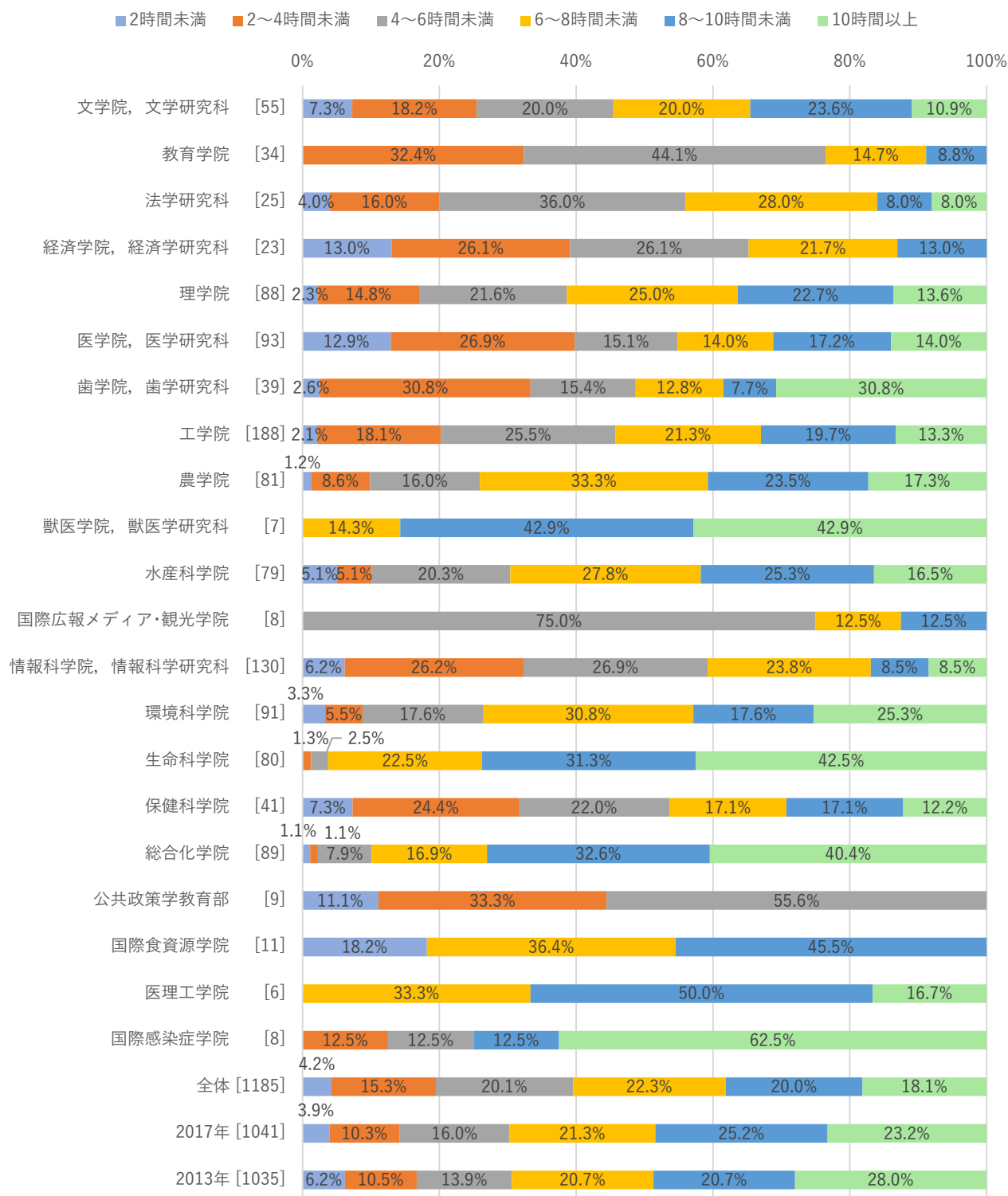
注2) 「オンライン授業（オンデマンド）」「オンライン授業（ライブ）」「新型コロナ対策」は、今回調査からの新項目である。

注3) [] は回答者数を示す。

一日の平均研究・学習時間

- 一日の平均研究・学習時間は、「6～8 時間未満」(22.3%)、「4～6 時間未満」(20.1%)、「8～10 時間未満」(20.0%) が中心である。
- 研究科等別にみると、一日の平均研究・学習時間が短いのは、公共政策学教育部、経済学院・経済学研究科、教育学院、情報科学院・情報科学研究科、国際広報メディア・観光学院、医学院・医学研究科である。一方、8 時間以上の比率が高く、研究・学習時間が長いのは、獣医学研究科、国際感染症学院、生命科学院、総合化学院である。(※回答数が少ない研究科等は参考程度)

■ 一日の平均研究・学習時間 (研究科等別)

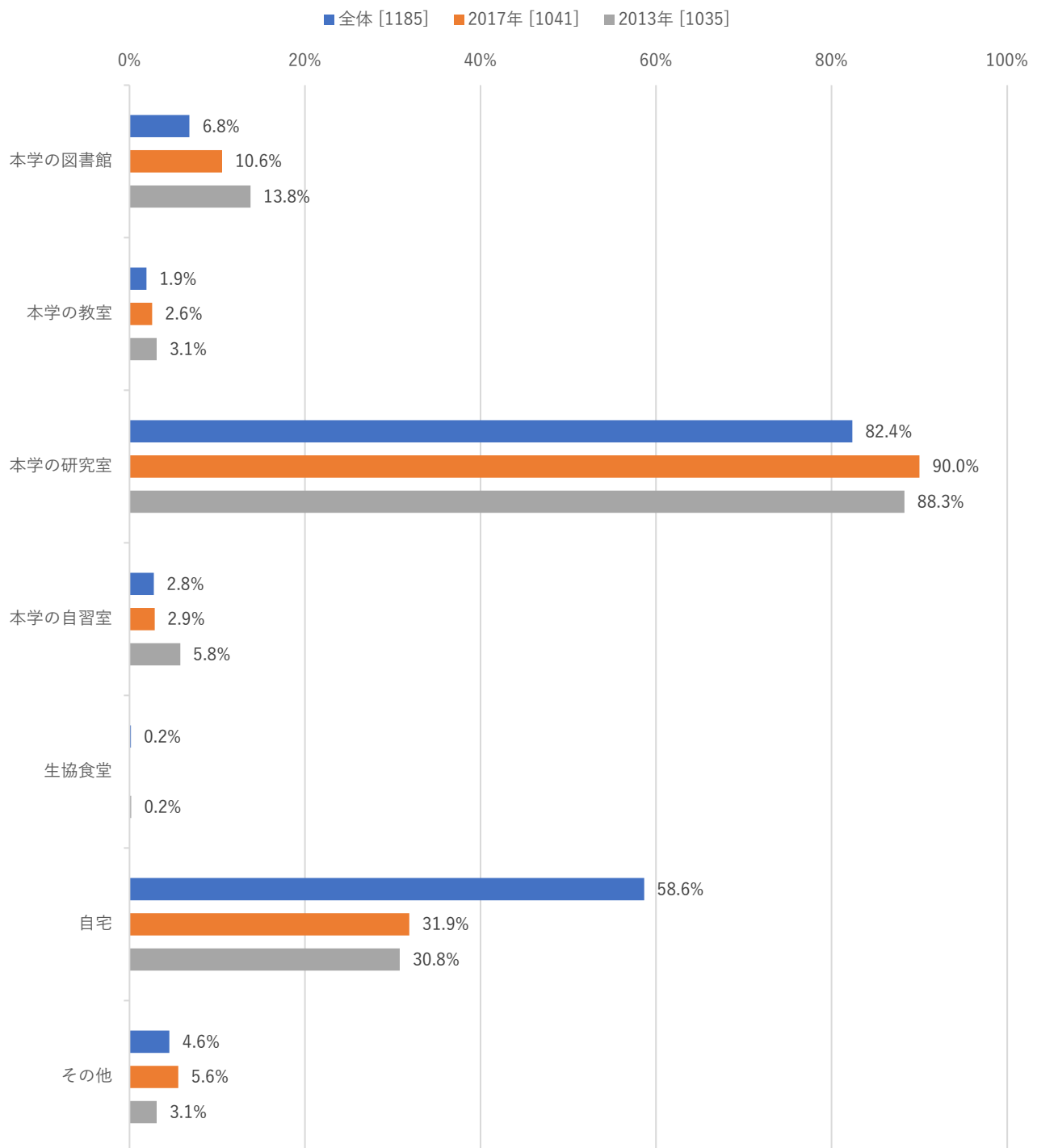


注1) [] は回答者数を示す。

研究・学習を行う場所

- 研究・学習を行う場所は、大半が「本学の研究室」(82.4%)を利用している。「自宅」が58.6%で、半数以上が学内以外でも自習を行っている。
- 2017年調査と比べて、「自宅」で研究・学習を行う比率が増加した。

■ 研究・学習を行う場所 (2つまで)

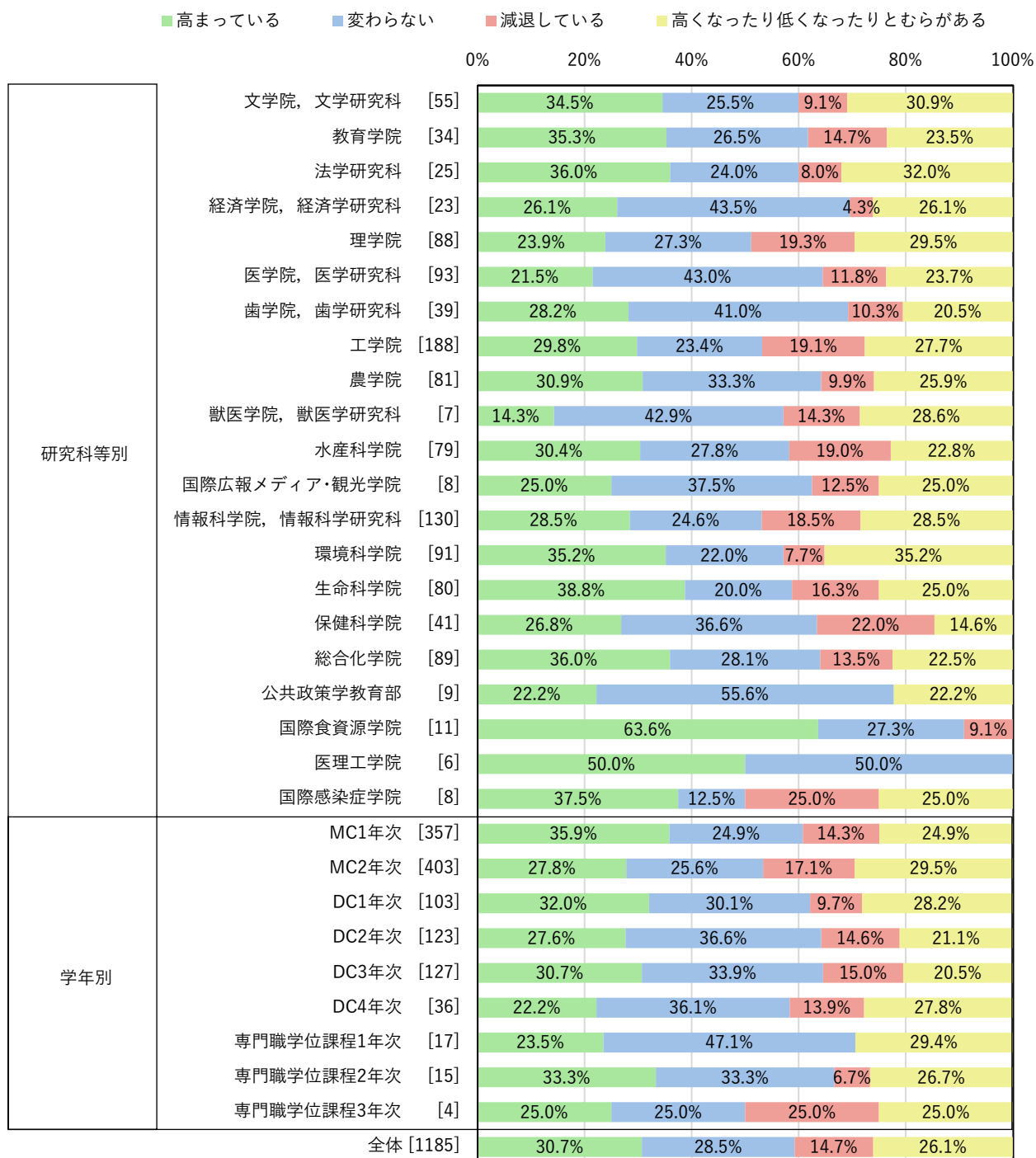


注1) [] は回答者数を示す。

入学後の研究意欲

- 入学後の研究意欲が「高まっている」と回答した学生は全体の30.7%で、研究意欲は高い水準を維持している。
- 研究科等別では、学習意欲が「高まっている」と回答した割合が高いのは、国際食資源学院、医理工学院、生命科学学院、国際感染症学院、総合化学院である。（※回答数が少ない研究科等は参考程度）

■ 入学後の研究意欲（研究科等別／学年別）



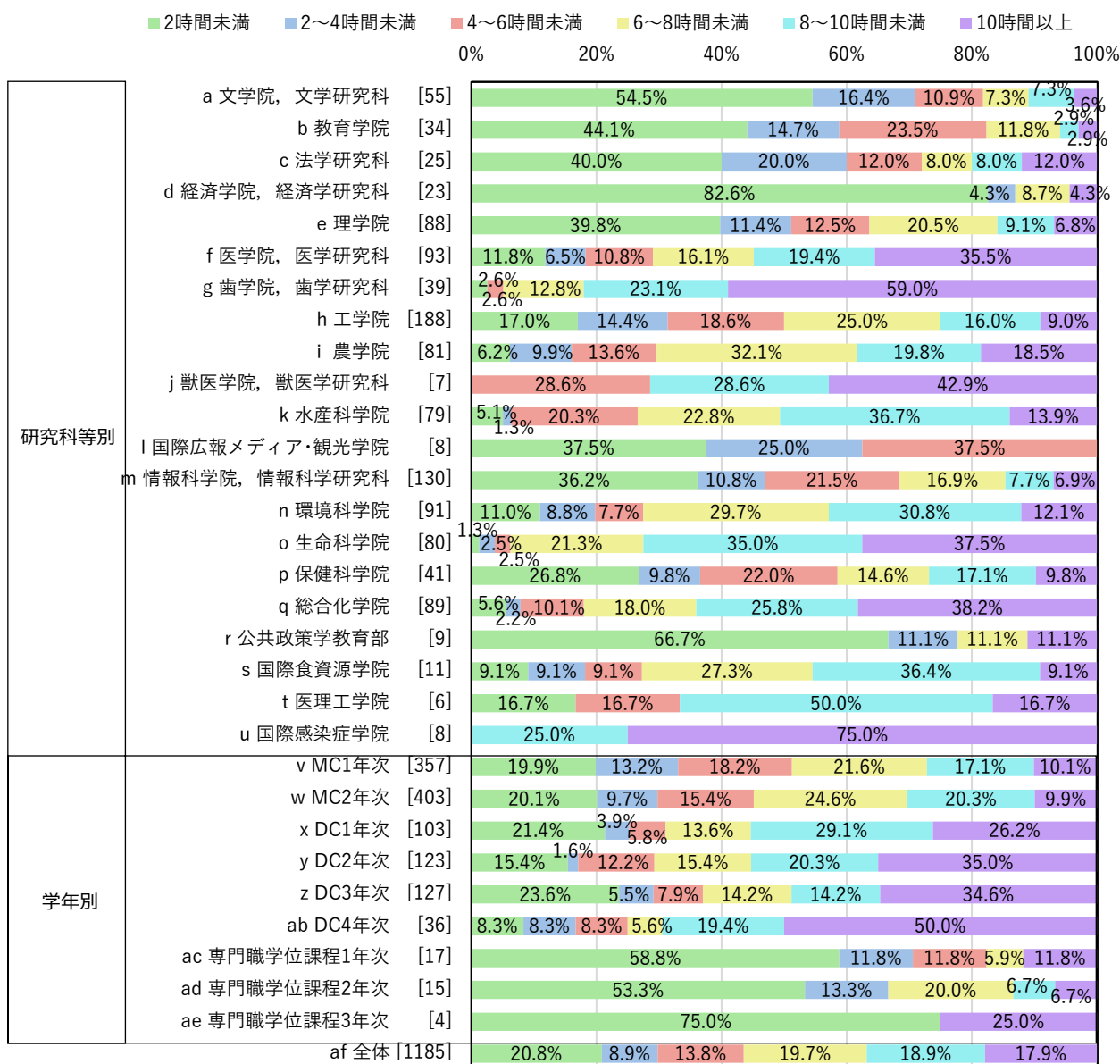
注1) 「高くなったり低くなったりとむらがある」は今回調査からの新選択肢である。

注2) [] は回答者数を示す。

大学で過ごす一日の平均時間

- 大学で過ごす一日の平均時間は、「2 時間未満」(20.8%)、「6～8 時間未満」(19.7%)、「8～10 時間未満」(18.9%)、「10 時間以上」(17.9%)と、さまざまである。
- 研究科等別では、国際感染症学院、歯学院・歯学研究科、獣医学院・獣医学研究科は「10 時間以上」の比率が半数近くを占める。一方、経済学院・経済学研究科、公共政策学教育部、文学院・文学研究科は 4 時間未満の比率が高い。(※回答数が少ない研究科等は参考程度)
- 学年別にみると、博士(後期)課程は修士課程よりも「10 時間以上」の比率が高い。

■ 大学で過ごす一日の平均時間(研究科等別/学年別)



注 1) 回答は選択式で、研究科等別・学年別の平均時間は下記のとおり。表記については、研究科等・学年名称横のアルファベットを用いている。平均時間は中央値を用いて計算した。

例：2～4 時間未満の場合は 3 時間、2 時間未満は 1 時間、10 時間以上は 11 時間として計算し、それらの平均値を平均時間とした。

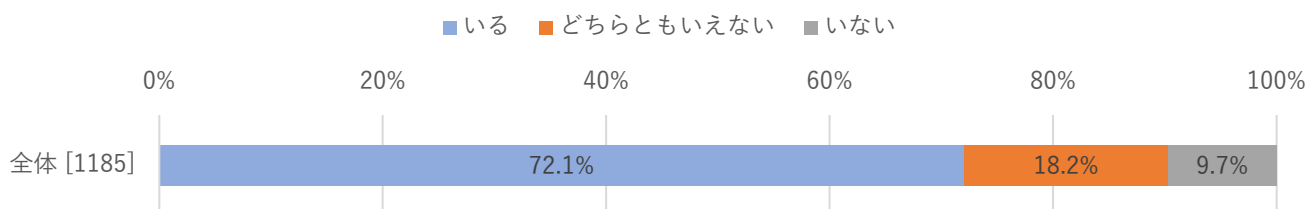
a 3.1 時間、b 3.5 時間、c 4.2 時間、d 2.0 時間、e 4.4 時間、f 7.6 時間、g 9.6 時間、h 5.7 時間、i 7.1 時間、j 8.7 時間、k 7.5 時間、l 3.0 時間、m 4.4 時間、n 6.9 時間、o 9.0 時間、p 5.3 時間、q 8.4 時間、r 3.0 時間、s 7.0 時間、t 7.3 時間、u 10.5 時間、v 5.7 時間、w 5.9 時間、x 7.1 時間、y 7.6 時間、z 6.9 時間、ab 8.4 時間、ac 3.2 時間、ad 3.7 時間、ae 3.5 時間、af 6.2 時間。

注 2) [] は回答者数を示す。

対人関係、教員との関係

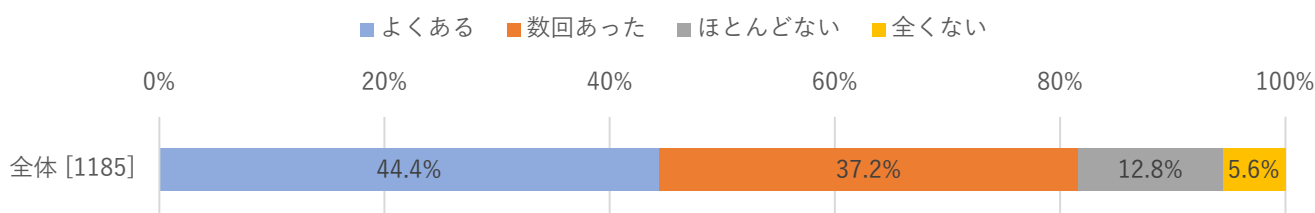
- 全体の72.1%の学生が、親しく話したり、相談したりできる友達が「いる」と回答している。
- 教員との会話・相談機会をみると、「よくある」と回答した学生は全体の44.4%。「数回あった」(37.2%)と合わせると、81.6%の学生が会話・相談機会が「ある」と回答している。一方、会話・相談機会が「ほとんどない」「全くない」と回答した学生の割合は18.4%に留まる。
- 一方、教員との会話・相談機会が「ほとんどない」「全くない」と回答した学生の教員に相談しない理由は、「なんとなく話しにくい」(32.1%)が最も多い。次いで、「話しても仕方がない」(28.0%)や「相談や話をしたいがその機会がない」(17.9%)などである。

■ 相談できる友人の有無



注1) [] は回答者数を示す。

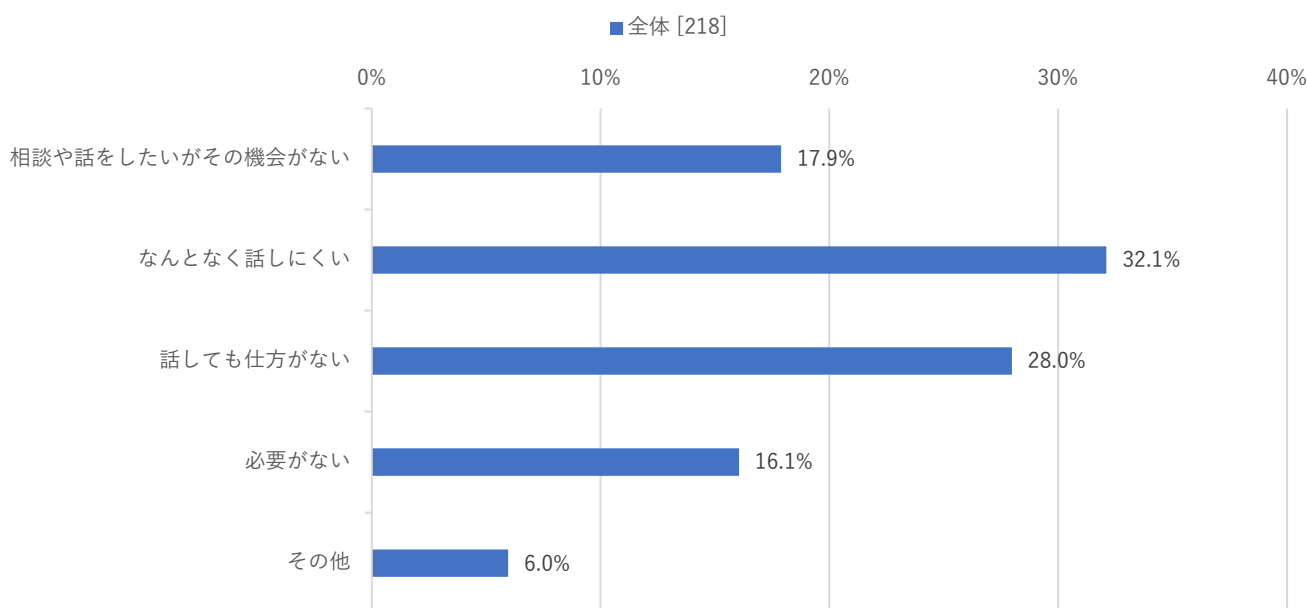
■ 教員との会話・相談機会



注1) [] は回答者数を示す。

■ 教員に相談しない理由

※教員との非相談者ベース



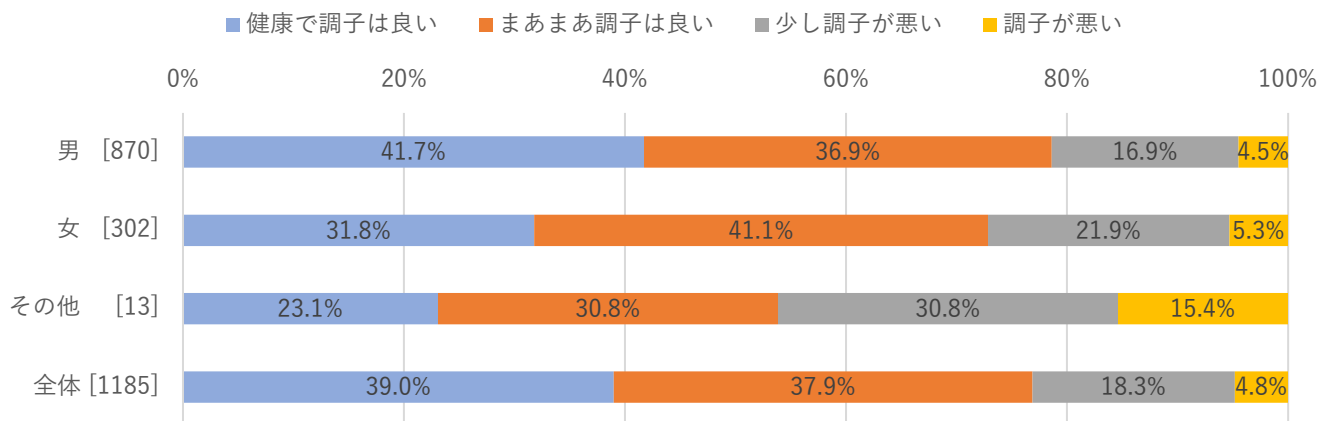
注1) [] は回答者数を示す。

I 健康状態

身体の調子と通院状況

- 身体の調子については、「健康で調子は良い」が39.0%。「まあまあ調子は良い」(37.9%)を合わせると、「調子は良い」と回答した学生は76.9%であり、概ね体調は良好である。
- 性別別では、その他を選択した学生で「少し調子が悪い」の比率が多い。
- 身体の調子が悪い学生のうち、36.1%の学生が通院している。
- 性別別では、その他を選択した学生が通院している比率が高い。

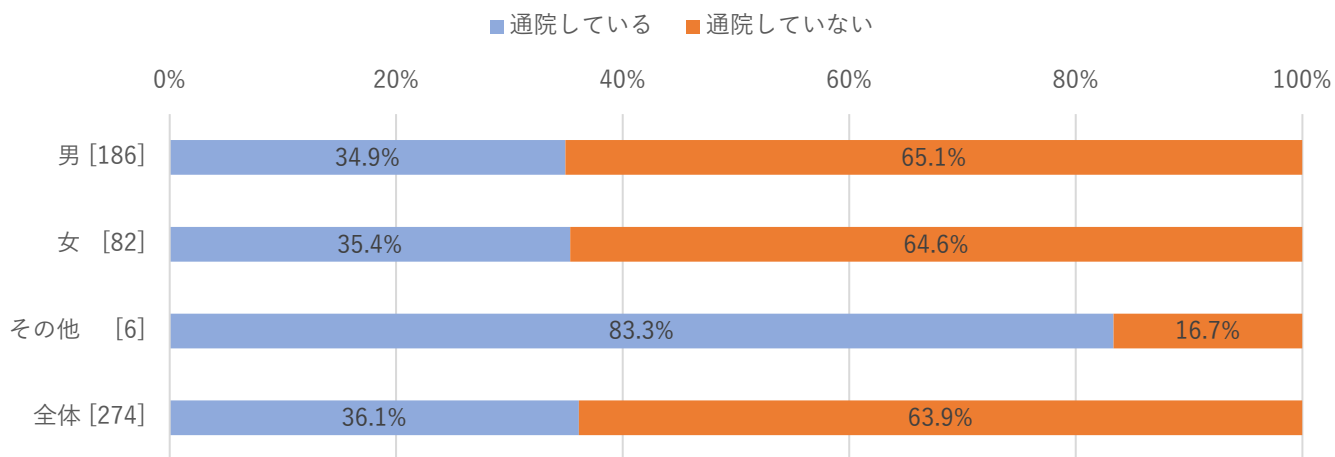
■ 身体の調子（性別別）



注1) [] は回答者数を示す。

■ 通院状況（性別別）

※身体の調子が悪い者ベース

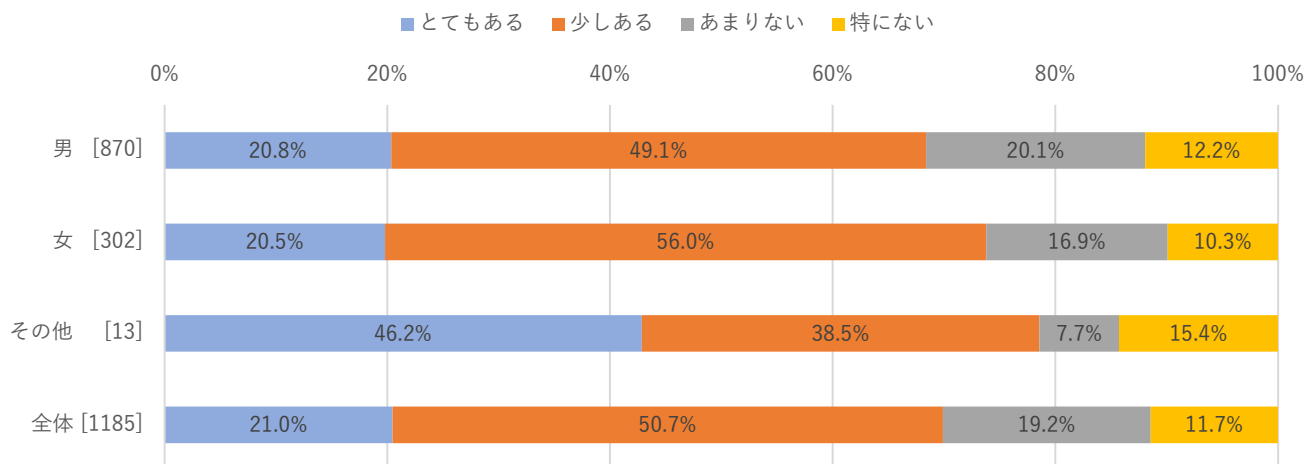


注1) [] は回答者数を示す。

悩み・不安

- 悩み・不安が「とてもある」と回答した学生は21.0%、「少しある」(50.7%)を合わせると、悩み・不安が「ある」学生は71.7%に達し、「あまりない」(19.2%)、「特にない」(11.7%)を合わせた「悩み・不安がない」学生(30.9%)を上回っている。
- 悩み・不安が「ある」と回答した学生の原因は、「研究」(70.5%)が最も多く、次いで「進路・就職」(66.8%)である。
- 悩み・不安の相談相手は、「北大の友人・先輩」(52.2%)が最も多く、次いで「家族」(44.9%)、「その他の友人・知人」(36.9%)である。「家族」や「その他の友人・知人」に相談している比率は女子学生が高い。

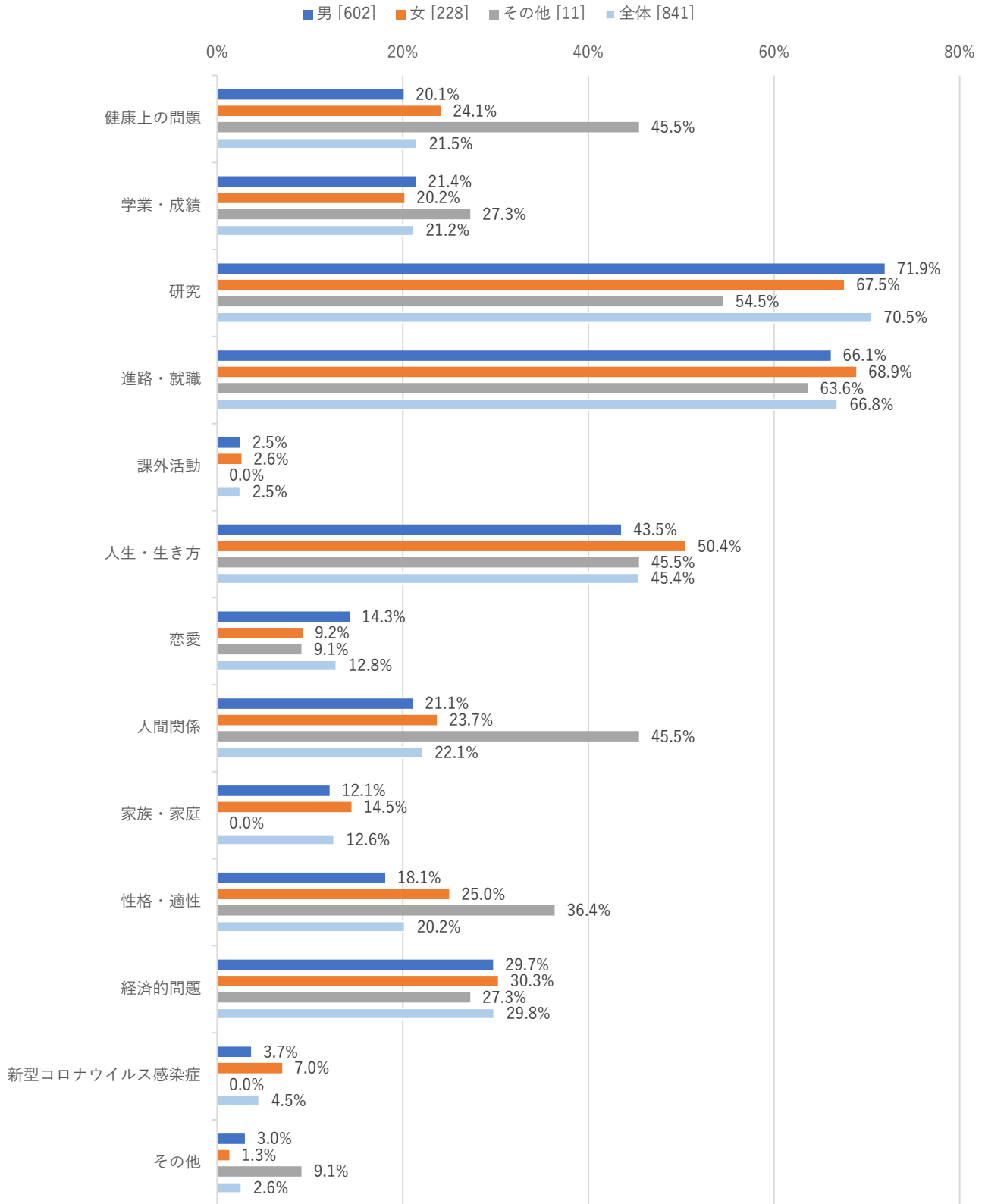
■ 悩み・不安の有無（性別別）



注1) [] は回答者数を示す。

■ 悩み・不安の原因（性別別・3つまで）

※悩み・不安がある者ベース

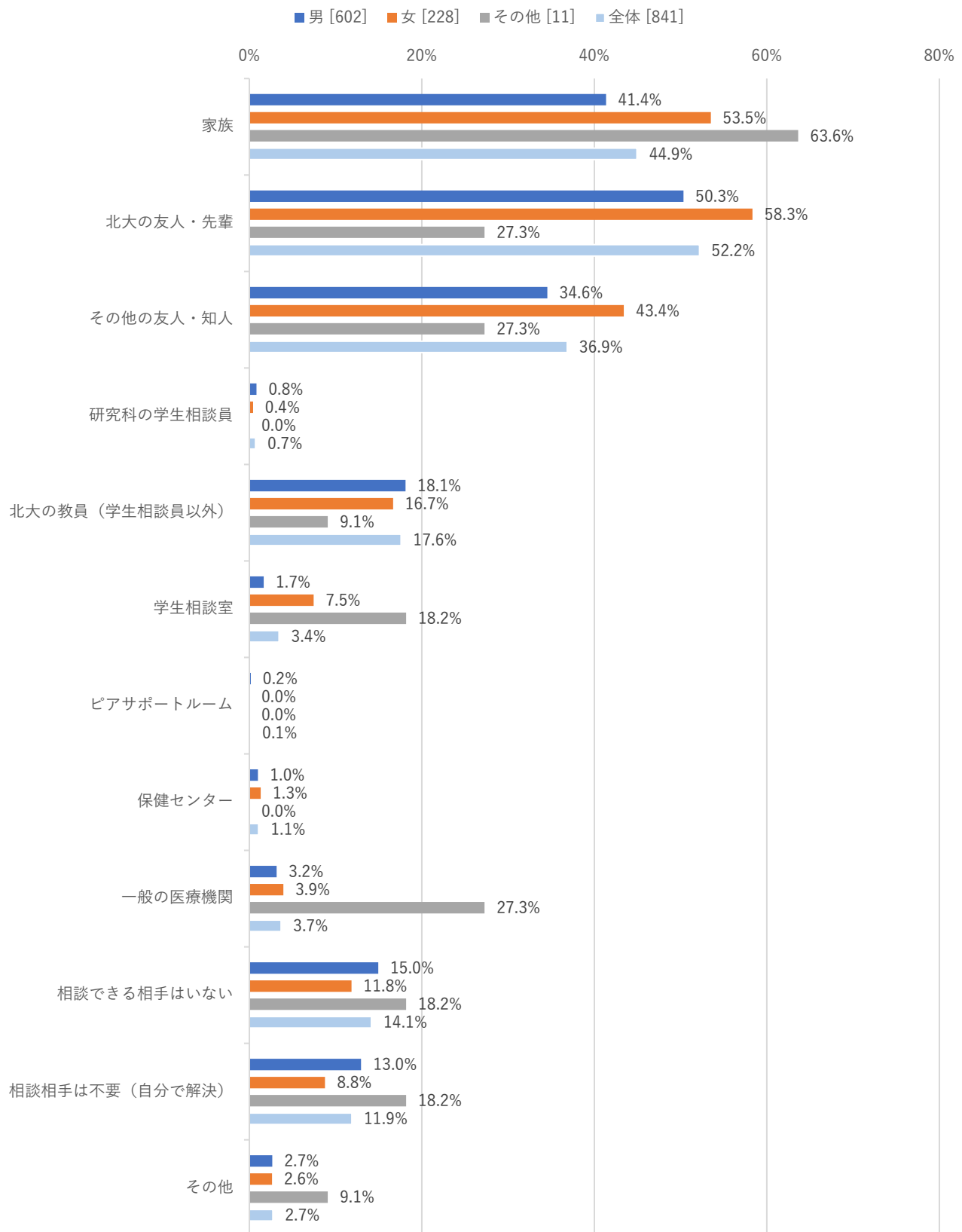


注1) [] は回答者数を示す。

悩み・不安（つづき）

■ 悩み・不安の相談相手（性別別・3つまで）

※悩み・不安がある者ベース

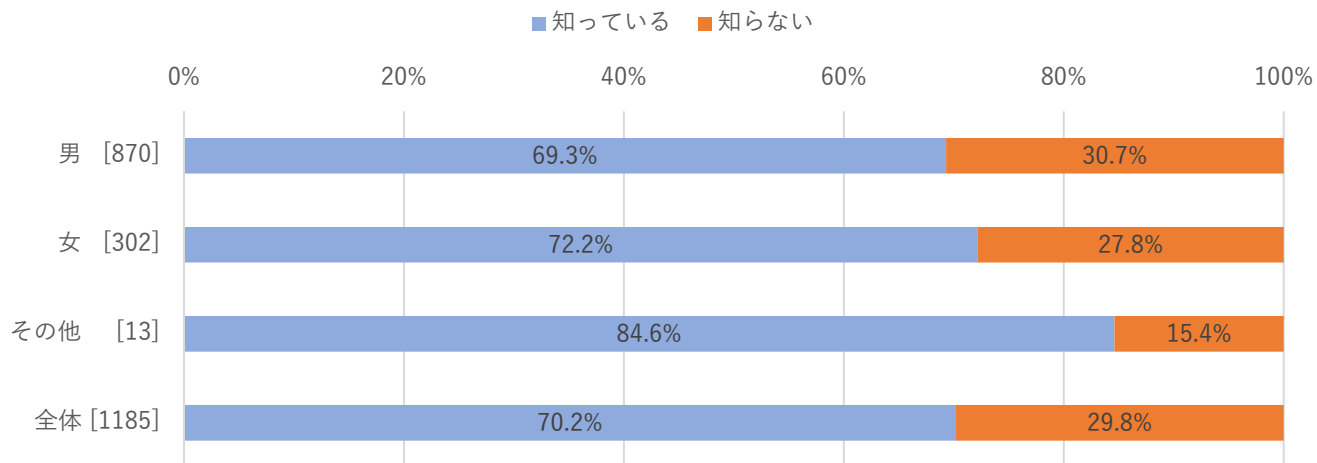


注1) [] は回答者数を示す。

カウンセリングサービスの認知状況

- カウンセリングサービスの認知率は70.2%である。
- 性別別では、知っている比率は、その他を選択したした学生が若干高い。

■ カウンセリングサービスの認知状況（性別別）



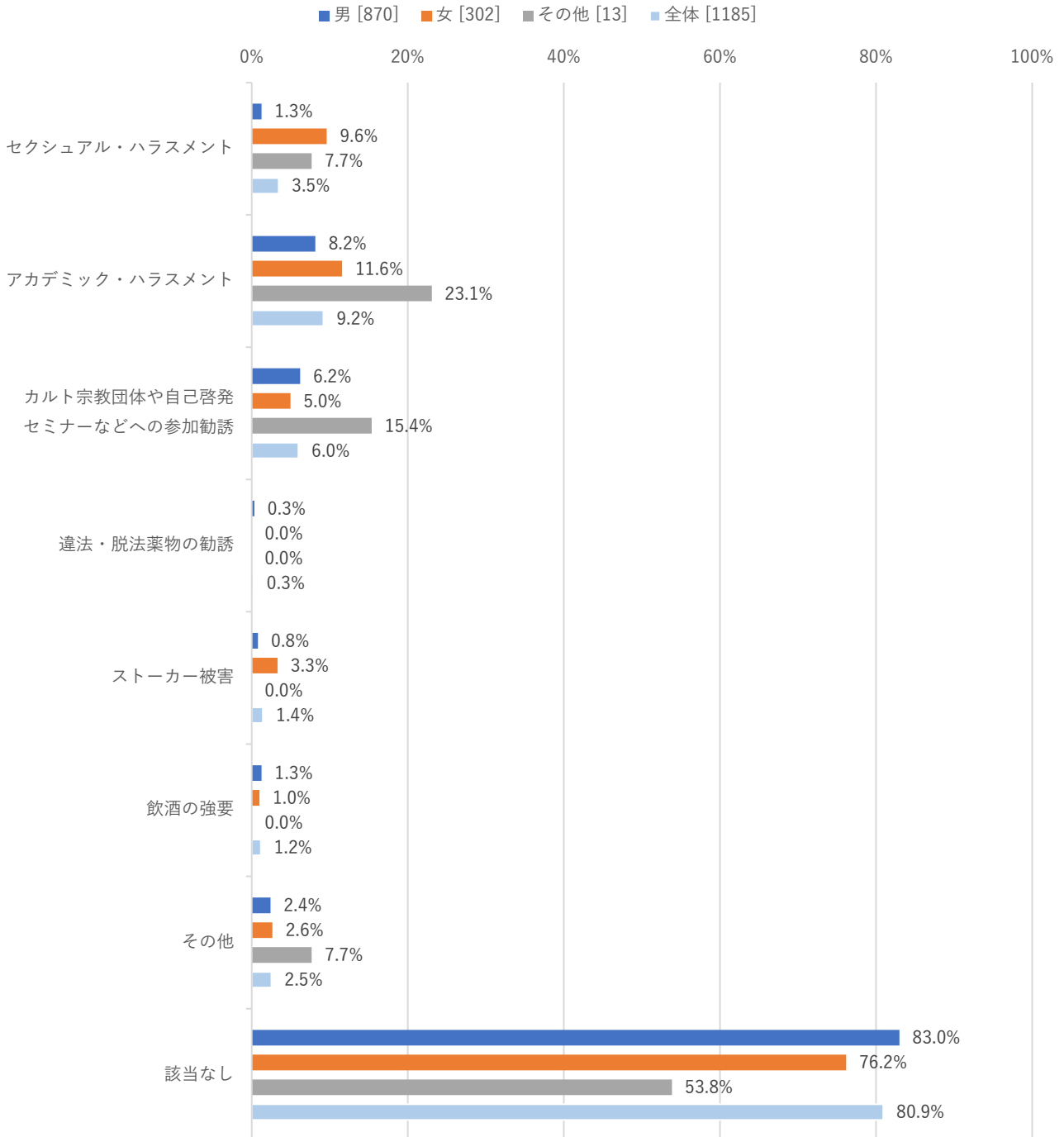
注1) [] は回答者数を示す。

Ⅱ ハラスメント及びカルト宗教団体等の被害状況

自身のハラスメント等の被害経験

- 自身のハラスメント等の被害経験がある学生は19.1%であり、その内容は、「アカデミック・ハラスメント」が9.2%、「カルト宗教団体や自己啓発セミナーなどへの参加勧誘」が6.0%である。
- 「セクシュアル・ハラスメント」は、女子学生が男子学生に比べて被害を受ける割合(9.6%)が高い。
- その他学生の半数がハラスメント等の被害経験があり、男子学生・女子学生よりも割合が高い。
- 「その他」は性の多様性等と関係するものも多いと推察されるが、その他を選択した学生の半数がハラスメントやカルト等の被害が50%弱であり、「男」「女」と回答したものよりも割合が高い。

■ 自身のハラスメント等の被害経験（性別別・複数回答）

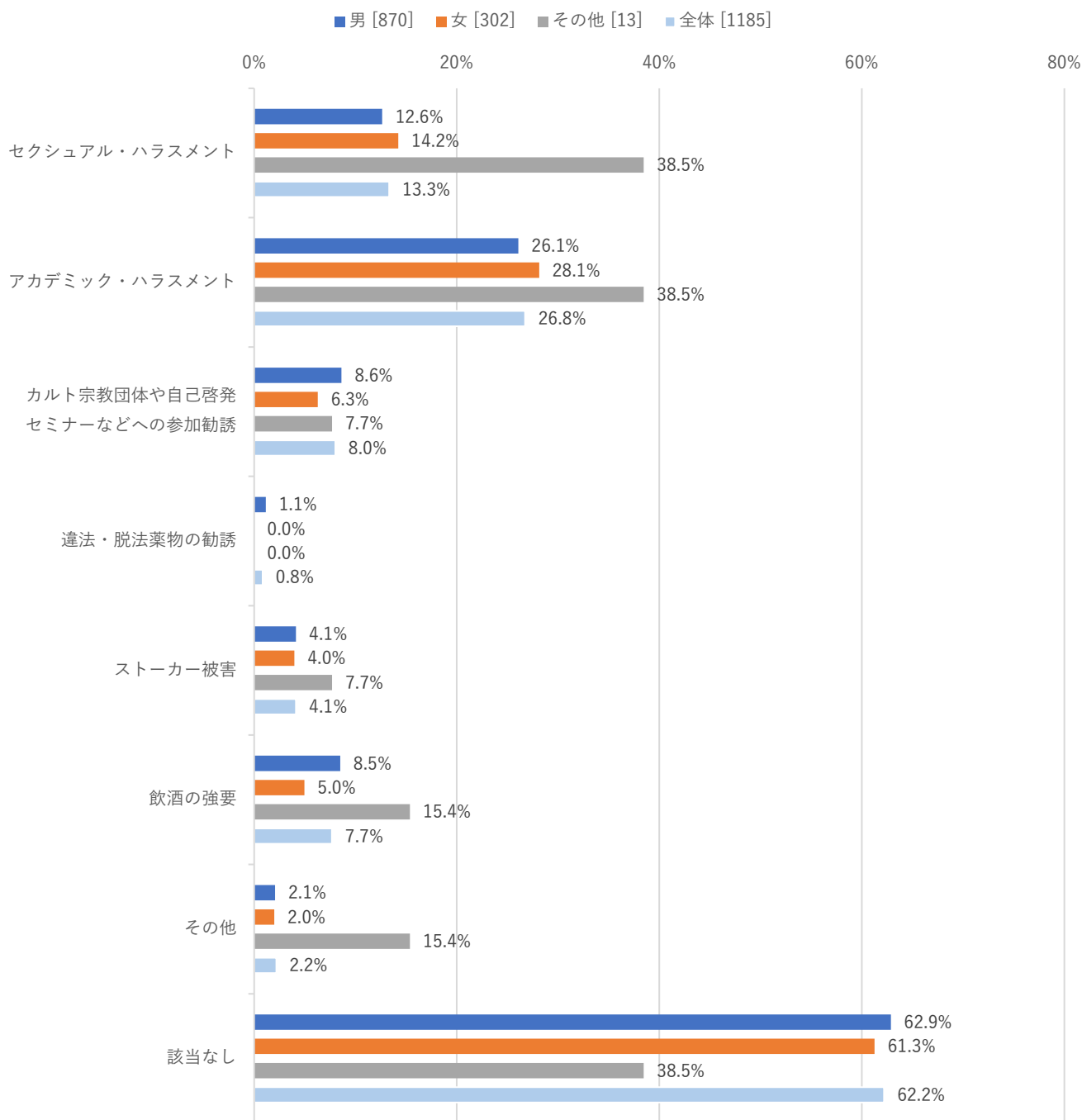


注1) [] は回答者数を示す。

他人のハラスメント等の被害を見聞きした経験

- 他人のハラスメント等の被害を見聞きした経験がある学生は37.8%、その内容は「アカデミック・ハラスメント」(26.8%)が最も多く、次いで「セクシュアル・ハラスメント」(13.3%)、「カルト宗教団体や自己啓発セミナーなどへの参加勧誘」(8.0%)、「飲酒の強要」(7.7%)、と続く。
- 性別別では、「セクシュアル・ハラスメント」「アカデミック・ハラスメント」は男子学生より女子学生の方が見聞きした経験がある比率がやや高い。
- ハラスメント等の被害と遭遇する割合は、その他を選択した学生が6割強と比率が高い。
- 自身の被害経験より他人の被害を見聞きした経験の方が多い。

■ 他人のハラスメント等の被害を見聞きした経験（性別別・複数回答）

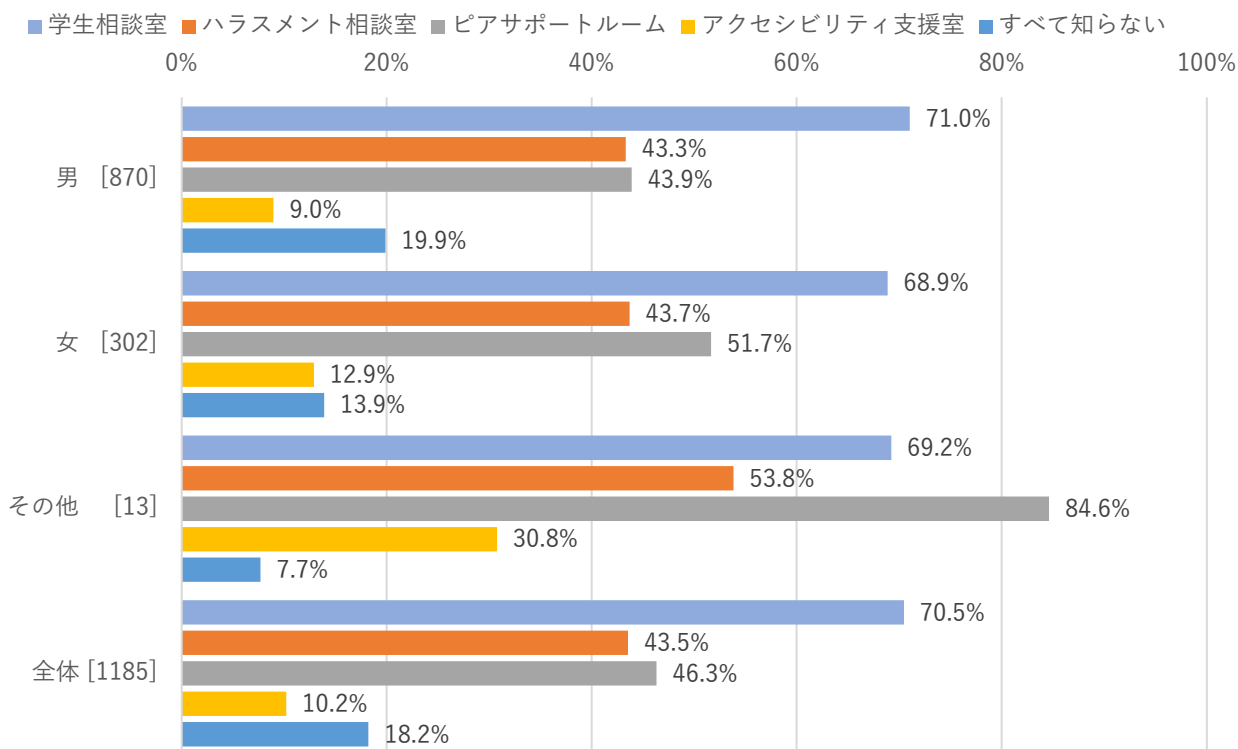


注1) [] は回答者数を示す。

学生相談窓口の認知状況

- 学生相談窓口の認知率は、「学生相談室」(70.5%)が最も多く、次いで、「ピアサポートルーム」(46.3%)、「ハラスメント相談室」(43.5%)である。それぞれの学生相談窓口によって認知度合いが異なっている。

■ 学生相談窓口の認知状況 (性別別)



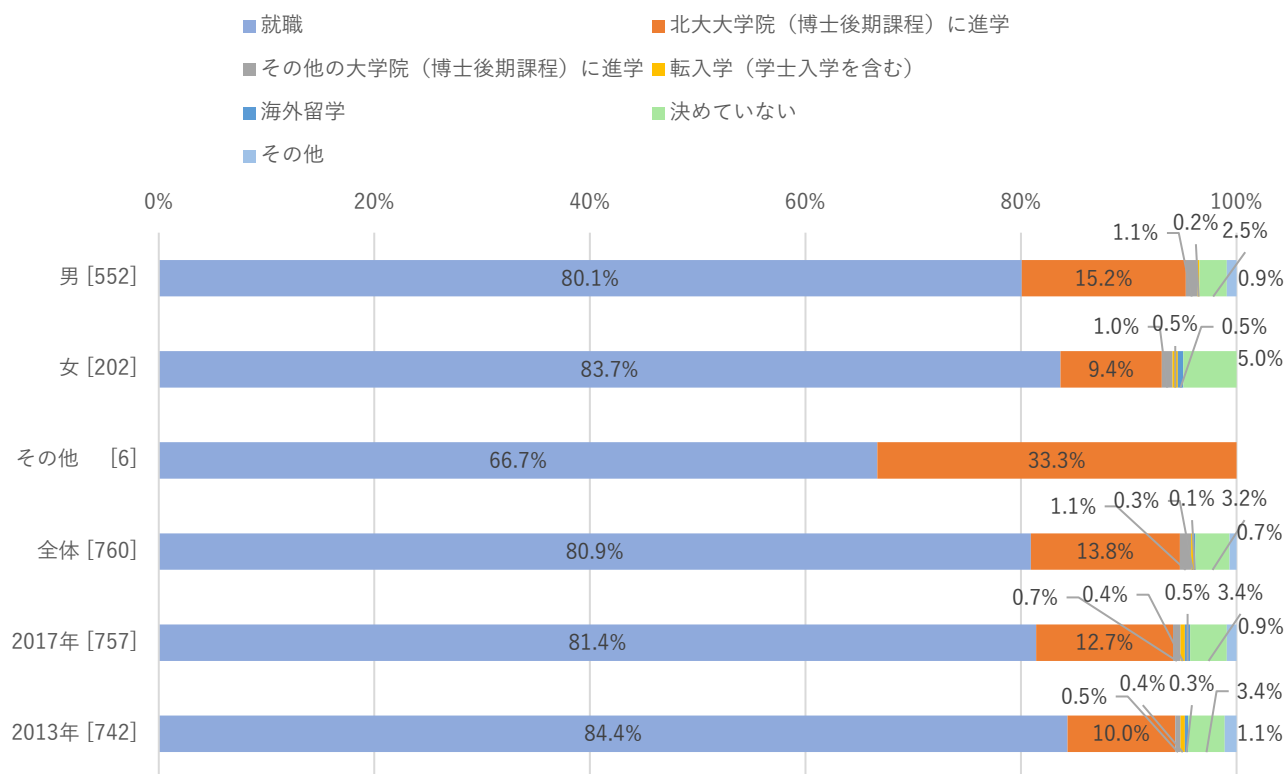
注1) [] は回答者数を示す。

K 進路の希望

修了後の進路希望（修士課程）

- 修了後の進路希望は、修士課程で「就職」（80.9%）が最も多く、「北大大学院に進学」が13.8%である。
- 博士(後期)課程では、「就職」が64.8%、「海外留学」が5.7%である。また、13.9%は「決めていない」と回答した。

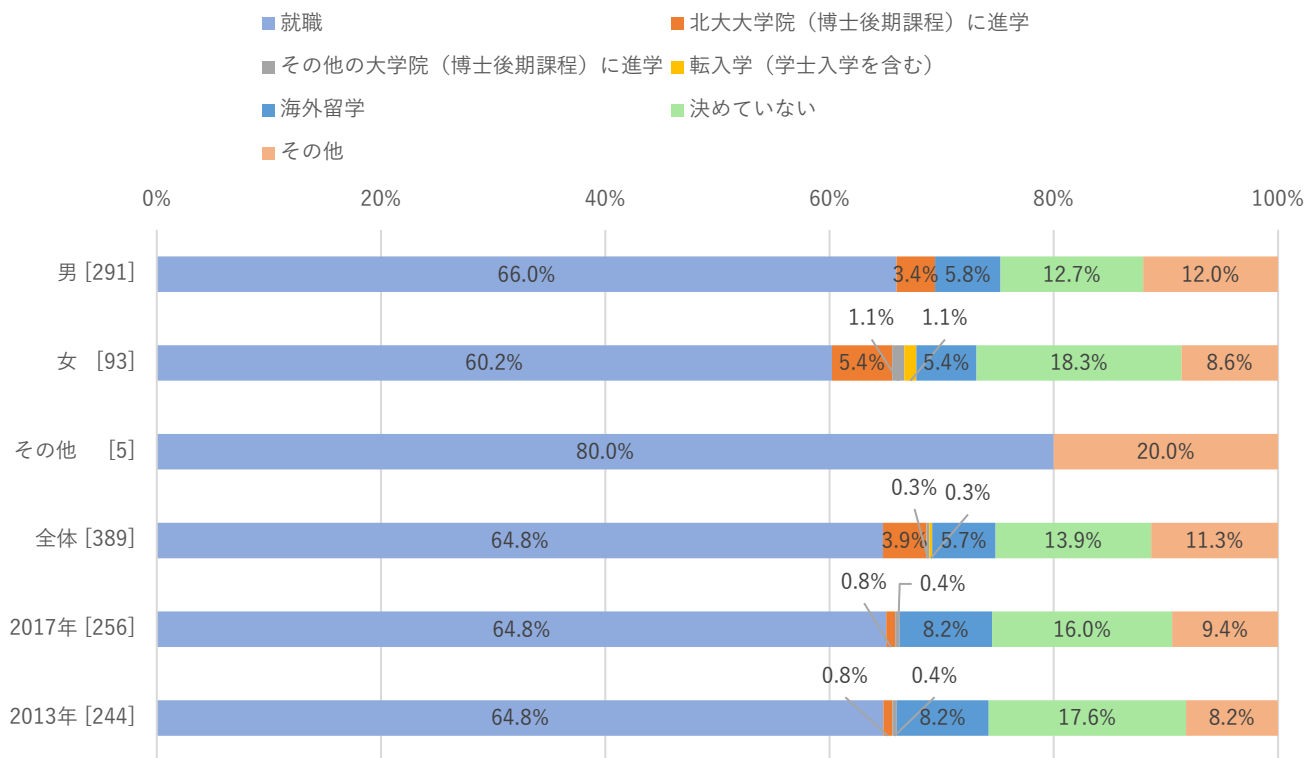
■ 修了後の進路希望（修士課程・性別別）



注1) [] は回答者数を示す。

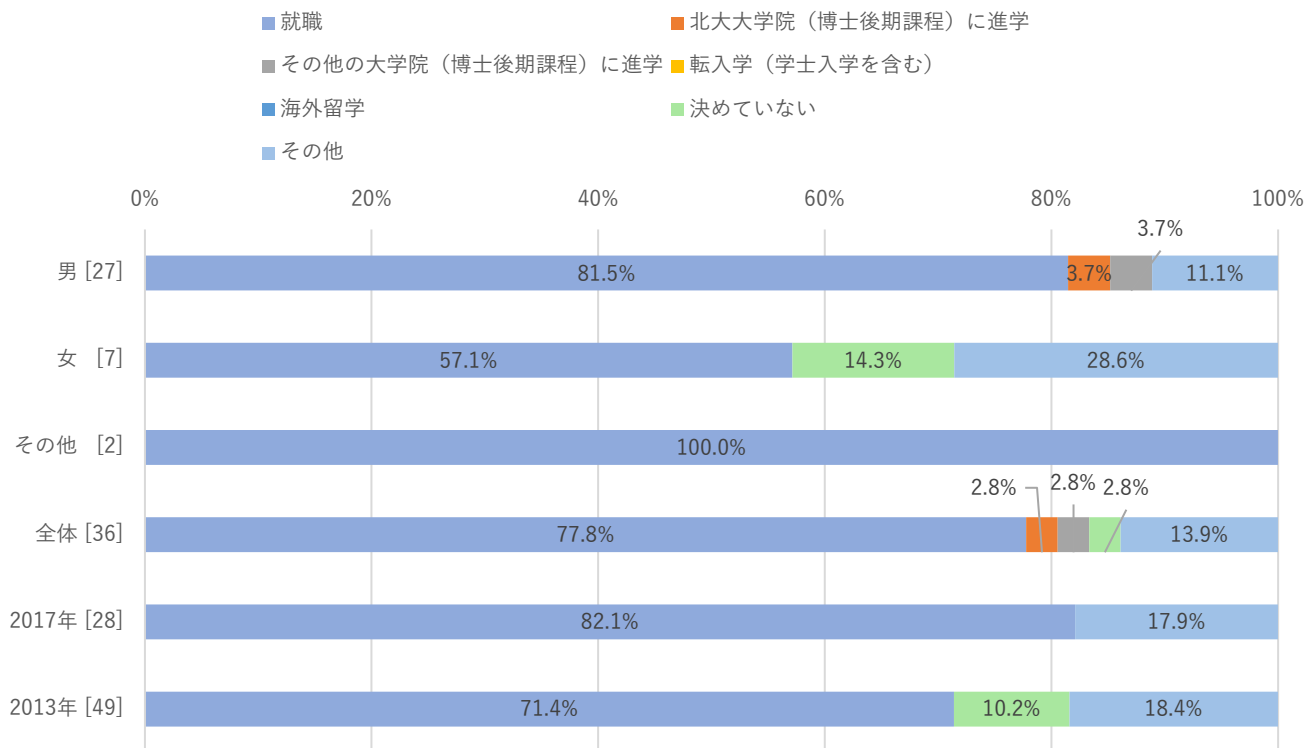
修了後の進路希望（博士（後期）課程／専門職学位課程）

■ 修了後の進路希望（博士（後期）課程・性別別）



注1) [] は回答者数を示す。

■ 修了後の進路希望（専門職学位課程・性別別）



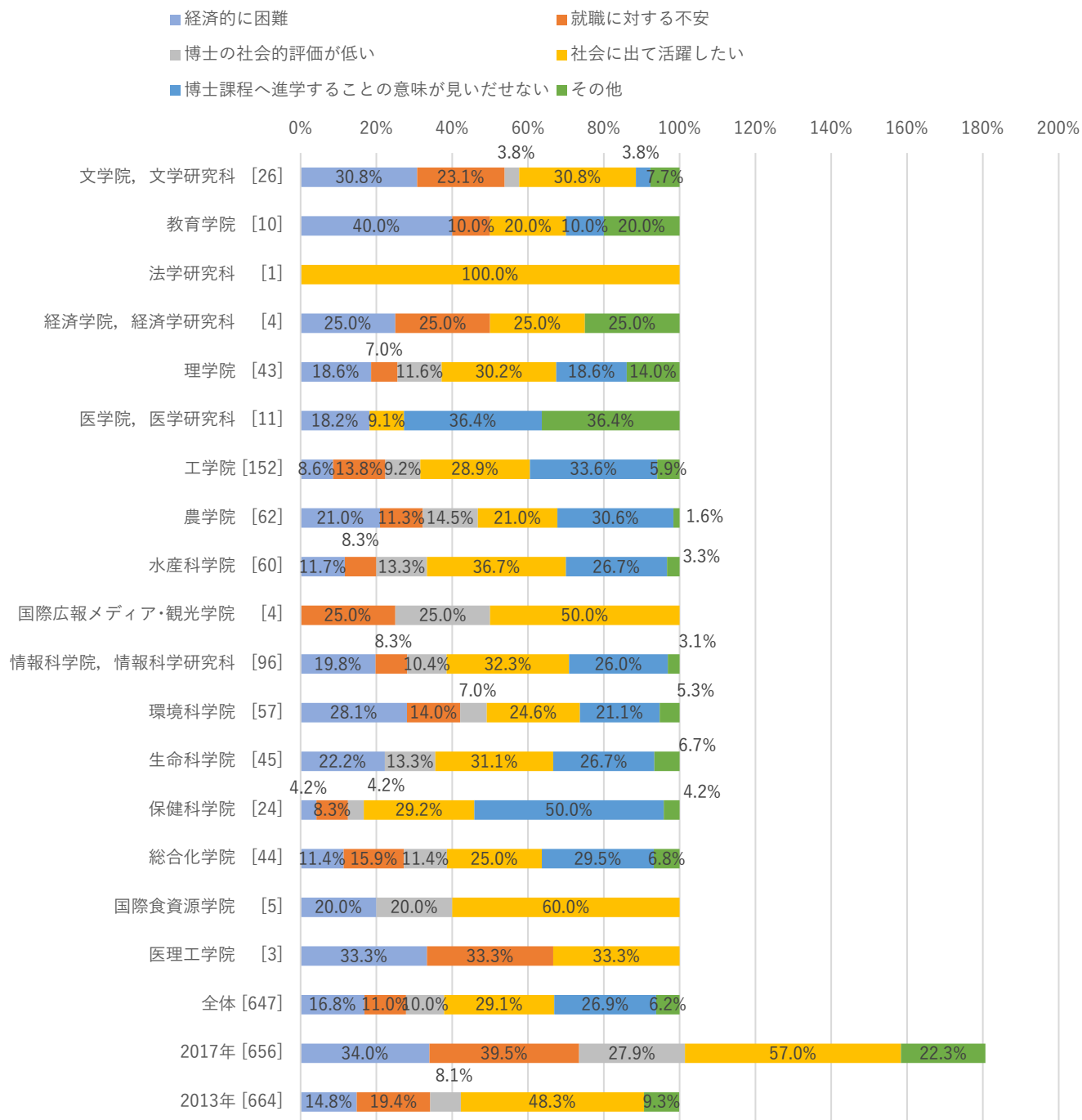
注1) [] は回答者数を示す。

大学院（博士後期課程）に進学しない理由

- 大学院（博士後期課程）に進学しない理由は、「社会に出て活躍したい」（29.1%）が最も多く、次いで、「博士課程へ進学することの意味が見いだせない」（26.9%）、「経済的に困難」（16.8%）、「就職に対する不安」（11.0%）である。（※回答数が少ない研究科等は参考程度）

■ 大学院（博士後期課程）に進学しない理由（修士課程・研究科等別）

※博士後期課程非進学者ベース



注1) 「博士課程へ進学することの意味が見いだせない」は、今回調査からの新選択肢である。

注2) 2017年調査は複数選択のため、割合の総和は100%を超える。

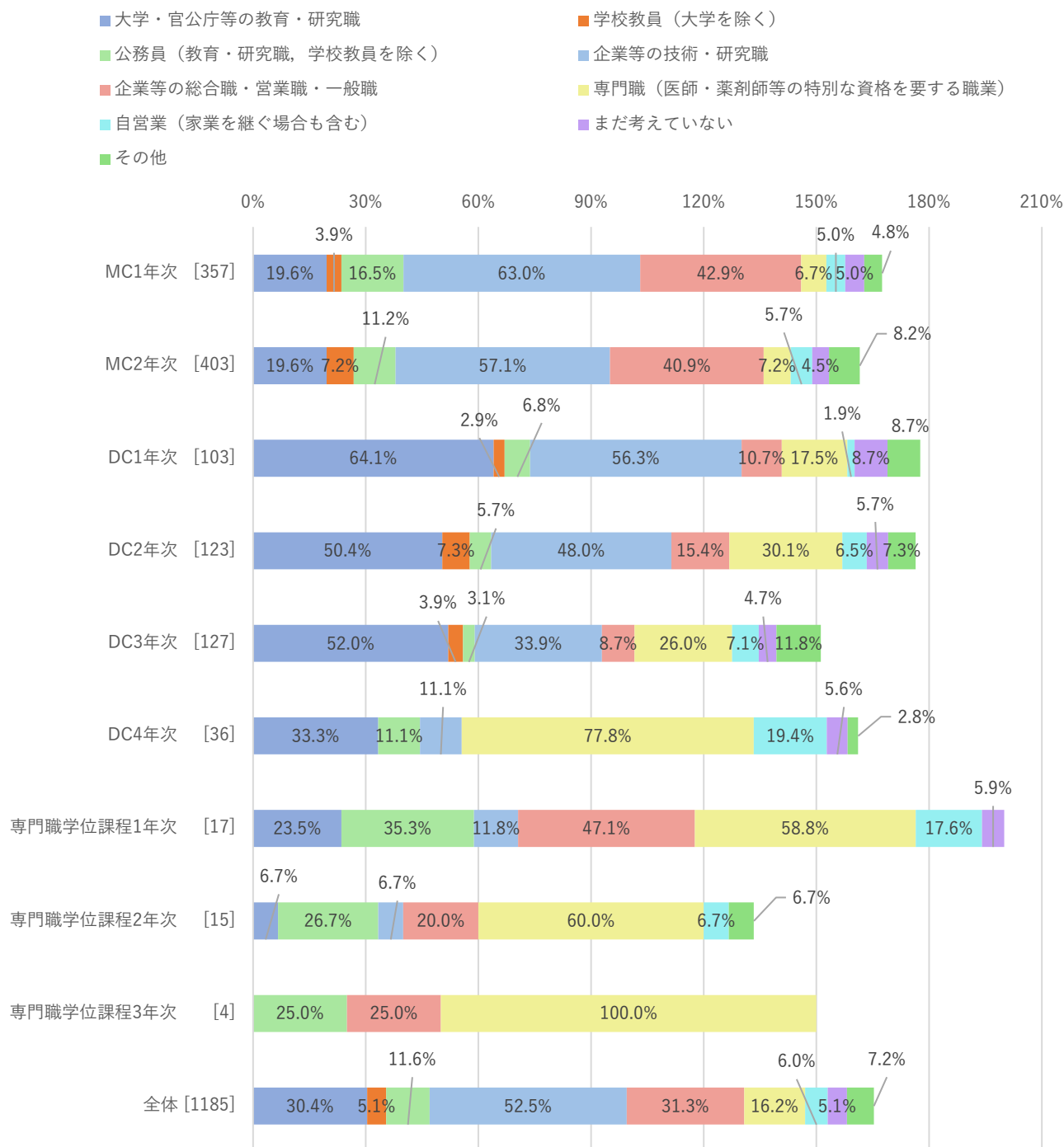
注3) 今回調査から、回答は単一選択となっている。

注4) [] は回答者数を示す。

希望職種

- 研究科によって傾向は異なるが、修士課程の理系は、「企業等の技術・研究職」を希望する比率が高く、文系は研究科によって異なる。
- 博士（後期）課程は、「大学・官公庁の教育・研究職」及び「企業等の技術・研究職」を希望する比率が高い。医学院・医学研究科や歯学院・歯学研究科は「専門職（医師・薬剤師等の特別な資格を要する職業）」の比率が高い。（※回答数が少ない研究科等は参考程度）
- 専門職学位課程は、「専門職（医師・薬剤師等の特別な資格を要する職業）」を希望する割合が高い。

■ 希望職種（学年別 3つまで）

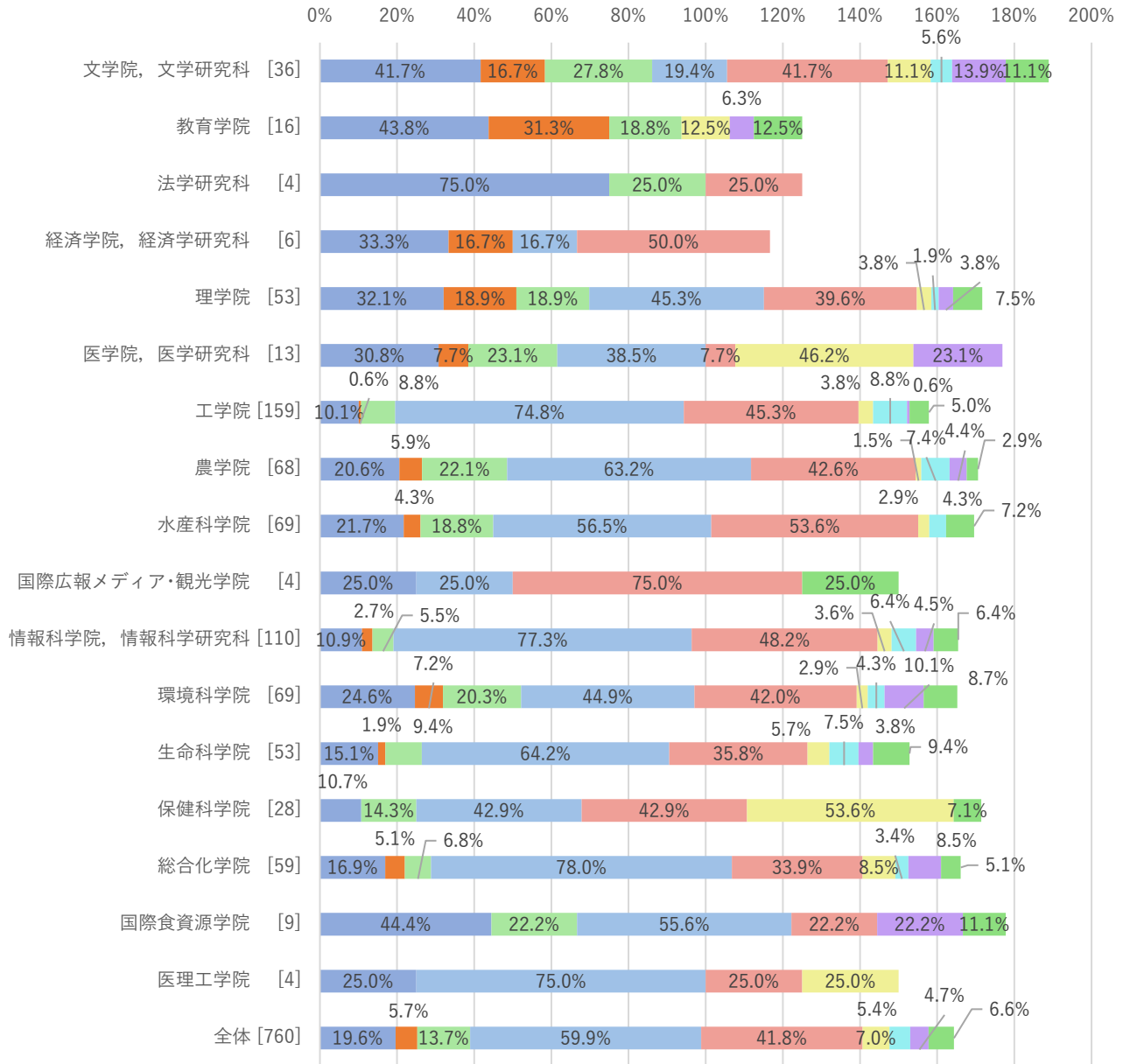


注1) 複数選択のため、割合の総和は100%を超える。

注2) [] は回答者数を示す。

■ 希望職種（修士課程・研究科等別・3つまで）

- 大学・官公庁等の教育・研究職
- 公務員（教育・研究職，学校教員を除く）
- 企業等の総合職・営業職・一般職
- 自営業（家業を継ぐ場合も含む）
- その他
- 学校教員（大学を除く）
- 企業等の技術・研究職
- 専門職（医師・薬剤師等の特別な資格を要する職業）
- まだ考えていない



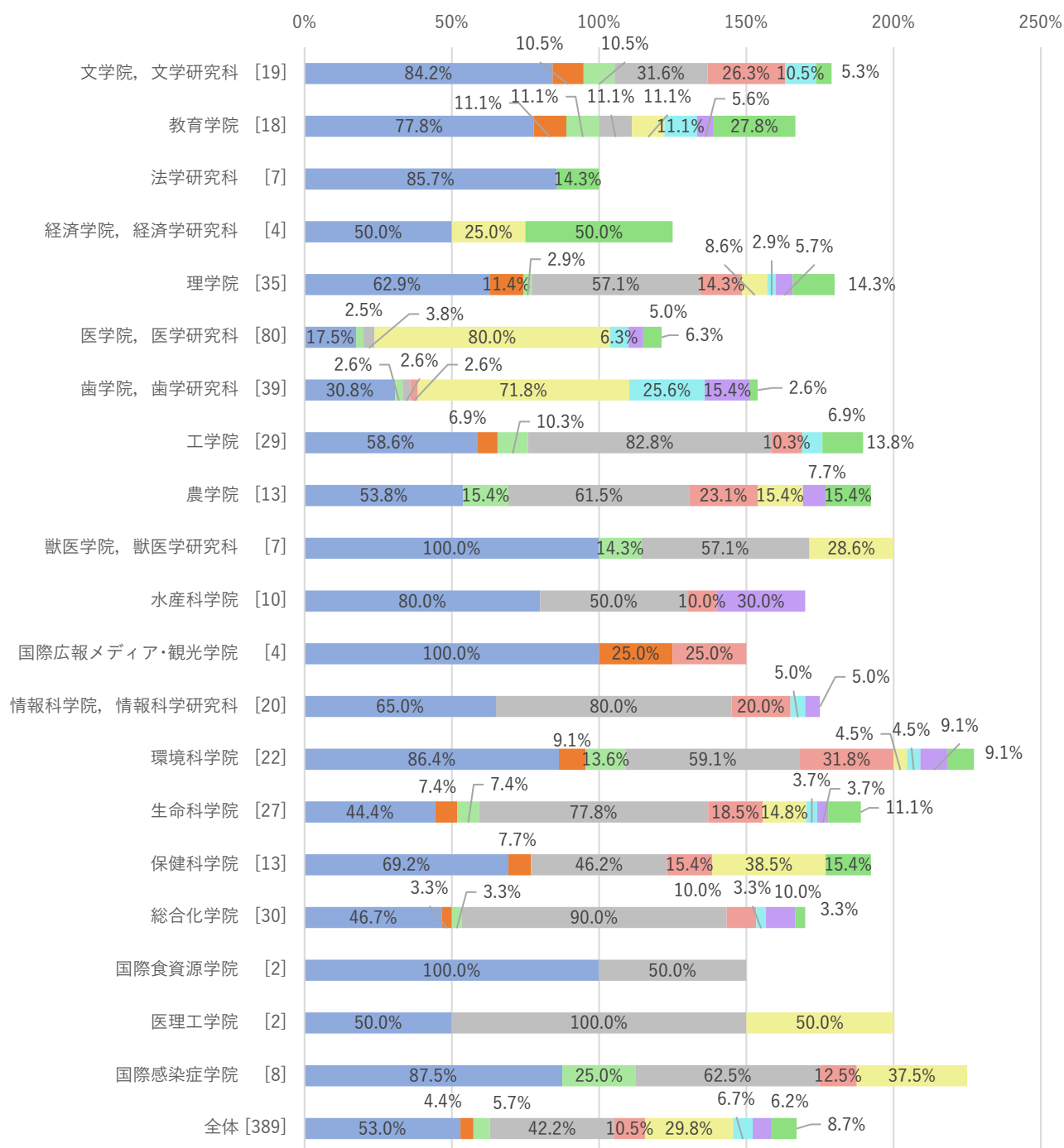
注1) 複数選択のため、割合の総和は100%を超える。

注2) [] は回答者数を示す。

希望職種（博士（後期）課程／専門職学位課程）

■ 希望職種（博士（後期）課程・研究科等別・3つまで）

- 大学・官公庁等の教育・研究職
- 公務員（教育・研究職，学校教員を除く）
- 企業等の総合職・営業職・一般職
- 自営業（家業を継ぐ場合も含む）
- その他
- 学校教員（大学を除く）
- 企業等の技術・研究職
- 専門職（医師・薬剤師等の特別な資格を要する職業）
- まだ考えていない

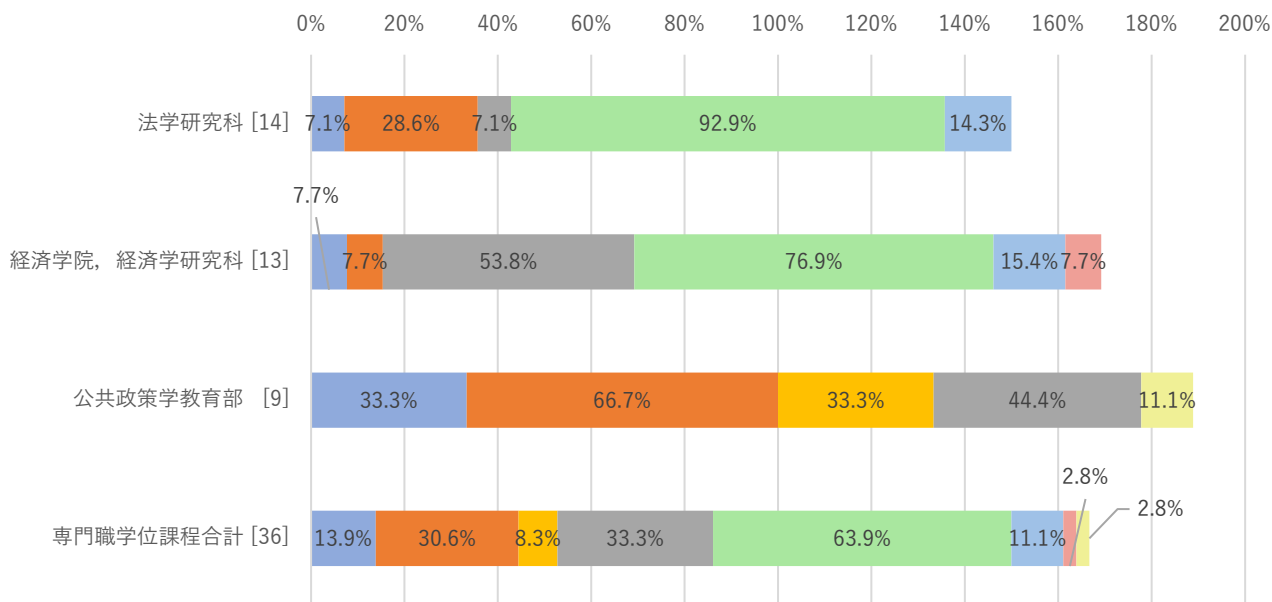


注1) 複数選択のため、割合の総和は100%を超える。

注2) [] は回答者数を示す。

■ 希望職種（専門職学位課程・研究科等別・3つまで）

- 大学・官公庁等の教育・研究職
- 公務員（教育・研究職，学校教員を除く）
- 企業等の総合職・営業職・一般職
- 自営業（家業を継ぐ場合も含む）
- その他
- 学校教員（大学を除く）
- 企業等の技術・研究職
- 専門職（医師・薬剤師等の特別な資格を要する職業）
- まだ考えていない



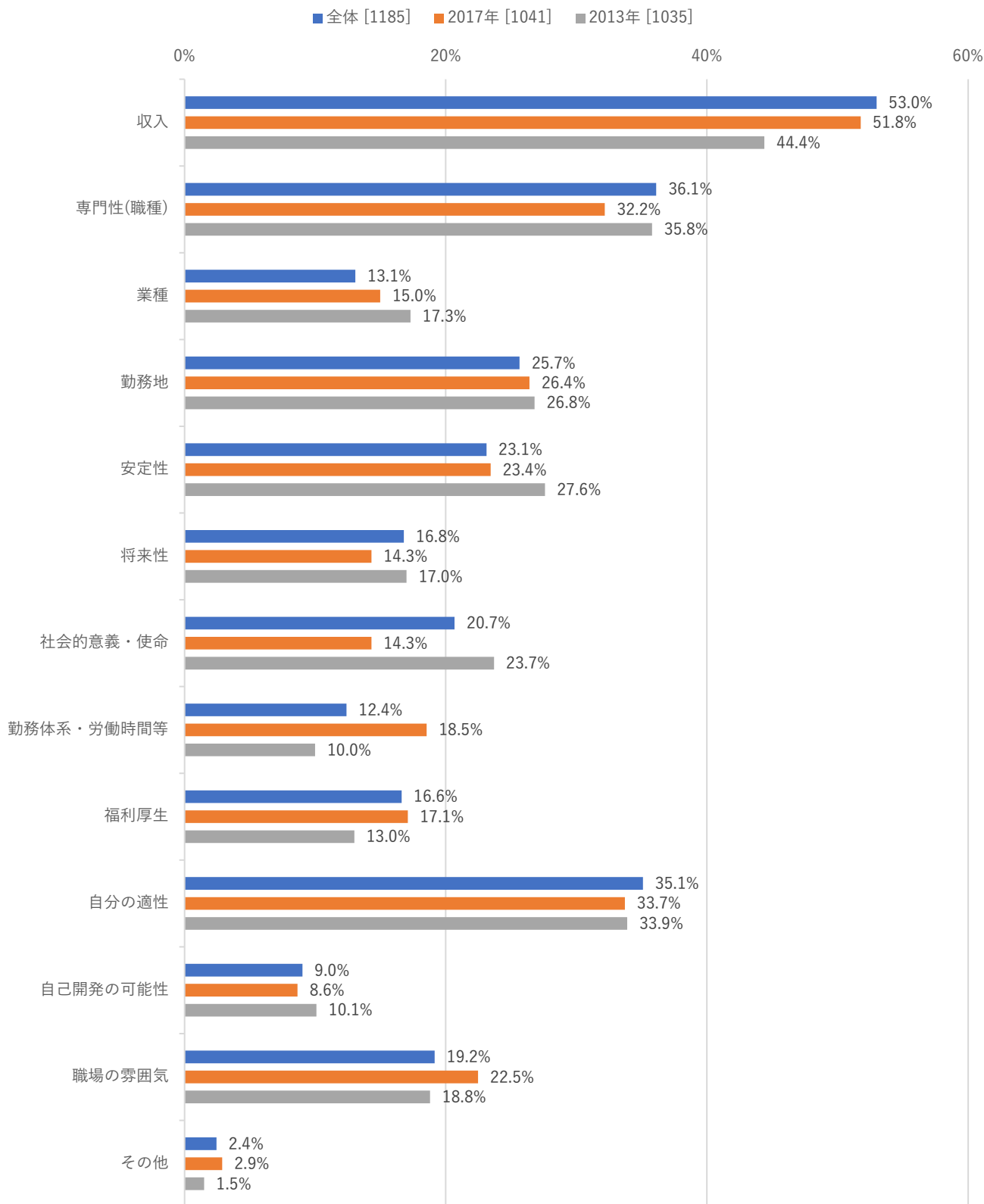
注1) 複数選択のため、割合の総和は100%を超える。

注2) [] は回答者数を示す。

就職で重要視すること（全体）

- 就職で重要視することは、「収入」（53.0%）が最も多く、次いで、「専門性（職種）」（36.1%）、「自分の適性」（35.1%）、「勤務地」（25.7%）、「安定性」（23.1%）が上位を占める。「収入」は前回調査よりも増加している。

■ 就職で重要視すること（全体：3つまで）

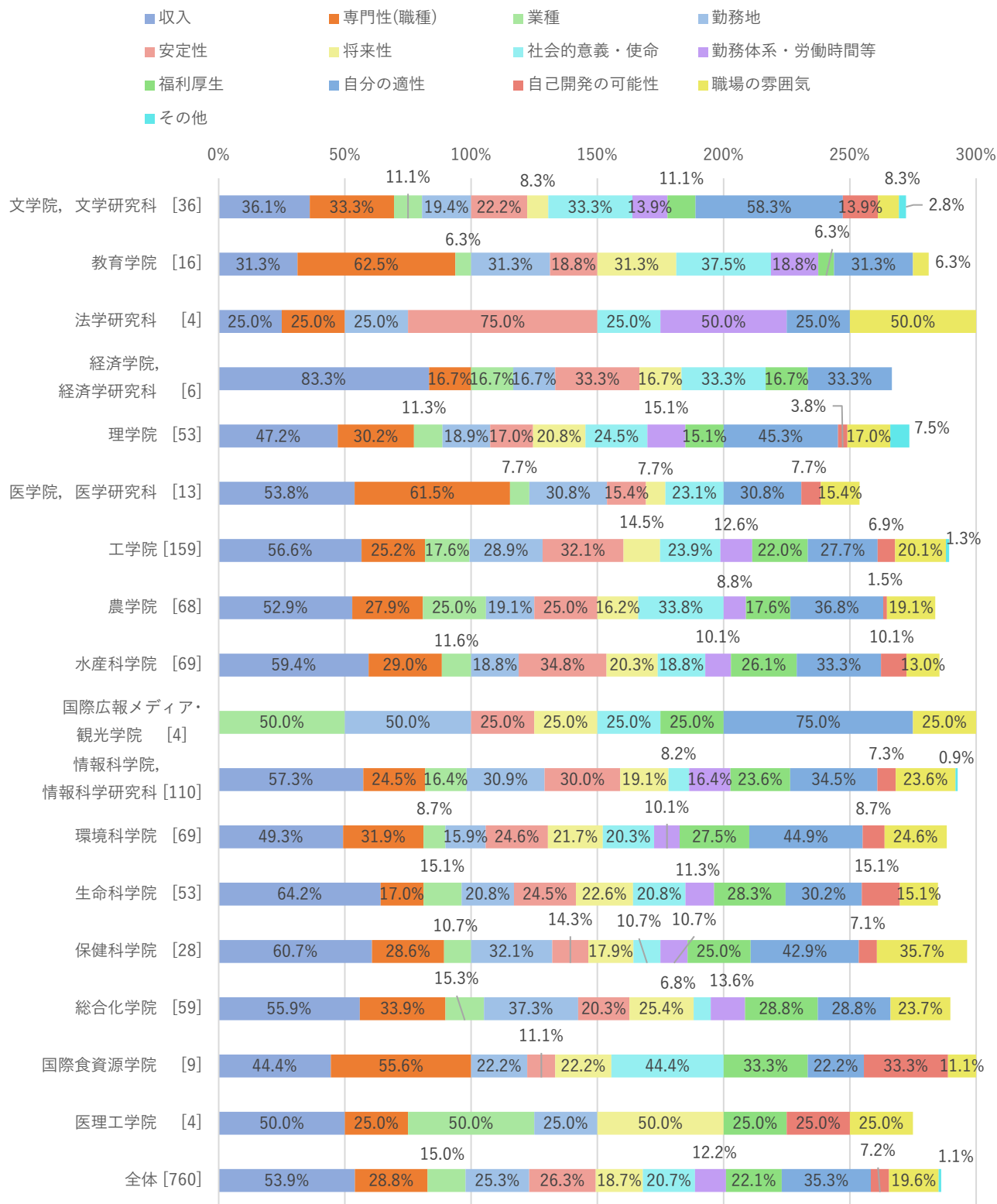


注1) [] は回答者数を示す。

就職で重要視すること（修士課程）

- 「収入」「自分の適性」「専門性（職種）」「勤務地」を重要視する比率が高く、課程によって差はあるがその傾向はほぼ共通している。
（※回答数が少ない研究科等は参考程度）

■ 就職で重要視すること（修士課程・研究科等別・3つまで）



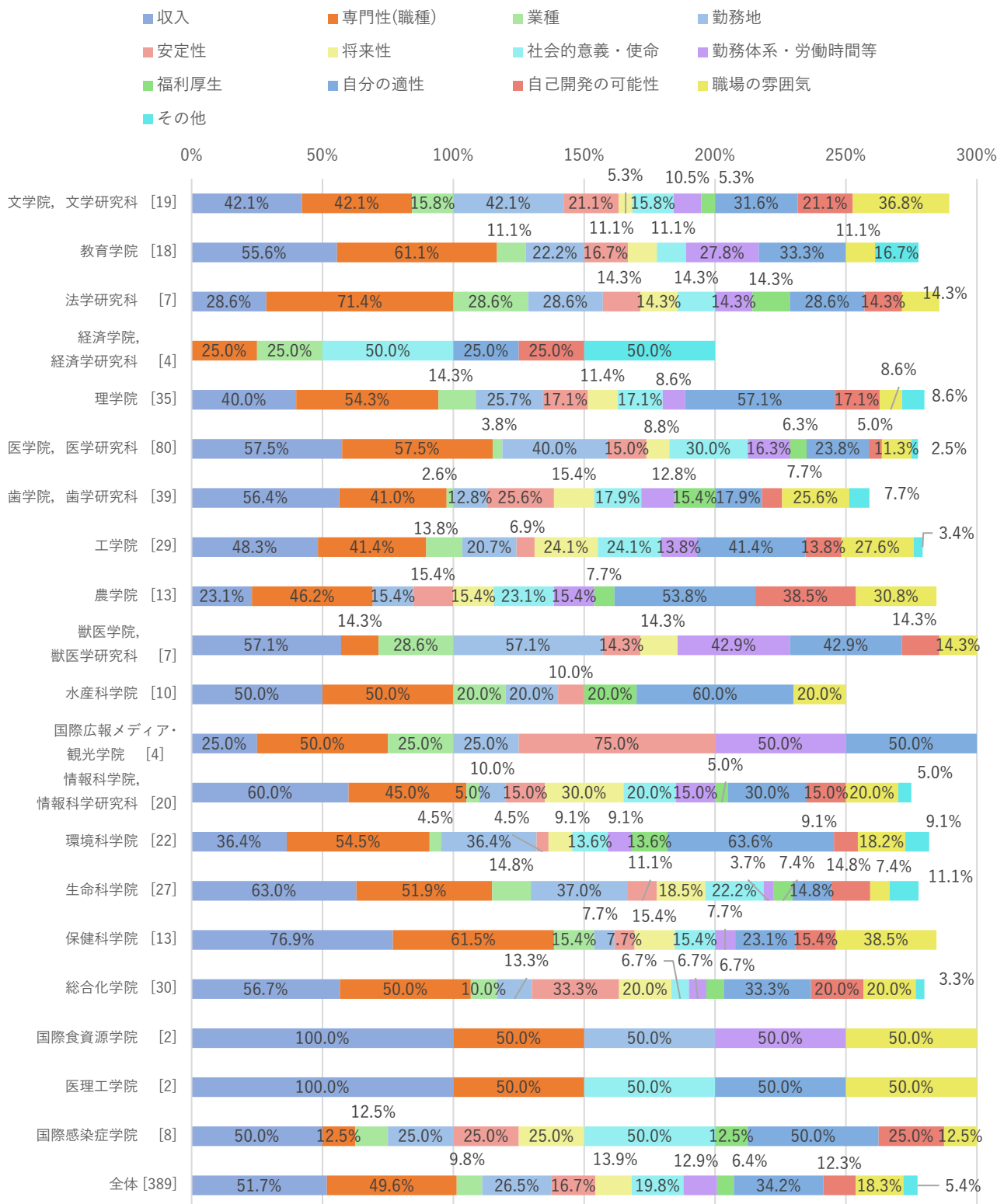
注1) 複数選択のため、割合の総和は100%を超える。

注2) [] は回答者数を示す。

就職で重要視すること（博士（後期）課程／専門職学位課程）

- 博士(後期)は「収入」「専門性（職種）」「自分の適性」を重要視する比率が高い。課程によって差があり様々である。（※回答数が少ない研究科等は参考程度）

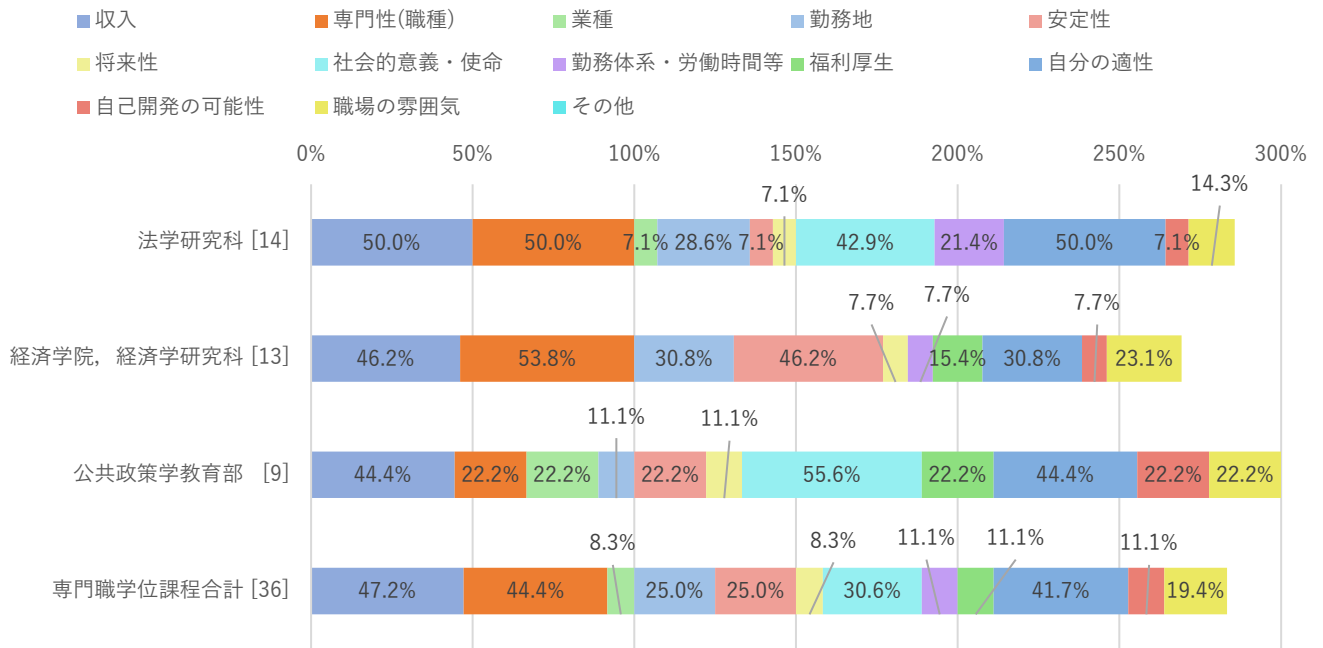
■ 就職で重要視すること（博士（後期）課程・研究科等別・3つまで）



注1) 複数選択のため、割合の総和は100%を超える。

注2) [] は回答者数を示す。

■ 就職で重要視すること（専門職学位課程・研究科等別・3つまで）



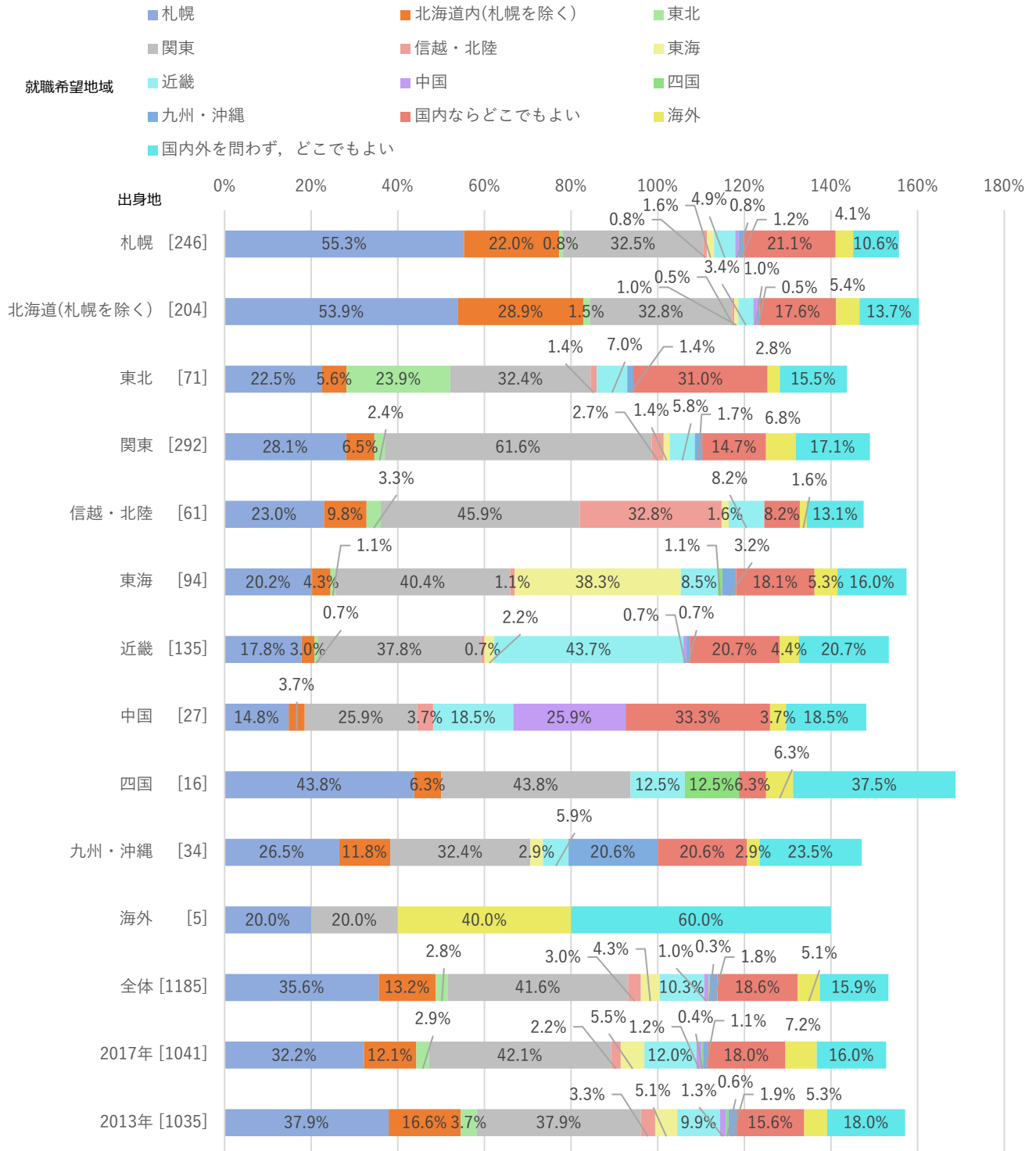
注1) 複数選択のため、割合の総和は100%を超える。

注2) [] は回答者数を示す。

就職希望地域

- 就職希望地域をみると、全体では「関東」(41.6%)、「札幌」(35.6%)が多い。それ以外では、「国内ならどこでもよい」(18.6%)、「国内国外を問わず、どこでもよい」(15.9%)などである。
- 出身地別にみると、地元志向が強いのは「札幌」(55.3%)、「関東」(61.6%)、「近畿」(43.7%)である。一方、地元志向が弱いのは「東北」(23.9%)、「四国」(12.5%)。「九州・沖縄」(20.6%)で、地元志向が強い出身地と比べると異なる傾向を示している。

■ 就職希望地域 (出身地別・2つまで)



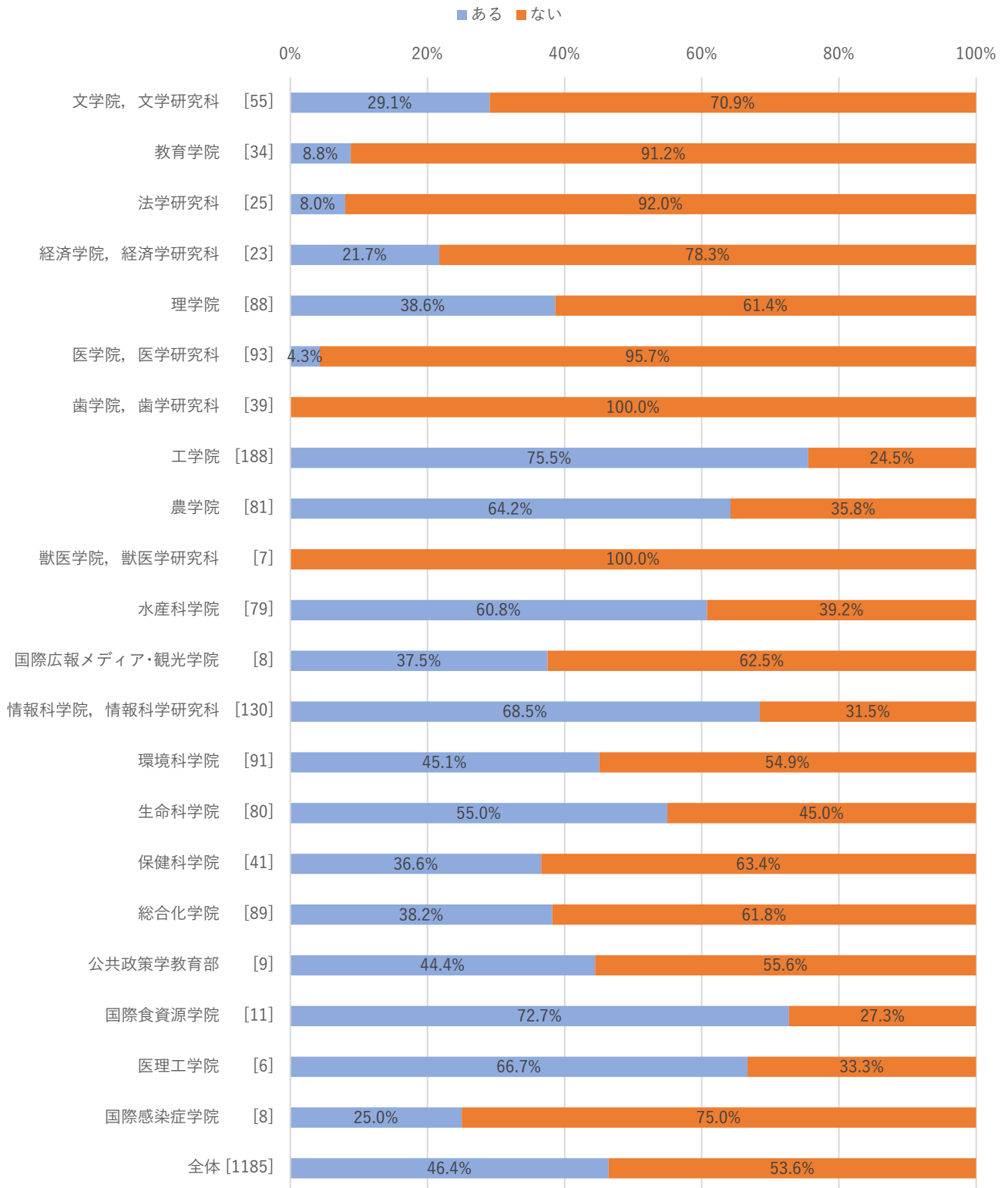
注1) 複数選択のため、割合の総和は100%を超える。

注2) [] は回答者数を示す。

インターンシップへの参加経験

- 全体の46.4%がインターンシップへの参加経験が「ある」と回答している。
- 研究科等別では、工学院、国際食資源学院、情報科学院・情報科学研究科、医理工学院、農学院の参加経験の比率が高い。（※回答数が少ない研究科等は参考程度）

■ インターンシップへの参加経験（研究科等別）



注2) [] は回答者数を示す。

付録

学生生活実態調査 調査項目

調査対象学部学生への協力依頼メール送付文書

【メールのタイトル】

学生生活実態調査への回答依頼（北大学生支援課）【学部】

【本文】

こんにちは。北海道大学学務部学生支援課生活支援担当です。

このたび、下記により学生生活実態調査を実施することとなりました。

この調査は、4年に1回実施されているもので、学生の生活実態や、本学に対する要望等を調査することを目的としています。

調査結果や寄せられた意見を基に、皆さんの学生生活にとってよりよい支援をするための施策を検討します。

実施にあたって、調査に協力いただく学生を無作為抽出し、回答者として選ばれましたので、ご協力よろしくお願いたします。

回答にかかる時間は、15分～20分程度（自由記述欄を除く）です。

記

【調査日】令和3年11月1日（月）現在の状況を入力願います。

【調査期間】令和3年11月1日（月）～11月15日（月）

【回答方法】

1) インターネットに接続されているパソコン、スマートフォンで以下の調査サイトにアクセスする。

学部生用調査 URL: https://*****

PW: *****

2) 学生番号（先頭にH）と上記のパスワードを入力する。

3) 画面の指示に従って回答する。

4) 「質問は以上で終了です。アンケートを閉じてください。ご回答いただき、ありがとうございました。」のメッセージが表示されたら、調査終了です。閉じるボタンを押して、終了してください。

※回答中の保存について※

このアンケートは、回答画面下に表示される一時保存ボタンを押すと、ログインページから学生番号（先頭にH）とパスワードで再度回答できます。

保存された際に、「再開用 URL」が表示されますが、「再開用 URL」がわからなくなった場合でも、保存期間（7日間）内であれば、ログインページからログインすることで、保存したデータが表示されます。

【その他】

○個人情報について

- ・回答いただいた内容は、統計的に処理しますので、皆さんの回答が他の人に知られることはありません。
- ・ログインには学生番号を使用しますが、個人情報と紐づけられることはありませんので、回答者が特定されることはありません。

○調査結果について

- ・調査結果は、受験生向け冊子「とって北大生」の作成に活用されるほか、学生生活実態調査報告書として令和4年度中に公表する予定です。
- ・皆さまからいただいた意見は、速やかに関係部署に届けます。すぐに対応できる事項とできない事項がありますが、長期的には大学の施策立案を検討する際に参考にしています。
- ・調査結果を利用した制度の見直しの事例として、奨学金・授業料減免制度の見直し（授業料の4分の1免除の新設、フロンティア奨学金制度の創設）、附属図書館のサービス向上（本館への空調設備の設置、休日の開館時間の延長）、スポーツトレーニングセンターの器具の更新などがあります。

【問合せ先】学務部学生支援課生活支援担当 TEL: 011-706-7467

調査対象大学院学生への協力依頼メール送付文書

【メールのタイトル】

学生生活実態調査への回答依頼（北大学生支援課）【大学院】

【本文】

こんにちは。北海道大学学務部学生支援課生活支援担当です。

このたび、下記により学生生活実態調査を実施することとなりました。

この調査は、4年に1回実施されているもので、学生の生活実態や、本学に対する要望等を調査することを目的としています。

調査結果や寄せられた意見を基に、皆さんの学生生活にとってよりよい支援をするための施策を検討します。

実施にあたって、調査に協力いただく学生を無作為抽出し、回答者として選ばれましたので、ご協力よろしくお願いいたします。

回答にかかる時間は、15分～20分程度（自由記述欄を除く）です。

記

【調査日】令和3年11月1日（月）現在の状況を入力願います。

【調査期間】令和3年11月1日（月）～11月15日（月）

【回答方法】

1) インターネットに接続されているパソコン、スマートフォンで以下の調査サイトにアクセスする。

大学院生用調査 URL: https://*****

PW: *****

2) 学生番号（先頭にH）とパスワードを入力する。

3) 画面の指示に従って回答する。

4) 「質問は以上で終了です。アンケートを閉じてください。ご回答いただき、ありがとうございました。」のメッセージが表示されたら、調査終了です。閉じるボタンを押して、終了してください。

※回答中の保存について※

このアンケートは、回答画面下に表示される一時保存ボタンを押すと、ログインページから学生番号（先頭にH）とパスワードで再度回答できます。

保存された際に、「再開用 URL」が表示されますが、「再開用 URL」がわからなくなった場合でも、保存期間（7日間）内であれば、ログインページからログインすることで、保存データが表示されます。

【その他】

○個人情報について

- ・回答いただいた内容は、統計的に処理しますので、皆さんの回答が他の人に知られることはありません。
- ・ログインには学生番号を使用しますが、個人情報と紐づけられることはありませんので、回答者が特定されることはありません。

○調査結果について

・調査結果は、受験生向け冊子「とって北大生」の作成に活用されるほか、学生生活実態調査報告書として令和4年度中に公表する予定です。

・皆さまからいただいた意見は、速やかに関係部署に届けます。すぐに対応できる事項とできない事項がありますが、長期的には大学の施策立案を検討する際に参考にしています。

・調査結果を利用した制度の見直しの事例として、奨学金・授業料減免制度の見直し（授業料の4分の1免除の新設、フロンティア奨学金制度の創設）、附属図書館のサービス向上（本館への空調設備の設置、休日の開館時間の延長）、スポーツトレーニングセンターの器具の更新などがあります。

【問合せ先】学務部学生支援課生活支援担当 TEL: 011-706-7467

調査票（学部学生用）

1. 基本事項について

Q1 性別

- 1 男
- 2 女
- 3 その他

Q2 入学年度（※編入生は編入学年度）

- 1 令和3年度(2021年度)
- 2 令和2年度(2020年度)
- 3 令和元年度(2019年度)
- 4 平成30年度(2018年度)
- 5 平成29年度(2017年度)
- 6 平成28年度(2016年度)
- 7 平成27年度(2015年度)
- 8 平成26年度(2014年度)
- 9 平成25年度以前(2013年度以前)

Q3 所属学部

- 1 文学部
- 2 教育学部
- 3 法学部
- 4 経済学部
- 5 理学部
- 6 医学部
- 7 歯学部
- 8 薬学部
- 9 工学部
- 10 農学部
- 11 獣医学部
- 12 水産学部
- 13 総合教育部

Q4 学年（※留年の場合:5年目3年生の場合は「3年」を選択）

- 1 1年
- 2 2年
- 3 3年
- 4 4年
- 5 5年(医学部・歯学部・薬学部・獣医学部のみ)
- 6 6年(医学部・歯学部・薬学部・獣医学部のみ)

2. 家庭状況について

Q5 出身地はどこですか。

- 1 札幌
- 2 北海道(札幌を除く)
- 3 東北
- 4 関東
- 5 信越・北陸
- 6 東海
- 7 近畿
- 8 中国
- 9 四国
- 10 九州・沖縄
- 11 海外

Q6 あなたの生活や勉学の費用を主として負担している人(主たる家計支持者)の職業又は収入源は何ですか(複数ある場合は、収入の多い方を選んでください)。

- 1 商・工・サービス業(自営)
- 2 農・林・水産業(自営)
- 3 専門的職業(医師・薬剤師・弁護士・芸術家など)
- 4 教員(小・中・高, 大学, 各種学校, 予備校, 塾, 幼稚園を含む)
- 5 公務員(教員を除く)
- 6 団体・法人職員(教員を除く)
- 7 会社員(自営以外, 管理職を含む)
- 8 会社役員
- 9 不動産・利子・配当・年金などの収入
- 10 パート・内職などの臨時職
- 11 その他

Q7 令和2年1月～12月の家庭の年間総収入(税込 / 同一生計の家族全員の収入)はどのくらいですか。

- 1 300万円未満
- 2 300～500万円未満
- 3 500～700万円未満
- 4 700～1000万円未満
- 5 1000～1500万円未満
- 6 1500万円以上

3. ライフスタイルについて

Q8 住居の種別は次のどれですか。

- 1 自宅
- 2 アパート・マンション
- 3 下宿(食事付き)・学生会館
- 4 北大学生寮
- 5 その他の寮
- 6 親戚・知人宅
- 7 シェアハウス
- 8 その他

Q9 【北海道大学の学生寮に入っていない人】北海道大学の学生寮に入りたいですか。

- 1 はい
- 2 いいえ

Q10 【北海道大学の学生寮に入りたい人(Q11で「はい」と答えた人)】北海道大学の学生寮に入りたい理由は何ですか。主なものを2つまで選んでください。

- 1 経済的理由
- 2 今の住居が通学に不便
- 3 友人がほしい
- 4 勉学に専念できる
- 5 寮の雰囲気にあこがれる
- 6 寮に友人がいる
- 7 その他

Q11 【北海道大学の学生寮に入りにくい人(Q11で「いいえ」と答えた人)】北海道大学の学生寮に入りにくい理由は何ですか。主なものを2つまで選んでください。

- 1 部屋が狭い
- 2 食事が無い
- 3 集団生活がわずらわしい
- 4 勉学に専念できない
- 5 住居を移すのが面倒
- 6 その他

Q12 主な通学手段は何ですか。主なものを2つまで選んでください。

- 1 徒歩
- 2 自転車
- 3 公共交通機関(地下鉄・バス・市電・JR)
- 4 オートバイ・スクーター
- 5 自動車
- 6 その他

Q13 通学時間はどのくらいですか。

- 1 10分未満
- 2 10～20分未満
- 3 20～30分未満
- 4 30分～1時間未満
- 5 1時間～1時間30分未満
- 6 1時間30分以上

●食事について

Q14 食事は主にどうしていますか。主なものを2つまで選んでください。

- 1 自宅(自宅通学者のみ)
- 2 自炊
- 3 学内の食堂
- 4 学外の食堂
- 5 下宿(食事付き)
- 6 弁当持参
- 7 売店(コンビニ、ファストフード、弁当屋等を含む)で購入
- 8 その他

Q15 学内の食堂を1週間にどの程度利用していますか。

- 1 ほぼ毎日
- 2 週3～4回
- 3 週1～2回
- 4 ときどき
- 5 利用しない

4. 経済状況について

Q16 あなたの1カ月の平均収入はどのくらいですか(仕送り・アルバイト・奨学金等すべての収入の合計。ただし、授業料等の学校納付金を除く)。

- 1 5万円未満
- 2 5～7万円未満
- 3 7～9万円未満
- 4 9～11万円未満
- 5 11～13万円未満
- 6 13～15万円未満
- 7 15万円以上

Q17 あなたの1ヵ月あたりの家庭からの援助(授業料等の学校納付金は除く)はどのくらいですか。

- 1 5千円未満
- 2 5千～1万円未満
- 3 1～3万円未満
- 4 3～5万円未満
- 5 5～7万円未満
- 6 7～9万円未満
- 7 9万円以上

Q18 あなたの1ヵ月あたりの奨学金(複数の団体から受給している場合は、その合計)はどのくらいですか。

- 1 5千円未満
- 2 5千～1万円未満
- 3 1～3万円未満
- 4 3～5万円未満
- 5 5～7万円未満
- 6 7～9万円未満
- 7 9万円以上

Q19 あなたの1ヵ月あたりのアルバイト収入はどのくらいですか。

- 1 5千円未満
- 2 5千～1万円未満
- 3 1～3万円未満
- 4 3～5万円未満
- 5 5～7万円未満
- 6 7～9万円未満
- 7 9万円以上

Q20 あなたの1ヵ月あたりのその他の収入(家族以外の援助、配当金など)はどのくらいですか。

- 1 5千円未満
- 2 5千～1万円未満
- 3 1～3万円未満
- 4 3～5万円未満
- 5 5～7万円未満
- 6 7～9万円未満
- 7 9万円以上

Q21 あなたの1ヵ月の平均支出はどのくらいですか(家賃・光熱水料等も含める。ただし、授業料等の学校納付金を除く)。

- 1 5万円未満
- 2 5～7万円未満
- 3 7～9万円未満
- 4 9～11万円未満
- 5 11～13万円未満
- 6 13～15万円未満
- 7 15万円以上

Q22 あなたの1ヵ月当たりの住居費・光熱水費(電気料、水道料、暖房費、家賃等、毎月支払うもの)はどのくらいですか。

- 1 5千円未満
- 2 5千～1万円未満
- 3 1～3万円未満
- 4 3～5万円未満
- 5 5～7万円未満
- 6 7～9万円未満
- 7 9万円以上

Q23 あなたの1ヵ月当たりの食費(材料費、外食費等)はどのくらいですか。

- 1 5千円未満
- 2 5千～1万円未満
- 3 1～3万円未満
- 4 3～5万円未満
- 5 5～7万円未満
- 6 7～9万円未満
- 7 9万円以上

Q24 あなたの1ヵ月当たりの修学費(教科書, 参考書, 実習費, 文房具代等。ただし, 授業料等の学校納付金を除く)はどのくらいですか。

- 1 5千円未満
- 2 5千~1万円未満
- 3 1~3万円未満
- 4 3~5万円未満
- 5 5~7万円未満
- 6 7~9万円未満
- 7 9万円以上

Q25 あなたの1ヵ月当たりの通信費(携帯電話, インターネット等)はどのくらいですか。

- 1 5千円未満
- 2 5千~1万円未満
- 3 1~3万円未満
- 4 3~5万円未満
- 5 5~7万円未満
- 6 7~9万円未満
- 7 9万円以上

Q26 あなたの1ヵ月当たりのその他の支出(課外活動費, 娯楽費, 旅行費, 交際費, 衣料費等)はどのくらいですか。

- 1 5千円未満
- 2 5千~1万円未満
- 3 1~3万円未満
- 4 3~5万円未満
- 5 5~7万円未満
- 6 7~9万円未満
- 7 9万円以上

Q27 現在の自分の経済状態をどのように感じていますか。

- 1 十分余裕がある
- 2 やや余裕がある
- 3 普通
- 4 やや苦しい
- 5 非常に苦しい

Q28 【2~6年生の学生向け】新型コロナウイルス感染症流行前と比べて, 収入は減少しましたか。

- 1 いいえ
- 2 はい(1~3割程度減少)
- 3 はい(4~7割程度減少)
- 4 はい(8割以上減少)

Q29 【Q28で「はい」と答えた人】

新型コロナウイルス感染症の影響で, 主に減少した収入源は何ですか。あてはまるものを全て選んでください。

- 1 アルバイト等の労働による収入
- 2 仕送り
- 3 その他

Q30【Q28で「はい」と答えた人】

新型コロナウイルス感染症の影響による収入の減少によって, 自分の生活にどのような影響がありましたか。あてはまるものを全て選んでください。

- 1 食費を減らした
- 2 生活必需品の購入頻度を減らした
- 3 光熱水料の節約を行った
- 4 修学費(教科書, 参考書, 実習費, 文房具代等 授業で必要なもの)の購入頻度を減らした
- 5 課外活動や交際費, 趣味に使う費用等を減らした
- 6 引っ越しせざるを得なくなった
- 7 進路変更を検討している, または行った
- 8 その他

Q31【2～6年生の学生向け】新型コロナウイルス感染症の影響で、支出は増えましたか。

- 1 いいえ
- 2 はい(1～3割程度増加)
- 3 はい(4～7割程度増加)
- 4 はい(8割以上増加)

Q32【Q31で「はい」と答えた人】

新型コロナウイルス感染症の影響で増加した支出のうち、あてはまるものを全て選んでください。

- 1 食費
- 2 光熱水料
- 3 修学費(オンライン授業に移行する上で必要になったもの等)
- 4 研究費
- 5 医療費
- 6 その他

5. アルバイトについて

Q33 現在、どの程度アルバイトをしていますか。

- 1 ほとんど毎日定期的に
- 2 週何日か定期的に
- 3 日曜日などの休日に限って
- 4 長期休業期間中のみ重点的に
- 5 必要に応じてときどき
- 6 全くしていない

Q34【アルバイトをしている人】どんなアルバイトをしていますか。あてはまるものを全て選んでください。

- 1 家庭教師
- 2 学習塾講師
- 3 一般事務
- 4 調査・研究補助
- 5 コンビニ・スーパー等小売店店員
- 6 飲食店店員
- 7 肉体労働
- 8 その他

Q35【アルバイトをしている人】1週間平均何時間くらいアルバイトをしていますか。

- 1 5時間未満
- 2 5～10時間未満
- 3 10～15時間未満
- 4 15～20時間未満
- 5 20～25時間未満
- 6 25～30時間未満
- 7 30時間以上

Q36【アルバイトをしている人】アルバイトをする主な理由は何ですか。

- 1 家庭の経済的負担を軽減するため
- 2 学業を継続するため
- 3 小遣い・臨時の支出のため
- 4 家族からできるだけ自立したいため
- 5 社会経験のため
- 6 その他

Q37【現在アルバイトをしていない人(Q23で「全くしていない」と答えた人)】アルバイトをしていない主な理由は何ですか。

- 1 必要がない(経済的に余裕がある)
- 2 やりたいが、見つからない
- 3 やりたいが、時間的余裕がない
- 4 その他

6. 奨学金・授業料減免等について

Q38 授業料減免(令和3年度前期分)を申請しましたか。(緊急授業料減免を除く)

- 1 申請し、前期分全額免除された
- 2 申請し、前期分3分の2免除された
- 3 申請し、前期分半額免除された
- 4 申請し、前期分3分の1免除された
- 5 申請し、前期分4分の1免除された
- 6 申請したが、不許可だった
- 7 申請しなかった

Q39 現在、奨学金を受けていますか。

- 1 受けている
- 2 受けているが、応募して受けられなかったものもある
- 3 応募したが、受けられなかった
- 4 応募しなかった

Q40 【奨学金を受けている人(Q39で「受けている」「受けているが、応募して受けられなかったものもある」と答えた人)】

現在受けている奨学金の種類を選んでください(複数受けている場合は、全て選んでください)。

- 1 日本学生支援機構(給付型)
- 2 日本学生支援機構(貸与型1種)
- 3 日本学生支援機構(貸与型2種)
- 4 地方公共団体
- 5 民間団体
- 6 その他

Q41 【2～6年生の学生向け】2020年度以降、緊急授業料減免を受けましたか。

- 1 受けている
- 2 応募したが、受けられなかった
- 3 応募しなかった

7. 課外活動・ボランティア活動について

Q42 現在、サークル等に入っていますか。主なものを1つだけ選んでください。

- 1 北大公認の文化系団体に加入している
- 2 北大公認の運動系団体に加入している
- 3 北大非公認の文化系団体に加入している
- 4 北大非公認の運動系団体に加入している
- 5 学外の団体に加入している
- 6 以前加入していたが、現在は加入していない
- 7 学内外のいずれの団体にも加入したことがない

Q43 【サークル等に入っている人】1週間平均何日くらい活動していますか。

- 1 1日未満
- 2 1～2日
- 3 3～5日
- 4 5日以上

Q44 入学後にボランティア活動をしたことがありますか。

- 1 したことがある
- 2 している
- 3 したことがない

Q45 【Q44において「したことがある」「している」と答えた人】その内容はどのようなものですか。主なものを3つまで選んでください。

- 1 公共施設での活動
- 2 青少年健全育成に関する活動
- 3 体育・スポーツ・文化に関する活動
- 4 学習活動に関する指導、助言、運営協力などの活動
- 5 自然・環境保護に関する活動
- 6 国際交流・協力に関する活動
- 7 社会福祉に関する活動
- 8 保健・医療・衛生に関する活動
- 9 交通安全に関する活動
- 10 自主防災活動や災害救援活動
- 11 募金活動、チャリティーバザー
- 12 その他

8. 学生生活について

●満足度について

Q46 以下の項目にそれぞれどの程度満足していますか。

a. 対面授業

- 1 満足
- 2 まあまあ満足
- 3 普通
- 4 少し不満
- 5 不満

b. オンライン授業(オンデマンド)

- 1 満足
- 2 まあまあ満足
- 3 普通
- 4 少し不満
- 5 不満

c. オンライン授業(ライブ)

- 1 満足
- 2 まあまあ満足
- 3 普通
- 4 少し不満
- 5 不満

d. 教育研究用施設・設備

- 1 満足
- 2 まあまあ満足
- 3 普通
- 4 少し不満
- 5 不満

e. その他の施設・設備

- 1 満足
- 2 まあまあ満足
- 3 普通
- 4 少し不満
- 5 不満

f. 北大ならびに札幌の生活環境

- 1 満足
- 2 まあまあ満足
- 3 普通
- 4 少し不満
- 5 不満

g. 食堂・売店等のサービス

- 1 満足
- 2 まあまあ満足
- 3 普通
- 4 少し不満
- 5 不満

h.図書館(電子ジャーナル等のサービスを含む)

- 1 満足
- 2 まあまあ満足
- 3 普通
- 4 少し不満
- 5 不満

i.教員との関係

- 1 満足
- 2 まあまあ満足
- 3 普通
- 4 少し不満
- 5 不満

j.学生窓口の対応

- 1 満足
- 2 まあまあ満足
- 3 普通
- 4 少し不満
- 5 不満

k.北海道大学における新型コロナウイルス感染症対策

- 1 満足
- 2 まあまあ満足
- 3 普通
- 4 少し不満
- 5 不満

●学習について

Q47 自習時間は1日平均どのくらいですか。

- 1 1時間未満
- 2 1～2時間未満
- 3 2～3時間未満
- 4 3～4時間未満
- 5 4時間以上

Q48 自習を行っている場所はどこですか。主なものを2つまで選んでください。

- 1 本学の図書館
- 2 本学の教室
- 3 本学の研究室
- 4 本学の自習室
- 5 生協食堂
- 6 自宅
- 7 その他

Q49 入学時と比べて学習意欲はどうですか。

- 1 高まっている
- 2 変わらない
- 3 減退している
- 4 高くなったり低くなったりとむらがある

Q50 令和3年4月～9月の期間の、授業の出席率はこのくらいですか。

- 1 90%以上
- 2 70～90%未満
- 3 50～70%未満
- 4 30～50%未満
- 5 10～30%未満
- 6 ほとんど欠席

Q51 令和3年4月～9月の期間の、大学で過ごす時間は1日平均何時間でしたか。

- 1 2時間未満
- 2 2～4時間未満
- 3 4～6時間未満
- 4 6～8時間未満
- 5 8～10時間未満
- 6 10時間以上

Q52 大学入学後、海外留学の経験がありますか。

- 1 ある
- 2 ない

Q53 大学在学期間中、海外留学の機会があれば希望しますか。

- 1 留学したい
- 2 どちらかといえば留学したい
- 3 どちらともいえない
- 4 どちらかといえば留学したくない
- 5 留学したくない

Q54 【留学したい人】留学期間はどのくらいを希望しますか。

- 1 1ヵ月未満
- 2 3ヵ月未満
- 3 半年未満
- 4 1年未満
- 5 1年以上

●対人関係について

Q55 ここ最近、親しく話したり、相談できる友人や仲間はいますか。

- 1 いる
- 2 どちらともいえない
- 3 いない

Q56 教員と親しく話したり、相談したりすることがありますか。

- 1 よくある
- 2 数回あった
- 3 ほとんどない
- 4 全くない

Q57 【Q56で「ほとんどない」「全くない」と答えた人】その主な理由はどのようなものですか。主なものを1つだけ選んでください。

- 1 相談や話をしたいがその機会がない
- 2 なんとなく話しにくい
- 3 話しても仕方がない
- 4 必要がない
- 5 その他

9. 健康について

Q58 最近、身体の調子はどうですか(風邪、けが、虫歯などの一過性のものは除く)。

- 1 健康で調子は良い
- 2 まあまあ調子は良い
- 3 少し調子が悪い
- 4 調子が悪い

Q59 【Q58で「少し調子が悪い」「調子が悪い」と答えた人】継続的に治療を受けるため、病院に通院をしていますか。

- 1 はい
- 2 いいえ

Q60 現在、悩みや不安がありますか。あてはまるものを全て選んでください。

- 1 とてもある
- 2 少しある
- 3 あまりない
- 4 特にない

Q61 【悩みや不安がある人(Q60で「とてもある」「少しある」と答えた人)】悩みや不安の原因と思うものは何ですか。あてはまるものを全て選んでください。

- 1 健康上の問題
- 2 学業・成績
- 3 進路・就職
- 4 課外活動
- 5 人生・生き方
- 6 恋愛
- 7 人間関係
- 8 家族・家庭
- 9 性格・適性
- 10 経済的問題
- 11 新型コロナウイルス感染症
- 12 その他

Q62 【悩みや不安がある人(Q60で「とてもある」「少しある」と答えた人)】悩みや不安についての相談相手は誰ですか。主なものを2つまで選んでください。

- 1 家族
- 2 北大の友人・先輩
- 3 その他の友人・知人
- 4 学部の学生相談員
- 5 北大の教員(学生相談員以外)
- 6 学生相談室
- 7 ピアサポートルーム
- 8 保健センター
- 9 一般の医療機関
- 10 相談できる相手はいない
- 11 相談相手は不要(自分で解決)
- 12 その他

Q63 保健センターで健康相談やカウンセリングを受けられることを知っていますか。

- 1 はい
- 2 いいえ

10. ハラスメント等について

Q64 入学後、学内外で被害にあったことがあるものについて、あてはまるものを全て選んでください。

- 1 セクシュアル・ハラスメント
- 2 アカデミック・ハラスメント(教員やティーチングアシスタントから、その立場を利用した学業上の嫌がらせや不利益を受けること)
- 3 カルト宗教団体や自己啓発セミナーなどへの参加勧誘
- 4 違法・脱法薬物の勧誘
- 5 ストーカー被害
- 6 飲酒の強要
- 7 その他
- 8 該当なし

Q65 大学入学後、自分の身の回りの北大生で、被害にあったのを見たり聞いたりしたことがあるものについて、あてはまるものを全て選んでください。

- 1 セクシュアル・ハラスメント
- 2 アカデミック・ハラスメント(教員やティーチングアシスタントから、その立場を利用した学業上の嫌がらせや不利益を受けること)
- 3 カルト宗教団体や自己啓発セミナーなどへの参加勧誘
- 4 違法・脱法薬物の勧誘
- 5 ストーカー被害
- 6 飲酒の強要
- 7 その他
- 8 該当なし

Q66 以下の学生相談窓口のうち, 知っているものを全て選んでください。

- 1 学生相談室(人間関係の相談)
- 2 ハラスメント相談室(ハラスメントの相談)
- 3 ピアサポートルーム(学生による学生のためのサポート)
- 4 アクセシビリティ支援室(「合理的配慮」のサポート)
- 5 すべて知らない

11. 進路について

Q67 学部卒業後, どのような進路を希望していますか。

- 1 就職
- 2 北大大学院に進学
- 3 その他の大学院に進学
- 4 転入学(学士入学を含む)
- 5 海外留学
- 6 決めていない
- 7 その他

Q68 将来, どのような職業に就きたいですか。主なものを3つまで選んでください。

- 1 大学・官公庁等の教育・研究職
- 2 学校教員(大学を除く)
- 3 公務員(教育・研究職, 学校教員を除く)
- 4 企業等の技術・研究職
- 5 企業等の総合職・営業職・一般職
- 6 専門職(医師・薬剤師等の特別な資格を要する職業)
- 7 自営業(家業を継ぐ場合も含む)
- 8 まだ考えていない
- 9 その他

Q69 学部卒業後あるいは大学院修了後の就職に際して, 重要視するものは何ですか。主なものを3つまで選んでください。

- 1 収入
- 2 専門性(職種)
- 3 業種
- 4 勤務地
- 5 安定性
- 6 将来性
- 7 社会的意義・使命
- 8 勤務体系・労働時間等
- 9 福利厚生
- 10 自分の適性
- 11 自己開発の可能性
- 12 職場の雰囲気
- 13 その他

Q70 学部卒業後あるいは大学院修了後の就職希望地域は次のうちどこですか。主なものを2つまで選んでください。

- 1 札幌
- 2 北海道内(札幌を除く)
- 3 東北
- 4 関東
- 5 信越・北陸
- 6 東海
- 7 近畿
- 8 中国
- 9 四国
- 10 九州・沖縄
- 11 国内ならどこでもよい
- 12 海外
- 13 国内国外を問わず, どこでもよい

Q71 インターンシップに参加したことがありますか。

- 1 ある
- 2 ない

12. 自由記述

北海道大学に対する今後の期待・要望等がありましたら具体的に記入してください。

Q72 教育・授業に関すること

Q73 施設の設備や食堂等のサービスに関すること

Q74 学生支援(経済支援・課外活動支援・就職支援等)に関すること

Q75 その他

Q76 最後に、学生生活実態調査に対する意見・要望がありましたら具体的に記入してください。

調査票（大学院学生用）

1. 基本事項について

Q1 性別

- 1 男
- 2 女
- 3 その他

Q2 年齢(令和3年11月1日現在)

- 1 21-24歳
- 2 25-29歳
- 3 30-39歳
- 4 40-49歳
- 5 50-59歳
- 6 60歳以上

Q3 現在在籍している課程の入学年度(※博士後期課程の学生は博士後期課程の入学年度)

- 1 令和3年度(2021年度)
- 2 令和2年度(2020年度)
- 3 令和元年度(2019年度)
- 4 平成30年度(2018年度)
- 5 平成29年度(2017年度)
- 6 平成28年度(2016年度)
- 7 平成27年度(2015年度)
- 8 平成26年度(2014年度)
- 9 平成25年度以前(2013年度以前)

Q4 所属学院, 研究科又は教育部

- 1 文学院, 文学研究科
- 2 教育学院
- 3 法学研究科
- 4 経済学院, 経済学研究科
- 5 理学院
- 6 医学院, 医学研究科
- 7 歯学院, 歯学研究科
- 8 工学院
- 9 農学院
- 10 獣医学院, 獣医学研究科
- 11 水産科学院
- 12 国際広報メディア・観光学院
- 13 情報科学院, 情報科学研究科
- 14 環境科学院
- 15 生命科学院
- 16 保健科学院
- 17 総合化学院
- 18 公共政策学教育部
- 19 国際食資源学院
- 20 医理工学院
- 21 国際感染症学院

Q5 学年(※留年の場合:DC5年目の場合は「DC3」を選択)

- 1 MC1年次
- 2 MC2年次
- 3 DC1年次
- 4 DC2年次
- 5 DC3年次
- 6 DC4年次(医学院・医学研究科・歯学院・歯学研究科・獣医学院・獣医学研究科・生命科学院(臨床薬学専攻)・国際感染症学院のみ)
- 7 専門職学位課程1年次
- 8 専門職学位課程2年次
- 9 専門職学位課程3年次

2. 志望動機について

Q6 大学院入学の目的は何ですか。主なものを2つまで選んでください。

- 1 高度の専門知識・技術を身につけるため
- 2 大学等の研究・教育職をめざして
- 3 企業の研究職をめざして
- 4 学部卒業または修士修了時点で就職の機会がなかった
- 5 学位を取得するため
- 6 社会に貢献できる能力・資質を身につけるため
- 7 特に目的はない
- 8 その他

Q7 北大大学院を選んだ理由は何ですか。主なものを3つまで選んでください。

- 1 北大の特色・学風
- 2 北海道・札幌の気候・風土
- 3 希望の専攻分野がある
- 4 将来の進路を考えて
- 5 親・教員・先輩の勧め
- 6 研究環境が整っている
- 7 経済的理由
- 8 地元である
- 9 指導教員の転出
- 10 その他

Q8 現在の大学院入学前の出身大学等についてお答えください。

- 1 本学の学部学生
- 2 他大学の学部学生
- 3 本学の同じ学院(研究科)の大学院学生
- 4 本学の他学院(研究科)の大学院学生
- 5 他大学の大学院学生
- 6 社会人
- 7 その他

3. 家庭状況について

Q9 出身地はどこですか。

- 1 札幌
- 2 北海道(札幌を除く)
- 3 東北
- 4 関東
- 5 信越・北陸
- 6 東海
- 7 近畿
- 8 中国
- 9 四国
- 10 九州・沖縄
- 11 海外

Q10 主な家計支持者は誰ですか。

- 1 父
- 2 母
- 3 本人
- 4 配偶者
- 5 兄弟・姉妹
- 6 祖父母
- 7 その他

Q11 あなたの生活や勉学の費用を主として負担している人(主たる家計支持者)の職業又は収入源は何ですか(複数ある場合は、収入の多い方を選んでください)。

- 1 商・工・サービス業(自営)
- 2 農・林・水産業(自営)
- 3 専門的職業(医師・薬剤師・弁護士・芸術家など)
- 4 教員(小・中・高, 大学, 各種学校, 予備校, 塾, 幼稚園を含む)
- 5 公務員(教員を除く)
- 6 団体・法人職員(教員を除く)
- 7 会社員(自営以外, 管理職を含む)
- 8 会社役員
- 9 不動産・利子・配当・年金などの収入
- 10 パート・内職などの臨時職
- 11 奨学金
- 12 日本学術振興会特別研究員給与
- 13 その他

Q12 令和2年1月～12月の家庭の年間総収入(税込 / 同一生計の家族全員の収入)はどのくらいですか。

- 1 300万円未満
- 2 300～500万円未満
- 3 500～700万円未満
- 4 700～1000万円未満
- 5 1000～1500万円未満
- 6 1500万円以上

4. ライフスタイルについて

Q13 住居の種別は次のどれですか。

- 1 自宅
- 2 アパート・マンション
- 3 下宿(食事付き)・学生会館
- 4 北大学生寮
- 5 その他の寮
- 6 親戚・知人宅
- 7 シェアハウス
- 8 その他

Q14【北海道大学の学生寮に入っていない人】北海道大学の学生寮に入りたいですか。

- 1 はい
- 2 いいえ

Q15【北海道大学の学生寮に入りたい人(Q14で「はい」と答えた人)】北海道大学の学生寮に入りたい理由は何ですか。主なものを2つまで選んでください。

- 1 経済的理由
- 2 今の住居が通学に不便
- 3 友人がほしい
- 4 勉学・研究に専念できる
- 5 寮の雰囲気にあこがれる
- 6 寮に友人がいる
- 7 その他

Q16【北海道大学の学生寮に入りにくい人(Q14で「いいえ」と答えた人)】北海道大学の学生寮に入りにくい理由は何ですか。主なものを2つまで選んでください。

- 1 部屋が狭い
- 2 食事が無い
- 3 集団生活がわずらわしい
- 4 勉学・研究に専念できない
- 5 住居を移すのが面倒
- 6 その他

Q17 主な通学手段は何ですか。主なものを2つまで選んでください。

- 1 徒歩
- 2 自転車
- 3 公共交通機関(地下鉄・バス・市電・JR)
- 4 オートバイ・スクーター
- 5 自動車
- 6 その他

Q18 通学時間はどのくらいですか。

- 1 10分未満
- 2 10～20分未満
- 3 20～30分未満
- 4 30分～1時間未満
- 5 1時間～1時間30分未満
- 6 1時間30分以上

●食事について

Q19 食事は主にどうしていますか。主なものを2つまで選んでください。

- 1 自宅(自宅通学者のみ)
- 2 自炊
- 3 学内の食堂
- 4 学外の食堂
- 5 下宿(食事付き)
- 6 弁当持参
- 7 売店(コンビニ、ファストフード、弁当屋等を含む)で購入
- 8 その他

Q20 学内の食堂を1週間にどの程度利用していますか。

- 1 ほぼ毎日
- 2 週3～4回
- 3 週1～2回
- 4 ときどき
- 5 利用しない

5. 経済状況について

Q21 あなたの1カ月の平均収入はどのくらいですか(仕送り・アルバイト・奨学金等すべての収入の合計。ただし、授業料等の学校納付金を除く)。

- 1 5万円未満
- 2 5～7万円未満
- 3 7～9万円未満
- 4 9～11万円未満
- 5 11～13万円未満
- 6 13～15万円未満
- 7 15万円以上

Q22 あなたの1ヵ月あたりの家庭からの援助(授業料等の学校納付金は除く)はどのくらいですか。

- 1 5千円未満
- 2 5千～1万円未満
- 3 1～3万円未満
- 4 3～5万円未満
- 5 5～7万円未満
- 6 7～9万円未満
- 7 9万円以上

Q23 あなたの1ヵ月あたりの奨学金(複数の団体から受給している場合は、その合計)はどのくらいですか。

- 1 5千円未満
- 2 5千～1万円未満
- 3 1～3万円未満
- 4 3～5万円未満
- 5 5～7万円未満
- 6 7～9万円未満
- 7 9万円以上

Q24 あなたの1ヵ月あたりのアルバイト収入はどのくらいですか。

- 1 5千円未満
- 2 5千～1万円未満
- 3 1～3万円未満
- 4 3～5万円未満
- 5 5～7万円未満
- 6 7～9万円未満
- 7 9万円以上

Q25 あなたの1ヵ月あたりのその他の収入(家族以外の援助、配当金など)はどのくらいですか。

- 1 5千円未満
- 2 5千～1万円未満
- 3 1～3万円未満
- 4 3～5万円未満
- 5 5～7万円未満
- 6 7～9万円未満
- 7 9万円以上

Q26 あなたの1ヵ月の平均支出はどのくらいですか(家賃・光熱水料等も含める。ただし、授業料等の学校納付金を除く)。

- 1 5万円未満
- 2 5～7万円未満
- 3 7～9万円未満
- 4 9～11万円未満
- 5 11～13万円未満
- 6 13～15万円未満
- 7 15万円以上

Q27 あなたの1ヵ月当たりの住居費・光熱水費(電気料、水道料、暖房費、家賃等、毎月支払うもの)はどのくらいですか。

- 1 5千円未満
- 2 5千～1万円未満
- 3 1～3万円未満
- 4 3～5万円未満
- 5 5～7万円未満
- 6 7～9万円未満
- 7 9万円以上

Q28 あなたの1ヵ月当たりの食費(材料費、外食費等)はどのくらいですか。

- 1 5千円未満
- 2 5千～1万円未満
- 3 1～3万円未満
- 4 3～5万円未満
- 5 5～7万円未満
- 6 7～9万円未満
- 7 9万円以上

Q29 あなたの1ヵ月当たりの修学費(教科書, 参考書, 実習費, 文房具代等。ただし, 授業料等の学校納付金を除く)はどのくらいですか。

- 1 5千円未満
- 2 5千~1万円未満
- 3 1~3万円未満
- 4 3~5万円未満
- 5 5~7万円未満
- 6 7~9万円未満
- 7 9万円以上

Q30 あなたの1ヵ月当たりの通信費(携帯電話, インターネット等)はどのくらいですか。

- 1 5千円未満
- 2 5千~1万円未満
- 3 1~3万円未満
- 4 3~5万円未満
- 5 5~7万円未満
- 6 7~9万円未満
- 7 9万円以上

Q31 あなたの1ヵ月当たりのその他の支出(課外活動費, 娯楽費, 旅行費, 交際費, 衣料費等)はどのくらいですか。

- 1 5千円未満
- 2 5千~1万円未満
- 3 1~3万円未満
- 4 3~5万円未満
- 5 5~7万円未満
- 6 7~9万円未満
- 7 9万円以上

Q32 現在の自分の経済状態をどのように感じていますか。

- 1 十分余裕がある
- 2 やや余裕がある
- 3 普通
- 4 やや苦しい
- 5 非常に苦しい

Q33 新型コロナウイルス感染症流行前と比べて, 収入は減少しましたか。

- 1 いいえ
- 2 はい(1~3割程度減少)
- 3 はい(4~7割程度減少)
- 4 はい(8割以上減少)

Q34【Q33で「はい」と答えた人】

新型コロナウイルス感染症の影響で, 主に減少した収入源は何ですか。あてはまるものを全て選んでください。

- 1 アルバイト等の労働による収入
- 2 仕送り
- 3 その他

Q35【Q33で「はい」と答えた人】

新型コロナウイルス感染症の影響による収入の減少によって, 自分の生活にどのような影響がありましたか。あてはまるものを全て選んでください。

- 1 食費を減らした
- 2 生活必需品の購入頻度を減らした
- 3 光熱水料の節約を行った
- 4 修学費(教科書, 参考書, 実習費, 文房具代等 授業で必要なもの)の購入頻度を減らした
- 5 課外活動や交際費, 趣味に使う費用等を減らした
- 6 引っ越しせざるを得なくなった
- 7 進路変更を検討している, または行った
- 8 その他

Q36 新型コロナウイルス感染症の影響で、支出は増えましたか。

- 1 いいえ
- 2 はい(1～3割程度増加)
- 3 はい(4～7割程度増加)
- 4 はい(8割以上増加)

Q37【Q36で「はい」と答えた人】

新型コロナウイルス感染症の影響で増加した支出のうち、あてはまるものを全て選んでください。

- 1 食費
- 2 光熱水料
- 3 修学費(オンライン授業に移行する上で必要になったもの等)
- 4 研究費
- 5 医療費
- 6 その他

6. アルバイトについて

Q38 現在、どの程度アルバイトをしていますか。

- 1 ほとんど毎日定期的に
- 2 週何日か定期的に
- 3 日曜日などの休日に限って
- 4 長期休業期間中のみ重点的に
- 5 必要に応じてときどき
- 6 全くしていない

Q39【アルバイトをしている人】どんなアルバイトをしていますか。あてはまるものを全て選んでください。

- 1 家庭教師
- 2 学習塾講師
- 3 一般事務
- 4 調査・研究補助(リサーチ・アシスタントを除く)
- 5 コンビニ・スーパー等小売店店員
- 6 飲食店店員
- 7 肉体労働
- 8 ティーチングアシスタント, リサーチアシスタント
- 9 その他

Q40【アルバイトをしている人】1週間平均何時間くらいアルバイトをしていますか。

- 1 5時間未満
- 2 5～10時間未満
- 3 10～15時間未満
- 4 15～20時間未満
- 5 20～25時間未満
- 6 25～30時間未満
- 7 30時間以上

Q41【アルバイトをしている人】アルバイトをする主な理由は何ですか。

- 1 家庭の経済的負担を軽減するため
- 2 学業・研究を継続するため
- 3 小遣い・臨時の支出のため
- 4 家族からできるだけ自立したいため
- 5 社会経験のため
- 6 その他

Q42【現在アルバイトをしていない人(Q38で「全くしていない」と答えた人)】アルバイトをしていない主な理由は何ですか。

- 1 必要がない(経済的に余裕がある)
- 2 やりたいが、見つからない
- 3 やりたいが、時間的余裕がない
- 4 その他

7. 奨学金・授業料減免等について

Q43 授業料減免(令和3年度前期分)を申請しましたか。(緊急授業料減免を除く)

- 1 申請し, 前期分全額免除された
- 2 申請し, 前期分半額免除された
- 3 申請し, 前期分4分の1免除された
- 4 申請したが, 不許可だった
- 5 申請しなかった

Q44 現在, 奨学金を受けていますか。

- 1 受けている
- 2 受けているが, 応募して受けられなかったものもある
- 3 応募したが, 受けられなかった
- 4 応募しなかった

Q45【奨学金を受けている人】現在受けている奨学金の種類を選んでください(複数受けている場合は, 全て選んでください)。

- 1 日本学生支援機構(貸与型1種)
- 2 日本学生支援機構(貸与型2種)
- 3 地方公共団体
- 4 民間団体
- 5 その他

Q46 現在, 日本学術振興会特別研究員の給与を受けていますか。

- 1 受けている
- 2 応募したが, 受けられなかった
- 3 応募しなかった

Q47 2020年度以降, 緊急授業料減免を受けましたか。

- 1 受けている
- 2 応募したが, 受けられなかった
- 3 応募しなかった

8. 研究活動について

Q48 あなたの研究にとって最も有用な外国語について, どの程度マスターしていますか。

- 1 読み書き, 会話や討論など, ほとんど不自由を感じない
- 2 読み書きには不自由しないが, 会話は苦手である
- 3 読み書きは苦手であるが, 会話には不自由しない
- 4 読むのはなんとかできるが, 作文と会話は苦手である
- 5 すべてが苦手である

Q49 大学院入学後, 海外での調査研究の経験がありますか。

- 1 ある
- 2 ない

Q50 大学院入学後, 海外留学の経験がありますか。

- 1 ある
- 2 ない

Q51 大学院在学期間中, 海外留学の機会があれば希望しますか。

- 1 留学したい
- 2 どちらかといえば留学したい
- 3 どちらともいえない
- 4 どちらかといえば留学したくない
- 5 留学したくない

Q52 【留学したい人】留学期間はどのくらいを希望しますか。

- 1 1か月未満
- 2 3か月未満
- 3 半年未満
- 4 1年未満
- 5 1年以上

Q53 あなたの研究・学業を進める上で、大学に要望することは何ですか。主なものを3つまで選んでください。

- 1 奨学金の額や採用枠の拡大
- 2 研究施設・設備の充実
- 3 安全設備の充実
- 4 図書館・情報基盤センターなどの共用施設の開館時間の延長や利用規定の拡大
- 5 研究旅費(学会旅費・調査旅費)などの補助
- 6 ティーチングアシスタントやリサーチアシスタントの採用枠の拡大
- 7 国内外の他大学との研究交流
- 8 官公庁・企業との研究交流
- 9 大学院生用の学生寮設置
- 10 授業料、入学料免除枠の拡大
- 11 その他

9. 学生生活について

●満足度について

Q54 以下の項目にそれぞれどの程度満足していますか。

a.対面授業

- 1 満足
- 2 まあまあ満足
- 3 普通
- 4 少し不満
- 5 不満

b.オンライン授業(オンデマンド)

- 1 満足
- 2 まあまあ満足
- 3 普通
- 4 少し不満
- 5 不満

c.オンライン授業(ライブ)

- 1 満足
- 2 まあまあ満足
- 3 普通
- 4 少し不満
- 5 不満

d.教育研究用施設・設備

- 1 満足
- 2 まあまあ満足
- 3 普通
- 4 少し不満
- 5 不満

e.その他の施設・設備

- 1 満足
- 2 まあまあ満足
- 3 普通
- 4 少し不満
- 5 不満

f.北大ならびに札幌の生活環境

- 1 満足
- 2 まあまあ満足
- 3 普通
- 4 少し不満
- 5 不満

g.食堂・売店等のサービス

- 1 満足
- 2 まあまあ満足
- 3 普通
- 4 少し不満
- 5 不満

h.図書館(電子ジャーナル等のサービスを含む)

- 1 満足
- 2 まあまあ満足
- 3 普通
- 4 少し不満
- 5 不満

i.指導教員との関係

- 1 満足
- 2 まあまあ満足
- 3 普通
- 4 少し不満
- 5 不満

j.学生窓口の対応

- 1 満足
- 2 まあまあ満足
- 3 普通
- 4 少し不満
- 5 不満

k.北海道大学における新型コロナウイルス感染症対策

- 1 満足
- 2 まあまあ満足
- 3 普通
- 4 少し不満
- 5 不満

●研究・学習について

Q55 研究・自習時間は1日平均どのくらいですか？

- 1 2時間未満
- 2 2～4時間未満
- 3 4～6時間未満
- 4 6～8時間未満
- 5 8～10時間未満
- 6 10時間以上

Q56 研究・学習を行っている場所はどこですか。主なものを2つまで選んでください。

- 1 本学の図書館
- 2 本学の教室
- 3 本学の研究室
- 4 本学の自習室
- 5 生協食堂
- 6 自宅
- 7 その他

Q57 入学時と比べて研究意欲はどうですか。

- 1 高まっている
- 2 変わらない
- 3 減退している
- 4 高くなったり低くなったりとむらがある

Q58 令和3年4月～9月の期間の、大学で過ごす時間は1日平均何時間ですか。

- 1 2時間未満
- 2 2～4時間未満
- 3 4～6時間未満
- 4 6～8時間未満
- 5 8～10時間未満
- 6 10時間以上

●対人関係について

Q59 ここ最近、親しく話したり、相談できる友人や仲間はいますか。

- 1 いる
- 2 どちらともいえない
- 3 いない

Q60 教員と親しく話したり、相談したりすることがありますか。

- 1 よくある
- 2 数回あった
- 3 ほとんどない
- 4 全くない

Q61【Q60で「ほとんどない」「全くない」と答えた人】その理由はどのようなものですか。主なものを1つだけ選んでください。

- 1 相談や話をしたいがその機会がない
- 2 なんとなく話しにくい
- 3 話しても仕方がない
- 4 必要がない
- 5 その他

10. 健康について

Q62 最近、身体の調子はどうですか(風邪, けが, 虫歯などの一過性のものは除く)。

- 1 健康で調子は良い
- 2 まあまあ調子は良い
- 3 少し調子が悪い
- 4 調子が悪い

Q63【Q62で「少し調子が悪い」「調子が悪い」と答えた人】継続的に治療を受けるため、病院に通院をしていますか。

- 1 はい
- 2 いいえ

Q64 現在、悩みや不安がありますか。あてはまるものを全て選んでください。

- 1 とてもある
- 2 少しある
- 3 あまりない
- 4 特にない

Q65【悩みや不安がある人(Q64で「とてもある」「少しある」と答えた人)】悩みや不安の原因と思うものは何ですか。あてはまるものを全て選んでください。

- 1 健康上の問題
- 2 学業・成績
- 3 研究
- 4 進路・就職
- 5 課外活動
- 6 人生・生き方
- 7 恋愛
- 8 人間関係
- 9 家族・家庭
- 10 性格・適性
- 11 経済的問題
- 12 新型コロナウイルス感染症
- 13 その他

Q66【悩みや不安がある人(Q64で「とてもある」「少しある」と答えた人)】悩みや不安についての相談相手は誰ですか。あてはまるものを全て選んでください。

- 1 家族
- 2 北大の友人・先輩
- 3 その他の友人・知人
- 4 研究科の学生相談員
- 5 北大の教員(学生相談員以外)
- 6 学生相談室
- 7 ピアサポートルーム
- 8 保健センター
- 9 一般の医療機関
- 10 相談できる相手はいない
- 11 相談相手は不要(自分で解決)
- 12 その他

Q67 保健センターで健康相談やカウンセリングを受けられることを知っていますか。

- 1 はい
- 2 いいえ

11. ハラスメント等について

Q68 大学院入学後、学内外で被害にあったことがあるものについて、あてはまるものを全て選んでください。

- 1 セクシュアル・ハラスメント
- 2 アカデミック・ハラスメント(教員やティーチングアシスタントから、その立場を利用した学業上の嫌がらせや不利益を受けること)
- 3 カルト宗教団体や自己啓発セミナーなどへの参加勧誘
- 4 違法・脱法薬物の勧誘
- 5 ストーカー被害
- 6 飲酒の強要
- 7 その他
- 8 該当なし

Q69 大学院入学後、自分の身の周りの北大生で、他の人が被害にあったのを見たり聞いたりしたことがあるものについて、あてはまるものを全て選んでください。

- 1 セクシュアル・ハラスメント
- 2 アカデミック・ハラスメント(教員やティーチングアシスタントから、その立場を利用した学業上の嫌がらせや不利益を受けること)
- 3 カルト宗教団体や自己啓発セミナーなどへの参加勧誘
- 4 違法・脱法薬物の勧誘
- 5 ストーカー被害
- 6 飲酒の強要
- 7 その他
- 8 該当なし

Q70 以下の学生相談窓口のうち、知っているものを全て選んでください。

- 1 学生相談室(人間関係の相談)
- 2 ハラスメント相談室(ハラスメントの相談)
- 3 ピアサポートルーム(学生による学生のためのサポート)
- 4 アクセシビリティ支援室(「合理的配慮」のサポート)
- 5 すべて知らない

12. 進路について

Q71 現在の課程修了後、どのような進路を希望していますか。

- 1 就職
- 2 北大大学院(博士後期課程)に進学
- 3 その他の大学院(博士後期課程)に進学
- 4 転入学(学士入学・他大学大学院修士課程への入学を含む)
- 5 海外留学
- 6 決めていない
- 7 その他

Q72 【修士課程在籍者で博士後期課程に進学を希望しない者のみ回答】大学院(博士後期課程)に進学しない理由は何ですか。

- 1 経済的に困難
- 2 就職に対する不安
- 3 博士の社会的評価が低い
- 4 社会に出て活躍したい
- 5 博士課程へ進学することの意味が見いだせない
- 6 その他

Q73 将来、どのような職業に就きたいですか。主なものを選んでください。主なものを3つまで選んでください。

- 1 大学・官公庁等の教育・研究職
- 2 学校教員(大学を除く)
- 3 公務員(教育・研究職, 学校教員を除く)
- 4 企業等の技術・研究職
- 5 企業等の総合職・営業職・一般職
- 6 専門職(医師・薬剤師等の特別な資格を要する職業)
- 7 自営業(家業を継ぐ場合も含む)
- 8 まだ考えていない
- 9 その他

Q74 大学院修了後の就職に際して、重要視するものは何ですか。主なものを3つまで選んでください。

- 1 収入
- 2 専門性(職種)
- 3 業種
- 4 勤務地
- 5 安定性
- 6 将来性
- 7 社会的意義・使命
- 8 勤務体系・労働時間等
- 9 福利厚生
- 10 自分の適性
- 11 自己開発の可能性
- 12 職場の雰囲気
- 13 その他

13. 自由記述

北海道大学に対する今後の期待・要望等がありましたら具体的に記入してください。

Q77 教育・授業に関すること

Q78 施設の設備や食堂等のサービスに関すること

Q79 学生支援(経済支援・研究支援・就職支援等)に関すること

Q80 その他

Q81 最後に、学生生活実態調査に対する意見・要望がありましたら具体的に記入してください。

学生生活実態調査報告書（詳細分析版）2022 年版

発行日 2022 年 4 月

編集発行 北海道大学学務部学生支援課

〒060-0817 札幌市北区北 17 条西 8 丁目

TEL: 011-706-7467